EOS R8

詳細ガイド

J

CT2-D271-B
© CANON INC. 2023

目次

はじめに. 10
カメラと主な付属品. 11
補足情報. 12
対応アクセサリー. 13
使用説明書について. 14
すぐ撮影するには. 15
このガイドについて. 19
使用できるカードについて. 21
安全上のご注意. 22
取り扱い上のご注意. 25
各部の名称. 28
ソフトウェア／アプリケーション. 36
準備と基本操作. 40
バッテリーを充電する. 41
バッテリーとカードを入れる／取り出す. 43
モニターを使う. 49
電源を入れる. 51
RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す. 55
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す. 59
マルチアクセサリーシュー. 63
ファインダーを使う. 65
基本操作. 66
メニュー機能の操作と設定. 77
クイック設定. 83
画面にタッチして操作する. 84
かんたん撮影ゾーン. 86
A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）. 88
プラスムービーオート. 96
スペシャルシーンモード. 98
ポートレートモード. 101

集合写真モード. 102
風景モード. 103
パノラマショットモード. 104
スポーツモード. 106
キッズモード. 107
流し撮りモード. 108
クローズアップモード. 110
料理モード. 111
夜景ポートレートモード. 112
手持ち夜景モード. 113
HDR逆光補正モード. 114
サイレントシャッターモード. 115
クリエイティブフィルターモード. 116
応用撮影ゾーン. 123
Fv：フレキシブルAE撮影. 124
P：プログラムAE撮影. 127
Tv：シャッター優先AE. 129
Av：絞り優先AE. 132
M：マニュアル露出. 136
B：長時間露光（バルブ撮影）. 139
撮影. 143
静止画撮影. 144
メニュー目次：静止画撮影. 146
記録画質. 154
DPRAW設定. 158
静止画クロップ／アスペクト. 160
デジタルテレコン. 163
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影. 164
自分の好みに露出を補正する. 166
露出を固定して撮る／AEロック撮影. 168
静止画のISO感度を設定. 170
HDR撮影. 179

HDRモード. 181
オートライティングオプティマイザ. 185
高輝度側・階調優先. 187
フリッカーレス撮影. 189
高周波フリッカーレス撮影. 191
外部ストロボ撮影. 198
ストロボ機能の設定. 203
測光モード. 216
ホワイトバランス. 218
ホワイトバランスの補正. 228
色空間. 232
ピクチャースタイルの選択. 233
ピクチャースタイルの調整. 237
ピクチャースタイルの登録. 241
明瞭度. 244
撮影時クリエイティブフィルター. 245
レンズ光学補正. 249
長秒時露光のノイズ低減. 256
高感度撮影時のノイズ低減. 258
ダストデリートデータ取得. 260
多重露出撮影. 264
RAWバーストモード. 272
フォーカスBKT撮影. 276
インターバルタイマー撮影. 282
サイレントシャッター機能. 286
シャッター方式. 287
カードなしレリーズ. 289
手ブレ補正（IS機能）設定. 290
クイック設定カスタマイズ. 292
タッチシャッターで撮影する. 296
撮影画像の確認. 298
高速表示. 301
測光タイマー. 302

表示Simulation. 303
OVFビューアシスト. 305
撮影情報表示設定. 307
ファインダー表示形式. 317
撮影画面表示設定. 318
ダイジェスト形式. 320
静止画撮影全般. 322
動画撮影. 325
メニュー目次：動画撮影. 327
動画撮影. 331
動画記録サイズ. 354
ハイフレームレート. 362
動画クロップ撮影. 363
デジタルズーム. 364
録音. 366
Canon Log設定. 370
プレ記録設定. 377
タイムラプス動画. 380
動画セルフタイマー. 393
手ブレ補正（IS機能）設定. 394
動画撮影時シャッターボタンの機能. 396
フォルスカラー設定. 398
ゼブラ設定. 400
撮影情報表示設定. 403
タイムコード. 407
その他のメニュー機能. 414
動画撮影全般の注意事項. 420
AF／ドライブ. 424
メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）. 425
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）. 431
AF動作. 436
動画サーボAF設定. 442
AFエリアの選択. 446

プリAF. 471
タッチ&ドラッグAF設定. 472
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）. 478
サーボAF特性. 484
AF機能のカスタマイズ. 495
ドライブモードの選択. 509
セルフタイマー撮影. 512
リモコン撮影. 514
操作をカスタマイズする. 516
再生. 520
メニュー目次：再生タブ. 522
画像の再生. 525
画像の拡大表示. 531
インデックス表示（複数画像表示）. 539
動画の再生. 542
動画の前後部分のカット. 547
4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し. 550
ダイジェスト動画の編集. 553
テレビで見る. 556
画像プロテクト. 558
画像消去. 562
静止画の回転. 569
動画の回転情報の変更. 571
レーティング. 573
印刷指定／DPOF. 579
フォトブック指定. 584
RAW現像. 589
クリエイティブアシスト. 598
クイック設定からのRAW現像. 601
クラウドRAW現像. 603
再生時クリエイティブフィルター. 613
JPEG/HEIF画像のリサイズ. 617
JPEG/HEIF画像のトリミング. 619

HEIF画像をJPEG画像に変換. 622
スライドショー. 627
画像検索の条件設定. 630
前回の画像から再生. 634
メイン電子ダイヤルでの画像送り. 635
再生する情報の設定. 637
ハイライト警告表示. 640
AFフレーム表示. 641
再生時のグリッド. 642
動画再生カウント. 643
HDMI HDR出力. 645
RAWバースト画像からの静止画の切り出し. 646
通信機能. 649
メニュー目次：通信機能タブ. 650
スマートフォン（タブレット）と接続. 652
ワイヤレスリモコンと接続. 680
EOS Utilityと接続. 684
image.canonに画像送信. 692
高度な接続. 699
通信機能の基本設定. 702
2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続. 724
接続機器の編集／削除. 725
機内モード. 728
Wi-Fi設定. 729
Bluetooth設定. 731
カメラの名前. 732
GPS機器の設定. 733
エラー内容の表示. 739
通信の設定初期化. 740
仮想キーボードの操作方法. 741
エラー表示の対応. 742
無線通信機能での注意事項. 749
セキュリティーについて. 751

ネットワークの設定を確認する. 752
無線通信機能の接続状態. 753
機能設定. 755
メニュー目次：機能設定タブ. 756
フォルダ選択. 759
画像番号. 762
カード初期化. 767
縦位置画像回転表示. 770
動画縦位置情報の付加. 772
日付／時刻／エリア. 773
言語. 776
ビデオ方式. 777
ヘルプ機能. 778
撮影モードガイド. 780
機能ガイド. 782
電子音. 784
音量. 785
ヘッドフォン. 786
節電. 789
画面の表示先設定. 791
モニターの明るさ. 793
ファインダーの明るさ. 794
ファインダーの色調微調整. 795
メニュー画面の拡大. 796
HDMI出力解像度. 797
タッチ操作. 798
マルチ電子ロック. 799
センサークリーニング. 800
USB接続アプリの選択. 803
カメラの初期化. 805
カスタム撮影モード（C1, C2）. 807
バッテリー情報. 810
著作権情報. 812

その他の情報. 815
カスタム機能／マイメニュー. 816
メニュー目次：カスタム機能タブ. 817
カスタム機能で変更できる内容. 820
メニュー目次：マイメニュータブ. 847
マイメニューの登録. 848
資料. 855
パソコンへの画像の取り込み. 856
スマートフォンへの画像の取り込み. 860
USB電源アダプターを使って充電／給電する. 863
エクステンショングリップを使う. 865
故障かな？と思ったら. 867
エラー表示. 886
動画撮影時のISO感度. 887
情報表示. 888
主な仕様. 902
商標・ライセンスについて. 920

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに安全上のご注意、および取り扱い上のご注意をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本製品）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

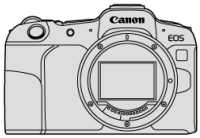
著作権について

あなたがカメラ（本製品）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- カメラと主な付属品
- 補足情報
- 対応アクセサリー
- 使用説明書について
- すぐ撮影するには
- このガイドについて
- 使用できるカードについて
- 安全上のご注意
- 取り扱い上のご注意
- 各部の名称
- ソフトウェア／アプリケーション

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（ボディキャップ（カメラカバー R-F-5）、シューカバー付き）

バッテリーパック LP-E17
（保護カバー付き）

充電器 バッテリーチャージャー LC-E17

ストラップ

- メモリーカード（）、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- ソフトウェアのCD-ROMは付属していません。ソフトウェア（）は、キヤノンホームページからダウンロードしてください。

注意

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（）。
  なお、レンズの使用説明書（PDFファイル）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

補足情報

各機能に対応しているレンズ情報、およびカメラに関する補足情報については、下記のサイトでご確認ください。

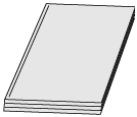
- **https://cam.start.canon/H001/**

対応アクセサリー

最新の対応アクセサリーについては、下記のサイトでご確認ください。

- **https://cam.start.canon/H002/**

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラの基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。

- **詳細ガイド**
  すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。
  最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。
  https://cam.start.canon/C013/

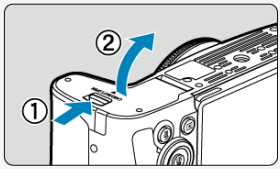
- **レンズ／ソフトウェア使用説明書**
  下記のサイトでご確認、またはダウンロードしてください。
  https://cam.start.canon/

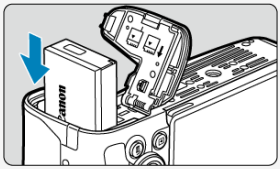
参考

- [：**使用説明書・ソフトウェア URL**] を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示できます。

すぐ撮影するには

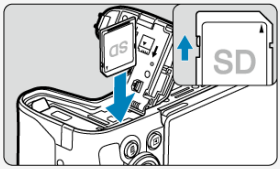
1. バッテリーを入れる（）





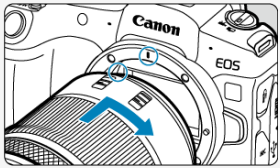
- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください（）。

2. カードを入れる（）



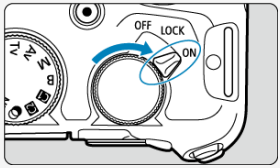
- カードの表を、カメラの背面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3. レンズを取り付ける（）

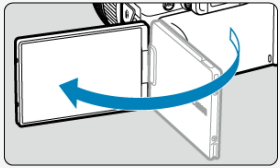


- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

4. 電源スイッチを〈ON〉にする（）

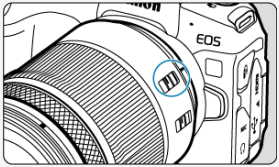


5. モニターを開いてセットする（）



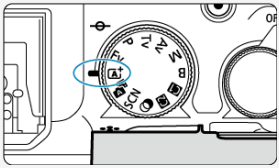
- モニターに日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、日付／時刻／エリアを参照してください。

6. フォーカスモードをAFに設定する（）



- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定します。

7. モードダイヤルを〈〉にする（）

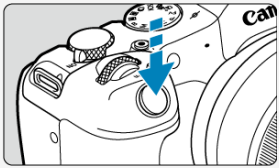


- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

8. ピントを合わせる（）

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う追尾フレーム［］が目の付近に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

9. 撮影する（）



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

10. 撮影した画像を確認する

- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（）。

このガイドについて

- 本文中の絵文字について
- 操作説明の前提と作例写真について

本文中の絵文字について

〈〉	メイン電子ダイヤルを示しています。
〈〉	サブ電子ダイヤルを示しています。
〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉	〈〉十字キーの押す方向を示しています。
〈〉	レンズのコントロールリングを示しています。
〈〉	クイック設定／設定ボタンを示しています。
*	操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用	タイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（〈**Fv**〉 〈**P**〉 〈**Tv**〉 〈**Av**〉 〈**M**〉 〈**B**〉モード）限定の機能であることを示しています。
	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
?	困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉（）、マルチ電子ロック機能がオフ（）になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、RF24-50mm F4.5-6.3 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、このガイドで使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ／EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（⎚）。

- **SD/SDHC/SDXCメモリーカード**
  UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適応する性能（書き込み／読み取り速度）を備えたカードを使用してください（⎚）。

このガイドでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
*画像を記録する**カードは付属していません。**別途ご購入ください。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠警告　死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
- バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。

ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

- この製品はボタン／コイン電池を使用しています。

ボタン／コイン電池は危険であり、新品か使用済みかにかかわらず、常に子供の手の届かないところに保管してください。
これらの電池を飲み込んだり、体のどこかに入れたりすると、2時間以内に重傷や死亡に至ることがあります。
ボタン／コイン電池を飲み込んだ、または体のどこかに入れた疑いがある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

- 指定外の電源は使わない。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。

光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。

感電の原因となります。

- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
  - 指定外の製品で使わない。
  - 熱したり、火中投入しない。
  - 指定外の製品で充電しない。
  - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 液漏れしたものは使わない。
  - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

● バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
  - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
  - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
  - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
  - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
● 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
● 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
● コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
● 電源に長時間つないだままにしない。
● 5°C～40°Cの範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

● 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

● 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

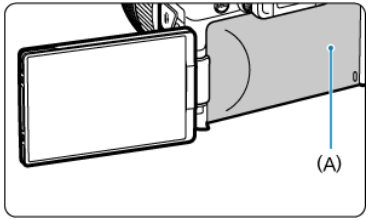
● ペットの近くにバッテリーを置かない。

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により故障や火災の原因となることがあります。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

● ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
● 長い時間、ファインダーや画面を見続けない。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。
● ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
● 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
● ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
● レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。
けがやカメラの故障の原因となります。
● 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
● カメラを三脚につけたまま移動しない。
けがや事故の原因となります。
● 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。
● 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

連続撮影を長時間繰り返したり、動画撮影を行うと、**モニター収納部（A）の温度が高くなることがありますので触らないでください。**やけどの原因となることがあります。



取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、カード／バッテリー収納部ふたなどの開閉部をしっかり閉じてください。また、マルチアクセサリーシューには、シューカバーを取り付けてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダーなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。
- 逆光での撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。また、強い光源（太陽、レーザー、人工的な強い光源など）が撮影画面の内側や外側近くに絶対に入らないようにしてください。強い光の集光により、撮像素子やカメラ内部の損傷、発煙などの恐れがあります。
- 撮影時以外は、太陽光などがレンズに入らないようにレンズキャップを取り付けてください。

モニターとファインダーについて

下記の現象は、記録されている画像には影響ありません。

- モニターおよびファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

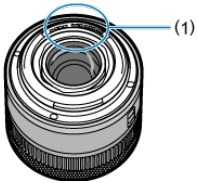
カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行うと、カードの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点（1）やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

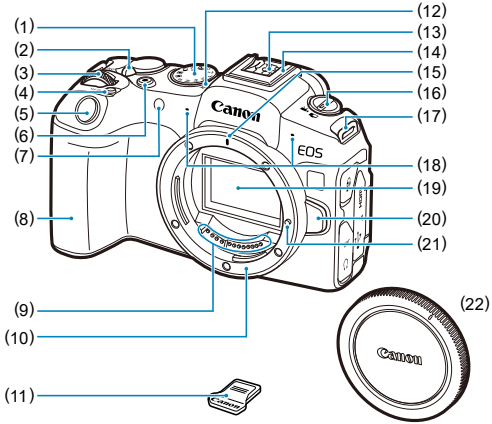


撮像素子の前面に付着する汚れについて

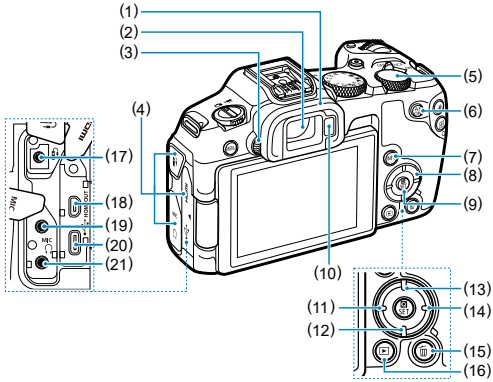
撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

各部の名称

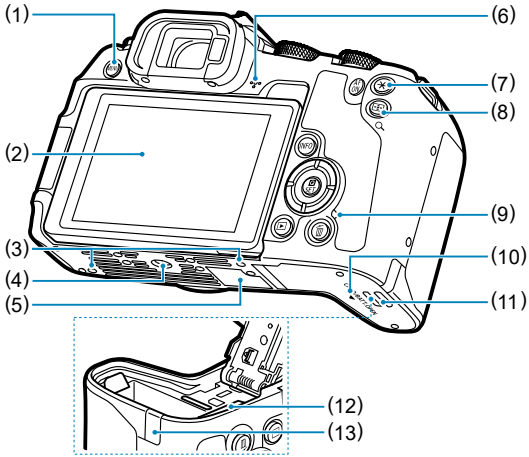
ストラップ（吊りひも）の取り付け方



(1)　モードダイヤル
(2)　〈OFF／LOCK／ON〉電源／マルチ電子ロックスイッチ
(3)　〈 〉メイン電子ダイヤル
(4)　〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
(5)　シャッターボタン
(6)　動画撮影ボタン
(7)　セルフタイマーランプ／AF補助光
(8)　グリップ（バッテリー室）
(9)　接点
(10)　レンズマウント
(11)　シューカバー
(12)　〈 〉撮像面マーク
(13)　シンクロ接点
(14)　マルチアクセサリーシュー
(15)　RFレンズ取り付け指標
(16)　〈 ／ 〉静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチ
(17)　ストラップ取り付け部
(18)　マイク
(19)　撮像素子
(20)　レンズロック解除ボタン
(21)　レンズロックピン
(22)　ボディキャップ



(1)	アイカップ
(2)	ファインダー接眼部
(3)	視度調整つまみ
(4)	端子カバー
(5)	〈〉サブ電子ダイヤル
(6)	〈AF ON〉AFスタートボタン
(7)	〈INFO〉インフォボタン
(8)	〈✥〉十字キー
(9)	〈SET〉クイック設定／設定ボタン
(10)	ファインダーオンセンサー
(11)	〈◀〉左ボタン
(12)	〈▼〉下ボタン
(13)	〈▲〉上ボタン
(14)	〈▶〉右ボタン
(15)	〈🗑〉消去ボタン
(16)	〈▶〉再生ボタン
(17)	〈〉リモコン端子
(18)	〈**HDMI OUT**〉HDMIマイクロ出力端子
(19)	〈**MIC**〉外部マイク入力端子
(20)	〈〉デジタル端子
(21)	〈〉ヘッドフォン端子



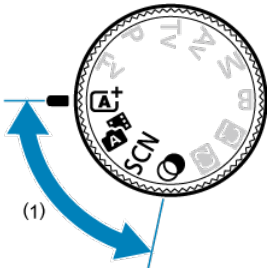
(1)	〈MENU〉メニューボタン
(2)	モニター
(3)	アクセサリー位置決め穴
(4)	三脚ねじ穴
(5)	シリアル番号（機番）
(6)	スピーカー
(7)	〈✳〉AEロックボタン
(8)	〈⊹／Q〉AFフレーム選択／インデックス／拡大／縮小ボタン
(9)	アクセスランプ
(10)	カード／バッテリー収納部ふた
(11)	カード／バッテリー収納部ふたロック
(12)	カードスロット
(13)	DCコード通し部

モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。

（1）かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。



：シーンインテリジェントオート（）

：プラスムービーオート（）

SCN ：スペシャルシーン（）

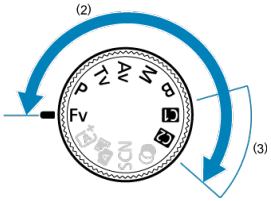
	ポートレート		クローズアップ
	集合写真		料理
	風景		夜景ポートレート
	パノラマショット		手持ち夜景
	スポーツ		HDR逆光補正
	キッズ		サイレントシャッター
	流し撮り		

：クリエイティブフィルター（）

	ラフモノクロ		ジオラマ風
	ソフトフォーカス		HDR絵画調標準
	魚眼風		HDRグラフィック調
	水彩風		HDR油彩調
	トイカメラ風		HDRビンテージ調

(2) 応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。



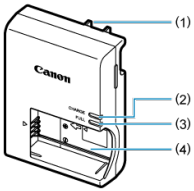
Fv	フレキシブルAE
P	プログラムAE
Tv	シャッター優先AE
Av	絞り優先AE
M	マニュアル露出
B	長時間露光（バルブ撮影）

(3) カスタム撮影モード

撮影モード〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉やAF動作、メニュー機能などを、〈C1〉〈C2〉に登録することができます（）。

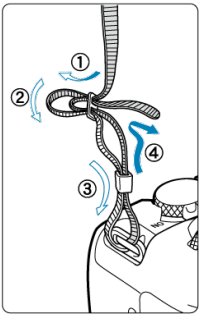
バッテリーチャージャー LC-E17

バッテリーパック LP-E17用の充電器です（）。



(1)	電源プラグ
(2)	充電ランプ
(3)	充電完了ランプ
(4)	バッテリー取り付け部

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

ソフトウェア／アプリケーション

- ソフトウェア／アプリケーションの概要
- パソコン用ソフトウェアのインストール
- スマートフォン用アプリケーションのインストール
- ソフトウェア使用説明書

ソフトウェア／アプリケーションの概要

EOS用各種ソフトウェアの概要を説明します。なお、ソフトウェアのインストールは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、インストールはできません。

パソコン用ソフトウェア

- **EOS Utility（イオスユーティリティ）**
  カメラとパソコンを接続し、撮影画像のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。
- **Digital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル）**
  RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。
- **Picture Style Editor（ピクチャースタイルエディター）**
  ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

スマートフォン用アプリケーション

- **Camera Connect（カメラコネクト）**
  カメラとスマートフォンを無線または有線で接続して、スマートフォンへの撮影画像の取り込み、リモート撮影、カメラの各種設定などを行うことができます。
- **Digital Photo Professional Express（デジタルフォトプロフェッショナル エクスプレス）**
  スマートフォン／タブレット用のRAW現像・画像編集用アプリケーションです。有償プランへの加入が必要です。

パソコン用ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。なお、旧バージョンのソフトウェアは上書きされます。

注意

- カメラとパソコンを接続した状態でインストールしないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、インストールできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理や、画像の正しい表示などを行うことはできません。

1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
  https://cam.start.canon/

ソフトウェアによっては、シリアル番号の入力が必要です。シリアル番号は、カメラの底面に記載されています。

2. パソコン上で解凍する

Windows

- 表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

macOS

- dmgファイルをダブルクリックすると、インストール画面が表示されます。
- 画面内のアイコンをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。

3. 画面の指示に従ってインストールする

スマートフォン用アプリケーションのインストール

- 必ず最新版をインストールしてください。
- Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。
- キヤノンの下記のWebサイトからもGoogle PlayまたはApp Storeにアクセスすることができます。
  https://cam.start.canon/

ソフトウェア使用説明書

ソフトウェア使用説明書は、下記のサイトでご確認ください。

- **https://cam.start.canon/**

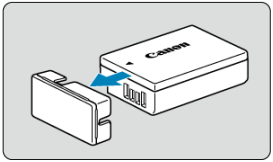
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

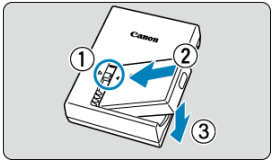
- バッテリーを充電する
- バッテリーとカードを入れる／取り出す
- モニターを使う
- 電源を入れる
- RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す
- EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す
- マルチアクセサリーシュー
- ファインダーを使う
- 基本操作
- メニュー機能の操作と設定
- クイック設定
- 画面にタッチして操作する

バッテリーを充電する

1. **付属の保護カバーを外す**

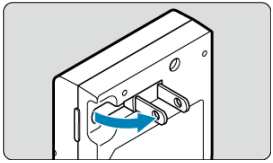


2. **バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける**



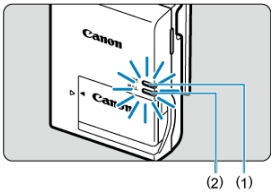
- 取り外しは逆の手順で行います。

3. **充電する**



- 充電器のプラグを矢印の方向に起こし、プラグをコンセントに差し込みます。

4. 電源プラグをコンセントに差し込む



- 自動的に充電が始まり、充電ランプ（1）がオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプ（2）が緑色に点灯します。
- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23°C）で約2時間です。**
  なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5°C～+10°C）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
  バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です**
  バッテリーの劣化度を確認した上で（）、新しいバッテリーをお買い求めください。

注意

- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E17以外は充電できません。

バッテリーとカードを入れる／取り出す

入れ方

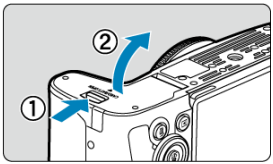
カードを初期化する

取り出し方

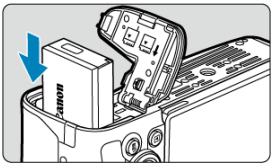
充電したバッテリーパック LP-E17とカードをカメラに入れます。撮影した画像は、カードに記録されます。

入れ方

1. **カード／バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける**

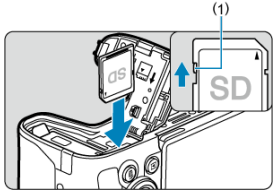


2. **バッテリーを入れる**



- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3. カードを入れる

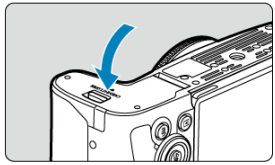


- カードの表を、カメラの背面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

注意

- **カードの書き込み禁止スイッチ（1）が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。**

4. ふたを閉める



- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

注意

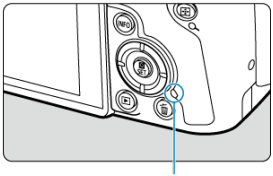
- バッテリーパック LP-E17以外は使用できません。

カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（）。

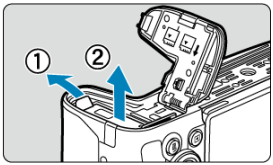
取り出し方

1. カード／バッテリー収納部ふたロックをスライドして開ける



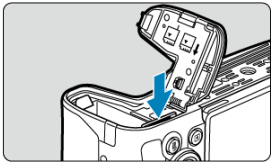
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプ（1）が消えていることを確認して、カード／バッテリー収納部ふたを開きます。**
- モニターに［**書き込み中...**］と表示されたときは、ふたを閉じてください。

2. バッテリーを取り出す

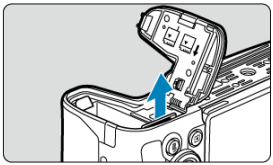


- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー（）を取り付けてください。

3. カードを取り出す



- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。



- カードをまっすぐに取り出して、ふたを閉じます。

注意

撮影時に画面に赤い［ ］が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈OFF〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

参考

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- ［ **：カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（ ）。

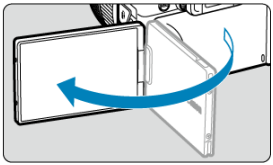
注意

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **カードを取り出す**
  - **バッテリーを取り出す**
  - **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **電源コードの抜き差しを行う**
    （家庭用電源アクセサリー（別売）使用時）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（）。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。
- UHS-II対応のmicroSDHC/SDXCカードと、（microSDカードからSDカードへの）変換アダプターの組み合わせによる使用はおすすめできません。
  UHS-II対応カードを使用するときは、UHS-IIに対応したSDHC/SDXCカードの使用をおすすめします。

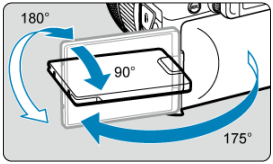
モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

1. モニターを開く

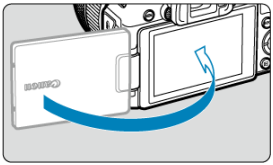


2. モニターを回転させる



- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

3. 画面を表向きにする



- 通常は画面を表向きにして使用します。

注意

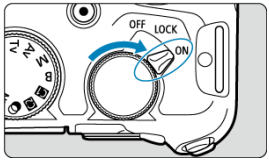
- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

参考

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる

- 日付／時刻／エリアを設定する
- 表示言語を変更する
- 撮像素子の自動清掃
- バッテリー残量表示について



- 〈ON〉
  カメラが作動します。静止画を撮影することができます。
- 〈LOCK〉
  カメラが作動します。マルチ電子ロック機能が働きます（）。
- 〈OFF〉
  カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

参考

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[**書き込み中...**] が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

日付／時刻／エリアを設定する

電源スイッチを入れたときに、日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、日付／時刻／エリアを参照して日付／時刻／エリアを設定してください。

表示言語を変更する

表示言語を変更するときは、言語を参照してください。

撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、モニターに［ ］が表示されます。電源スイッチを〈ON〉にしたときにも、撮像素子の自動清掃が行われるようにしたい場合は、［ : **センサークリーニング**］で設定することができます（ ）。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、［ ］が表示されないことがありますが、故障ではありません。

バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、カメラの電源を入れると表示されます。

	バッテリーの残量は十分です。
	バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
	まもなくバッテリー切れになります（点滅表示）。
	バッテリーを充電してください。

参考

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - 手ブレ補正機能を使用する
  - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
  - マルチアクセサリーシュー対応アクセサリーを使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- [：**バッテリー情報**] でバッテリーの状態を確認することができます（）。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す

- 取り付け方
- 取り外し方

注意

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

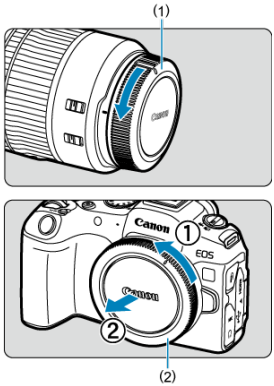
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

参考

- RF-Sレンズ使用時は、撮影画面の中央部分がクロップ（約1.6倍）した撮影範囲になります。

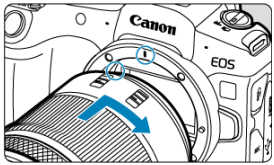
取り付け方

1. キャップを外す



- レンズのダストキャップ（1）とボディキャップ（2）を矢印の方向に回して外します。

2. レンズを取り付ける

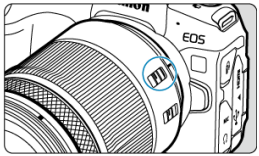


- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3. フォーカスモードを「AF」に設定する

- 「AF」はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 「MF」はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

- **フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時**
  レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定します。

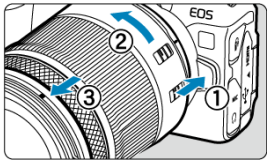


- **フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時**
  [**AF**：**フォーカスモード**]を[**AF**]に設定します。

4. レンズキャップを外す

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す

☑ 取り付け方

☑ 取り外し方

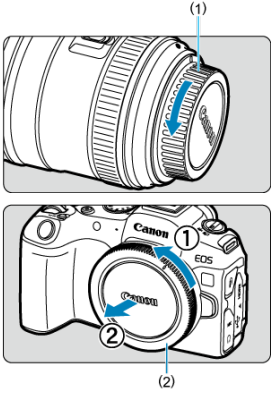
別売のマウントアダプター EF-EOS Rを使用すると、すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

参考

- EF-Sレンズ使用時は、撮影画面の中央部分がクロップ（約1.6倍）した撮影範囲になります。

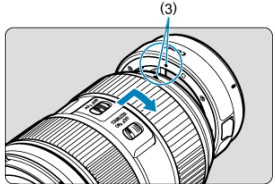
取り付け方

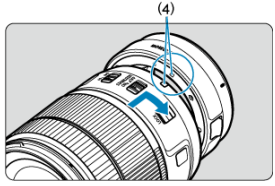
1. **キャップを外す**



- レンズのダストキャップ（1）とボディキャップ（2）を矢印の方向に回して外します。

2. アダプターにレンズを取り付ける



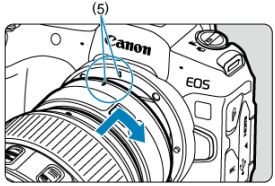


- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

（3）赤い指標

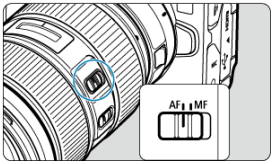
（4）白い指標

3. カメラにアダプターを取り付ける



- アダプターとカメラの赤いレンズ取り付け指標（5）を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

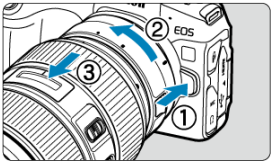


- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

5. レンズキャップを外す

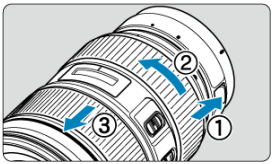
取り外し方

1. **レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す**



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

2. **レンズをアダプターから取り外す**



- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

注意

- レンズに関する注意事項は、RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外すをご確認ください。

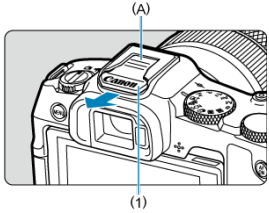
マルチアクセサリーシュー

マルチアクセサリーシューを使用する

マルチアクセサリーシューは、電源供給機能と高度な情報通信機能を備えたアクセサリーシューです。

マルチアクセサリーシューを使用する

シューカバーの取り外し



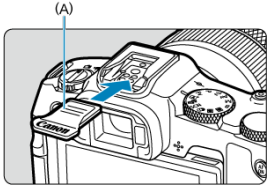
- シューカバー（1）の（A）の部分に指をかけて矢印の方向に引き抜きます。取り外したシューカバーは、紛失しないように保管してください。

アクセサリーの取り付け

- マルチアクセサリーシュー用の接点で通信を行うアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚をカチッと音がするまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定します。詳しくは、使用するアクセサリーの使用説明書を参照してください。
- 以下のアクセサリーは、マルチアクセサリーシューに直接取り付けることができません。
  - スピードライト EL-1/600EXII-RT/600EX-RT/580EX II
  - スピードライトトランスミッター ST-E3-RT(Ver.2)/ST-E3-RT
  - オフカメラシューコード OC-E3
  - GPSレシーバー GP-E2
- 本カメラで上記のアクセサリーを使用するときは、別売のマルチアクセサリーシューアダプター AD-E1が必要です。詳しくは、AD-E1の使用説明書を参照してください。
- 上記以外の、従来のアクセサリーシューに対応したアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚を突き当たるまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定します。詳しくは、使用するアクセサリーの使用説明書を参照してください。

- 電子ビューファインダー EVF-DC2/EVF-DC1は、マルチアクセサリーシューに取り付けることはできません。無理に取り付けるとマルチアクセサリーシューおよびアクセサリーが破損する恐れがあります。

シューカバーの取り付け



- マルチアクセサリーシューからアクセサリーを取り外したときは、ほこりや水などから接点を保護するため、シューカバーを取り付けてください。
- シューカバーの（A）の部分を矢印の方向に押しながら、突き当たるまで差し込んでください。

注意

- アクセサリーは、アクセサリーの取り付けの内容に従って、正しく取り付けてください。カメラやアクセサリーの動作不良や、アクセサリーが落下する恐れがあります。
- マルチアクセサリーシューにごみなどが入ったときは、市販品のブロアーなどを使用して除去してください。
- マルチアクセサリーシューに水分が入ったときは、カメラの電源をOFFにして、乾くまで放置してください。
- シューカバーは、カメラに付属のものをお使いください。

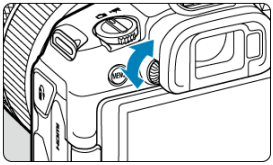
ファインダーを使う

視度調整

ファインダーをのぞくと、ファインダーに画面が表示されます。画面の表示先を固定することもできます（）。

視度調整

1. **視度調整つまみを回す**



- ファインダー内の表示が鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

注意

- ファインダーとモニターを同時に表示することはできません。
- モニターを開いた状態でファインダーを覗いた場合は、ファインダーに画面は表示されません。
- アスペクト比の設定によっては、左右または上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影されません。

基本操作

- カメラの構え方
- シャッターボタン
- 〈 〉メイン電子ダイヤル
- 〈 〉サブ電子ダイヤル
- 〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
- 〈 〉AFスタートボタン
- 〈LOCK〉マルチ電子ロックスイッチ
- 〈 〉コントロールリング
- 〈INFO〉インフォボタン

カメラの構え方

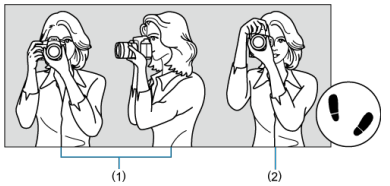
● モニターを見ながら撮影

モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくはモニターを使うを参照してください。

（1）通常のアングル
（2）ローアングル
（3）ハイアングル

● ファインダーを見ながら撮影

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



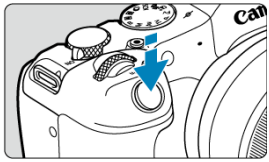
（1）横位置
（2）縦位置

1.右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
2.左手でレンズを下から支えるように持ちます。
3.右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
4.脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
5.片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
6.カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

シャッターボタン

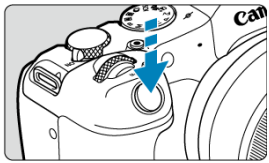
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニターまたはファインダー内に8秒間表示されます（測光タイマー／⏱8）。

全押し



シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

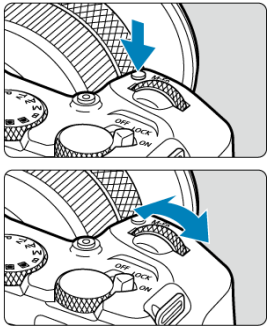
- カメラの構え方のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

参考

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

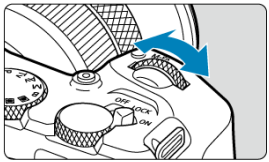
〈 〉メイン電子ダイヤル

（1）ボタンを押したあと〈 〉を回す



〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈 〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、ピクチャースタイルの設定などに使用します。

（2）〈 〉のみを回す



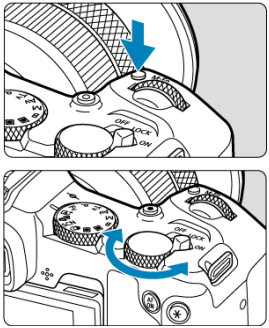
モニターまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。
- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

参考

- （1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（ ）でも行うことができます。

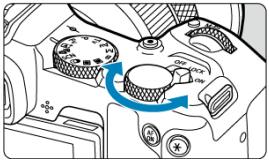
〈〉サブ電子ダイヤル

（1）ボタンを押したあと〈〉を回す



〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
- 測光モード、AF動作、ISO感度、AFエリアの設定などに使用します。

（2）〈〉のみを回す

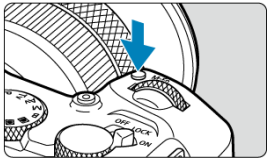


モニターまたはファインダー内を見ながら〈〉を回します。
- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

参考

- （1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（）でも行うことができます。

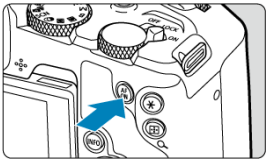
〈M-Fn〉マルチファンクションボタン



〈M-Fn〉ボタンを押したあと（または〈M-Fn〉ボタンを何度か押したあと）、〈〉または〈〉を回すと、ホワイトバランス（）、ドライブモード（）、ストロボ調光補正（）、ピクチャースタイル（）、測光モード（）、AF動作（）、ISO感度（）、AFエリア（）を設定することができます。
AFエリアを選ぶときは、〈〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押します（6）。

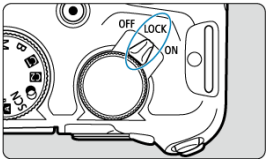
〈 AF ON 〉 AFスタートボタン

シャッターボタン半押しと同じ操作を行うことができます（応用撮影ゾーン時）。

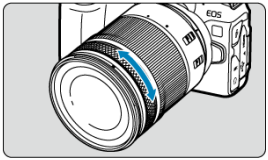


〈LOCK〉マルチ電子ロックスイッチ

[: **マルチ電子ロック**] を設定し（ ）、電源／マルチ電子ロックスイッチを〈LOCK〉位置にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、コントロールリングが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。



〈 〉コントロールリング

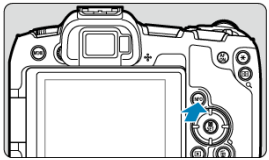


〈**Fv**〉 〈**P**〉 〈**Tv**〉 〈**Av**〉 〈**M**〉モードのときに、シャッターボタンを半押しした状態で、RFレンズ、またはマウントアダプターのコントロールリングを回すと、露出補正を設定することができます。また、操作カスタマイズ機能の［ ：**ダイヤル カスタマイズ**］で( )、コントロールリングに他の機能を割り当てることもできます。

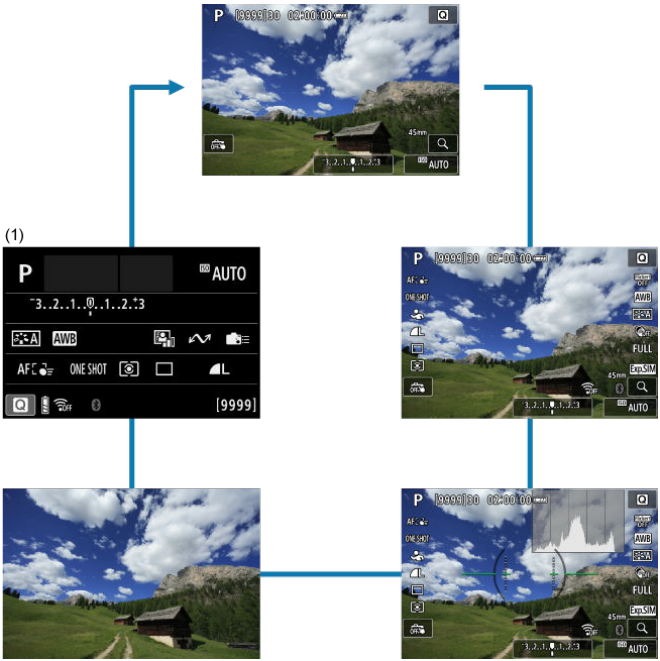
注意

- フォーカス/コントロールリングを搭載していて、フォーカス/コントロール切り換えスイッチがないレンズ使用時は、［**AF**：**フォーカス/コントロールリング**］の設定が必要です。

〈INFO〉インフォボタン



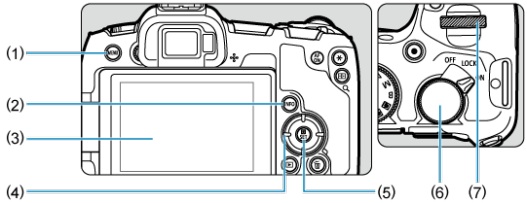
〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。



＊かんたん撮影ゾーンのときは（1）の画面は表示されません。

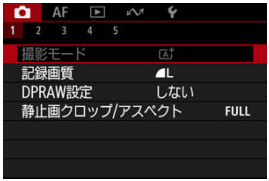
メニュー機能の操作と設定

- かんたん撮影ゾーンのメニュー画面
- 応用撮影ゾーンのメニュー画面
- メニュー機能の設定操作
- メニュー項目の灰色表示



(1)	〈MENU〉ボタン
(2)	〈INFO〉ボタン
(3)	モニター
(4)	〈✥〉十字キー
(5)	〈(SET)〉ボタン
(6)	〈◡〉サブ電子ダイヤル
(7)	〈◠〉メイン電子ダイヤル

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面

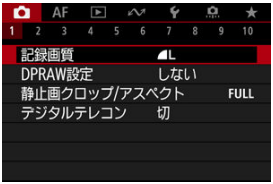


＊かんたん撮影ゾーンのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面

(1)	メインタブ
(2)	サブタブ
(3)	メニュー項目
(4)	: 撮影
(5)	**AF** : オートフォーカス
(6)	: 再生
(7)	: 通信機能
(8)	: 機能設定
(9)	: カスタム機能
(10)	★ : マイメニュー
(11)	設定内容

1. メニューを表示する

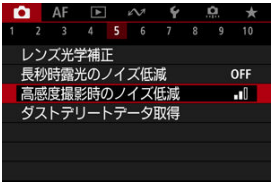


- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューが表示されます。

2. タブを選ぶ

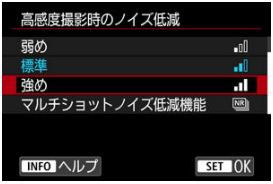
- 〈INFO〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈 〉を回してサブタブを選びます。

3. 項目を選ぶ



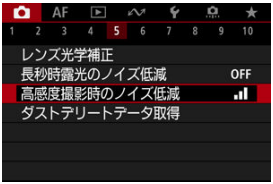
- 〈 〉を回して項目を選び、〈 〉ボタンを押します。

4. 内容を選ぶ



- 〈 〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5. 内容を設定する



- 〈 〉ボタンを押すと設定されます。

6. 設定を終了する

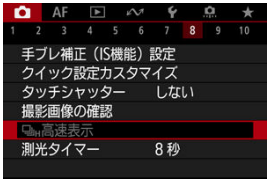
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

参考

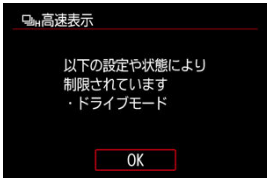
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり〈 〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：ドライブモード：1枚撮影設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈㊗〉ボタンを押すと、優先されている機能を確認することができます。
優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

注意

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

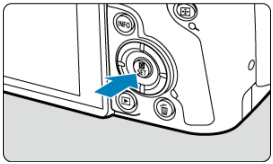
参考

- [**：カメラの初期化**]の[**基本設定**]を選ぶと、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（）。

クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。

1. **〈Q〉ボタンを押す（⏱10）**



2. **項目を選び、内容を設定する**

- 〈 〉を回すか、〈▲〉〈▼〉を押して項目を選びます。
- 〈 〉を回すか、〈◀〉〈▶〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

- 上記の画面が表示されているときは、〈✣〉を押して項目を選びます。
- 〈 〉または〈 〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

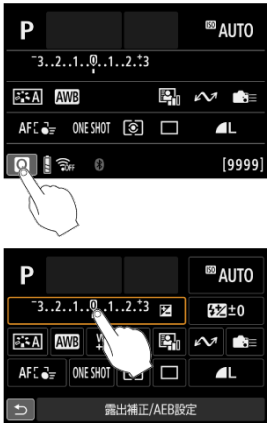
画面にタッチして操作する

タッチ

ドラッグ

タッチ

画面例（クイック設定）



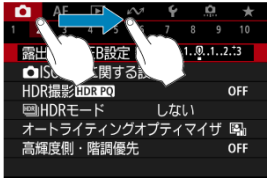
- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば［Q］をタッチすると、クイック設定の状態になります。［⮌］をタッチすると、元の画面に戻ります。

参考

- ［**：電子音**］を［**入**］に設定すると、タッチ操作時に電子音を鳴らすことができます（）。
- ［**：タッチ操作**］でタッチしたときの反応を設定することができます（）。

ドラッグ

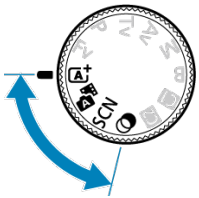
画面例（メニュー画面）



- モニターに指を触れたまま動かします。

かんたん撮影ゾーン

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。
「かんたん撮影ゾーン」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。



- A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）
- プラスムービーオート

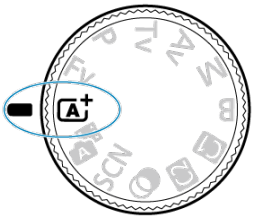
- スペシャルシーンモード
  - ポートレートモード
  - 集合写真モード
  - 風景モード
  - パノラマショットモード
  - スポーツモード
  - キッズモード
  - 流し撮りモード
  - クローズアップモード
  - 料理モード
  - 夜景ポートレートモード
  - 手持ち夜景モード
  - HDR逆光補正モード
  - サイレントシャッターモード
- クリエイティブフィルターモード

A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）

- 動いているものを撮影する
- シーン判別アイコン
- 設定の変更
- 効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます。

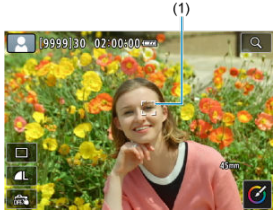
1. **モードダイヤルを〈A+〉にする**



2. **〈SET〉ボタンを押す**

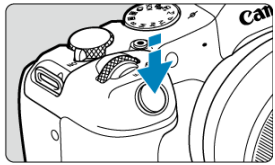
- メッセージを確認して［**OK**］を選びます。

3. カメラを被写体（写したいもの）に向ける



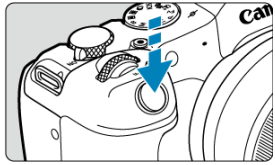
- 撮影条件により、被写体に追尾フレーム（1）が表示されます。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることもできます（タッチAF）。
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光（）が自動投光されます。
- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります（＝ワンショットAF）。
- 被写体が動いているときは、ピントが合うと、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます（＝サーボAF）。

5. 撮影する



- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。

注意

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

参考

- AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。ワンショットAFに自動設定されても、シャッターボタン半押し中または連続撮影中に、被写体が動いたと判断したときは、サーボAFに切り換わります。
- 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影ゾーン（）にして、[SCN A]以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（）。

ブレの少ない画像を撮影するには

- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。撮影機材の重さに耐えられる三脚を使用してください。また、カメラを三脚に確実に固定してください。
- リモートスイッチ（別売／）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／）の使用をおすすめします。

?こんなときは

- **ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯）**
  明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **ピント合わせ後、複数のAFフレームが同時に表示される**
  表示されているすべての位置にピントが合っています。

- **シャッタースピード（数字）が点滅している**
  光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EL／EXスピードライト（別売／）を使用して撮影することをおすすめします。

- **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**
  レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

参考

- ストロボを使用しないときは、下記の説明を参考にしてください。
  - 手ブレしやすい暗い場所では、カメラが動かないように構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズを使用するときは、広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
  - 暗い場所で人物を撮影するときは、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

動いているものを撮影する

シャッターボタンを半押しすると、被写体の動きに追従してピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま、被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコン

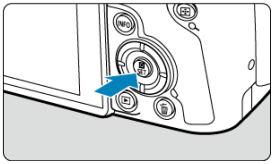
カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、シーン判別アイコンを参照してください。

設定の変更

画面のアイコンにタッチして、ドライブモード、記録画質、タッチシャッター、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。

効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）

1. 〈(SET)〉ボタンを押す



- メッセージを確認して［**OK**］を選びます。

2. 効果を選ぶ

- 〈〉で効果を選び、〈(SET)〉ボタンを押します。

3. 効果の度合い・内容を選ぶ

- 〈 〉で設定し、〈 〉ボタンを押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈 〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

クリエイティブアシストの効果

- **［ ］プリセット**
  用意された効果の中から選ぶことができます。
  ［**B&W**］を設定したときは［**鮮やかさ**］［**色あい1**］［**色あい2**］は選べません。

- **［ ］背景ぼかし**
  背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。［**オート**］に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ（F値）によっては、設定できない位置があります。

- **［ ］明るさ**
  画像の明るさを設定することができます。

- **［ ］コントラスト**
  コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。

- **［ ］鮮やかさ**
  色の鮮やかさを設定することができます。

- **［ ］色あい1**
  アンバーとブルーの色あいを設定することができます。

- **［ ］色あい2**
  グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。

- **［ ］モノクロ**
  モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。

参考

- ストロボ撮影時、［**背景ぼかし**］は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、［ ：**クリエイティブアシスト設定記憶**］を［**する**］に設定しておくと、設定が保持されます。

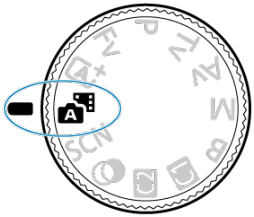
効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、［**クリエイティブアシスト**］の設定画面で［INFO **登録**］をタッチして［**OK**］を選びます。最大3つまで［**プリセット**］の［**USER***］に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、［**USER***］のいずれかを上書きする必要があります。

プラスムービーオート

〈 〉モードでは、静止画を撮影するだけで、静止画が記録されると同時に撮影直前の約2～4秒のシーンも動画として記録され、1日をまとめた短編動画（ダイジェスト動画）ができます。

1. **モードダイヤルを〈 〉にする**



2. **〈 〉ボタンを押す**

- 構図を決めて、撮影します。

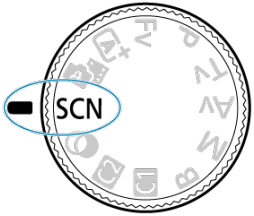
参考

- 静止画を撮影する約4秒前からカメラを被写体に向けておくと、ダイジェスト動画もきれいに撮影できます。
- [: **ダイジェスト形式**]を[**静止画なし**]に設定すると、ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像は記録されません（ ）。
- 静止画と一緒にダイジェスト動画が撮影されるため、〈 〉モードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- 電源を入れたり〈 〉モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、ダイジェスト動画が記録されないことがあります。
- ダイジェスト動画には、カメラやレンズを操作したときの音と振動が記録されます。
- 暗い場所では、AF補助光やセルフタイマーのランプがダイジェスト動画に記録されることがあります。
- ダイジェスト動画の画質は、[FHD 29.97P ALL-I]（NTSC時）または[FHD 25.00P ALL-I]（PAL時）です。ビデオ方式の設定によって異なります。
- シャッターボタンを半押ししたときやセルフタイマーなどの電子音は鳴りません。
- 次のときは、同じ日に〈 〉モードで作成されたダイジェスト動画でも、別ファイルとして保存されます。
  - ダイジェスト動画ファイルサイズが4GBを越えた場合（exFAT以外でフォーマットされたカードの場合）
  - 日付、エリア設定、ビデオ方式、サマータイム設定、カードを変更した場合
  - 追記対象のダイジェスト動画ファイルが保護されている場合
  - 追記対象のダイジェスト動画ファイルの作成者もしくは著作権者と、カメラに設定されている作成者もしくは著作権者が異なる場合
- 記録されるシャッター音は、変えたり消すことはできません。
- EOS Utilityを使用して撮影する場合には、EOS Utilityの[**撮影画像の保存先**]を、[**PCとカメラ内のメモリーカード**]または[**カメラ内メモリーカードのみ**]に設定してください。

スペシャルシーンモード

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。
*〈 SCN 〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。

1. **モードダイヤルを〈 SCN 〉にする**



2. **〈(SET)〉ボタンを押す**

3. **撮影モードを選ぶ**

- 〈 〉で撮影モードを選び、〈(SET)〉ボタンを押します。

4. 設定を確認する

- 〈Q〉ボタンを押し、クイック設定画面を表示します。

参考

- 撮影モードは、[📷：**撮影モード**]で設定することもできます。
- [🔧：**撮影モードガイド**]を[**表示しない**]に設定しているときは、手順1のあと、〈Q〉ボタンを押して表示されるクイック設定画面で、〈◯〉で撮影モードを選び、〈SET〉ボタンを押します。

〈SCN〉モードで設定できる撮影モード

撮影モード			
	ポートレート		クローズアップ
	集合写真		料理
	風景		夜景ポートレート
	パノラマショット		手持ち夜景
	スポーツ		HDR逆光補正
	キッズ		サイレントシャッター
	流し撮り		

ポートレートモード

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、[]（ポートレート）モードを使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**
  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、[**AF：瞳検出**]が[**しない**]以外のときは、瞳にピントが合うように撮影することができます。

- **連続撮影する**
  初期状態では、[]（低速連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

集合写真モード

集合写真を撮るときは、[👪]（集合写真）モードを使用します。手前から奥の人物までピントが合った写真を撮ることができます。

撮影のポイント

- **広角レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前から奥の人物までピントが合いやすくなります。また、（人物の全身が写るくらいに）人物から少し離れると、ピントの合う範囲が前後に広くなります。

- **同じシーンを何枚か撮影する**
  目を閉じてしまう人がいることがあるため、何枚か撮影しておくことをおすすめします。

参考

- 室内や暗い場所で撮影するときは、カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。

注意

- 歪曲収差補正が行われるため、画角がわずかに変化します。
- 撮影条件により、手前から奥の人物までピントが合わないことがあります。

風景モード

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、[🏞]（風景）モードを使用します。空や緑が鮮やかな、くっきりした写真になります。

撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

- **夜景を撮影するときは**
  三脚の使用をおすすめします。

注意

- ストロボ撮影はできません。

パノラマショットモード

パノラマ写真を撮影したいときは、[▭]（パノラマショット）モードを使用します。シャッターボタンを全押ししたままカメラを一定の方向に動かして撮影すると、連続撮影した画像を合成してパノラマ画像が作成されます。

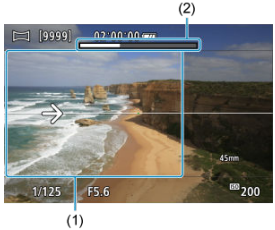
1. 撮影する方向を選ぶ

- 〈[⊞]〉ボタンを押すか、画面右下の［📷✥］をタッチして撮影する方向を選びます。
- カメラを動かす方向を示す矢印が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しする

- ピントを合わせ、シャッターボタンを半押ししたままにします。

3. 撮影する



- シャッターボタンを全押ししたまま、矢印の方向にカメラを一定の速さでまっすぐに動かします。
- 画面で透明に表示されている部分（1）が撮影されていきます。
- 撮影の進み具合を示すバー（2）が表示されます。
- シャッターボタンを離すか、バーがすべて白色になると撮影が終了します。

注意

- スイングのブレ補正に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください（）。
- シーンによっては、思いどおりの画像が保存されなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- カメラの動かしかたが速すぎたり遅すぎたりすると、撮影が途中で中断されます。ただし、作成された画像は保存されます。
- 〈〉モードで撮影した画像は画像サイズが大きいため、キヤノン製プリンターにカードを差し込んでプリントするときは、一度パソコンなどで画像をリサイズしてからプリントしてください。
  また、ソフトウェアや Web サービスなどで画像が正しく扱えないときは、画像のリサイズをお試しください。
- 次の被写体やシーンでは、適切に合成されないことがあります。
  - 動いている被写体
  - 近くの被写体
  - 構図の中で明暗差が大きいとき
  - 空や海など単調な色や模様が続くシーン
- スイングブレ補正による振動が伝わることがありますが、撮影に影響はありません。
- 焦点距離の長いレンズを使用する場合や夜景シーンなどの暗いシーンを撮影する場合には、ゆっくりカメラを動かして撮影することをおすすめします。

スポーツモード

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、[🏃]（スポーツ）モードを使用します。

撮影のポイント

- **望遠レンズを使用する**
  遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。
- **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**
  シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレームが表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。
- **連続撮影する**
  初期状態では、[□ₕ]（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

注意

- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないように構えて撮影してください。
- ストロボ撮影はできません。

キッズモード

動き回る子供を撮りたいときは、[ ]（キッズ）を使用します。肌色が健康的な写真になります。

(1)

撮影のポイント

- **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

  初期状態では、[**AF**：**AFエリア**]は［**全域AF**］に設定されています。シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム（1）が表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

- **連続撮影する**

  初期状態では、[H]（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の表情や動きの変化を写すことができます。

注意

- 外部ストロボを使用したときは、連続撮影速度が低下します。

流し撮りモード

被写体の背景が流れるようなスピード感のある写真を撮影できます。
[]（流し撮り）モードの対応レンズを使うと、被写体ブレを軽減することができます。

撮影のポイント

- **被写体に合わせてカメラを動かす**
  動いている被写体を追いかけるように、カメラを滑らかに動かして撮影します。動いている被写体のピントを合わせたい位置にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押ししたまま、被写体の速度に合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを全押しします。その後も被写体の動きに合わせてカメラを動かします。

- **背景を流す効果の度合いを設定する**
  [**流し効果**]で「背景が流れたように写る度合い」を設定することができます。[**流し効果: 大**]にすると、シャッタースピードが遅くなり、被写体の背景がより流れたような写真になります。なお、被写体ブレが目立つときは、[**流し効果**]を[**流し効果: 中**]または[**流し効果: 小**]に変更すると、被写体のブレが軽減されます。

注意

- [ ] モードに対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください（ ）。
- シャッタースピードが遅くなります。そのため、流し撮り以外の撮影には適していません。
- AF工リアは、［**1点AF**］［**フレキシブルゾーンAF1**］［**フレキシブルゾーンAF2**］［**フレキシブルゾーンAF3**］のみ設定できます。
- 初期状態では［ ］に設定されます。なお、［ ］は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- [ ] モードに対応しているレンズで撮影を行ったときに、レンズの手ブレ補正効果は、撮影した画像には反映されますが、撮影時の画面では確認できません（レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、撮影する瞬間だけ手ブレ補正機能、および被写体のブレに対する補正機能が作動します）。
- [ ] モードに対応していないレンズで撮影すると、被写体のブレに対する補正は行われませんが、［**流し効果**］の設定に応じたシャッタースピードの自動調整のみ行われます。
- （夏の晴天下など）明るい場所で撮影したときや、遅い被写体を撮影したときは、設定した量の流し効果が得られないことがあります。
- [ ] モードに対応したレンズを使用して、次のような被写体を撮影したときや、次のような撮影条件のときは、被写体のブレの補正が適切に行われないことがあります。
  - 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  - 暗い場所にある被写体
  - 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  - 繰り返し模様の被写体
  - 模様が少ない被写体や、単調な模様の被写体
  - 写り込みがある被写体（ガラスに反射した像など）
  - ゾーンAFフレームよりも小さい被写体
  - ゾーンAFフレームの中に動いている被写体が2つ以上あるとき
  - 移動方向や速度が不規則な被写体
  - 不規則な動きが含まれている被写体（走っている人の上下運動など）
  - 速度変化が大きい被写体（動き出し直後や、カーブを曲がっているなど）
  - カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
  - 被写体の動きにカメラの動かし方が合っていないとき
  - レンズの焦点距離が長いとき

クローズアップモード

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、[🌷]（クローズアップ）モードを使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
  背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- **写したいものにできるだけ近づく**
  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。
- **ズームレンズは望遠側にする**
  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

料理モード

料理を撮りたいときは、[🍴]（料理）モードを使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。

撮影のポイント

- **色あいを変える**
  [**色あい**]を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは[**暖色**]（赤）側に、赤みが強すぎるときは[**寒色**]（青）側に設定を変更して撮影してください。

注意

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、[**色あい**]が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

夜景ポートレートモード

人物と、その背景にある夜景を明るくきれいに写したいときは、[ ]（夜景ポートレート）モードを使用します。なお、**撮影には外部ストロボが必要です。**三脚の使用をおすすめします。

撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- **画像の明るさを確認する**
  撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。
- **他の撮影モードでも撮影しておく**
  ブレた写真になりやすいので、〈 〉モードと［ ］モードでも撮影しておくことをおすすめします。

注意

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 撮影時に人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（ ）に設定して手動でピントを合わせてください。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（ ）に設定して手動でピントを合わせてください。
- 画面に表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

参考

- セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

手持ち夜景モード

[]（手持ち夜景）モードを使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。

撮影のポイント

- **カメラが動かないように構える**
  カメラが動かないように、脇を締めて構えます（）。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（）に設定して手動でピントを合わせてください。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に「**BUSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 画面に表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

HDR逆光補正モード

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、[ ]（HDR逆光補正）モードを使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。
＊「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

撮影のポイント

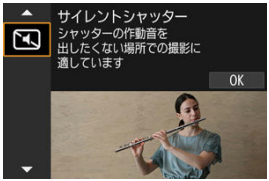
- **カメラが動かないように構える**
  カメラが動かないように、脇を締めて構えます（ ）。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に「**BUSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

サイレントシャッターモード

静かな場所で、シャッター音や電子音を鳴らさずに写真を撮ることができます。



撮影のポイント

- **試し撮りをする**
  撮影条件によっては、レンズの絞りの駆動音や、ピント合わせのためのフォーカス駆動音がすることがありますので、事前にテスト撮影をおすすめします。

注意

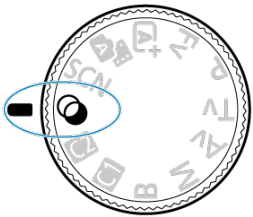
- サイレントシャッター機能は、被写体の肖像権やプライバシーなどに十分配慮した上で、お客様の責任において使用してください。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。
- 連続撮影、ストロボ撮影はできません。

クリエイティブフィルターモード

- 各クリエイティブフィルターの特徴
- ジオラマ風の操作

フィルター効果を付けた画像を撮影することができます。撮影前にフィルター効果を確認することができます。

1. モードダイヤルを〈〉にする



2. 〈〉ボタンを押す

3. フィルター効果を選ぶ

- 〈 〉を回してフィルター効果（ ）を選び、〈 〉ボタンを押します。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。

4. 効果を調整して撮影する

- 〈 〉ボタンを押し、[**クリエイティブフィルター**]の下のアイコンを選びます（ 、 、 、 、 を除く）。
- 〈 〉を回してフィルター効果の強さを調整し、〈 〉ボタンを押します。

注意

- 〈 〉で、操作を行うこともできます。
- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、 の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 設定時は、連続撮影は設定できません。

参考

- ［**ラフモノクロ**］のときは、モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- ［**ソフトフォーカス**］、［**ジオラマ風**］のときは、モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- 応用撮影ゾーンのときは、一部のクリエイティブフィルターを設定することができます（）。

各クリエイティブフィルターの特徴

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。
  また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。
  AFフレームは、中央1点固定になります。

- **水彩風**
  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合はジオラマ風の操作を参照してください。AFエリアは［**1点AF**］になります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。

- **HDR絵画調標準**
  白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **HDRグラフィック調**
  ［**HDR絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **HDR油彩調**
  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● **HDRビンテージ調**
鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

注意

[HDR] [HDR] [HDR] [HDR] の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- 画面に表示されるフィルター効果の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED 照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に「**BUSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。

参考

- [HDR] [HDR] [HDR] [HDR] は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。[HDR] [HDR] [HDR] [HDR] の注意事項を参照してください。

ジオラマ風の操作

1. ジオラマ枠を移動する

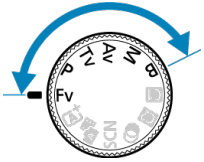
- はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を設定します。
- 〈 〉ボタンを押すか、画面右下の［ ］をタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動させることができます。
  なお、［ ］をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。また、ジオラマ枠が横向きの場合は〈 〉の左右、縦向きの場合は〈 〉の上下を押しても、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- 〈 〉 〈 〉 〈 〉のいずれかで、ジオラマ枠が移動します。
  〈INFO〉ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
- もう一度〈 〉ボタンを押すと、AFフレームの設定になります。
- 〈 〉ボタンを押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。

2. AFフレームを移動して撮影する

- AFフレームがオレンジ色に変わり、移動させることができます。
- 〈✥〉〈 〉〈 〉のいずれかで、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。
- ジオラマ枠とAFフレームの位置を合わせることをおすすめします。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 〈 〉ボタンを押すと、AFフレームの位置が確定します。

応用撮影ゾーン

応用撮影ゾーンでは、シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。



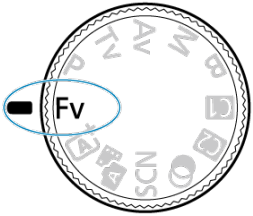
- モードダイヤルを回したあとに、撮影モードの説明が表示されたときは、〈(SET)〉ボタンを押すと説明が消えます（🔗）。

- Fv：フレキシブルAE撮影
- P：プログラムAE撮影
- Tv：シャッター優先AE
- Av：絞り優先AE
- M：マニュアル露出
- B：長時間露光（バルブ撮影）

Fv：フレキシブルAE撮影

「(1) シャッタースピード」「(2) 絞り数値」「(3) ISO感度」、(1) (2) (3)それぞれの「オート（自動設定）」と「任意設定」、および「(4) 露出補正」を自由に組み合わせて撮影することができます。(1) (2) (3) (4)を任意にコントロールすることで、〈**Fv**〉モード1つで〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉の4つのモードに相当する撮影を行うことができます。
＊〈**Fv**〉はFlexible value（フレキシブルバリュー）の略です。

1. モードダイヤルを〈Fv〉にする



2. シャッタースピード／絞り数値／ISO感度を設定する

- 〈 〉を回して、設定する項目を選びます。選択している項目の左側に［ ］が表示されます。
- 〈 〉を回して、内容を設定します。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、［**AUTO**］に設定（リセット）されます。

3. 露出補正量を設定する

- 〈 〉を回して、露出レベル表示を選びます。露出レベル表示の左側に［ ］が表示されます。
- 〈 〉を回して、内容を設定します。
- 〈 〉ボタンを押すと、［**±0**］に設定（リセット）されます。

〈Fv〉モードの機能組み合わせ一覧

シャッタースピード	絞り数値	ISO感度	露出補正	撮影モード
［**AUTO**］	［**AUTO**］	［**AUTO**］	可能	〈**P**〉相当
		任意設定		
任意設定	［**AUTO**］	［**AUTO**］	可能	〈**Tv**〉相当
		任意設定		
［**AUTO**］	任意設定	［**AUTO**］	可能	〈**Av**〉相当
		任意設定		
任意設定	任意設定	［**AUTO**］	可能	〈**M**〉相当
		任意設定	—	

注意

- 数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）、または露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで、露出調整を行ってください。
- 〈**Fv**〉モード時に〈**P**〉〈**Av**〉モード相当の状態で、［ **：外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を［**1/200-30秒自動**］に設定しても、（暗い場所で）スローシンクロ撮影は行われません。

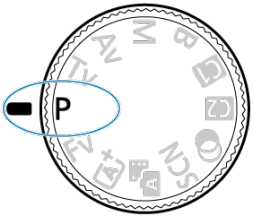
参考

- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が［**AUTO**］に設定されているときは、各項目の数字の下にアンダーラインが表示されます。
- 手順2または3で〈 〉ボタンを長押しすると、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度をすべて［**AUTO**］、露出補正量を［**±0**］に設定することができます。

P：プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。
＊〈**P**〉はProgram（プログラム）の略です。
＊AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1. モードダイヤルを〈P〉にする



2. ピントを合わせる

- カメラを被写体に向け、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うとAFフレームが表示されます（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まります。

3. 表示を確認する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

4. 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

注意

- シャッタースピードの「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

- シャッタースピードの「**1/4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

参考

〈P〉モードと〈A+〉モードの違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AFエリアや測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AFエリアや測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- 〈**P**〉モードのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで〈 〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv：シャッター優先AE

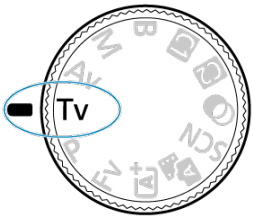
シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。
＊〈**Tv**〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いスピード：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いスピード：1/2000秒）

---

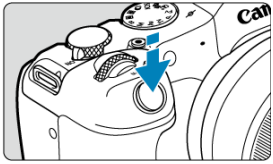
1. モードダイヤルを〈Tv〉にする



2. シャッタースピードを設定する

- 〈 〉を回して設定します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 絞り数値が自動的に決まります。

4. 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

注意

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

参考

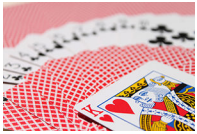
シャッタースピードの表示について

- 例えば「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り優先AE

ピントの合う範囲を確認する

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。
＊〈**Av**〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

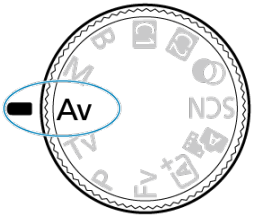


背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

---

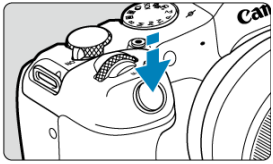
1. モードダイヤルを〈Av〉にする



2. 絞り数値を設定する

- 〈 〉を回して設定します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- シャッタースピードが自動的に決まります。

4. 表示を確認して撮影する

- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

注意

- シャッタースピードの「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

- シャッタースピードの「**1/4000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

参考

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**F00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する

絞り込み機能を割り当てたボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

参考

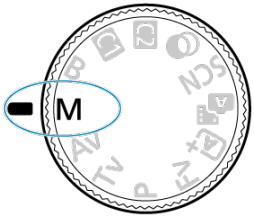
- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなります。
- 映像を見ながら、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M：マニュアル露出

ISOオート設定時の露出補正

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。
＊〈**M**〉はManual（マニュアル）の略です。

1. **モードダイヤルを〈M〉にする**



2. **ISO感度を設定する（）**

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます（）。

3. **シャッタースピードと絞り数値を設定する**

- シャッタースピードは〈〉、絞り数値は〈〉を回して設定します。

4. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク［▮］で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク

5. 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を［**AUTO**］に設定したときは、以下の方法で露出補正（）を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- ［：**露出補正/AEB設定**］
- シャッターボタンを半押しした状態でコントロールリングを回す

注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

参考

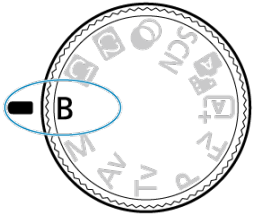
- [: **合焦後AEロックする測光モード**] でチェックを付けた測光モードが [: **測光モード**] で選ばれている場合は、シャッターボタンを半押ししてワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定（ロック）されます。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで露出補正（）を行っていたときは、〈**M**〉モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に [: **露出設定ステップ**] を [**1/2段**] に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

B：長時間露光（バルブ撮影）

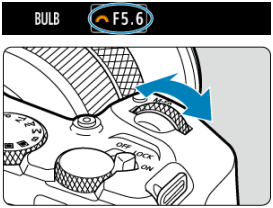
☑ バルブタイマー 静止画

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1. **モードダイヤルを〈B〉にする**



2. **絞り数値を設定する**



- 〈 〉を回して設定します。

3. **撮影する**

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- モニターに露光経過時間が表示されます。

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます。
- セルフタイマーを併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。

参考

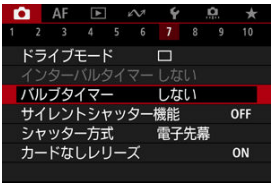
- [📷：**長秒時露光のノイズ低減**] で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（📷）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。
- リモートスイッチ RS-60E3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（📷）。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーのレリーズ（送信）ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

バルブタイマー

MF

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。
なお、バルブタイマーは、〈**B**〉（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。

1. **[📷：バルブタイマー] を選ぶ**



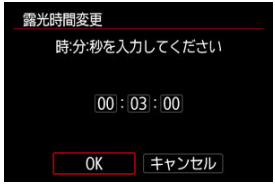
2. ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 露光時間を設定する

- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈㊗〉ボタンを押して［⍐］の状態にします。
- 数値を設定し、〈㊗〉ボタンを押します（［▭］の状態に戻ります）。

4. ［OK］を選ぶ



5. 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、設定した時間、バルブ撮影が行われます。
- バルブタイマー撮影中は、モニターに［TIMER］と露光時間が表示されます。
- 設定を解除するときは、手順2で［**しない**］を選びます。

注意

- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。なお、［📷：**撮影時クリエイティブフィルター**］設定時は、電源スイッチを〈OFF〉にすると、バルブタイマー撮影が終了します。
- 露光開始からシャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します（設定した露光時間で自動的にバルブ撮影は終了しません）。
- 撮影モードを変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が［**しない**］になります）。

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

- 静止画撮影
- 動画撮影

静止画撮影

タイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

- メニュー目次：静止画撮影
- 記録画質
- DPRAW設定
- 静止画クロップ／アスペクト
- デジタルテレコン 応用
- 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用
- 自分の好みに露出を補正する 応用
- 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用
- 静止画のISO感度を設定 応用
- HDR撮影 応用
- HDRモード 応用
- オートライティングオプティマイザ 応用
- 高輝度側・階調優先 応用
- フリッカーレス撮影 応用
- 高周波フリッカーレス撮影 応用
- 外部ストロボ撮影 応用
- ストロボ機能の設定 応用
- 測光モード 応用
- ホワイトバランス 応用
- ホワイトバランスの補正 応用
- 色空間 応用
- ピクチャースタイルの選択 応用
- ピクチャースタイルの調整 応用
- ピクチャースタイルの登録 応用
- 明瞭度 応用
- 撮影時クリエイティブフィルター 応用
- レンズ光学補正 応用
- 長秒時露光のノイズ低減 応用
- 高感度撮影時のノイズ低減 応用
- ダストデリートデータ取得 応用
- 多重露出撮影 応用
- RAWバーストモード 応用
- フォーカスBKT撮影 応用
- インターバルタイマー撮影
- サイレントシャッター機能 応用

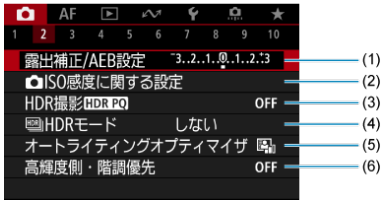
- シャッター方式 応用
- カードなしレリーズ
- 手ブレ補正（IS機能）設定
- クイック設定カスタマイズ 応用
- タッチシャッターで撮影する
- 撮影画像の確認
- 高速表示 応用
- 測光タイマー 応用
- 表示Simulation 応用
- OVFビューアシスト 応用
- 撮影情報表示設定
- ファインダー表示形式
- 撮影画面表示設定
- ダイジェスト形式
- 静止画撮影全般

メニュー目次：静止画撮影

- **撮影1**

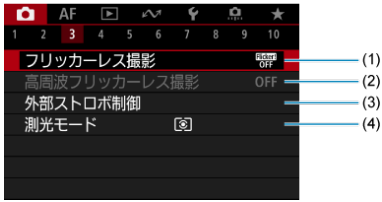
(1) 記録画質
(2) DPRAW設定
(3) 静止画クロップ/アスペクト
(4) デジタルテレコン 応用

- **撮影2**



(1) 露出補正/AEB設定 応用
(2) ISO感度に関する設定 応用
(3) HDR撮影 HDR PQ 応用
(4) HDRモード 応用
(5) オートライティングオプティマイザ 応用
(6) 高輝度側・階調優先 応用

● **撮影3**



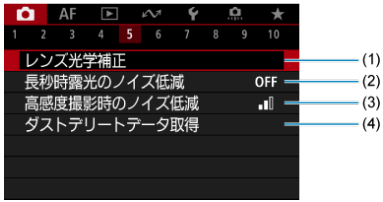
(1) フリッカーレス撮影 応用
(2) 高周波フリッカーレス撮影 応用
(3) 外部ストロボ制御 応用
(4) 測光モード 応用

● **撮影4**

(1) ホワイトバランス 応用
(2) MWB画像選択 応用
(3) WB補正/BKT設定 応用
(4) 色空間 応用
(5) ピクチャースタイル
- ピクチャースタイルの選択 応用
- ピクチャースタイルの調整 応用
- ピクチャースタイルの登録 応用

(6) 明瞭度 応用
(7) 撮影時クリエイティブフィルター 応用

● **撮影5**



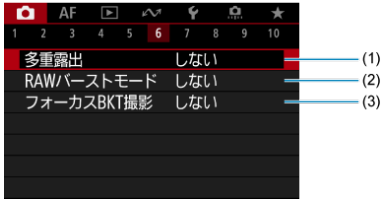
(1) レンズ光学補正 応用

(2) 長秒時露光のノイズ低減 応用

(3) 高感度撮影時のノイズ低減 応用

(4) ダストデリートデータ取得 応用

● **撮影6**

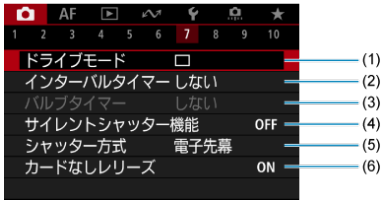


(1) 多重露出 応用

(2) RAWバーストモード 応用

(3) フォーカスBKT撮影 応用

撮影7



(1) ドライブモード
(2) インターバルタイマー
(3) バルブタイマー 応用
(4) サイレントシャッター機能 応用
(5) シャッター方式 応用
(6) カードなしレリーズ

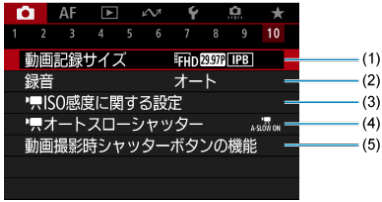
撮影8

(1) 手ブレ補正（IS機能）設定
(2) クイック設定カスタマイズ 応用
(3) タッチシャッター
(4) 撮影画像の確認
(5) 高速表示 応用
(6) 測光タイマー 応用

撮影9

(1) 表示Simulation 応用
(2) OVFビューアシスト 応用
(3) 撮影情報表示設定
(4) ファインダー表示形式
(5) 撮影画面表示設定

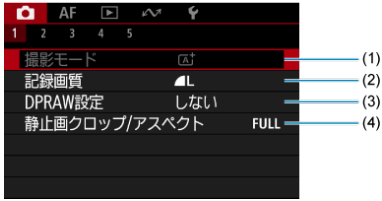
撮影10



(1) 動画記録サイズ
(2) 録音
(3) ISO感度に関する設定 応用
(4) オートスローシャッター 応用
(5) 動画撮影時シャッターボタンの機能

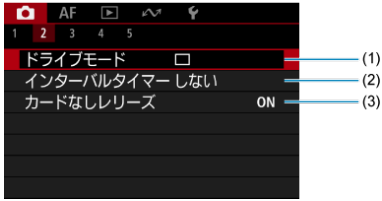
かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。

- **撮影1**



(1) 撮影モード
(2) 記録画質
(3) DPRAW設定
(4) 静止画クロップ/アスペクト

- **撮影2**

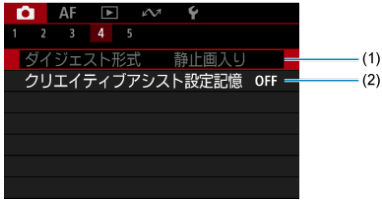


(1) ドライブモード
(2) インターバルタイマー
(3) カードなしレリーズ

● **撮影3**

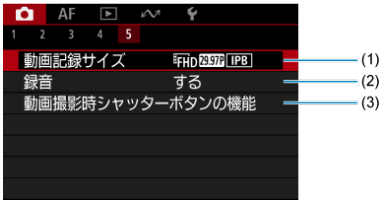
（1）手ブレ補正（IS機能）設定
（2）タッチシャッター
（3）撮影画像の確認
（4）撮影情報表示設定
（5）ファインダー表示形式
（6）撮影画面表示設定

● **撮影4**



（1）ダイジェスト形式
（2）クリエイティブアシスト設定記憶

● **撮影5**



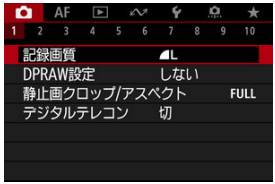
(1) 動画記録サイズ
(2) 録音
(3) 動画撮影時シャッターボタンの機能

記録画質

- RAW画像
- 記録画質を選ぶときの目安
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG画像、HEIF画像の記録画質は、L/L/M/M/S1/S1/S2です。RAW画像の記録画質は、RAW/CRAWのいずれかを設定することができます。

1. **[：記録画質]を選ぶ**



2. **記録画質を設定する**

- RAW画像は〈〉、JPEG/HEIF画像は〈〉を回してサイズを選びます。
- 〈〉ボタンを押すと設定されます。

参考

- HEIF画像は、[📷：**HDR撮影 HDR PQ**]を[**する**]に設定しているときに設定することができます。撮影後に、JPEG画像に変換することができます（🔗）。
- RAW画像とJPEG/HEIF画像の設定を両方［▬］にしたときは、◢Lに設定されます。
- RAWとJPEG/HEIFの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、HEIF：.HIF、RAW：.CR3）で記録されます。
- S2は◢（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、CRAW（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、HEIF（ヒーフ）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、CRAWから選ぶことができます。なお、CRAWはRAWに比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。
RAW画像は、[▶：**RAW現像**]で現像処理を行い（🔗）、JPEG画像またはHEIF画像として保存することができます。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG/HEIF画像を何枚でも作ることができます。
また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（🔗）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、静止画のファイルサイズ／撮影可能枚数、連続撮影可能枚数を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）

撮影画面の左上、またはファインダー内の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

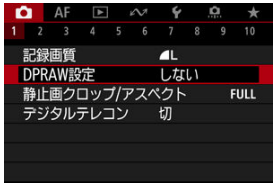
参考

- 連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、モニターに［**BUSY**］が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、連続撮影可能枚数の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

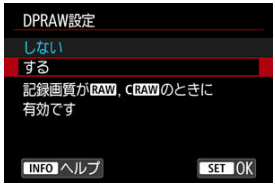
DPRAW設定

DPRAW機能を設定してRAW、CRAW画像を撮影すると、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。
EOS用ソフトウェアのDigital Photo ProfessionalでDPRAW画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を活用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。
なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**

1. **[📷：DPRAW設定]を選ぶ**



2. **[する]を選ぶ**



3. **記録画質をRAWまたはCRAWに設定する**

- 記録画質をRAW、RAW＋JPEG、RAW＋HEIF、CRAW、CRAW＋JPEG、CRAW＋HEIFのいずれかに設定します。

4. 撮影する

- デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

注意

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、連続撮影速度が遅くなります（）。また、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- ドライブモードの［］［］は選択できません。［］［］に設定されているときは、［］の設定で撮影されます。
- ［：**DPRAW設定**］を［**する**］に設定して、RAW画像、RAW＋JPEG画像またはRAW＋HEIF画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。
- HDR撮影、マルチショットノイズ低減機能、多重露出、RAWバーストモード、フォーカスBKT撮影、電子シャッター、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

参考

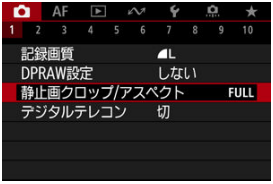
DPRAW機能の調整量・補正効果について

- レンズの絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 使用するレンズや撮影シーンによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦／横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。

静止画クロップ／アスペクト

撮影画面の範囲を変更した撮影ができます。［**1.6倍（クロップ）**］では、撮像素子の中央部（APS-Cサイズ相当）を使用して、使用レンズの約1.6倍の焦点距離相当の画角で撮影することができます。また、その他の設定では、画面の縦横（アスペクト）比を変更した撮影ができます。

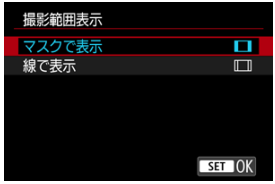
1. ［📷：静止画クロップ/アスペクト］を選ぶ



2. 項目を選ぶ

- ［**フルサイズ**］［**1.6倍（クロップ）**］［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］から選びます。
- RF-S/EF-Sレンズ使用時は、［**1.6倍（クロップ）**］に自動設定されます（選択できません）。
- 撮影範囲の表示方法を変更しないときは、〈INFO〉ボタンを押して手順4に進みます。

3. 撮影範囲の表示方法を選ぶ



- 手順2の画面が表示された状態で〈INFO〉ボタンを押します。
- 表示方法を選び〈(SET)〉ボタンを押します。

注意

- [**1.6倍（クロップ）**]設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、記録画質◢M/◢M/◢S1/◢S1は選択できません。
- 記録画質を◢M/◢M/◢S1/◢S1に設定した状態で、[**1.6倍（クロップ）**]を行ったときは、順に◢L/◢L/S2/S2で記録されます。
- アスペクト比が[**1:1（アスペクト）**][**4:3（アスペクト）**][**16:9（アスペクト）**]に設定された状態で、RF-S/EF-Sレンズを装着したときは、設定が自動的に解除され、[**1.6倍（クロップ）**]、アスペクト比3：2での撮影になります。

4. 撮影する

- [**1.6倍（クロップ）**]設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、約1.6倍に拡大された映像が表示されます。
- [**1:1（アスペクト）**][**4:3（アスペクト）**][**16:9（アスペクト）**]設定時は、黒くマスクされた部分の内側、または線の内側の範囲が画像として記録されます。

注意

- **［1.6倍（クロップ）］設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時に、RAW画像を撮影したときは、撮影範囲のみ記録されます（クロップ領域外は記録されません）。**
- ［**1.6倍（クロップ）**］設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は［**撮影範囲表示**］の設定を行っても、表示は変化しません。
- ［**フルサイズ**］以外に設定されているときは、［：**トリミング情報の付加**］は設定できません。

参考

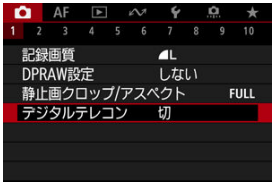
- クロップ／アスペクト撮影時の記録画素数については、静止画・記録画素数を参照してください。
- クロップ撮影時、アスペクト撮影時の視野率は、上下／左右とも約100%です。
- アスペクト設定時に、RAW画像を撮影したときは、フルサイズで記録され、アスペクト情報が画像に付加されます。RAW画像を再生したときは、撮影範囲が線で表示されます。ただし、スライドショーで再生を行ったときは、撮影範囲だけが表示されます。

デジタルテレコン

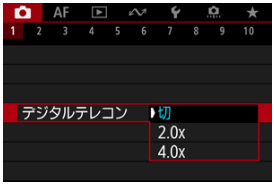
応用

撮影画面の中央部を拡大して、撮影倍率をレンズの倍率以上に変更することができます。

1. **[📷：デジタルテレコン]を選ぶ**



2. **撮影倍率を選ぶ**



- [📷：**静止画クロップ/アスペクト**]を[**1.6倍（クロップ）**]に設定している場合は、選択できる撮影倍率が異なります。
- [**切**]を選ぶと、撮影倍率は変わりません。

注意

- 撮影倍率を高くするほど、画質は低下します。
- RAW画質が選択されているときは、設定できません。

参考

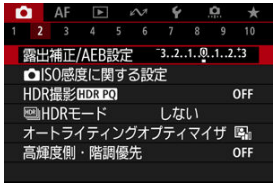
- AFフレームは、中央1点固定になります。追尾フレームは表示されません。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

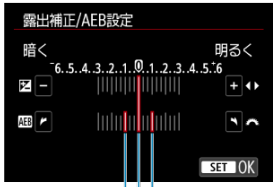
応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。
＊AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1. [📷：露出補正/AEB設定]を選ぶ



2. AEBレベルを設定する



(1)

- 〈 〉を回してAEBレベル（1）を設定します。〈◀〉〈▶〉を押すと、露出補正量を設定することができます。
- 〈 〉ボタンを押すと設定されます。
- メニューを終了すると、画面にAEBレベルが表示されます。

3. 撮影する

標準露出

マイナス補正

プラス補正

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

注意

- ［📷：**オートライティングオプティマイザ**］（🖉）が［**しない**］以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

参考

- AEB撮影中は、画面左下の［✱］が点滅します。
- ドライブモードが［□］のときは、3回撮影してください。［□H+］［□H］［□］のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。［⏲10］［⏲2］のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。なお、［⏲C］に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- ストロボ使用時、バルブ撮影時、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、RAWバーストモード、フォーカスBKT撮影時、クリエイティブフィルター撮影時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

自分の好みに露出を補正する

応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。
〈**Fv**〉 〈**P**〉 〈**Tv**〉 〈**Av**〉 〈**M**〉モードのときに露出補正を行うことができます。
なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正についてはM：マニュアル露出、〈**Fv**〉モード時の露出補正についてはFv：フレキシブルAE撮影を参照してください。

1. 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

2. 補正量を設定する

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

- 画面を見ながら〈 〉を回して設定します。
- 露出補正を行うと、[ ] が表示されます。

3. 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル [ ] を標準露出指標（[ ]）の位置に戻します。

注意

- [: **オートライティングオプティマイザ**]（ ）が、[**しない**] 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

参考

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

露出を固定して撮る／AEロック撮影

応用

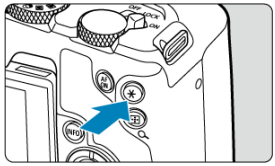
AEロックの効果

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。
〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

2. 〈✳〉ボタンを押す（⏱8）



- 画面左下に［✳］が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3. 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

参考

- バルブ撮影時はAEロックできません。

AEロックの効果

測光モードの選択	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
[◉]	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[⊡][•][⬚]	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

＊［[◉]］設定時に、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（[MF]）を行う設定にすると、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

静止画のISO感度を設定

応用

- ISO感度の手動設定範囲
- ISOオート時の自動設定範囲
- ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンのときは、ISO感度が自動設定されます。
なお、動画撮影時のISO感度については、動画撮影時のISO感度を参照してください。

1. ISO感度の選択画面を表示する

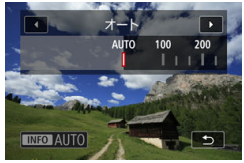
- 画面右下のISO感度をタッチします。

2. ISO感度の設定値を選ぶ

- 〈 〉を回して設定します。
- ISO100～102400の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- ［**AUTO**］を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が［**AUTO**］のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、撮影画面に表示されます。
- ISOオートの範囲については、静止画撮影時のISO感度（推奨露光指数）を参照してください。

参考

- ［ : **ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度**］から設定するときは、〈INFO〉ボタンを押すと、［**AUTO**］に設定することができます。



ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

参考

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押してISO感度の項目で設定することもできます。
- [📷：📷**ISO感度に関する設定**]の[**ISO感度の範囲**]で、ISO感度の手動設定範囲をL（ISO50相当）からH（ISO204800相当）まで拡張することができます（🖉）。

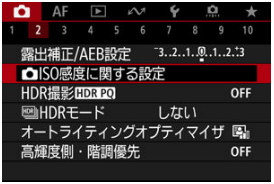
注意

- H（204800相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L（ISO50相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- [📷：**高輝度側・階調優先**]を[**する**][**強**]に設定すると（🖉）、L（ISO50相当）、ISO100/125/160、H（204800相当）は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

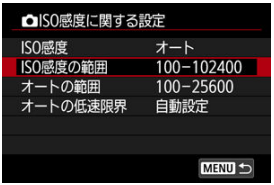
ISO感度の手動設定範囲

手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～102400、上限値はISO100～H（ISO204800相当）の範囲で設定することができます。

1. **［ : ISO感度に関する設定］を選ぶ**



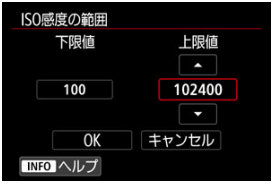
2. **［ISO感度の範囲］を選ぶ**



3. **［下限値］を設定する**

- ［**下限値**］の枠を選び〈㊗〉ボタンを押します。
- ISO感度を選び〈㊗〉ボタンを押します。

4. ［上限値］を設定する



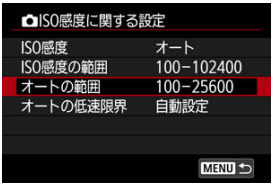
- ［**上限値**］の枠を選び〈㊗〉ボタンを押します。
- ISO感度を選び〈㊗〉ボタンを押します。

5. ［OK］を選ぶ

ISOオート時の自動設定範囲

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～102400の範囲で設定することができます。下限値はISO100～51200の範囲、上限値はISO200～102400の範囲で、1段ステップで設定することができます。

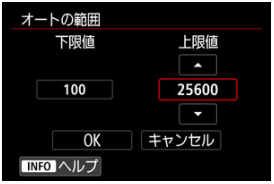
1. ［オートの範囲］を選ぶ



2. ［下限値］を設定する

- ［**下限値**］の枠を選び〈(SET)〉ボタンを押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉ボタンを押します。

3. ［上限値］を設定する



- ［**上限値**］の枠を選び〈㊙〉ボタンを押します。
- ISO感度を選び〈㊙〉ボタンを押します。

4. ［OK］を選ぶ

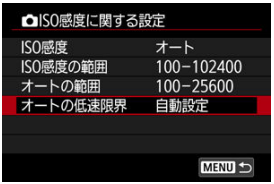
参考

- ［**下限値**］［**上限値**］は、ISO感度でセイフティシフト（）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

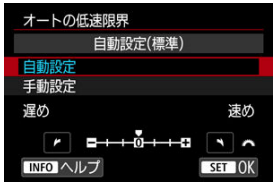
ISOオート設定時に、シャッタースピードが自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。
この機能は〈**P**〉〈**Av**〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1. **［オートの低速限界］を選ぶ**



2. 低速限界を設定する

自動設定



- ［**自動設定**］を選んだときは、〈 〉を回して標準設定からの度合い（**遅め／速め**）を設定し、〈 〉ボタンを押します。

手動設定

- ［**手動設定**］を選んだときは、〈 〉を回してシャッタースピードを選び、〈 〉ボタンを押します。

注意

- ［**オートの範囲**］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［**オートの低速限界**］で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時は機能しません。

参考

- ［**自動設定(標準)**］設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、［**遅め**］から［**速め**］の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

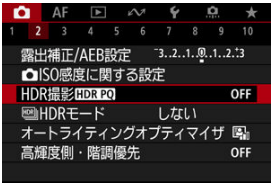
HDR撮影

応用

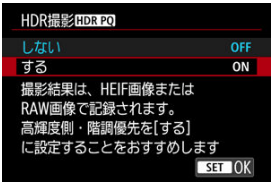
HDR PQのPQはHDR画像を表示するための入力信号のガンマカーブのことを指します。
HDR PQ設定は、ITU-R BT.2100およびSMPTE ST.2084で定義されたPQ規格に準拠したHDR画像を生成します。（実際に表示される画像は、モニター性能に依存します。）
撮影結果は、HEIF画像またはRAW画像で記録されます。
＊「HDR」はHigh Dynamic Rangeの略です。
＊「PQ」はPerceptual Quantizationの略です。

---

1. **[📷：HDR撮影HDR PQ]を選ぶ**



2. **[する]を選ぶ**



- 撮影時と再生時に、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換された画像がモニターに表示されます。

注意

- 拡張ISO感度（L、H）でHDR撮影を行うことはできません。
- シーンによっては、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が異なることがあります。
- [📷：**HDR撮影HDR PQ**]を［**する**］に設定したときのヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。
- [📷：**HDR撮影HDR PQ**]を［**する**］に設定すると、[📷：**撮影画面表示設定**]は設定できません。[**なめらかさ優先**]に設定されます。
- [📷：**HDR撮影HDR PQ**]を［**する**］にして撮影した画像を、HDR対応ディスプレイで再生するときは、[▶：**HDMI HDR出力**]を［**入**］にしてください（🔗）。なお、HDR対応ディスプレイでの表示は、[▶：**HDMI HDR出力**]の設定にかかわらず、HDR画像で行われます。

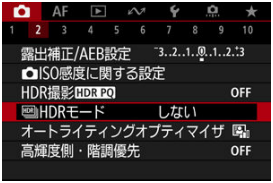
HDRモード

☑ 動体優先

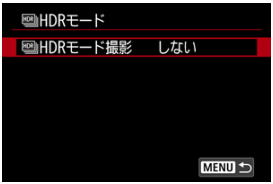
☑ Dレンジ優先

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。動いている被写体がある撮影では「動体優先」、風景などの静物撮影では「Dレンジ優先」を選びます。
HDR撮影では、暗部の階調の再現性を高めるため、1回の撮影でレンジの広い合成画像（暗部の領域を明るく補正したHDR画像）を生成します。
HDR画像はHEIFまたはJPEG画質で記録されます。
＊HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

1. **[: HDRモード] を選ぶ**



2. **[HDRモード撮影] を選ぶ**



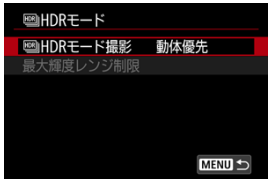
3. 項目を選ぶ

- HDR撮影をしないときは［**しない**］を選びます。

4. 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。1回の撮影で複数枚の画像が合成され、HDR画像としてカードに記録されます。

動体優先

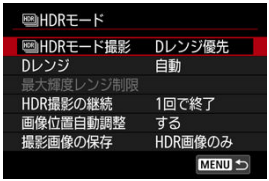


動いている被写体がある撮影に適しています。1回の撮影でレンジの広い合成画像が撮影できます。

- **最大輝度レンジ制限**

  ［📷：**HDR撮影HDR PQ**］が［**する**］のときのみ設定できます。
  ［**しない**］を選んだときは、最大輝度レンジは制限されません。撮影画像を、1000nit以上の輝度表示が可能なモニターで確認するときにおすすめします。
  ［**1000nit**］を選んだときは、最大輝度レンジが約1000nitに制限されます。

Dレンジ優先



風景などの静物撮影に適しています。1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を撮影して、自動的に画像合成を行います。

- **Dレンジ**
  ［**自動**］を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
  数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。

- **最大輝度レンジ制限**
  ［：**HDR撮影HDR PQ**］が［**する**］のときのみ設定できます。
  ［**しない**］を選んだときは、最大輝度レンジは制限されません。撮影画像を、1000nit以上の輝度表示が可能なモニターで確認するときにおすすめします。
  ［**1000nit**］を選んだときは、最大輝度レンジが約1000nitに制限されます。

- **HDR撮影の継続**
  ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
  ［**繰り返し**］を選んだときは、［**HDRモード撮影**］で［**しない**］を選ぶまでHDR撮影が続きます。

- **画像位置自動調整**
  手持ち撮影を行うときは［**する**］、三脚などを使用するときは［**しない**］を選びます。

- **撮影画像の保存**
  撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、［**全画像**］を選びます。
  HDR画像だけを保存するときは、［**HDR画像のみ**］を選びます。

注意

- 拡張ISO感度（L、H）でHDR撮影を行うことはできません。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- AEB撮影はできません。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、フリッカーの影響によりHDR画像に色ムラや露出ムラなどが発生することがあります。［📷：**フリッカーレス撮影**］を［**する**］または［📷：**高周波フリッカーレス撮影**］を［**する**］にして撮影すると、フリッカーによる影響が軽減できる場合があります。ただし、［📷：**高周波フリッカーレス撮影**］は［**Dレンジ優先**］の場合は設定できません。
- 電子シャッターでのHDR撮影時は、シャッタースピードの上限が1/8000に設定されます。

［Dレンジ優先］設定時の注意事項

- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（🖉）、およびダストデリートデータ（🖉）は画像に付加されません。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 複数枚の画像を撮影する際に、シャッタースピードやISO感度が自動的に変化します。そのため〈**Fv**〉〈**Tv**〉〈**M**〉モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードやISO感度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターに［**BUSY**］が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

参考

- ［**Dレンジ優先**］に設定すると、RAW画質で撮影したときのHDR画像は次のようになります。
  - ［📷：**HDR撮影HDR PQ**］［**しない**］：JPEG画質
  - ［📷：**HDR撮影HDR PQ**］［**する**］：HEIF画質

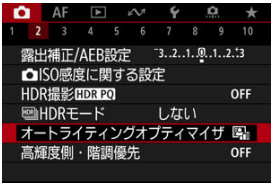
  なお、RAW+JPEG画質またはRAW+HEIF画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質またはHEIF画質で記録されます。
- ［**動体優先**］または［**Dレンジ優先**］に設定すると、［📷：**表示Simulation**］を［**しない**］以外に設定しても露出のシミュレートは行われません。

オートライティングオプティマイザ

応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。

1. **［ : オートライティングオプティマイザ］を選ぶ**



2. **補正内容を設定する**

注意

- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、［**弱め**］または［**しない**］に設定して撮影してください。
- ［**しない**］以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［**しない**］に設定してください。

参考

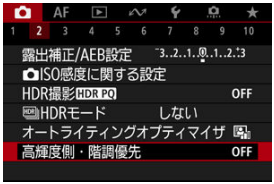
- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、〈**M**〉〈**B**〉モードでも［📷：**オートライティングオプティマイザ**］が設定できるようになります。

高輝度側・階調優先

応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1. **[: 高輝度側・階調優先]を選ぶ**



2. **内容を設定して撮影する**

- [**する**]を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [**強**]設定時は、撮影シーンによって[**する**]設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

注意

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- [**強**]に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

参考

- 〈⊞〉ボタンを押してチェックを入れると、[📷：**HDR撮影HDR PQ**]を[**する**]に設定したときに、[📷：**高輝度側・階調優先**]が[**する**]に固定されます。
- [📷：**HDRモード**]の[**HDRモード撮影**]を[**しない**]以外にしたときは、[📷：**HDR撮影HDR PQ**]を[**する**]に設定しても[📷：**高輝度側・階調優先**]は[**しない**]に設定されます。

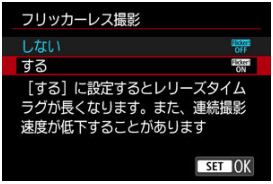
フリッカーレス撮影

応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。フリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。

1. **［ : フリッカーレス撮影］を選ぶ**

2. **［する］を選ぶ**



3. **撮影する**

注意

- ［**する**］設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- 〈**Fv**〉 〈**P**〉 〈**Av**〉モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、〈**Fv**〉 〈**Tv**〉〈**M**〉モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- ［**する**］に設定したときと、［**しない**］に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

参考

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 光源の変化などにより、画面にちらつきが発生したときは、〈(Q)〉ボタンを押して、［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈INFO〉ボタンを押して、フリッカー検知動作を行ってください。
- かんたん撮影ゾーンのときは、フリッカーの低減処理は行われません。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

高周波フリッカーレス撮影

応用

☑ 自動検出

☑ 手動設定

速い周期で明滅する光源下では、撮影画像に縞模様が発生することがあります。高周波フリッカーレス撮影機能を使用すると、明滅の周期（高周波フリッカー）に合わせたシャッタースピードを設定して、高周波フリッカーの影響を抑えた撮影を行うことができます。

注意

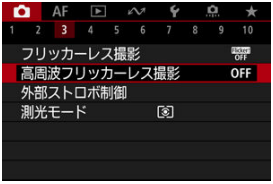
- 静止画撮影時は、露出にばらつきが生じることがあります。
- 高周波フリッカーレス撮影時は、［HDR**HDRモード撮影**］の［**Dレンジ優先**］は設定できません。
- 高周波フリッカーレス撮影を行うときは、［📷：**絞り数値変化時の露出維持**］を［**ISO感度**］にしておくことをおすすめします。

---

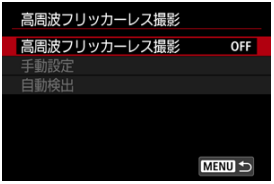
1. **撮影モードを〈Tv〉モードまたは〈M〉モードにする**

   - モードダイヤルを回して撮影モードを選びます（🔗）。

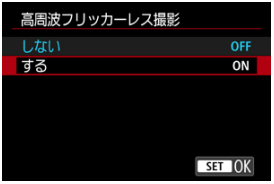
2. **［📷：高周波フリッカーレス撮影］を選ぶ**



3. **［高周波フリッカーレス撮影］を選ぶ**

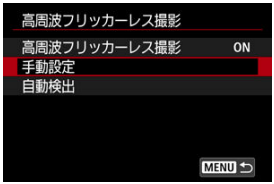


4. **［する］を選ぶ**

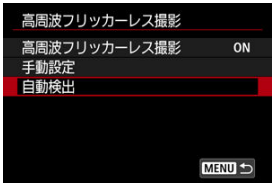


5. 項目を選ぶ

手動設定（）



自動検出（）



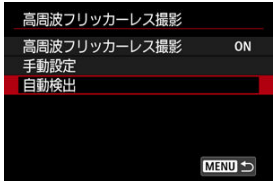
自動検出

光源の周波数を50.0Hz～2011.2Hzの範囲で検知して、高周波フリッカーレス撮影に対応可能なシャッタースピードを表示します。また、シャッタースピードを表示された値に変更することができます。

1. シャッタースピードを設定する

- 撮影に使用したいシャッタースピードを設定します。設定したシャッタースピードに近い領域から、高周波フリッカーレス撮影に対応可能なシャッタースピードが自動検出されます。

2. ［自動検出］を選ぶ



3. ［OK］を選ぶ

- 縞模様が発生している場所をできるだけ大きく表示させると、高周波フリッカー検出の精度が向上することがあります。

4. 表示されたシャッタースピードに変更する

- ［**はい**］を選ぶと、表示されたシャッタースピードに変更されます。
- ［**はい（Tv値設定に移動）**］を選ぶと、［**手動設定**］の画面が表示されます。手動設定の手順2に進んでください。

5. 撮影する

注意

- シャッター方式などによって、表示されるシャッタースピードの範囲が異なります。
  - 電子先幕：1/50.0秒～1/512.0秒
  - 電子シャッター：1/50.0秒～1/2048.0秒
  - 動画撮影時：1/50.0秒～1/2048.0秒
- ［**フリッカーを検知できませんでした**］と表示されたときや、表示されたシャッタースピードに変更しても縞模様が消えないときは、以下の操作を行ってください。
  - 自動検出を再度行う
  - カメラの向きを90°程度変えるなどして自動検出を行う
  - 手動設定を行う
- 以下の条件では、高周波フリッカー検出の精度が低下することがあります。
  - 繰り返し模様がある場合（例：格子模様、ストライプ模様など）
  - 被写体が動いて、静止しない場合
  - 明るさや暗さが極端な場合
  - 画面内に複数の光源がある場合
  - 明滅する光源が小さい場合
  - 光源の明滅周期が遅い場合

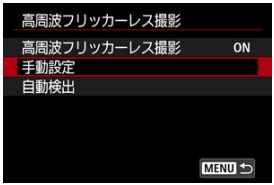
参考

- 4K動画をHDMI出力中に高周波フリッカーの自動検出を行うと、検出中の映像は更新されなくなります。

手動設定

画面で高周波フリッカーの影響を確認しながら、対応可能なシャッタースピードを探します。

1. ［手動設定］を選ぶ



2. シャッタースピードを調整する

- 自動検出で設定したシャッタースピードで画面の縞模様が消えないときは、以下の操作を行います。
  - 〈 〉を回します。〈 〉では、自動検出で設定した周波数の2倍、3倍、4倍…または1/2倍、1/3倍、1/4倍…のシャッタースピードに変更することができます。
  - 〈 〉を回して微調整します。
- 上記の操作を行っても、画面の縞模様が消えないときは、カメラの向きを90°程度変えるなどして、再度自動検出を行います。

3. 撮影する

注意

- シャッター方式などによって、手動設定が可能なシャッタースピードの範囲が異なります。
  - 電子先幕：1/50.0秒～1/2048.0秒
  - 電子シャッター：1/50.0秒～1/8192.0秒
  - 動画撮影時：1/50.0秒～1/8192.0秒
- ストロボ撮影を行う場合、ストロボの同調シャッタースピードは、シャッター方式にかかわらず、最高1/160.7秒に制限されます。
- 暗いレンズを使用する場合、表示Simulationが正しく機能しないことがあります。
- 高周波フリッカーレス撮影時に、〈**M**〉モードでのセイフティシフトはAv値で行われます。
- モニターやファインダーの表示と撮影結果が異なる場合があります。事前にテスト撮影を行うことをおすすめします。

外部ストロボ撮影

応用

- EOS用EL／EXスピードライト
- EL／EX以外のキヤノン製スピードライト
- 汎用ストロボ
- クイックストロボグループ制御

EOS用EL／EXスピードライト

このカメラは、EL／EXシリーズスピードライト（別売）の機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL／EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

● 同調シャッタースピード

1/200秒以下で同調します。

● ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを何度か押してストロボ調光補正の項目を選ぶと、〈 〉を回して調光補正量を設定することができます。

● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈✳〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

注意

- ストロボによっては、本カメラに直接取り付けることができません。詳しくはマルチアクセサリーシューを参照してください。
- [📷：**オートライティングオプティマイザ**]（）が、[**しない**]以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- ストロボを使用して撮影を行うときは、[📷：**シャッター方式**]を[**電子先幕**]に設定してください（）。

参考

- 暗い場所でAFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからストロボ間欠発光方式のAF補助光が投光されます。
- [: **外部ストロボ制御**]の[**ストロボ機能設定**]( )で調光補正を行うこともできます。
- このカメラは、カメラの電源スイッチと、ストロボの電源を連動させる機能に対応しています。詳しくは、この機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

EL／EX以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
  カメラの撮影モードを〈**Av**〉〈**M**〉モードに設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

● 同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。
スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60~1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

注意

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをマルチアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

クイックストロボグループ制御

[: **ボタン カスタマイズ**] で [**クイックストロボグループ制御**] を割り当てたボタンを押すことで、ワイヤレス多灯撮影時に撮影画面を見ながら発光グループごとの設定をすることができます。ここでは〈M-Fn〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します（ ）。

1. ストロボの発光モードを〈Gr〉（個別グループ制御）に設定し、ワイヤレス多灯撮影の状態にする

- 詳しくは、ワイヤレス多灯撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

2. 撮影待機中に〈M-Fn〉ボタンを押す

- 発光グループごとの設定画面が表示されます。
- 〈 〉を回して設定する発光グループ（A、B、C、D、E）を選びます。
- 〈INFO〉ボタンを押して発光モードを設定します。
- 〈 〉を回して発光量または調光補正量を設定します。

参考

- 〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときに［**クイックストロボグループ制御**］の設定画面を表示することができます。
- ストロボが〈Gr〉（個別グループ制御）以外の発光モードに設定されているとき、〈M-Fn〉ボタンを押すと［**ストロボ機能設定**］の画面が表示されます。

ストロボ機能の設定

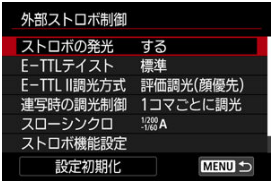
応用

- ストロボの発光
- E-TTLテイスト
- E-TTL II調光方式
- 連写時の調光制御
- スローシンクロ
- ストロボ機能設定
- ストロボカスタム機能設定
- ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除

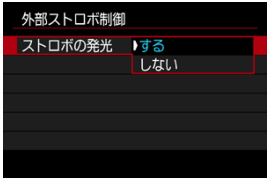
ストロボ機能設定に対応したEL／EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。
なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

1. **［ : 外部ストロボ制御］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

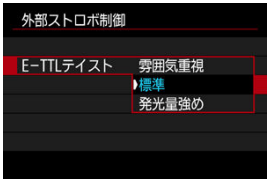


ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、[**する**]に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、[**しない**]に設定します。

E-TTLテイスト



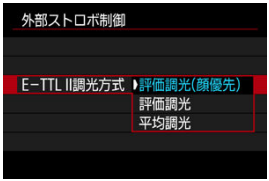
好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テイスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

- ［**雰囲気重視**］は、ストロボ光の比率を下げ、環境光を活かした、より自然な雰囲気を重視したライティングを想定したテイストです。とくに、室内などの暗いシーンでの撮影に効果的です。〈**P**〉〈**Av**〉モードに設定の上、［📷：**外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を［**1/200-30秒自動**］に設定し、スローシンクロ撮影することをおすすめします。
- ［**発光量強め**］は、ストロボ光主体のテイストです。環境光による被写体や背景の影などを軽減したいときに有効です。

注意

- ［**雰囲気重視**］設定時、シーンによっては［**標準**］設定時との撮影結果に効果の差が得られないことがあります。

E-TTL II調光方式



- ［**評価調光(顔優先)**］に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。
- ［**評価調光**］に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- ［**平均調光**］に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

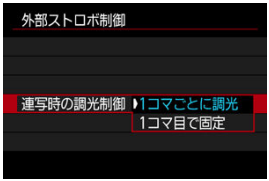
参考

- 状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

注意

- ［**評価調光(顔優先)**］に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

連写時の調光制御



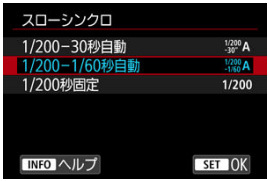
- ［**1コマごとに調光**］に設定すると、撮影するごとに調光を行います。
- ［**1コマ目で固定**］に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

注意

- 連続撮影中に被写体が動くと、露出が合わない場合があります。

スローシンクロ

〈**P**〉 〈**Av**〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。なお、ストロボ同調速度の上限値は、1/200秒になります。



● 1/200-30秒自動（$^{1/200}_{-30"}$A）

明るさに応じてシャッタースピードが1/200～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

● 1/200-1/60秒自動（$^{1/200}_{-1/60}$A）

明るさに応じてシャッタースピードが1/200～1/60秒の範囲で自動設定されるため、暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。
被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● 1/200秒固定（1/200）

シャッタースピードが1/200秒に固定されるため、［**1/200-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。
ただし、暗い場所では［**1/200-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

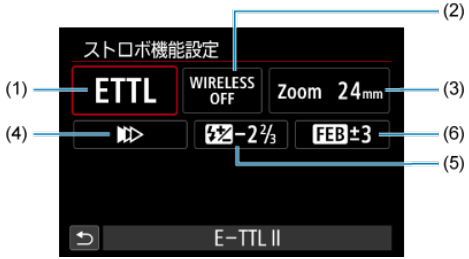
注意

- ［**1/200秒固定**］設定時は、〈**P**〉 〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



(1)	発光モード
(2)	ワイヤレス機能／ 光量比制御（RATIO）機能
(3)	ズーム（照射角）
(4)	シンクロ設定
(5)	調光補正
(6)	FEB

注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

- ［**E-TTL II**］は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL／EXスピードライトの標準的なモードです。
- ［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。
- ［**CSP**］（連写優先モード）は、対応する外部ストロボを使用したときに設定することができます。通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消耗を抑えたいときなどに効果的です。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

注意

- 〈**Fv**〉 〈**Tv**〉 〈**M**〉モードで、［**CSP**］の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて露出補正（）を行ってください。

参考

- ［**CSP**］設定時は、ISO感度が自動的に［**オート**］に設定されます。

ワイヤレス機能

電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。
詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

光量比制御機能（RATIO）

マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

ズーム（照射角）

ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

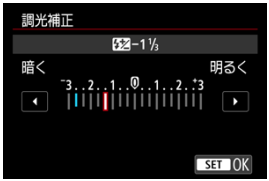
シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。
［**後幕シンクロ**］に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。
［**ハイスピード**］に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、〈**Av**〉モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/30秒以下の遅い速度に設定してください。1/40秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

調光補正

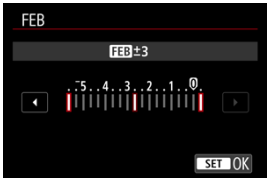


露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

参考

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

FEB

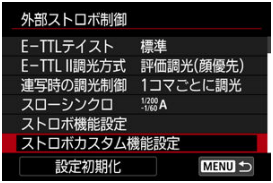


FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

1. ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ



2. 機能を設定する

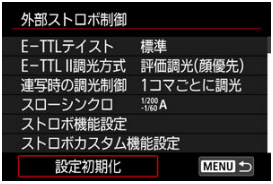
- 番号を選びます。
- 項目を選びます。

注意

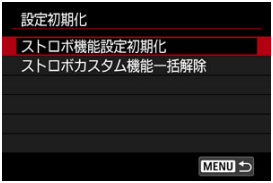
- EL／EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［**1:TTL**］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。
- ［**📷：外部ストロボ制御**］の画面から、外部ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除

1. **［設定初期化］を選ぶ**



2. **初期化する内容を選ぶ**



- ［**ストロボ機能設定初期化**］［**ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選びます。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

測光モード

応用

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、4種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます（〈 ： 〉モード時は、中央部重点平均測光）。

1. **［ ：測光モード］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- **：評価測光**
  逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

- **：部分測光**
  逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面に部分測光範囲が表示されます。

- **：スポット測光**
  被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面にスポット測光範囲が表示されます。

- **：中央部重点平均測光**
  画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

注意

- [評価測光]（評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（[**ワンショットAF**]時）。[部分測光]／[スポット測光]／[中央部重点平均測光]は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- [: **合焦後AEロックする測光モード**]（）で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます。

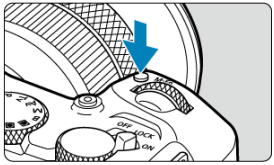
ホワイトバランス

応用

- ホワイトバランスについて
- [AWB] オートホワイトバランス
- [ ] マニュアルホワイトバランス 応用
- [K] 色温度

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、または［AWBW］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。
かんたん撮影ゾーンのときは、［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます。（〈🍴〉モードのときは［AWBW］（ホワイト優先））

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2. ホワイトバランスの項目を選ぶ

- 〈M-Fn〉ボタンを押して、ホワイトバランスの項目を選びます。

3. ホワイトバランスを選ぶ

- 〈 〉を回して選びます。

参考

- [AWB]/[AWBW]の設定方法については、[AWB] オートホワイトバランスを参照してください。
- 色温度を任意設定するときは、[: **ホワイトバランス**]で[K]を選び、〈 〉を回して設定します。
- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押して動画撮影をしているあいだは、ホワイトバランスの設定を変更できません。
- 動画の画像情報（Exif情報）には、動画撮影を開始した時点のホワイトバランス設定値が記録されます。

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先）	3000～7000
AWBW	オート（ホワイト優先）	
☀	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	自動設定*
	マニュアル	2000～10000
K	色温度	2500～10000

＊色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

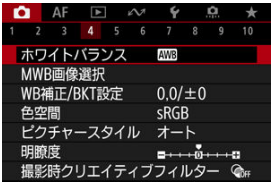
ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。カメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

[AWB] オートホワイトバランス

[AWB]（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった画像になります。
[AWBW]（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない画像にすることができます。

1. [📷：ホワイトバランス]を選ぶ



2. [AWB]を選ぶ

- [AWB]を選んだ状態で〈⊞〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ

注意

[AWBW]（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない画像にならないことがあります。
- ストロボ使用時は［AWB］（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

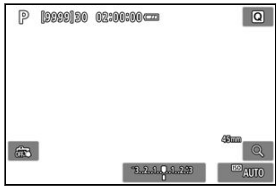
[ ] マニュアルホワイトバランス

応用

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

カード内の画像から登録する場合

1. **白い被写体を撮影する**

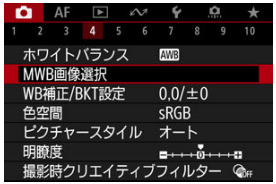


- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（ ）に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、多重露出画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像、クリエイティブフィルター画像、RAWバースト画像は、選択できません。

2. **［ : MWB画像選択］を選ぶ**



3. ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を〈 〉を回して選び、〈 〉ボタンを押します。
- ［**OK**］を選ぶとデータが取り込まれます。

4. ［ : ホワイトバランス］を選ぶ

5. マニュアルWBを選ぶ

- ［ ］を選びます。

画像を撮影して登録する場合

1. **〈Q〉ボタンを押す**

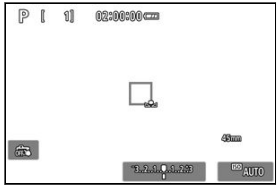
2. **ホワイトバランスの項目を選ぶ**

- 〈▲〉〈▼〉を押して選びます。

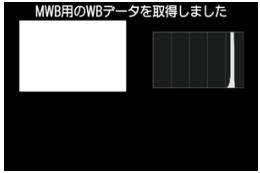
3. **[画像を撮影して登録]を選ぶ**

- 〈 〉を回すか、〈◀〉〈▶〉を押して[ ]を選び、〈 〉ボタンを押します。

4. 白い被写体を撮影する



- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（）に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- カメラにMWBデータが登録されます。



注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

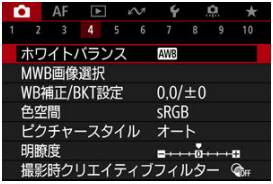
参考

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

[K] 色温度

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1. **[📷：ホワイトバランス]を選ぶ**



2. **色温度を設定する**

- [K]を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉ボタンを押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

参考

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を[K]に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

ホワイトバランスの補正

応用

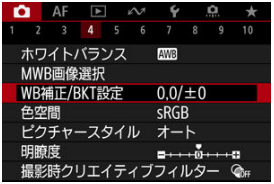
ホワイトバランス補正

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

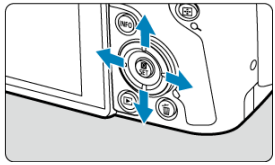
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

ホワイトバランス補正

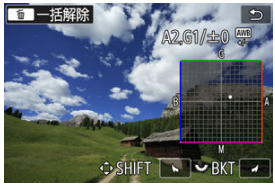
1. **［ : WB補正/BKT設定］を選ぶ**



2. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上に、補正方向と補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈㊗〉ボタンを押すと設定が終了します。

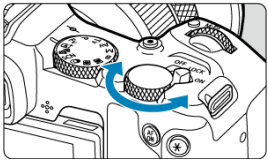
参考

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

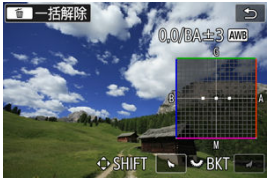
ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。

補正幅を設定する



- ホワイトバランス補正の手順2で〈〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。

B/A方向±3段のとき



- 画面右上に、ブラケティング方向と補正幅が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈〉ボタンを押すと設定が終了します。

注意

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

参考

- (1) 基準ホワイトバランス (2) ブルー（B）寄り (3) アンバー（A）寄り、または (1) 基準ホワイトバランス (2) マゼンタ（M）寄り (3) グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WBブラケティング時の記録順序（）と撮影枚数（）を変更することができます。
- 「**BKT**」はBracketing：ブラケティングの略です。

色空間

応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。
かんたん撮影ゾーンのときは、[**sRGB**]に自動設定されます。

1. **[: 色空間]を選ぶ**

2. **色空間を設定する**

- [**sRGB**]または[**Adobe RGB**]を選び、〈〉ボタンを押します。

Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0（Exif 2.21以上）対応プリンターなどの使用をおすすめします。

参考

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。

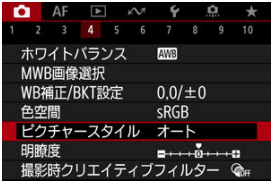
ピクチャースタイルの選択

応用

- 各スタイルの画像特性
- 記号の意味

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

1. **［ : ピクチャースタイル］を選ぶ**



2. **スタイルを選ぶ**

各スタイルの画像特性

- **オート**
  撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

  参考

  - ［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

- **スタンダード**
  鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

- **ポートレート**
  肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。
  設定内容と効果の［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

- **風景**
  青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

- **ディテール重視**
  被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

- **ニュートラル**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **忠実設定**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **モノクロ**
  白黒写真になります。

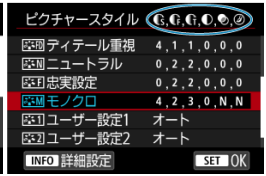
  注意

  - ［**モノクロ**］の設定で撮影したJPEG/HEIF画像を、カラー写真に戻すことはできません。

- **C1 ユーザー設定1～3**
  [**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（🔗）。登録されていないときは、[**オート**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[**シャープネス**] の [**強さ**] [**細かさ**] [**しきい値**] や、[**コントラスト**] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。



	シャープネス	
	強さ	
	細かさ	
	しきい値	
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

注意

- 動画撮影時、[**シャープネス**] の [**細かさ**] [**しきい値**] は、「*, *」と表示されます。また、動画撮影時は [**細かさ**] [**しきい値**] は設定できません。

ピクチャースタイルの調整

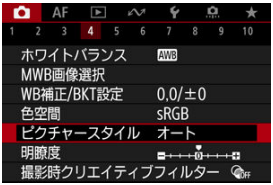
応用

☑ 設定内容と効果

☑ モノクロの調整

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。[**モノクロ**]の調整については、モノクロの調整を参照してください。

1. [: ピクチャースタイル] を選ぶ



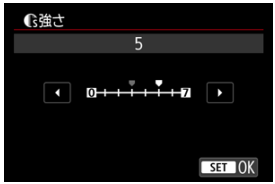
2. スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ

- 項目を選び、〈SET〉ボタンを押します。
- 設定内容と効果については、設定内容と効果を参照してください。

4. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、〈SET〉ボタンを押します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

参考

- 動画撮影時は［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

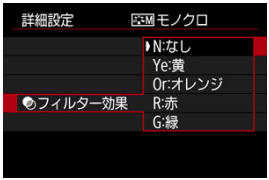
設定内容と効果

	シャープネス			
		強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
		細かさ*1	1：細かい	5：粗い
		しきい値*2	1：小さい	5：大きい
	コントラスト		−4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ		−4：薄い	+4：濃い
	色あい		−4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

＊1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。
＊2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

モノクロの調整

フィルター効果



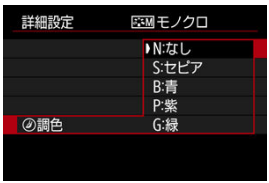
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

参考

- ［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



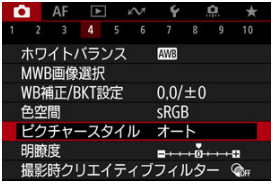
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

ピクチャースタイルの登録

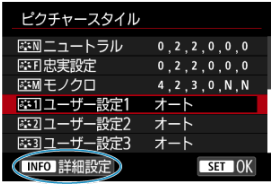
応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。
また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

1. **［ : ピクチャースタイル］を選ぶ**

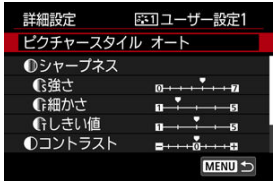


2. **［ユーザー設定］を選ぶ**



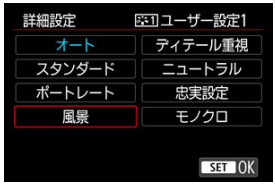
- ［**ユーザー設定***］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 〈㊗〉ボタンを押す



- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈㊗〉ボタンを押します。

4. 基本にするスタイルを選ぶ

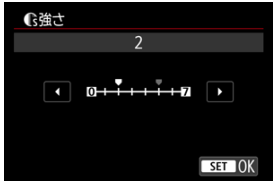


- 基本にするスタイルを選び、〈㊗〉ボタンを押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

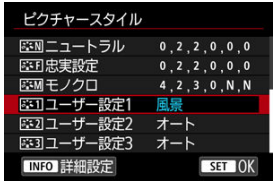
5. 項目を選ぶ

- 項目を選び、〈㊗〉ボタンを押します。

6. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、〈㊗〉ボタンを押します。
- 詳しくは、ピクチャースタイルの調整を参照してください。



- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- [**ユーザー設定***]の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- [**ユーザー設定***]に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

注意

- [**ユーザー設定***]にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [**：カメラの初期化**]で[**基本設定**]を選ぶと、[**ユーザー設定***]に設定したスタイルと内容が初期化されます。

参考

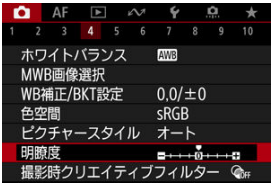
- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した[**ユーザー設定***]を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

明瞭度

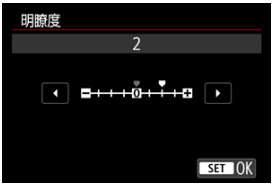
応用

画像エッジ部のコントラスト（明瞭度）を調整することができます。
マイナス側に設定するとソフトな印象になり、プラス側に設定するとくっきりした印象の画像になります。

1. **[📷：明瞭度]を選ぶ**



2. **効果の度合いを設定する**



注意

- 明瞭度を設定すると、明暗差が大きい場合に境界部の周辺が暗くなったり、または明るくなったりすることがあります。
- 設定内容は、静止画撮影時のモニター映像には反映されません。

撮影時クリエイティブフィルター

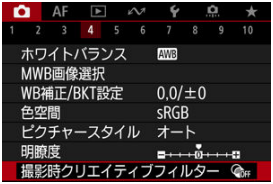
応用

- 撮影時クリエイティブフィルターを設定する
- 各撮影時クリエイティブフィルターの特徴

フィルター効果をつけた画像を撮影できます。保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。

撮影時クリエイティブフィルターを設定する

1. **［ : 撮影時クリエイティブフィルター］を選ぶ**



注意

- クリエイティブフィルターを設定したときは、ドライブモードを〈□L〉〈□H〉〈□〉に設定していても1枚撮影になります。

2. フィルター効果を選ぶ

- 〈 〉を回してフィルター効果（ ）を選びます。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。

注意

- ［**魚眼風**］または［**ジオラマ風**］が選択されたときは、AFタブの一部の項目が設定できなくなります。

3. フィルター効果を調整する

- 〈INFO〉ボタンを押します。
- 〈 〉を回してフィルター効果（ ）を調整します。

4. 撮影する

- フィルター効果がついた画像が撮影されます。

参考

- 動画撮影時は、設定できるフィルター効果が異なります（）。

各撮影時クリエイティブフィルターの特徴

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

- **魚眼風**
  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。
  また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。
  [**AF**：**AFエリア**]は[**1点AF**]になります。

- **油彩風**
  油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **水彩風**
  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**
  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合はジオラマ風の操作を参照してください。
  [**AF**：**AFエリア**]は[**1点AF**]になります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。

注意

- [**ラフモノクロ**]のときは、モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- [**ソフトフォーカス**]または[**ジオラマ風**]のときは、モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。

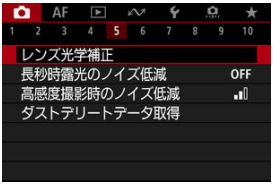
レンズ光学補正

応用

- 周辺光量補正
- 歪曲収差補正
- フォーカスブリージング補正
- デジタルレンズオプティマイザ
- 色収差補正
- 回折補正

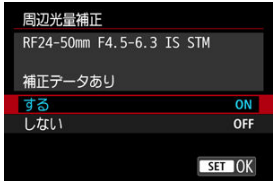
レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[📷：**レンズ光学補正**]の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

1. **[📷：レンズ光学補正]を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

3. **設定を選ぶ**



- 装着しているレンズの名称と、[**補正データあり**]が表示されていることを確認します。
- [**補正データなし**]や[ ]が表示されたときは、デジタルレンズオプティマイザを参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

注意

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

参考

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

注意

- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 画像の周辺部分がトリミングされる量は、静止画と動画で異なることがあります。

参考

- RFレンズ／RF-Sレンズ使用時は、動画撮影時に歪曲収差補正を行うことができます。

フォーカスブリージング補正

動画撮影中にピント位置が変わることにより起こる画角の変動を軽減することができます。［**歪曲収差補正**］が［**する**］のときに設定できるようになります。

注意

- 静止画撮影時は、［**フォーカスブリージング補正**］は表示されません。
- フォーカスブリージング補正により画角が狭くなります。その量は撮影条件によって異なります。
- フォーカスブリージング補正をすると、画像処理により解像感・ノイズ感が劣化する場合があるので、確認の上ご使用ください。
- レンズ側にある撮影距離範囲切り換えスイッチの位置に応じて最適な補正がかかります（この機能はMF時にも適用されます）。撮影距離範囲切り換えスイッチの設定範囲外の撮影距離の場合は、その分のフォーカスブリージング補正は適用されません。
- 動画記録中に撮影距離範囲切り換えスイッチを動かすと、画角が急に変わった動画が記録されます。
- 装着レンズや撮影条件によっては、補正残りが発生する場合があります。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください（）。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。
なお、[**デジタルレンズオプティマイザ**]で[**補正データなし**]や[ ]が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- [**強め**]設定時は、画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- [**強め**]設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。
- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、[**デジタルレンズオプティマイザ**]を[**しない**]に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[**デジタルレンズオプティマイザ**]は表示されません（補正できません）。
- デジタルレンズオプティマイザの効果は、撮影時の画面では確認できません。

参考

- [**デジタルレンズオプティマイザ**]を[**標準**]または[**強め**]に設定したときは、[**色収差補正**][**回折補正**]は表示されませんが、ともに[**する**]の設定で撮影されます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

参考

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**標準**］または［**強め**］に設定したときは、［**色収差補正**］は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[**回折補正**]は表示されません（補正できません）。
- 回折補正の効果は、撮影時の画面では確認できません。

参考

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- [**デジタルレンズオプティマイザ**]を[**標準**]または[**強め**]に設定したときは、[**回折補正**]は表示されません。

注意

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG/HEIF画像に、後からレンズ光学補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、[**補正データあり**]と表示されていても、[**しない**]に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

参考

各補正共通事項

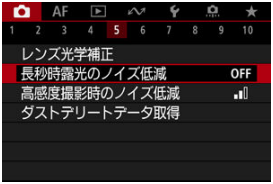
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正[**しない**]と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

長秒時露光のノイズ低減

応用

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. [📷：長秒時露光のノイズ低減]を選ぶ



2. 低減内容を設定する

- **自動**
  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

- **する**
  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

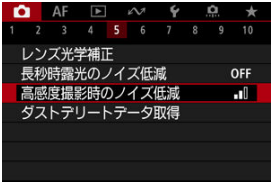
注意

- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- ［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ノイズ低減処理中は、［**BUSY**］が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

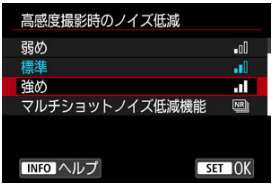
高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. **［📷：高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ**



2. **レベルを設定する**



- **弱め、標準、強め**
  設定の強さに応じて、ノイズ低減処理が行われます。

- **マルチショットノイズ低減機能**
  ［**強め**］よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。
  なお、記録画質がRAW、RAW＋JPEGに設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。

注意

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は［**BUSY**］が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- バルブ撮影、AEB撮影、WBブラケティング撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、多重露出、HDRモード、フォーカスBKT撮影、HDR PQ設定、クリエイティブフィルター撮影、RAWバーストモード時は、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は、［**AF**：**AF補助光の投光**］の設定に応じて投光されます。
- 動画撮影時は、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません（表示されません）。
- 記録画質をRAW、RAW＋JPEGに設定すると自動的に［**標準**］に切り換わります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換、撮影モードを〈**B**〉モードに変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に［**標準**］に切り換わります。

ダストデリートデータ取得

応用

事前準備

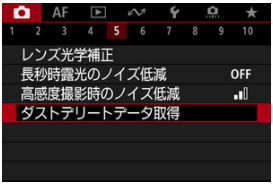
ダストデリートデータの付加

センサークリーニングでゴミが除去しきれなかった場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

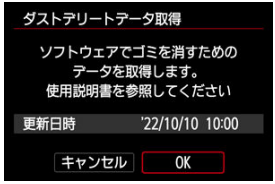
事前準備

- RFレンズ／EFレンズを使用する。
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（）に設定して、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

1. **［：ダストデリートデータ取得］を選ぶ**

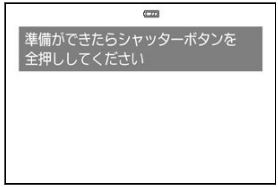


2. [OK] を選ぶ

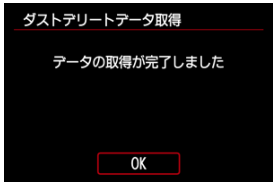


- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3. 真っ白な無地の被写体を撮影する



- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



- 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。事前準備の内容を確認し、［**OK**］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。
なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

注意

- RF-S/EF-Sレンズ使用時、および［📷：**静止画クロップ/アスペクト**］が［**1.6倍(クロップ)**］に設定されているときは、ダストデリートデータの取得はできません。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］にした場合、ダストデリートデータは付加されません。
- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

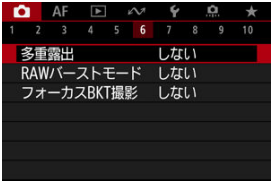
多重露出撮影

応用

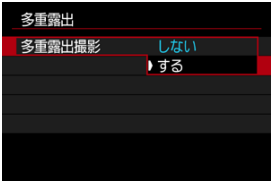
- カードに記録されているJPEG画像に重ね合わせる
- 撮影途中の画像確認と画像消去

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。

1. **［: 多重露出］を選ぶ**



2. **［多重露出撮影］を設定する**



- ［**する**］を選びます。

3. ［多重露出制御］を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び、〈㊗〉ボタンを押します。

- **加算**
  撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。［**重ねる枚数**］に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

  重ねる枚数と露出補正量の目安
  「2枚：−1段」「3枚：−1.5段」「4枚：−2段」

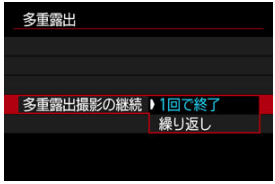
- **加算平均**
  ［**重ねる枚数**］に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較(明)／比較(暗)**
  ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

4. ［重ねる枚数］を設定する

- 枚数を選び〈㊗〉ボタンを押します。

5. ［多重露出撮影の継続］を設定する



- 内容を選び、〈SET〉ボタンを押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順2で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

6. 1枚目を撮影する

- 撮影した画像が表示されます。
- ［▣］が点滅します。
- 多重露出撮影の残り枚数は、画面に表示される（1）で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（🖉）。

7. 2枚目以降を撮影する

- そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈INFO〉ボタンを（何回か）押すと、映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。

参考

- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

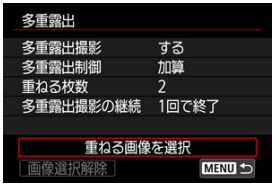
注意

- 多重露出撮影は、被写体や撮影条件により、ノイズ、色味の変化、縞などが目立つようになる場合があります。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換を行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影モードをかんたん撮影ゾーン、または〈C1〉〈C2〉〈🎥〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

カードに記録されているJPEG画像に重ね合わせる

カードに記録されているJPEG画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したJPEG画像はそのまま残ります。

1. ［重ねる画像を選択］を選ぶ



2. 1枚目の画像を選ぶ

- 〈 〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- ［**OK**］を選びます。
- 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3. 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。

注意

- 以下の画像は選択できません。
  - RAWおよびHEIF画像
  - RAWバースト画像から切り出したJPEG画像（）
  - 画像サイズがM/S1/S2のJPEG画像
  - ［：**静止画クロップ/アスペクト**］を［**フルサイズ**］［**1.6倍（クロップ）**］以外に設定した画像
  - 他のカメラで撮影した画像
- 重ね合わせに使用できない画像が表示されることがあります。

参考

- 多重露出撮影を行ったJPEG画像を選ぶこともできます。
- ［**画像選択解除**］を選ぶと、指定が解除されます。
- 色空間は、1枚目に指定した画像と同じ設定で撮影されます。

撮影途中の画像確認と画像消去

設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。
この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
前の画面に戻る	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	途中まで撮影した画像を多重露出画像として保存して終了します。
保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

注意

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

?こんなときは

- **記録画質に制限はありますか？**
  多重露出画像は［ ］のJPEG画像で記録されます。［ ：**記録画質**］がRAWのみの場合も、［ ］のJPEG画像で記録されます。

- **カードに記録されている画像に重ね合わせたい**
  ［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（ ）。カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

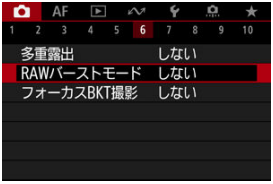
- **多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**
  多重露出撮影中にオートパワーオフは機能しません。なお、多重露出撮影を開始する前は［ ：**節電**］の［**オートパワーオフ**］の設定時間で自動的に電源が切れ、多重露出の設定は解除されます。

RAWバーストモード

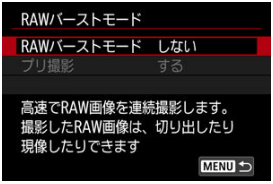
応用

RAW画像を高速で連続撮影することができます。撮影した画像から（一瞬のシャッターチャンスを捉えた）ベストショットを選びたいときに有効です。撮影した画像は、1まとまりのファイル（ロール）として記録されます。
ロールから任意の画像を切り出して、保存することができます（🖉）。

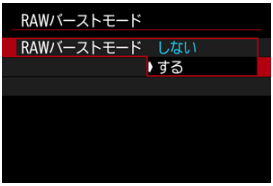
1. **[📷 : RAWバーストモード] を選ぶ**



2. **[RAWバーストモード] を設定する**

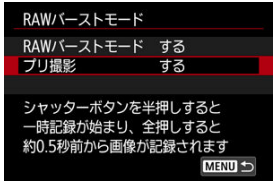


3. **[する] を選ぶ**

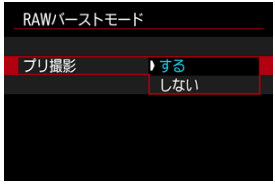


- [**する**] を選ぶと撮影時に [RAW] が表示されます。

4. ［プリ撮影］を選ぶ



5. 内容を設定する



- ［**する**］を選んだときは、シャッターボタンを半押しし、一旦その状態を保持してからシャッターボタンを全押しすると、全押しする少し前（最大約0.5秒前）から記録されます。撮影時には［ON］が表示されます。
- ［**しない**］を選んだときは、シャッターボタンを全押ししたときから記録されます。撮影時には［OFF］が表示されます。

6. 撮影する

- 画面に表示されるインジケーターは、内蔵メモリーの状態を表しています。状態に応じて色が変わります。撮影中は緑色、内蔵メモリーがいっぱいになり記録ができない状態は赤色、それ以外は白色で表示されます。
- シャッターボタンを全押しすると、内蔵メモリーがいっぱいになるまで、またはシャッターボタンを離すまで連続撮影されます。

注意

- 4GB以上の空き容量のあるカードを使用してください。
- バッテリー残量が少ない状態で、書き込み速度が遅いカードを使用して、RAWバースト撮影を行ったときに、書き込み処理中にバッテリーが切れると、撮影した画像が正常に記録されないことがあります。
- シャッターボタンを半押しすると、画像が一瞬止まります。
- カメラを動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、画像がゆがんで撮影されることがあります。
- 〈**P**〉 〈**Tv**〉 〈**Av**〉モードのときは、ISOオートで撮影されます。
- 〈**Fv**〉 〈**Tv**〉 〈**M**〉モードのときは、1/30秒よりも遅いシャッタースピードは設定できません。
- 2400万画素（6000×4000）で撮影されます。
- 電子シャッターで撮影が行われます。撮影を行う前に、『シャッター方式』（）の確認をおすすめします。
- ロール内の画像をパソコンで見るときは、切り出しを行うか、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalを使用してください。
- カメラとパソコンを接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、［：**RAWバーストモード**］を［**しない**］に設定してください。［**する**］を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- 暗いシーンでは、連続撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- RAWバーストモードでは、開放絞り数値が変化するズームレンズを使用して、半押しおよび全押し中にズーム操作を行うと、絞り数値が変化します。そのため、〈**M**〉モードのときは、露出を一定に保つため、ISOオートで撮影することをおすすめします。
- RAWバーストモードでは、開放絞り数値が変化しないズームレンズでも、半押しおよび全押し中にズーム操作を行うと、一部のレンズでは露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください（）。
- RAWバースト撮影を行うときは、撮影条件、カードの種類、連続撮影した枚数によっては、次の撮影までにしばらく時間がかかることがあります。書き込み速度が速いカードを使用すると、書き込みが完了するまでの時間が短くなります。

参考

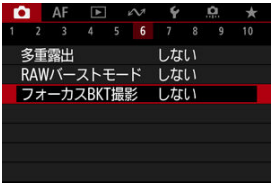
- 撮影したRAW画像は、1まとまりのファイル（ロール）として記録されます。拡張子は「.CR3」です。
- ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザは、1枚目を撮影した設定で撮影されます。
- 撮影中に電子音は鳴りません。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、［：**RAWバーストモード**］が［**しない**］になります。

フォーカスBKT撮影

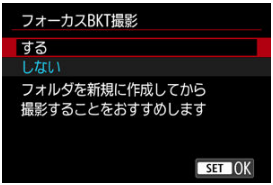
応用

フォーカスBKT*1撮影は、1回のレリーズで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。また、深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用して画像を合成することもできます。
*1 「BKT」はBracketing（ブラケティング）の略です。

1. **［📷：フォーカスBKT撮影］を選ぶ**



2. **［フォーカスBKT撮影］を設定する**



- ［**する**］を選びます。

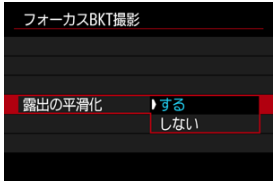
3. ［撮影回数］を設定する

- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- ［**2**］～［**999**］回の範囲で設定することができます。

4. ［ステップ幅］を設定する

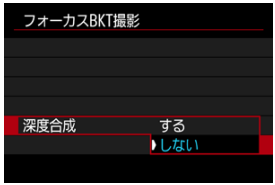
- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。
  なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈(SET)〉ボタンを押します。

5. ［露出の平滑化］を設定する



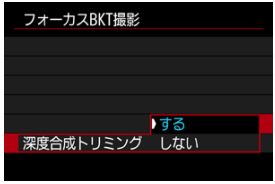
- ［**する**］を選んだときは、カメラに表示される絞り数値と、ピント位置により変化する実際の絞り数値（実効FNo.）との差を調整して、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を抑えることができます。
- ［**しない**］を選んだときは、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を補正しません。撮影した画像をDigital Photo Professional（）での深度合成以外に利用するなど、用途に合わせて選択してください。

6. ［深度合成］を設定する



- ［**する**］を選択すると、カメラで深度合成を行います。深度合成された画像と、撮影した画像が保存されます。
- ［**しない**］を選択すると、深度合成を行ないません。撮影した画像だけ保存されます。

7. ［深度合成トリミング］を設定する



- ［**する**］を選択すると、合成処理の画像位置合わせ時に画角が不足していたときに、不足した画角をカットするように画像をクロップし、合成します。
- ［**しない**］を選択すると、画像をクロップせずに合成します。

8. 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の［🖿］をタッチし、［**OK**］を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。

注意

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください（🔗）。
- 適切な［**ステップ幅**］は被写体により異なります。［**ステップ幅**］が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行って［**ステップ幅**］の目安を確認しておくことをおすすめします。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすることで緩和されることがあります。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（🔗）に設定しているときは、フォーカスブラケット機能は使用できません。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。
- フォーカスブラケット撮影時は、シャッタースピードの上限が1/8000に設定されます。
- 深度合成処理中にカード／バッテリー収納部ふたを開けたり、電池残量がなくなったりすると、合成処理がキャンセルされます。キャンセル時は合成画像は保存されません。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調な画像は、深度合成に失敗することがあります。
- 複数枚の画像を撮影する際、ピント合わせは手前から奥へ向かって順に行ってください。
- 複数枚の画像を撮影する際に、ピントの移動幅を大きくしすぎると、深度合成した画像にムラが発生したり、合成が失敗したりすることがあります。
- 深度合成は、静止した被写体の画像の合成を前提としています。そのため、動いている被写体を撮影した画像では、上手く合成できないことがあります。
- 画像内に複数の被写体がある場合、被写体間の距離が離れているなど、被写体の配置状態によっては深度合成が失敗することがあります。
- 深度合成処理中に〈INFO〉ボタンを押すと、合成をキャンセルすることができます。キャンセル時は、撮影した画像は全て保存されますが、合成画像は保存されません。
- 深度合成は、撮影した画像の中から最適な画像を選択して合成を行います。撮影した画像がすべて合成されるわけではありません。

参考

- 三脚、リモートスイッチ（別売／🔗）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／🔗）などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6～F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、［📷：**フォーカスBKT撮影**］が［**しない**］になります。

深度合成時の記録画質の設定と保存される画像

		素材画像（N枚）*1	合成画像（1枚）
記録画質	RAW（CRAW）のみ	RAW	JPEG/HEIF *2
	JPEG/HEIFのみ *3	JPEG/HEIF	JPEG/HEIF
	RAW（CRAW）+JPEG/HEIF *3	RAW（CRAW）+JPEG/HEIF	JPEG/HEIF

＊1 N：撮影した画像の枚数

＊2 RAW（CRAW）設定時の合成画像の画質はLになります。

＊3 記録画質にM/M/S1/S1/S2は設定できません。M/S1/S2設定時はL、M/S1設定時はLに設定が変更されます。

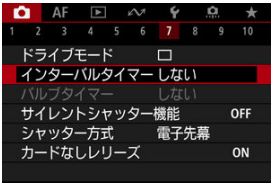
参考

- 合成画像は、JPEGまたはHEIFで保存されます。RAWの合成画像は作成されません。

インターバルタイマー撮影

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。

1. **［ : インターバルタイマー］を選ぶ**



2. **［する］を選ぶ**

- ［**する**］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

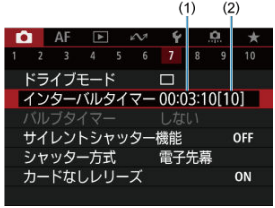
3. 撮影間隔、撮影回数を設定する

- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈(SET)〉ボタンを押して［⇕］の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉ボタンを押します（［□］の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**
  ［**00 : 00 : 01**］～［**99 : 59 : 59**］の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**
  ［**01**］～［**99**］の範囲で設定することができます。［**00**］に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。

4. ［OK］を選ぶ



- メニュー画面に設定した内容が表示されます。
  (1) 撮影間隔
  (2) 撮影回数

5. 撮影する

- 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、[TIMER]が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中は、[：**節電**]の[**オートパワーオフ**]が[**しない**]以外に設定されているときは、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。
- AEBやWBブラケティング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、[**しない**]に設定するか、電源スイッチを〈OFF〉にします。

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- フォーカスモードが〈AF〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。マニュアルフォーカスに設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッタースピードが撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときや、撮影モードを〈 〉〈**B**〉〈C1〉〈C2〉または〈SCN〉モードの〈 〉に変更したり、動画撮影へ切り換えたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utilityを使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が［**しない**］になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。

サイレントシャッター機能

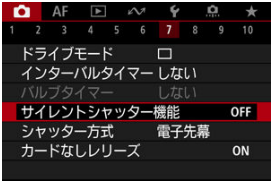
静

カメラのシャッター音や操作音とストロボなどの発光を禁止します。
以下の設定に固定されます。

- シャッター方式：[**電子シャッター**]
- シャッター音、合焦音：ヘッドフォンにのみ出力
- タッチ音、セルフタイマー音：鳴らない
- 長秒時露出のノイズ低減：[**しない**]
- ストロボの発光：[**しない**]
- AF補助光の投光：[**しない**]
- セルフタイマーランプ：点灯しない

フォーカスプリセット機能を備えたレンズを使用するときは、フォーカスプリセットの電子音をオフに設定することをおすすめします。

1. **[📷：サイレントシャッター機能]を選ぶ**



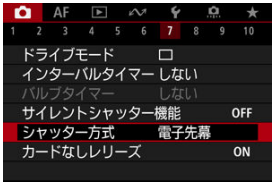
2. **[入]を選ぶ**

シャッター方式

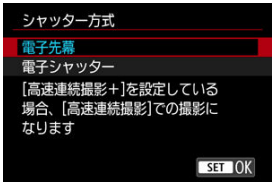
応用

シャッター方式を選ぶことができます。

1. [📷：シャッター方式] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **電子先幕**
  先幕シャッターが電子シャッター、後幕シャッターがメカシャッターで動作します。

- **電子シャッター**
  シャッター作動時の音や振動を電子先幕よりも抑えることができます。明るいレンズの絞りを開いて撮影するときに選ぶことをおすすめします。
  最高シャッタースピードを電子先幕よりも速く設定できます。

  - [📷：**ドライブモード**] を [□H] または [□L] に設定したときは、画面外周に白枠が表示されます。
  - シャッター作動時は電子音が鳴ります。なお、[🔦：**電子音**] で電子音を切ることができます。

注意

- 高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、撮影条件によりボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
  - ［**電子シャッター**］で撮影する
  - シャッタースピードを遅くする
  - 絞り数値を大きくする
- ［📷：**サイレントシャッター機能**］を［**入**］に設定しているとき、シャッター方式は［**電子シャッター**］になります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、レンズによっては、F値が一定でも露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください（🔗）。

［電子先幕］設定時の注意事項

- ［📷：**ドライブモード**］を［□↯］に設定しても、［□ᴴ］での撮影になります。

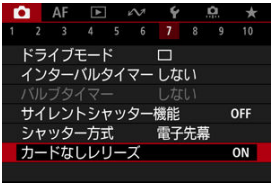
［電子シャッター］設定時の注意事項

- 撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。
- 〈**P**〉モード（プログラムAE）、〈**Tv**〉モード（シャッター優先AE）、〈**Fv**〉モード（フレキシブルAE撮影）で絞り数値が変化する場合は、適正露出で撮影されないことがあります。
- 使用するレンズや撮影条件により、レンズのフォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- フリッカー光源下では、ファインダーやモニターに縞が見えることがあります。

カードなしレリーズ

カードを入れ忘れた状態で、撮影できないようにすることができます。初期状態では［**する**］に設定されています。

1. **［ : カードなしレリーズ］を選ぶ**

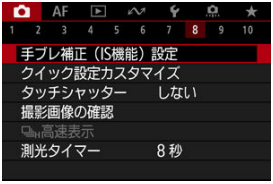


2. **［しない］を選ぶ**

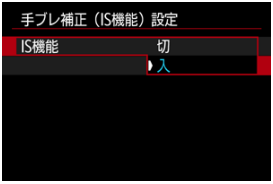
手ブレ補正（IS機能）設定

レンズの手ブレ補正機能（IS機能）を使用して、撮影時の手ブレを低減することができます。手ブレ補正スイッチのないIS機能搭載レンズを使用するときは、下記の手順で［**IS機能**］を［**入**］にすると、レンズのIS機能が作動します。なお、手ブレ補正スイッチのあるIS機能搭載レンズでは、［**IS機能**］の項目は表示されません。レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、レンズのIS機能による手ブレ補正が行われます。

1. **［: 手ブレ補正（IS機能）設定］を選ぶ**



2. **［IS機能］の項目を選ぶ**



- **切**
  手ブレ補正は行われません。
- **入**
  手ブレ補正が行われます。

注意

- レンズの種類によっては、十分な手ブレ補正効果が得られないことがあります。

参考

- 動画撮影時の手ブレ補正については、動画電子ISを参照してください。

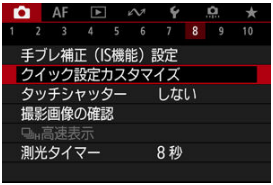
クイック設定カスタマイズ

応用

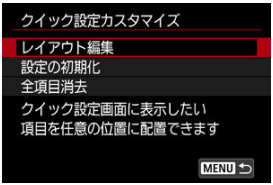
クイック設定画面の初期化／全項目消去

クイック設定で表示する項目や並び順のカスタマイズができます。

1. **［：クイック設定カスタマイズ］を選ぶ**



2. **［レイアウト編集］を選ぶ**



3. 削除する項目を選ぶ

- 〈 〉〈 〉または〈 〉を操作して削除する項目を選び、〈 〉ボタンを押します。
- クイック設定に表示されている項目にはチェックが付いています。チェックが付いた項目が削除対象です。

4. 追加する項目を選ぶ

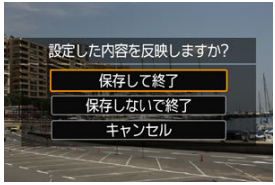
- 〈 〉〈 〉または〈 〉を操作して追加する項目を選び、〈 〉ボタンを押します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと並び順を変更することができます。

5. 並び順を変更する

- 〈 〉を操作して並び順を変更する項目を選び、〈 〉ボタンを押します。

- 〈 〉を操作して並び順を変更し、〈 〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと設定が終了します。

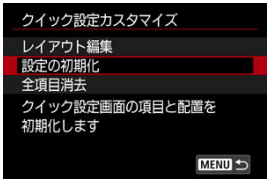
6. [保存して終了]を選ぶ



7. 確認する

- 〈㊗〉ボタンを押して設定した内容を確認します。

クイック設定画面の初期化／全項目消去



- ［**設定の初期化**］を選ぶと、クイック設定画面の項目と配置が初期状態に戻ります。
- ［**全項目消去**］を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、〈㊗〉ボタンを押してもクイック設定画面が表示されなくなります。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1. タッチシャッター機能を設定する

- 画面の［OFF］にタッチします。
- タッチするたびに、［OFF］と［］が切り換わります。
- ［］（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- ［OFF］（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

2. 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されているAFエリアで、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- [ ]に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

注意

- ドライブモードを[ ][ ][ ]に設定していても、1枚撮影になります。
- [**AF**：**AF動作**]が[**サーボAF**]に設定されていても、画面にタッチしたときは[**ワンショットAF**]でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- [：**撮影画像の確認**]で[**撮影画像の確認時間**]を[**ホールド**]に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しするか、[ ]にタッチすると、次の撮影を行うことができます。

参考

- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

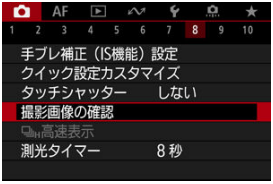
撮影画像の確認

- 撮影画像の確認時間
- ファインダー内表示

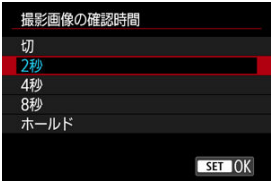
撮影画像の確認時間

撮影直後に、撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1. **［ : 撮影画像の確認］を選ぶ**



2. **［撮影画像の確認時間］を選ぶ**



3. **時間を設定する**

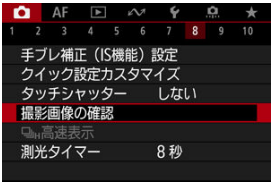
参考

- ［**ホールド**］に設定すると、［**：節電**］の［**モニターオフ**］で設定した時間まで画像が表示されます。

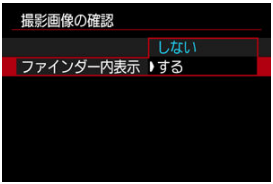
ファインダー内表示

撮影直後に、ファインダー内に撮影画像を表示する場合は［**する**］に設定します。

1. **［ : 撮影画像の確認］を選ぶ**



2. **［ファインダー内表示］を選ぶ**



3. **項目を選ぶ**

参考

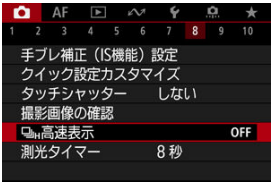
- ［**ファインダー内表示**］の設定は、［**撮影画像の確認時間**］が［**切**］以外のときに機能します。

高速表示

応用

電子シャッター以外のシャッター方式で、ドライブモードを［□］［□H］で撮影するときに、撮影結果と映像を交互に表示する「高速表示」を選ぶことができます。

1. **［📷：□H高速表示］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

- ［**する**］を選ぶと、撮影中に撮影結果と映像を交互に表示します。

注意

- 高速表示中は、像のゆれやちらつきが発生します。特に速いシャッタースピードでの撮影で発生しやすくなります。ただし、撮影結果への影響はありません。
- シャッタースピードが1/30秒より遅いとき、絞り数値がF11よりも大きいとき、AFでピントが合いにくいとき、ストロボ撮影時、高ISO感度時は高速表示は行われません。また、撮影中に高速表示が行われなくなることがあります。
- 以下の場合、高速表示は設定できません。
  - ［📷：**OVFビューアシスト**］が［**入**］のとき
  - ［📷：**表示Simulation**］が［**しない**］または［**絞り込み中のみ露出**］のとき

測光タイマー

応用

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。

1. **［📷：測光タイマー］を選ぶ**

2. **時間を設定する**

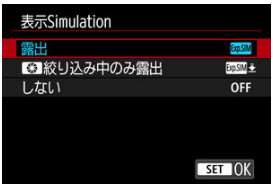
表示Simulation

応用

表示Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさや、被写界深度をシミュレートして映像を表示する機能です。

1. **［ : 表示Simulation］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



- **露出+絞り（Exp.SIM）**
  実際の撮影結果（露出）に近い明るさと被写界深度で表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。また、絞り値を変えると被写界深度が変わります。

- **露出（Exp.SIM）**
  実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **絞り込み中のみ露出（Exp.SIM）**
  通常は、映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。絞り込みボタンを押している間は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示され、被写界深度を確認することができます。

● **しない（OFF）**
映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

注意

［露出+絞り］について

- シャッタースピードの状態によっては、フリッカーが発生することがあります。
- EFレンズを使用しているときは、レリーズタイムラグが長くなることがあります。
- 表示される被写界深度は目安です。被写界深度をより正確に確認したいときは、絞り込みボタンを押してください。
- レンズによっては、［**露出+絞り**］の設定ができません。
- 露出、絞り込みの両方、またはいずれかのシミュレーションが行われていないときは、［SIM］が点滅します。
- 露出、絞り込みの両方、またはいずれかのシミュレーションが停止しているときは、［SIM］がグレーで表示されます。

［しない］について

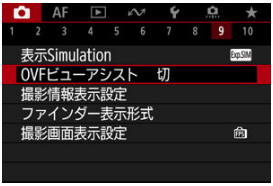
- ドライブモードによっては、シミュレートされた映像が連写中に表示されることがあります。

OVFビューアシスト

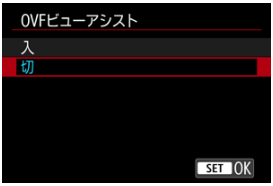
応用

静止画撮影時のファインダーまたはモニターの表示を、光学ファインダーのように自然な見え方の画像にすることができます。［**入**］のときは、表示される画像と撮影結果が異なる場合があります。

1. **［📷：OVFビューアシスト］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**



注意

- ［**入**］に設定すると、［📷：**表示Simulation**］は［**しない**］になります。
- ［**入**］に設定してHDR撮影を行うときは、OVFビューアシストの表示になります。
- ［**入**］に設定してクリエイティブフィルター撮影を行うときは、クリエイティブフィルターの表示になります。
- ［**入**］に設定すると、ワンショットAF時のAFの前後で［**切**］設定時よりも映像の明るさが変わる現象が発生しやすくなります。
- 外部モニターに表示する場合、カメラのモニターや外部モニターの表示はOVFビューアシストの表示になりません。
- 設定画面によっては、OVFビューアシストで表示されない場合があります。
- 光学ファインダーでの見え方と異なる場合があります。
- ドライブモードとシャッター方式の組合せによっては、連写中に見え方が変わることがあります。

参考

- 多重露出撮影、RAWバーストモード時は設定できません。

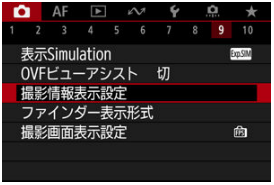
撮影情報表示設定

- モニター情報表示カスタマイズ
- ファインダー情報表示カスタマイズ
- ファインダー縦表示
- グリッド
- ヒストグラム
- レンズ情報表示設定
- 設定の初期化

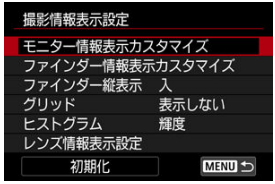
撮影時にモニターまたはファインダーに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。

モニター情報表示カスタマイズ

1. **［ : 撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. ［モニター情報表示カスタマイズ］を選ぶ



3. 画面を選ぶ

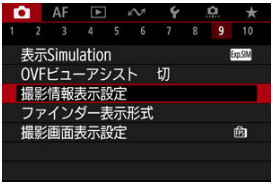
- 〈 〉を回してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈 〉ボタンを押して［✓］を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

4. 画面を編集する

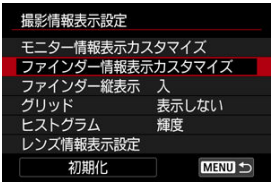
- 〈 〉を回してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈 〉ボタンを押して［✓］を外します。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。

ファインダー情報表示カスタマイズ

1. **［ : 撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［ファインダー情報表示カスタマイズ］を選ぶ**



3. **画面を選ぶ**

- 〈 〉を回してファインダーに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈 〉ボタンを押して［✓］を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

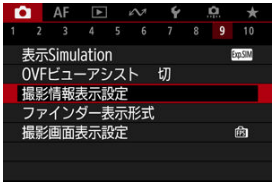
4. 画面を編集する

- 〈 〉を回してファインダーに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈SET〉ボタンを押して［✓］を外します。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。

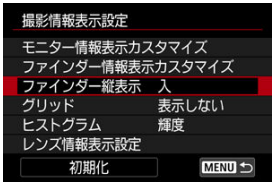
ファインダー縦表示

静止画を縦位置で撮影するときの、ファインダーの情報表示の状態を選ぶことができます。

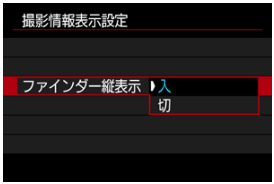
1. **［ : 撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［ファインダー縦表示］を選ぶ**



3. **項目を選ぶ**



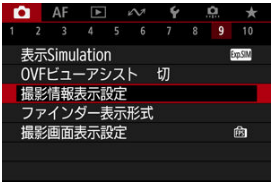
- **入**
  情報表示を自動回転して見やすく表示することができます。

- **切**
  情報表示の自動回転は行われません。

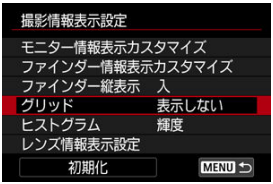
グリッド

モニターおよびファインダーにグリッドを表示することができます。

1. **[: 撮影情報表示設定] を選ぶ**



2. **[グリッド] を選ぶ**

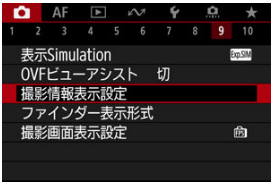


3. **項目を選ぶ**

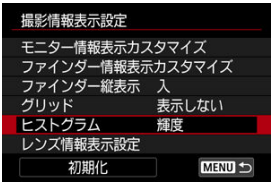
ヒストグラム

ヒストグラムの表示内容と表示サイズを選ぶことができます。

1. **[: 撮影情報表示設定] を選ぶ**



2. **[ヒストグラム] を選ぶ**



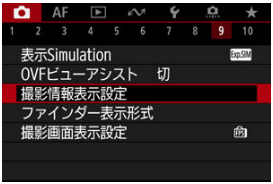
3. **項目を選ぶ**

- 表示内容（[**輝度**] または [**RGB**]）と表示サイズ（[**大きい**] または [**小さい**]）を選びます。

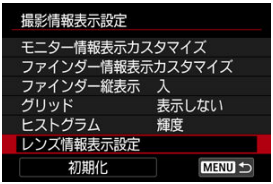
レンズ情報表示設定

使用しているレンズの情報を表示することができます。

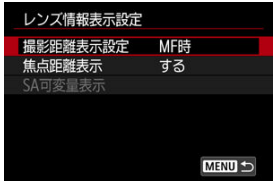
1. **[📷：撮影情報表示設定]を選ぶ**



2. **[レンズ情報表示設定]を選ぶ**



3. 項目を選ぶ



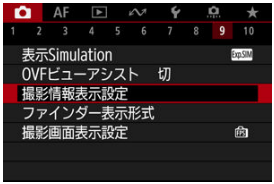
- **撮影距離表示設定**
  RFレンズを使用しているときに、撮影距離を表示することができます。
  撮影距離の表示は、タイミングと単位を選ぶことができます。

- **焦点距離表示**
  使用しているレンズの焦点距離を表示することができます。

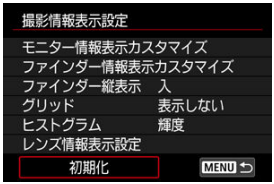
- **SA可変量表示**
  球面収差（SA）の可変機能を搭載したレンズを使用しているときに、
  設定した収差量を表示することができます。
  ＊SAはSpherical Aberration（球面収差）の略です。

設定の初期化

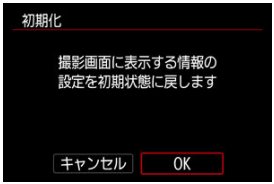
1. **[: 撮影情報表示設定] を選ぶ**



2. **[初期化] を選ぶ**



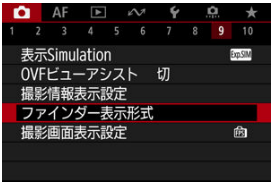
3. **[OK] を選ぶ**



ファインダー表示形式

ファインダー内の表示のしかたを選ぶことができます。

1. **［ : ファインダー表示形式］を選ぶ**

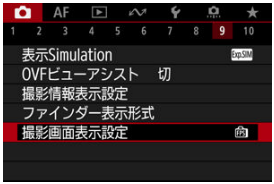


2. **項目を選ぶ**

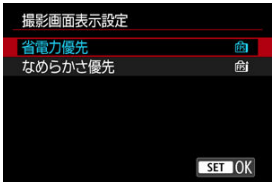
撮影画面表示設定

静止画撮影時の撮影画面表示で、優先する項目を選ぶことができます。

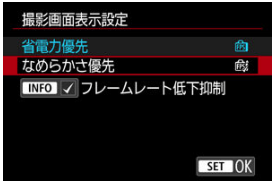
1. **［ : 撮影画面表示設定］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**



［なめらかさ優先］設定時



- 〈INFO〉ボタンを押してチェックを付けると、暗い場所でもフレームレートの低下を抑えた撮影画面を表示することができます。
- ［**なめらかさ優先**］設定時の最高フレームレート（119.88fps）での表示は、ファインダーでの撮影待機状態で行われます。

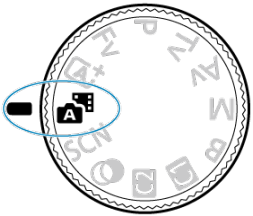
注意

- 撮影条件やカメラの操作によっては、［**なめらかさ優先**］に設定した場合でも、なめらかさ優先のフレームレートでの表示が行われない場合があります。
- ［**フレームレート低下抑制**］で撮影画面表示を行う場合、暗い場所で以下の現象が発生することがあります。
  - バッテリーが早く消耗する
  - 撮影可能枚数が少なくなる
  - 表示される画像の輝度が低くなる
  - AFが合いにくくなる
  - 測光の精度が低下する
  - フリッカー検知の精度が低下する
  - 被写体検出の精度が低下する

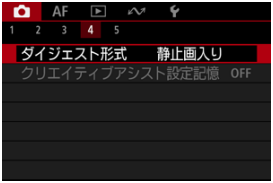
ダイジェスト形式

〈 〉モードで撮影すると、静止画とダイジェスト動画が記録されますが、ダイジェスト動画の中に静止状態の映像を記録するかどうかを設定できます。

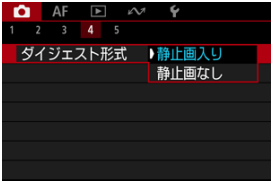
1. **モードダイヤルを〈 〉にする**



2. **[: ダイジェスト形式]を選ぶ**



3. 項目を選ぶ



- **静止画入り**
  ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像が記録されます。
  情報表示画面に［ ］が表示されます。

- **静止画なし**
  ダイジェスト動画の中に、静止状態の映像は記録されません。
  情報表示画面に［ ］が表示されます。

静止画撮影全般

- 情報表示について
- 静止画撮影全般の注意事項

情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、情報表示を参照してください。

参考

- [ExpSIM]が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- [ExpSIM]が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、表示シミュレーションが行われないことがあります。そのときは[ExpSIM]とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは［：**表示Simulation**］（）が［**しない**］または［**絞り込み中のみ露出**］設定時には表示されません。

静止画撮影全般の注意事項

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う白い［ ］の表示

- カメラ内部の温度が上昇すると、白い［ ］が表示されます。白い［ ］は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い［ ］が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［ ：**モニターの明るさ**］を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

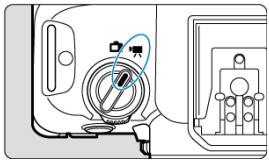
レンズについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

参考

- 映像の視野率は約100%（記録画質JPEG L設定時）です。
- カメラを操作しない状態が続くと、[：**節電**]の[**オートパワーオフ**]または[**ファインダーオフ**]の設定時間で自動的に画面が消えます。その後、[**オートパワーオフ**]の設定時間で自動的に電源が切れます（）。
- 市販のHDMIケーブルを使用すると、映像をテレビに表示することができます()。ただし、音声は出力されません。

動画撮影



動画撮影を行うときは、静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉にします。
タイトル右の 応用 は、[🎥] [🎥Tv] [🎥Av] [🎥M] 限定の機能であることを示しています。

注意

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。

参考

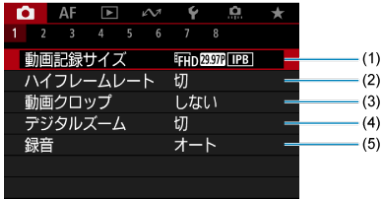
- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画を撮影することができます。

- メニュー目次：動画撮影
- 動画撮影
- 動画記録サイズ
- ハイフレームレート
- 動画クロップ撮影 応用
- デジタルズーム
- 録音
- Canon Log設定 応用
- プレ記録設定 応用
- タイムラプス動画
- 動画セルフタイマー
- 手ブレ補正（IS機能）設定
- 動画撮影時シャッターボタンの機能
- フォルスカラー設定 応用
- ゼブラ設定 応用
- 撮影情報表示設定
- タイムコード

- その他のメニュー機能
- 動画撮影全般の注意事項

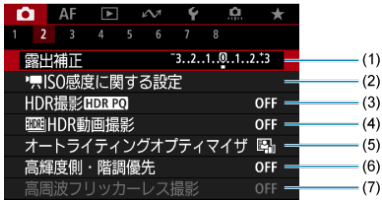
メニュー目次：動画撮影

- **撮影1**



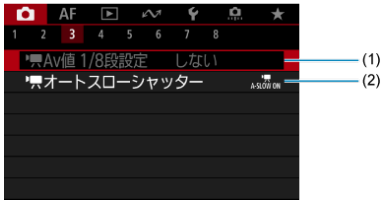
(1) 動画記録サイズ
(2) ハイフレームレート
(3) 動画クロップ 応用
(4) デジタルズーム
(5) 録音

- **撮影2**



(1) 露出補正 応用
(2) ISO感度に関する設定 応用
(3) HDR撮影 HDR PQ 応用
(4) HDR動画撮影
(5) オートライティングオプティマイザ 応用
(6) 高輝度側・階調優先 応用
(7) 高周波フリッカーレス撮影 応用

● **撮影3**



(1) Av値 1/8段設定 応用

(2) オートスローシャッター 応用

● **撮影4**

(1) ホワイトバランス 応用

(2) MWB画像選択 応用

(3) WB補正 応用

(4) ピクチャースタイル

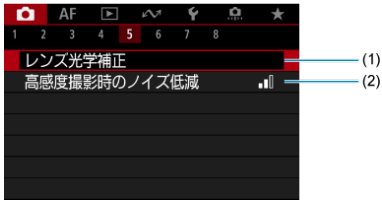
- ピクチャースタイルの選択 応用
- ピクチャースタイルの調整 応用
- ピクチャースタイルの登録 応用

(5) Canon Log設定 応用

(6) 明瞭度 応用

(7) 撮影時クリエイティブフィルター 応用

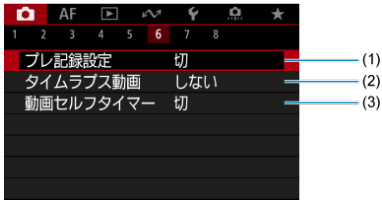
● **撮影5**



(1) レンズ光学補正 応用

(2) 高感度撮影時のノイズ低減 応用

● **撮影6**

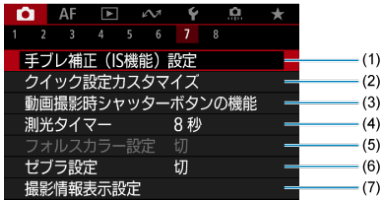


(1) プレ記録設定 応用

(2) タイムラプス動画

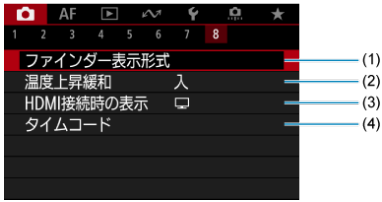
(3) 動画セルフタイマー

● 撮影7



(1) 手ブレ補正（IS機能）設定
(2) クイック設定カスタマイズ 応用
(3) 動画撮影時シャッターボタンの機能
(4) 測光タイマー 応用
(5) フォルスカラー設定 応用
(6) ゼブラ設定 応用
(7) 撮影情報表示設定

● 撮影8



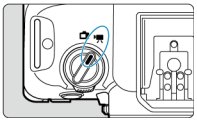
(1) ファインダー表示形式
(2) 温度上昇緩和
(3) HDMI接続時の表示
(4) タイムコード

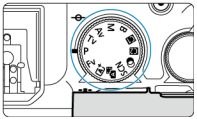
動画撮影

- 撮影モードを選ぶ
- 自動露出撮影
- シャッター優先AE撮影
- 絞り優先AE撮影
- シーン判別アイコン
- [ ] [ ] [ ] [ ] モード時のISO感度
- マニュアル露出撮影
- [ ] モード時のISO感度
- シャッタースピード
- クリエイティブフィルター
- HDR動画撮影
- 静止画撮影
- 動画撮影時の情報表示

撮影モードを選ぶ

静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉にし、モードダイヤルで撮影モードを選びます。





モードダイヤル	モード	動作
📷+	🎥📷+	カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。
🏞		
Fv	🎥	明るさに応じて自動露出制御が行われます。
P		
B		
Tv	🎥Tv	任意にシャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。
Av	🎥Av	任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。
M	🎥M	任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。
C1、C2	設定に従う	[**：カスタム撮影モード（C1, C2）**]の設定に従います。（初期設定は〈**P**〉）
🎨	🎥	フィルター効果を付けた動画を撮影することができます。
SCN	🎥	明暗差の大きいシーンで、白とびが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。

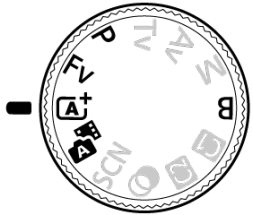
参考

- 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチが〈📷〉に設定されている状態でも動画撮影ができます。
  このとき、モードダイヤルが〈📷+〉〈🏞〉に設定されていると［🎥📷+］の動作となります。〈📷+〉〈🏞〉以外に設定されていると［🎥］の動作となります。

自動露出撮影

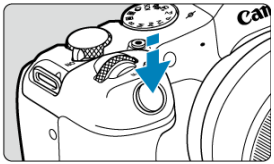
明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1. 撮影モードを［ ］または［ ］にする



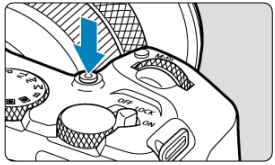
- モードダイヤルを回して〈 〉、〈 〉、〈**P**〉、〈**Fv**〉または〈**B**〉を選びます。

2. ピントを合わせる

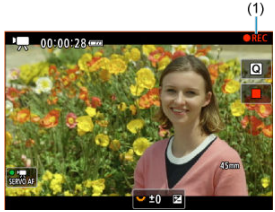


- 動画撮影を始める前に、AF（ ）または手動（ ）でピントを合わせます。
- 初期状態では、［**AF**：**動画サーボAF設定**］の［**動画サーボAF**］が［**する**］に設定されているため、常時ピント合わせが行われます（ ）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。

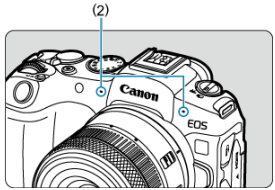
3. 動画を撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の［●］をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に［●**REC**］（1）が表示され、画面の周囲に赤枠が点滅して表示されます。

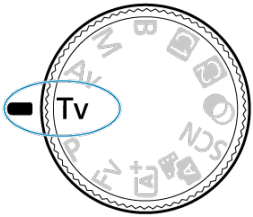


- 音声はマイク（2）で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の［■］をタッチしても、動画撮影が終了します。

シャッター優先AE撮影

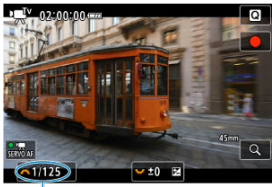
撮影モードを［Tv］に設定すると、任意にシャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 撮影モードを［Tv］にする



- モードダイヤルを回して〈**Tv**〉を選びます。

2. シャッタースピード（1）を設定する



(1)

- 画面を見ながら〈 〉を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

3. ピントを合わせて撮影する

- 自動露出撮影の手順2、3と同じです。

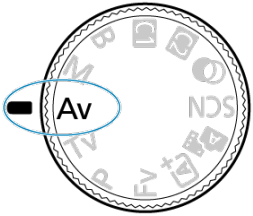
注意

- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

絞り優先AE撮影

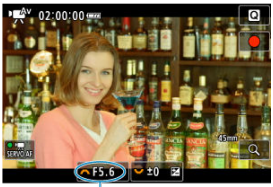
撮影モードを［］に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 撮影モードを［］にする



- モードダイヤルを回して〈**Av**〉を選びます。

2. 絞り数値（1）を設定する



- 画面を見ながら〈〉を回して設定します。

3. ピントを合わせて撮影する

- 自動露出撮影の手順2、3と同じです。

注意

- 動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

参考

[ ] [ ] [ ] [ ] モード共通事項

- 〈✳〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（[ ]モードを除く）。AEロックを行ったときは、再度〈✳〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます。
- 〈 〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（[ ]モードを除く）。
- [ ] [ ]モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、[ ] [ ] [ ] [ ]モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

シーン判別アイコン

撮影モードが［ ］のときは、カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、シーン判別アイコンを参照してください。

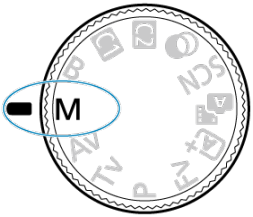
[ ] [ ] [ ] [ ] モード時のISO感度

ISO感度は自動設定されます。動画撮影時のISO感度を参照してください。

動画 M マニュアル露出撮影

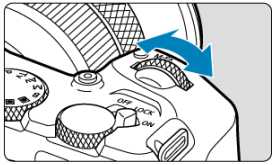
任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

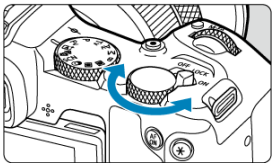
1. 撮影モードを［動画 M］にする



- モードダイヤルを回して〈**M**〉を選びます。

2. シャッタースピードと絞り数値、ISO感度を設定する





- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピード（1）は〈〉、絞り数値（2）は〈〉、ISO感度（3）はISO感度をタッチして設定します（）。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります（）。

3. ピントを合わせて撮影する

- 自動露出撮影の手順2、3と同じです。

注意

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

参考

- ISOオート設定時に、以下の方法で±3段までの範囲で露出補正を行うことができます
  - 露出レベル表示にタッチする
  - [📷：**露出補正**]
  - シャッターボタンを半押しした状態でコントロールリングを回す
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、再度〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（⊠）で確認することができます。

[ᵐᴹ] モード時のISO感度

ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。ISO感度については、動画撮影時のISO感度を参照してください。

シャッタースピード

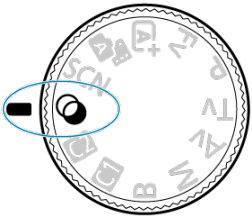
[Tv] [M] モード時に、設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録サイズのフレームレートによって異なります。

フレームレート	シャッタースピード（秒）			
	通常動画撮影	ハイフレームレート動画撮影	HDR動画撮影	高周波フリッカーレス撮影
179.8P	–	1/200～1/8000	–	1/202.8～1/8192.0
150.0P		1/160～1/8000		1/166.0～1/8192.0
119.9P		1/125～1/8000		1/120.3～1/8192.0
100.0P		1/100～1/8000		1/100.0～1/8192.0
59.94P	1/8～1/8000	–	–	1/50.0～1/8192.0
50.00P				
29.97P			[Tv] 1/60～1/8000 [M] 1/60～1/2000	
25.00P			[Tv] 1/50～1/8000 [M] 1/50～1/2000	
23.98P			–	

クリエイティブフィルター

〈◉〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果（5種類：ファンタジー／オールドムービー／メモリー／ダイナミックモノクローム／ジオラマ風動画）を付けて動画を撮影することができます。
記録サイズは、FHD 29.97P/FHD 23.98P（NTSC）、またはFHD 25.00P（PAL）に設定できます。

1. **モードダイヤルを〈◉〉にする**



2. **〈㊗〉ボタンを押す**

3. **[ ]を選ぶ**

- 〈 〉を回すか、〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈㊗〉ボタンを押します。

4. フィルター効果を選ぶ

- 〈 〉を回してフィルター効果（ ）を選び、〈 〉ボタンを押します。
- ジオラマ風動画のときは、ピントを合わせたい位置に、AFフレームを移動します。AFフレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させてAFフレームの位置に合わせます。

5. フィルター効果の強さを調整する

- 〈 〉ボタンを押して、〈 〉を選びます。
- 〈 〉を回してフィルター効果の強さを調整し、〈 〉ボタンを押します。
- ジオラマ風動画設定時は、再生時の速度（倍速）を選びます。

6. 撮影する

注意

- 拡大表示はできません。
- ヒストグラムは表示されません。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。

参考

- 応用撮影ゾーンのときは、[: **撮影時クリエイティブフィルター**] から設定することもできます（ ）。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ファンタジー**
  夢の中にいるような、幻想的でやわらかな雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺にモヤがかかったような動画になります。効果を調整することで、画面周辺のモヤがかかる範囲を変えることができます。

- **オールドムービー**
  映像の揺れや傷、明滅効果で古い映画のような雰囲気になります。画面の上下が黒くマスクされます。効果を調整することで、映像の揺れや傷の具合を変えることができます。

- **メモリー**
  遠い昔の記憶のような雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺の光量を落とした動画になります。効果を調整することで、画面全体の彩度や画面周辺の暗部の範囲を変えることができます。

- **ダイナミックモノクローム**
  黒と白の階調を際立たせ、力強い臨場感のある雰囲気になります。効果を調整することで、粒子のざらついた感じや白黒の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風動画**
  ジオラマ（ミニチュア模型）風の動画が撮影できます。再生時の速さを、選んでから撮影します。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合はジオラマ風の操作を参照してください。AFエリアは1点AFになります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。撮影中、AFフレーム、ジオラマ枠は表示されません。
  手順5で再生速度を、［**5倍速**］［**10倍速**］［**20倍速**］のいずれかに設定してから撮影します。

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5倍速	約12秒
10倍速	約6秒
20倍速	約3秒

注意

［］（ジオラマ風動画）について

- 音声は録音されません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- 再生時間が1秒未満のジオラマ風動画は編集できません（）。

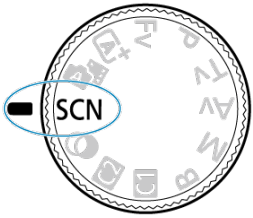
HDR動画撮影

明暗差の大きいシーンで、白とびが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。

参考

- FHD 29.97P IPB（NTSC）、またはFHD 25.00P IPB（PAL）で記録されます。

1. モードダイヤルを〈 SCN 〉にする



2. HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。
- 記録できる時間とファイルサイズについては、動画記録を参照しくてください。

注意

- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手持ち撮影のときは、手ブレにより、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。
- HDR動画撮影の設定を切り換えたときは、映像の色あいや明るさなどが瞬時に大きく変化することがあります。また、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。

参考

- [: **HDR動画撮影**] を [**する**] に設定することでもHDR動画を撮影できるようになります。

静止画撮影

動画撮影モードでは、静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了し、静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを〈📷〉に切り換えてから静止画撮影を行ってください。

動画撮影時の情報表示

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、情報表示を参照してください。

注意

- 動画撮影可能時間の表示は目安です。
- 動画撮影中に、カメラ内部の温度が上昇して、赤い［］が表示されたときは、撮影開始前に表示される動画撮影可能時間より前に撮影が終了することがあります（）。

動画記録サイズ

- 4K動画撮影
- 撮影範囲
- 動画が記録できるカード
- ファイルサイズが4GBを超える動画撮影
- 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安
- 撮影時間の制限

[📷：**動画記録サイズ**]で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。
なお、フレームレートは、[🎬：**ビデオ方式**]の設定（🔗）により、自動的に切り換わります。

画像サイズ		縦横比
4K	3840×2160	16 : 9
FHD	1920×1080	16 : 9

注意

- [🎬：**ビデオ方式**]の設定を変更したときは、[📷：**動画記録サイズ**]の再設定を行ってください。
- 4K動画、FHD 59.94P/50.00Pで撮影した動画、ハイフレームレート動画などは、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。

参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（）。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影

- 4K動画を撮影するには安定した高速書き込みが可能なカードが必要です。詳しくは、動画が記録できるカードを参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。**動画撮影時に白い［］または赤い［］が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。**
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、JPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（）。

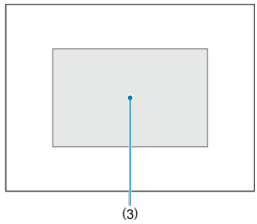
撮影範囲

動画記録サイズの設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、動画撮影範囲が変わります。

- RFレンズ／EFレンズ使用時：[📷：**動画クロップ**]を[**しない**]に設定時

(1) 4K（3840×2160）／4K（タイムラプス）／FHD（タイムラプス）
(2) FHD（1920×1080）

- RFレンズ／EFレンズ使用時：[📷：**動画クロップ**]を[**する**]に設定時
- RF-S/EF-Sレンズ使用時



(3) 4K（3840×2160）／4K（タイムラプス）／FHD（1920×1080）／FHD（タイムラプス）

注意

- RF-S/EF-Sレンズ使用時、および[📷：**動画クロップ**]を[**する**]設定時は、ハイフレームレート動画は、撮影できません。
- 動画電子IS機能設定時は（🔗）、画面の中央部分がさらにクロップされます。

フレームレート（fps : frames per second）

- **［119.88P］179.82fps／［119.9P］119.88fps／［59.94P］59.94fps／［29.97P］29.97fps**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。［179.8P］、［119.9P］については、ハイフレームレートを参照してください。

- **［150.0P］150.00fps／［100.0P］100.00fps／［50.00P］50.00fps／［25.00P］25.00fps**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。［150.0P］、［100.0P］については、ハイフレームレートを参照してください。

- **［23.98P］23.98fps**
  主に映画関連で使用します。23.98P（23.98fps）は、［：**ビデオ方式**］を［**NTSC**］に設定したときに選択できます。

圧縮方式

- **［IPB］IPB**（標準）
  複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

- **［IPB］IPB**（軽量）
  IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

動画記録形式

- **［MP4］MP4**
  このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

動画が記録できるカード

各動画記録サイズで記録できるカードの詳細は、要求カード性能（動画撮影）を参照してください。
なお、**事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ（）で正しく記録できることを確認してください。**

注意

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前に［：**カード初期化**］の［**物理フォーマット**］でカードを初期化してください（）。
- FAT32形式でフォーマットしたカードでは、フレームレートが179.82fps／150.00fpsの動画は記録できません。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

- **このカメラで初期化した「SDHCカード」使用時**
  SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。
  FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。
  なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

- **このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時**
  SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。
  exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください（）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録を参照してください。

撮影時間の制限

- **ハイフレームレート以外の動画撮影時**
  1回に撮影できる時間は最長2時間です。2時間に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

- **ハイフレームレート動画撮影時**
  1回に撮影できる時間は以下の通りです。
  - 119.88/100.00fps設定時：最長30分
  - 179.82/150.00fps設定時：最長20分

  上記の時間に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

注意

- 動画の再生を長時間行ったり、ライブビュー状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

ハイフレームレート

179.82/150.00/119.88/100.00fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。

- FHD 179.8P IPB、FHD 150.0P IPB、FHD 119.9P IPBまたはFHD 100.0P IPBで記録されます。
- ハイフレームレート動画に音声は記録されません。
- 動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で以下のようにカウントアップします。
  - 119.88/100.00fps設定時：4秒分
  - 179.82/150.00fps設定時：6秒分
- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は以下のように再生されます。
  - 119.88/100.00fps設定時：1/4倍速のスローモーション
  - 179.82/150.00fps設定時：1/6倍速のスローモーション

注意

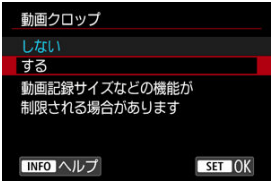
[ハイフレームレート：入] 設定時の注意事項

- [📷：**タイムコード**]の[**カウントアップ**]を[**フリーラン**]に設定したときは(⎚)、タイムコードは記録されません。
- 設定を[**切**]に戻したときは、[📷：**動画記録サイズ**]の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレームレート動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- ヘッドフォンは使用できません（音声は聞こえません）。
- HDMI出力映像のフレームレートは、59.94fpsまたは50.00fpsになります。
- 動画の再生を長時間行ったり、映像表示状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

動画クロップ撮影

RFレンズ、EFレンズ使用時に、撮影画面の中央部分をクロップした動画（望遠レンズで撮影したような動画）を撮影することができます。
なお、動画撮影時にRF-S/EF-Sレンズを使用したときは、動画クロップ撮影設定時と同等の撮影になります。

1. **［📷：動画クロップ］を選ぶ**



2. **［する］を選ぶ**

注意

- 動画クロップ撮影時は、ハイフレームレート動画の撮影はできません。
- ［📷：**手ブレ補正（IS機能）設定**］の［**動画電子IS**］を［**入**］［**強**］に設定したときは、撮影画面の中央部分がさらにクロップされます（撮影範囲が狭くなります）。

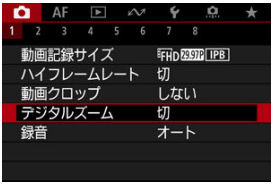
参考

- 動画クロップ撮影時の撮影範囲は、RF-S/EF-Sレンズ使用時と同等です。
- 撮影範囲については、撮影範囲を参照してください。

デジタルズーム

記録サイズが［FHD 29.97P］／［FHD 23.98P］（NTSC）、または［FHD 25.00P］（PAL）のときに、撮影画面の中央部を拡大することで、約1～10倍の望遠撮影ができます。

1. **［: デジタルズーム］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

- ［**入**］を選びます。

3. デジタルズームを使う

- 画面右下の［**W/T**］をタッチするか、［📷：**ボタン カスタマイズ**］で［**デジタルズーム**］を割り当てたボタンを押します。
- デジタルズームバーが表示されます。
- 〈▲〉を押すと望遠側、〈▼〉を押すと広角側にズームします。
- シャッターボタンを半押しすると、［**1点AF**］（中央固定）でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順2で［**切**］を選びます。

注意

- 手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- タイムラプス動画、クリエイティブフィルターは設定できません。
- 上限感度は ISO25600になります。
- 拡大表示はできません。
- 動画デジタルズームでは映像をデジタル処理するため、拡大するほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- シーン判別のアイコンは表示されません。
- ピントが合いにくい撮影条件も参照してください。
- カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能時間が短くなる場合があります。
- ［📷：**温度上昇緩和**］が［**切**］に固定されます（🔗）。

参考

- ［📷：**動画クロップ**］を［**する**］に設定したとき、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、倍率は約1.6~10倍になります。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用してデジタルズーム操作を行うこともできます（🔗）。

録音

- 録音／録音レベル
- ウィンドカット
- 音声ノイズ低減

内蔵のステレオマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。
［📷：**録音**］で録音に関する設定を行うことができます。

注意

- 内蔵マイク／外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、［📷：**録音**］の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

参考

- かんたん撮影ゾーンのときは［📷：**録音**］は［**する**］［**しない**］になります。なお、［**する**］に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（［**録音**：**しない**］設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左／右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

録音／録音レベル

● オート

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

● マニュアル

録音レベルを任意に調整することができます。［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈☜〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

● しない

録音は行われません。

ウィンドカット

［**オート**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

音声ノイズ低減

内蔵マイクでの録音時、AF動作時のレンズの作動音や、定常的なホワイトノイズを低減する機能です。

- **切**

  音声ノイズ低減が無効になります。

- **入**

  音声ノイズ低減が有効になります。

- **強**

  [**入**]設定時より、音声ノイズ低減の効果が大きくなります。

注意

- [**入**]設定時は、[**切**]設定時に比べ、音質が変わる場合があります。
- [**強**]設定時は、[**入**]設定時よりも音声ノイズ低減の効果は大きいですが、音質の変化も大きくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果はレンズによって異なります。
- ホワイトノイズの低減によって、一部のノイズに気づきやすくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果や音質の変化は、撮影条件および撮影環境によって異なるため、試し撮りによる事前確認をおすすめします。
- ヘッドフォンから出力される音声のノイズを低減するには、[**音声モニタリング**]( ) を設定してください。

Canon Log設定

応用

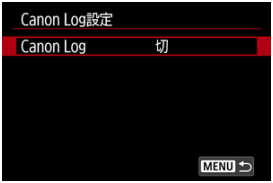
撮影機能の設定

Canon Logの画質

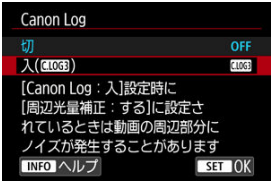
Canon Logは、撮像素子の特性を最大限に引き出し、動画記録時に広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。黒つぶれや白飛びが少なく、シャドウからハイライトまでの情報を映像に取り入れることができます。
なお、Canon Logで記録した映像は、ルックアップテーブル（LUT）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。LUTデータは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。

1. **［ : Canon Log設定］を選ぶ**

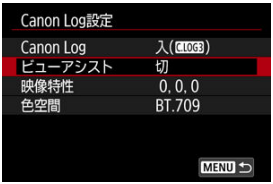
2. **［Canon Log］を選ぶ**



3. **[入(C.LOG3)] を選ぶ（）**

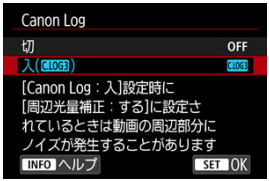


4. **各項目の内容を設定する**



- **ビューアシスト**（）
- **映像特性**（）
- **色空間**（）

Canon Log

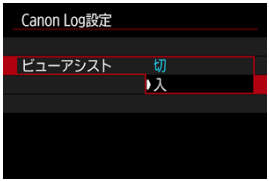


- **入(C.LOG3)**
  Canon Logで撮影した動画を10bitでカードに記録することができます。また、10bit記録に対応した外部記録機器にも記録することができます。

参考

- Canon Log映像は、カラーサンプリング（YCbCr 4:2:2（10bit））、色空間（Rec. ITU-R BT.709/ITU-R BT.2020/Cinema Gamut）で記録されます。

ビューアシスト



Canon Logは、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした映像特性のため、モニターに表示される映像は、ピクチャースタイル設定時に比べ、低コントラストでやや暗い映像になります。[**ビューアシスト**]を[**入**]に設定すると、モニターに表示される映像が見やすい特性で（ビューアシスト）表示され、ディテールなどを確認しやすくなります。

- [**入**]に設定しても、カードに記録される映像には影響しません（Canon Logの特性でカードに記録されます）。また、HDMI出力映像は、Canon Logの特性で出力されます（ビューアシストは行われません）。

参考

- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に［V.Assist］が表示されます。
- [**入**]設定時は、拡大表示を行ったときも、ビューアシスト表示が行われます。

映像特性

必要に応じて調整します。項目（[**シャープネス**：**強さ**]［**彩度**］［**色相**]）を選び、効果の度合いを設定し、〈㊗〉ボタンを押します。

シャープネス：強さ		0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
彩度		−4：低い	+4：高い
色相*	**赤色**	−4：マゼンタ寄り	+4：黄色寄り
	緑色	−4：黄色寄り	+4：シアン寄り
	青色	−4：シアン寄り	+4：マゼンタ寄り

＊赤色、緑色、青色を個別に調整することはできません。

色空間

カード記録時の色空間を、［**BT.709**］［**BT.2020**］［**Cinema Gamut**］から選ぶことができます。

- HDMI出力の色空間はHDMI接続機器に応じて以下のように変換されて出力されます。

カメラ色空間設定	**HDMI接続機器の対応色空間**	
	BT.2020対応	**BT.2020非対応**
BT.709	BT.709	BT.709
BT.2020	BT.2020	BT.709
Cinema Gamut	BT.2020	BT.709

- ISO感度をISO100～640に手動設定したときは、ダイナミックレンジが狭くなります。
- Canon Log設定時のダイナミックレンジは、ISO800以上で約1600%です。
- ISO100/125/160/200/250/320/400/500/640は、拡張感度です。ISO感度設定時に［L］と表示されます。

Canon Logの画質

- Canon Log設定時は、被写体条件や撮影条件により、映像に横縞状のノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像を確認してから撮影することをおすすめします。なお、撮影した映像をグレーディング処理する際、特にコントラストを強くすると、ノイズが顕著になることがありますので、ご注意ください。
- Canon Log設定時は、空や白壁などのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 横縞状のノイズは、「やや暗く平坦な被写体」を撮影したときに発生しやすくなります。なお、このノイズは、ISO800程度の比較的低い感度でも発生することがあります。
- ノイズが目立つときは、やや明るめに撮影を行い、グレーディング処理の際に明るさ調整を行うことをおすすめします。また、ISO800未満で撮影すると、ダイナミックレンジが狭くなりますが、ノイズを軽減できることがあります。

注意

Canon Log撮影時全般の注意事項

- 「Canon Log」「Canon Log 2」には対応していません。
- Canon Log撮影時は、通常の動画撮影時に比べ、低輝度下の被写体や、明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AFでピントが合いにくいことがあります。AFが合わない場合は、絞りを開放側に設定するか、明るいレンズを使用することでピントが合わせやすくなります。
- Canon Log設定時は、[📷：**レンズ光学補正**]の[**周辺光量補正**]を[**する**]に設定していると、映像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- [📷：**Canon Log設定**]の[**Canon Log**]を[**入(C-Log3)**]に設定したときのヒストグラムはビューアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。

参考

Canon Logで撮影した動画の再生について

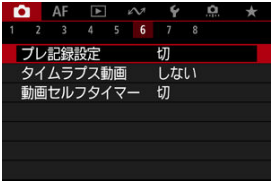
- 動画再生時にビューアシスト表示は行われません。

プレ記録設定

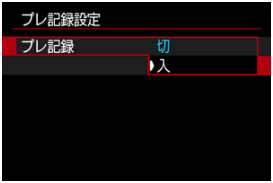
応用

プレ記録は、動画撮影を開始する直前から指定した時間だけさかのぼって記録できる機能です。
さかのぼって記録される動画部分を「プレ記録」といいます。プレ記録は動画撮影モード待機中に自動で行われます。

1. **[📷 : プレ記録設定] を選ぶ**



2. **[プレ記録] を選ぶ**



- ［**入**］を選びます。

3. ［記録時間］を選ぶ

- 動画撮影を開始する直前から、さかのぼって記録したい時間を選びます。

4. 動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。
- プレ記録部分の動画が付加されて記録されます。

注意

プレ記録中の制限事項

- 以下の項目は動画撮影画面に表示されません。
  - 水準器
  - ヒストグラム
  - クイック設定の一部（プレ記録中は機能が制限されます）
- タッチ音が鳴りません。
- 以下の状態または操作をするとプレ記録が一時停止します。停止中は動画撮影画面右上の［PRE❸／PRE❺］が点滅します。
  - レンズの取り付け／取り外し
  - HDMI接続
  - EOS Utilityを使用（USB接続時）
  - モードダイヤルを回す
  - カメラ電源のOFF/ON
  - カード／バッテリー収納部ふたの開閉
  - カメラのバッテリー残量が低下
  - カメラが高温状態
- ［📷：**温度上昇緩和**］が［**切**］に固定されます（🖉）。

参考

- 動画の画像情報（Exif情報）には、動画撮影を開始した時点の情報が記録されます。

タイムラプス動画

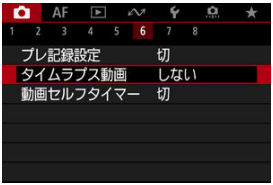
タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

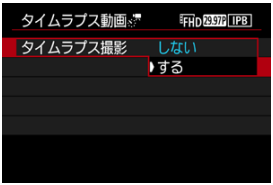
タイムラプス動画は、4K撮影時：4K 29.97P ALL-I（NTSC）／4K 25.00P ALL-I（PAL）、フルHD撮影時：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

なお、フレームレートは、[：**ビデオ方式**]の設定（）により自動的に切り換わります。

1. **[：タイムラプス動画]を選ぶ**

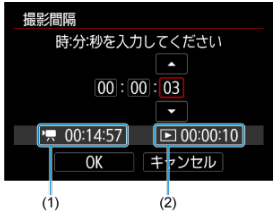


2. **[タイムラプス撮影]を選ぶ**



- [**する**]を選びます。

3. ［撮影間隔］を設定する



- ［**撮影間隔**］を選びます。
- ［］撮影所要時間（1）［］再生時間（2）を参考にして設定します。
- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈〉ボタンを押して［］の状態にします。
- 数値を設定し〈〉ボタンを押します（［］の状態に戻ります）。
- ［**00：00：02**］～［**99：59：59**］の範囲で設定することができます（1秒間隔の撮影はできません）。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。

4. ［撮影回数］を設定する

- ［**撮影回数**］を選びます。
- ［🎥］撮影所要時間［▶］再生時間を参考にして設定します。
- 項目（桁）を選びます。
- 〈㊗〉ボタンを押して［⏶］の状態にします。
- 数値を設定し〈㊗〉ボタンを押します（［□］の状態に戻ります）。
- ［**0002**］～［**3600**］の範囲で設定することができます。
- ［▶］再生時間が赤く表示されていないことを確認します。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。
- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、［▶］再生時間が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した［**撮影回数**］でファイルサイズが4GBを超えるときに、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは（🔗）、［▶］再生時間が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。

参考

- タイムラプス動画が記録できるカード（要求カード性能）については、要求カード性能（動画撮影）を参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

5. ［動画記録サイズ］を選ぶ

- **4K（3840×2160）**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

- **FHD（1920×1080）**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

6. ［自動露出］を設定する

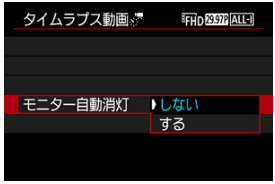
- **1枚目固定**
  1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

- **毎フレーム更新**
  2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、［**オート**］に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。

注意

- ［**撮影間隔**］が3秒以下で、［**自動露出**］が［**毎フレーム更新**］に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

7. ［モニター自動消灯］を設定する



- **しない**
  タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。

- **する**
  撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

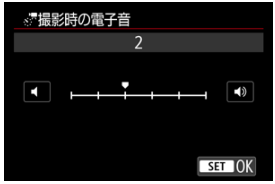
注意

- ［**モニター自動消灯**］を［**しない**］に設定しても、露光中はモニターが消灯します。また、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。

参考

- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

8. ［撮影時の電子音］を設定する



- ［**0**］に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

9. 設定内容を確認する

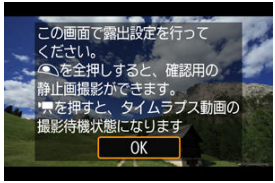
- **撮影所要時間（1）**
  撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

- **再生時間（2）**
  一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

10. メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

11. メッセージを確認する



- メッセージを確認して［**OK**］を選びます。

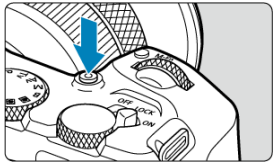
12. テスト撮影する

- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間（1）」「撮影間隔（2）」を再確認します。
- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

参考

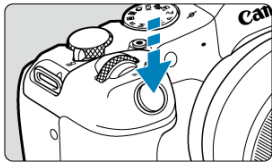
- テスト撮影画像は、JPEG Lの画質で記録されます。
- [M] モードのときは、1/4000～30秒の範囲でシャッタースピードを設定することができます。
- [ ] モード、および [M] モード+ISOオート設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、[: **ISO感度に関する設定**] の [**オートの上限**] で設定することができます（🔗）。
- [: **動画撮影時シャッターボタンの機能**] の [**半押し**] が、[**測光・動画サーボ**] に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に [**測光・ワンショット**] に切り換わります。

13. 動画撮影ボタンを押す



- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順12に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。

14. タイムラプス動画を撮影する



- **シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。**
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、「●」が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- **タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影]を[しない]に設定します。**

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順12のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- 映像の視野率は、4K／フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき［**再生時間**］は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは［ExpSIM］マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、［📷：**動画撮影時シャッターボタンの機能**］の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- ［**撮影間隔**］が3秒以下で、［**自動露出**］が［**毎フレーム更新**］に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、［📷：**タイムラプス動画**］を［**しない**］に設定してください。［**しない**］以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉などを行ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が［**しない**］になります。
- ストロボを使用しても発光しません。

- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が［**しない**］になります。
  - ［：**センサークリーニング**］の［**今すぐクリーニング**］［**カメラの初期化**］の［**基本設定**］を選んだとき
  - モードダイヤルを〈SCN〉〈〉〈〉〈〉にしたとき
- 白い［］または赤い［］（）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い［］または赤い［］が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- ［**自動露出**］を［**毎フレーム更新**］に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

参考

- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください（）。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態（手順13の状態）にしたあと、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即レリーズ（すぐに撮影）、または〈2〉2秒後レリーズ（2秒後撮影）に設定してください。
- リモコンのスイッチが〈〉に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

カメラの状態／リモコン設定	〈●〉すぐに撮影 〈2〉2秒後撮影	〈〉動画撮影
テスト撮影画面	テスト撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

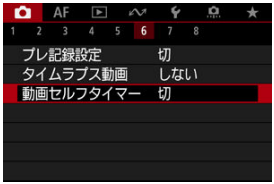
タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

タイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始からバッテリー切れまで）の目安については、動画記録を参照してください。

動画セルフタイマー

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。

1. **[📷：動画セルフタイマー]を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

3. **撮影する**

- 動画記録ボタンを押すか［●］にタッチすると、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

参考

- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、〈㊗〉ボタンを押します。

手ブレ補正（IS機能）設定

☑ 動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、「動画電子IS機能」で軽減することができます。手ブレ補正機能（IS機能）が搭載されていないレンズを使用したときでも、手ブレ補正効果が得られます。
なお、レンズに手ブレ補正スイッチがあるときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。

動画電子IS

1. **［ : 手ブレ補正（IS機能）設定］を選ぶ**

2. ［動画電子IS］の項目を選ぶ

- **切（OFF）**
  動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。

- **入（）**
  手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。

- **強（）**
  ［**入**］設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

注意

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなることがあります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は［**切**］に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、［**切**］に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

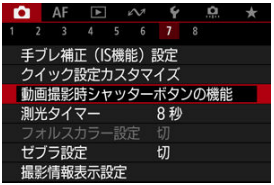
参考

- 手ブレ補正（IS機能）の設定については、手ブレ補正（IS機能）設定を参照してください。

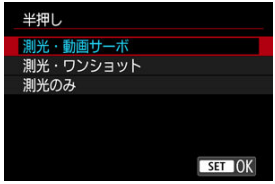
動画撮影時シャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

1. **［ : 動画撮影時シャッターボタンの機能］を選ぶ**

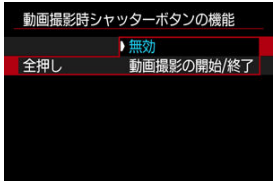


2. 項目を選ぶ



- **半押し**
  シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。

- **全押し**
  シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。



なお、［**全押し**］を［**動画撮影の開始/終了**］に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-60E3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます。

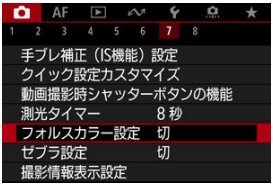
フォルスカラー設定

応用

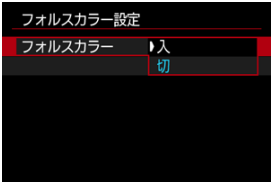
フォルスカラーの表示

動画撮影モード時に、輝度レベルに応じて6つの色を割り当てた映像をモニターに表示します。露出を調整するときに役立ちます。

1. **［ : フォルスカラー設定］を選ぶ**



2. **［フォルスカラー］を選ぶ**



- ［**入**］を選びます。

3. **露出を補正する（ ）**

- フォルスカラーの表示を参考にして調整します。

フォルスカラーの表示

カメラのモニターおよびファインダーの映像に対し、フォルスカラーの表示をすることができます。以下のような外部モニターには、実際の映像が表示されます。

- HDMI接続されている外部モニター
- Camera ConnectまたはEOS Utilityを使用している外部モニター

色	意味
赤	White clipping（白クリップ）
黄	Just below white clipping（白クリップの直ぐ下）
ピンク	One stop over 18% gray（18%グレイより1段高いグレイ）
緑	18% gray（18%グレイ）
青	Just above black clipping（黒クリップの直ぐ上）
紫	Black clipping（黒クリップ）
無彩色	上記以外の明るさ

注意

- 撮影待機状態と動画撮影中で画面が切り換わるときや、撮影機能の設定によって、輝度レベルの色が変化することがあります。

参考

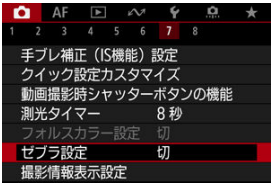
- フォルスカラー設定時は、以下の機能は使用できません。
  - タイムラプス動画
  - オートライティングオプティマイザ
  - ゼブラ表示
  - Canon Log設定のビューアシスト
  - MFピーキング

ゼブラ設定

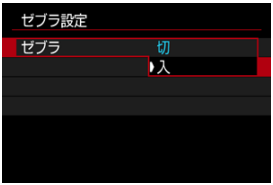
応用

動画記録中や動画モード待機中、設定輝度の箇所・周辺に、露出調整の目安となる縞模様を表示させることができます。

1. **［ : ゼブラ設定］を選ぶ**

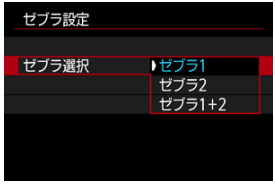


2. **［ゼブラ］を選ぶ**



- ［**入**］を選びます。

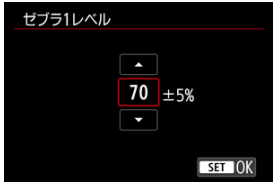
3. ［ゼブラ選択］を選ぶ



- ［**ゼブラ1**］を選ぶと、設定輝度値の周辺範囲を左上から右下の斜線表示します。
- ［**ゼブラ2**］を選ぶと、設定輝度値以上の範囲を左下から右上の斜線表示します。
- ［**ゼブラ1+2**］を選ぶと、［**ゼブラ1**］、［**ゼブラ2**］の両方を表示します。［**ゼブラ1**］と［**ゼブラ2**］の表示領域が重なる場合は、［**ゼブラ1**］を優先して表示します。

4. レベルを設定する

ゼブラ1レベル



ゼブラ2レベル

- 〈 〉を回して設定します。

参考

- HDR-PQ設定時、最大輝度値は100%にはなりません。なお、［**：高輝度側・階調優先**］や［**：ピクチャースタイル**］の設定により最大輝度値は異なります。
- Canon Log設定時、最大輝度値は100%にはなりません。
- ［**ゼブラ選択**］を設定するときは、ゼブラ表示されるレベルを事前に確認することをおすすめします。

撮影情報表示設定

記録中の強調表示

アスペクトマーカー

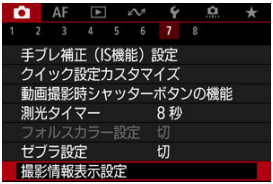
動画撮影時にモニターまたはファインダーに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。

参考

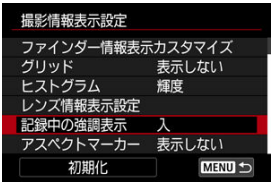
- 以下の項目については、静止画撮影の撮影情報表示設定を参照してください。
  - モニター情報表示カスタマイズ
  - ファインダー情報表示カスタマイズ
  - ファインダー縦表示
  - グリッド
  - ヒストグラム
  - レンズ情報表示設定
  - 設定の初期化

記録中の強調表示

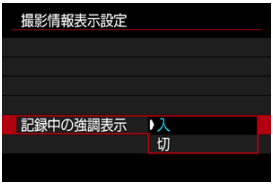
1. **［ : 撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［記録中の強調表示］を選ぶ**



3. **項目を選ぶ**



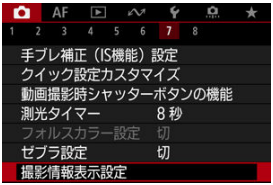
- **入**
  動画撮影中は、画面外周に赤色の強調枠が点滅して表示されます。

- **切**
  強調枠の表示は行われません。

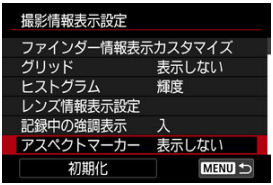
アスペクトマーカー

動画撮影後の編集で画像のアスペクト比を変更する場合に、撮影時から編集後の画角を意識できるよう、動画撮影画面（撮影待機状態および動画撮影中）にアスペクトマーカーを表示させることができます。

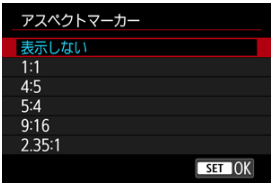
1. **［📷：撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［アスペクトマーカー］を選ぶ**



3. **項目を選ぶ**



- 表示内容を選びます。

参考

- 動画再生時には表示されません（撮影した動画にアスペクトマーカー情報は付加されません）。

タイムコード

- カウントアップ
- スタート時間設定
- 動画記録カウント
- 動画再生カウント
- HDMI
- ドロップフレーム

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

[📷：**タイムコード**]でタイムコードを設定することができます。

注意

- タイムラプス動画撮影時は、タイムコードは付加されません。
- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

カウントアップ

- **レックラン**
  動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。
- **フリーラン**
  動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

注意

- ［**フリーラン**］設定時、ハイフレームレート、クリエイティブフィルターを設定して撮影したときは、タイムコードは付加されません。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻／エリア／サマータイムの設定を変更すると（🔗）、タイムコードに影響が生じます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

- **手動入力設定**
  「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。
- **リセット**
  [**手動入力設定**] [**カメラ時間に設定**] で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります（ ）。
- **カメラ時間に設定**
  カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
  撮影待機状態では、撮影可能時間が表示されます。また、撮影状態では撮影開始からの経過時間が表示されます（1）。

- **タイムコード**
  動画撮影時にタイムコードが表示されます（2）。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
  動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
- **タイムコード**
  動画再生時にタイムコードが表示されます。

参考

- タイムコードは、[**動画記録カウント**]の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画+[**フリーラン**]設定時を除く）。
- [📷：**タイムコード**]の[**動画再生カウント**]と[▶：**動画再生カウント**]は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

HDMI

● **タイムコード**
HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

- **切**
  HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

- **入**
  HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。［**入**］に設定すると、［**記録コマンド**］が表示されます。

● **記録コマンド**
HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

- **切**
  外部記録機器側で記録開始／停止を行います。

- **入**
  動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。

注意

- ハイフレームレート動画撮影時に、［**タイムコード**］の［**カウントアップ**］を［**フリーラン**］に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が［**タイムコード**］［**記録コマンド**］に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- ［**タイムコード**］を［**切**］に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、179.8P（179.82fps）、119.9P（119.88fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。［**する**］設定時はこの差が自動的に補正されます。

- **する**
  タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。
- **しない**
  補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。
  なお、タイムコードは次のように表示されます。
  - **する（DF）**
    00:00:00.（再生時：00:00:00.00）
  - **しない（NDF）**
    00:00:00:（再生時：00:00:00:00）

参考

- フレームレートが23.98P（23.98fps）設定時、および［**：ビデオ方式**］が［**PAL**］に設定されているときは、［**ドロップフレーム**］の項目は表示されません。

その他のメニュー機能

- [[2]]
- [[3]]
- [[5]]
- [[8]]

[2]

露出補正

1/3段ステップ±3段の範囲で露出補正を行うことができます。露出補正については、自分の好みに露出を補正するを参照してください。

ISO感度に関する設定

- **ISO感度**
  [M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。
- **ISO感度の範囲**
  ISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。ISO感度拡張の設定を行うこともできます。
- **オートの上限**
  [] モード、[Tv] モード、[Av] モードまたは [M] モード＋ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。
- **オートの上限**
  [] モード、[Tv] モード、[Av] モードまたは [M] モード＋ISOオートの設定で4Kタイムラプス／フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

[📷3]

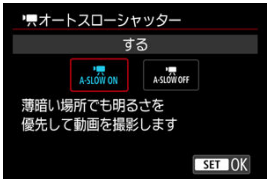
Av値 1/8段設定

RFレンズ／RF-Sレンズ使用時に、動画撮影時の絞り数値の設定ステップをさらに細かくすることができます。
この機能は撮影モードが［M］［Av］のときに設定できます。
［**する**］を選ぶと、絞り数値が1/3段（1/2段）ステップから1/8段ステップに変わります。

注意

- EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、［**Av値 1/8段設定**］は表示されません（設定できません）。
- ［**する**］に設定したときは、［📷：**露出設定ステップ**］で設定されている内容は機能しません（無効になります）。

オートスローシャッター



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、［**しない**］設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。
この機能は、撮影モードが［］［Av］のときに設定できます（機能します）。また、動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00Pのときに機能します。

- **しない**
  ［**する**］設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、［**する**］設定時よりも映像が暗くなることがあります。

- **する**
  暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、［**しない**］設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、［**しない**］に設定することをおすすめします。

[📷5]

レンズ光学補正

動画撮影時は、周辺光量補正、歪曲収差補正、フォーカスブリージング補正、色収差補正を行うことができます。レンズ光学補正については、レンズ光学補正を参照してください。

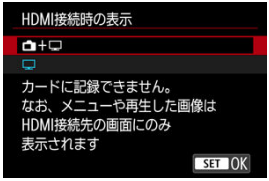
温度上昇緩和

[**入**]にすると消費電力を抑え、撮影待機状態のカメラ内部の温度上昇を抑えます。
これにより動画の撮影時間が長くなることがあります。

注意

- 撮影待機状態と動画撮影中の画面で、画質の差がでることがあります。
- 動画撮影を開始したときに、映像が一瞬更新されない（フレームストップ）ことがあります。
- 以下のときには、[📷：**温度上昇緩和**]は[**切**]に固定されます。
  - [📷：**デジタルズーム**]を[**入**]に設定した場合（🔗）
  - [📷：**プレ記録設定**]を[**入**]に設定した場合（🔗）

HDMI接続時の表示



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。[**動画記録サイズ**]の設定に応じて出力されます。
なお、初期状態では[🖵]に設定されています。

- 📷+🖵
  映像をカメラの画面に表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
  画像再生やメニュー表示を行ったときは、HDMI出力先に画像やメニューが表示され、カメラの画面には表示されません。

- □
  HDMI出力を行ったときは、カメラの画面が消灯します（何も表示されません）。
  HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈INFO〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
  外部記録機器に映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。

注意

- [📷：**HDMI接続時の表示**]を[📷+□]に設定した場合、カードに記録できません。なお、メニューや再生した画像はHDMI接続先の画面にのみ表示されます。
- HDMI出力時の解像度、フレームレートは動画記録サイズに連動して変わります。

?HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、[📷+□]を選び、[🔧：**節電**]の[**オートパワーオフ**]を[**しない**]に設定してください（🔗）。なお、[**モニターオフ**]で設定した時間が経過すると、カメラのモニターが消灯しますが、HDMI出力は継続します。

注意

- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（🔗）などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録サイズやフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

参考

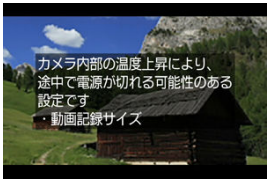
- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（🔗）。
- HDMI出力時に音声も出力されます（[**録音**：**しない**]設定時を除く）。

動画撮影全般の注意事項

- 動画撮影前のガイダンス表示
- 動画撮影中のインジケーター表示

動画撮影前のガイダンス表示

カメラの起動時や設定を変更したときなどに、ガイダンスが表示されることがあります。



このガイダンスは、現在の設定で動画を撮影すると、撮影中にカメラ内部の温度が上昇し、さらに撮影を続けると自動的にカメラの電源が切れる可能性があることを示しています。
動画を長時間撮影するときは、ガイダンスに表示された設定（動画記録サイズ）を変更し、ガイダンスが表示されない状態で撮影することをおすすめします。
設定を変更せずに撮影するときは、動画撮影中のインジケーター表示に注意してください。

動画撮影中のインジケーター表示

動画撮影中にカメラ内部の温度が上昇し始めると、10段階のインジケーター（1）が表示されます。

さらにカメラ内部の温度が上昇すると、目盛が右に増えていきます。目盛が増える時間は撮影状況によって異なります。1~7番目の目盛は白色で表示されますが、8番目から色が変わります。

9番目のオレンジ色の目盛まで達した状態で撮影を続けると、[ ] が赤色で点滅します。アイコンの点滅表示は、まもなくカメラの電源が自動的に切れることを意味しています。

アイコンが点滅している状態で撮影を続けると、メッセージが表示され、カメラの電源が自動的に切れます。

● 撮影を続けるときは

設定を変更せずに撮影を続けるときは、いったんカメラの電源を切り、カメラ内部の温度が下がるまでお待ちください。ただし、このときは撮影を再開するとカメラの温度は再度上昇します。

注意

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- ［AWB］［AWBW］の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、レンズ光学補正が正しく適用されなかったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイクを指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 必要に応じて静止画撮影全般の注意事項もお読みください。
- Wi-Fi接続した状態で動画撮影すると、カメラの温度が上昇することがあります。手持ち撮影せず、三脚を使用するなどしてください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます（［📷：**Canon Log設定**］の［**ビューアシスト**］設定時を除く）。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーター（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。

- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

参考

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は約100%です。
- 〈AF ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- [📷：**動画撮影時シャッターボタンの機能**]の[**全押し**]を[**動画撮影の開始/終了**]に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます（🔗）。
- ミニジャック（Φ3.5mm）に対応したマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、4K動画／フルHD動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4K動画／フルHD動画：Rec.ITU-R BT.709で記録されます。

AF／ドライブ

この章では、AF、ドライブモードに関する内容や、メニュー機能の「**AF**：AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。
タイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

参考

- AFはAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。MFはManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

- メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）
- メニュー目次：AFタブ（動画撮影）
- AF動作 応用
- 動画サーボAF設定
- AFエリアの選択
- プリAF
- タッチ&ドラッグAF設定
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）
- サーボAF特性 応用
- AF機能のカスタマイズ 応用
- ドライブモードの選択
- セルフタイマー撮影
- リモコン撮影
- 操作をカスタマイズする

メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）

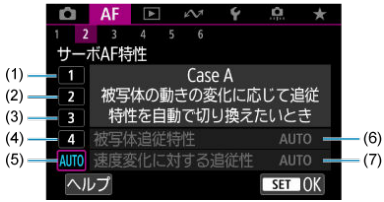
- **AF1**

(1) AF動作
(2) AFエリア
(3) サーボAF中の全域トラッキング
(4) 検出する被写体
(5) 瞳検出
(6) 追尾する被写体の乗り移り
(7) フォーカスモード

参考

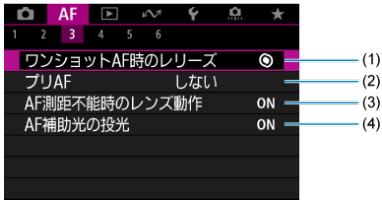
- フォーカスモードスイッチがないレンズを使用したときに、[**AF1**] タブに [**フォーカスモード**] が表示されます。

- **AF2**



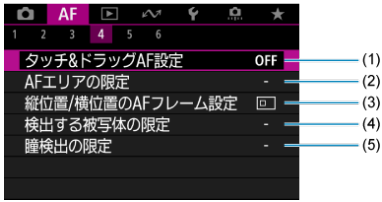
(1) Case 1
(2) Case 2
(3) Case 3
(4) Case 4
(5) Case A
(6) 被写体追従特性
(7) 速度変化に対する追従性

- **AF3**



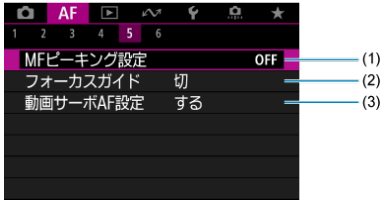
(1) ワンショットAF時のレリーズ
(2) プリAF
(3) AF測距不能時のレンズ動作
(4) AF補助光の投光

AF4



(1) タッチ&ドラッグAF設定
(2) AFエリアの限定
(3) 縦位置/横位置のAFフレーム設定
(4) 検出する被写体の限定
(5) 瞳検出の限定

AF5



(1) MFピーキング設定
(2) フォーカスガイド
(3) 動画サーボAF設定

AF6

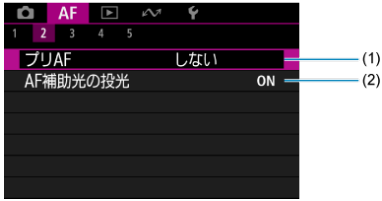
(1) 電子式フルタイムMF
(2) レンズの電子式手動フォーカス
(3) フォーカス/コントロールリング
(4) フォーカスリングの回転
(5) RFレンズ MF操作敏感度

かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。
なお、撮影モードによって、選択できるメニューは異なります。

- **AF1**

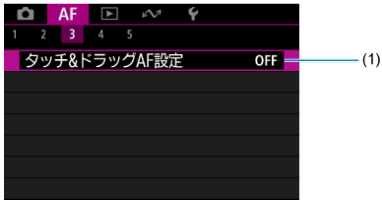
(1) AFエリア
(2) サーボAF中の全域トラッキング
(3) 検出する被写体
(4) 瞳検出
(5) フォーカスモード

- **AF2**



(1) プリAF
(2) AF補助光の投光

AF3



(1) タッチ&ドラッグAF設定

AF4

(1) MFピーキング設定
(2) フォーカスガイド
(3) 動画サーボAF設定

AF5

(1) フォーカスリングの回転
(2) RFレンズ MF操作敏感度

メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

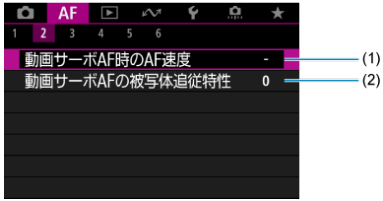
● **AF1**

（1）動画サーボAF設定
（2）AFエリア
（3）検出する被写体
（4）瞳検出
（5）追尾する被写体の乗り移り
（6）フォーカスモード

参考

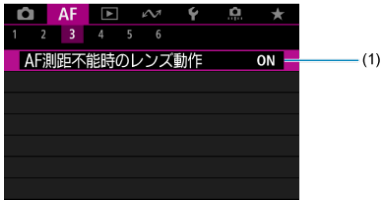
● フォーカスモードスイッチがないレンズを使用したときに、[**AF1**] タブに [**フォーカスモード**] が表示されます。

● **AF2**



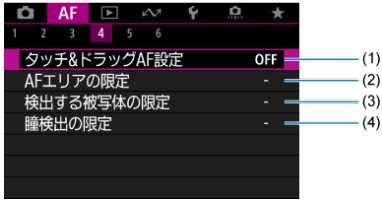
（1）動画サーボAF時のAF速度
（2）動画サーボAFの被写体追従特性

AF3



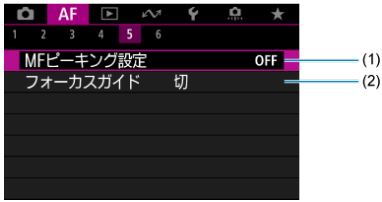
(1) AF測距不能時のレンズ動作

AF4



(1) タッチ&ドラッグAF設定
(2) AFエリアの限定
(3) 検出する被写体の限定
(4) 瞳検出の限定

AF5



(1) MFピーキング設定
(2) フォーカスガイド

AF6

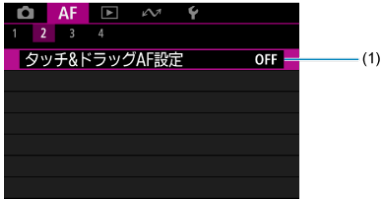
(1) 電子式フルタイムMF
(2) レンズの電子式手動フォーカス
(3) フォーカス/コントロールリング
(4) フォーカスリングの回転
(5) RFレンズ MF操作敏感度

かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。
撮影モードによって、選択できるメニューは異なります。

AF1

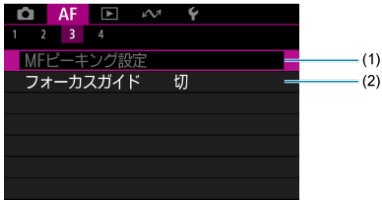
(1) 動画サーボAF設定
(2) AFエリア
(3) 検出する被写体
(4) 瞳検出
(5) フォーカスモード

AF2



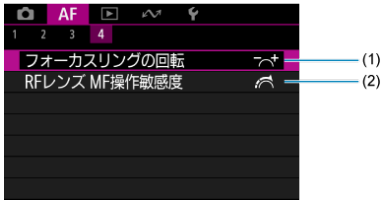
(1) タッチ&ドラッグAF設定

AF3



(1) MFピーキング設定
(2) フォーカスガイド

AF4



(1) フォーカスリングの回転
(2) RFレンズ MF操作敏感度

AF動作

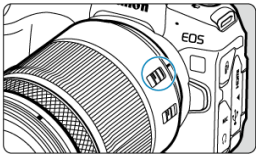
応用

- 止まっている被写体を撮る：ワンショットAF
- 動いている被写体を撮る：サーボAF
- AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

1. フォーカスモードをAFに設定する

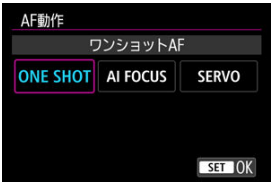
- **フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時**
  レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定します。



- **フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時**
  ［**AF**：**フォーカスモード**］を［**AF**］に設定します。

2. [AF：AF動作] を選ぶ

3. 項目を選ぶ



参考

- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。ワンショットAF時は、構図を変えて再度ピント合わせを行うか、ピントが合いにくい撮影条件を参照してください。
- サーボAF時はピントが合わない場合も撮影されます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、ドライブモードの選択でご確認ください。

参考

- [：**電子音**]を[**切**]に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、レンズの電子式手動フォーカスを参照してください。

フォーカスロック撮影

固定したAFフレームでワンショットAFを行い、ピント位置を保持した状態で構図を変えて行う撮影を「フォーカスロック撮影」といいます。シャッターボタンの半押しでピント合わせを行う場合の操作は下記の通りです。

1. **固定したAFフレームを、ピントを合わせたい被写体に向けてシャッターボタンを半押しする**

2. **合焦してAFフレームが緑色で表示されたら、シャッターボタンを半押ししたまま構図を調整する**

3. **シャッターボタンを全押しして撮影する**

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- サーボAFの動作をしていると、AFフレームが青色に変わります。ピントが合った電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、ドライブモードの選択でご確認ください。

注意

- 絞り数値が大きい場合や使用するレンズ、被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。
- 止まっている被写体に対して、サーボAFの動作が不安定な場合は、ワンショットAFで撮影することをおすすめします。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

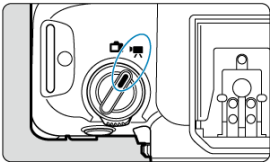
シャッターボタンを半押ししている間や、連続撮影している間、被写体の状態に応じて、カメラがAFモードを自動的に［**ワンショットAF**］から［**サーボAF**］へと切り換えます。

動画サーボAF設定

☑ 被写体検出AF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。

1. **静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉にする**



2. **［AF：動画サーボAF設定］を選ぶ**

3. **［動画サーボAF］を選ぶ**

4. 項目を選ぶ

● **する**

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の［**動画サーボAF:一時停止**］(1) をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。

(1)

- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AFエリアを変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

● **しない**

シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。〈AF ON〉ボタンを押すと、1回だけピント合わせを行います。

注意

［動画サーボAF：する］設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 絞り数値が大きいとき
  - ピントが合いにくい撮影条件も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間（）が短くなります。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- デジタルズームでのズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり／遠ざかったり、カメラを上下／左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

被写体検出AF

[**AF**：**検出する被写体**]（）で設定した被写体が検出されないときに、動画サーボAFを行うかどうかを設定することができます。

- **検出優先**

  [**AF**：**AFエリア**]（）で設定した範囲内で、カメラが自動選択した被写体に対して動画サーボAFを行います。
  自動選択する被写体は、[**AF**：**検出する被写体**]で設定した被写体を優先します。

- **検出限定**

  [**AF**：**検出する被写体**]で設定した被写体に対してのみ動画サーボAFを行います。被写体が検出されないときは、動画サーボAFを停止します。

AFエリアの選択

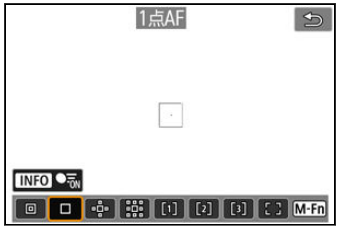
- AFエリア
- AFエリアの選択
- サーボAF中の全域トラッキング
- 検出する被写体
- 瞳検出
- 追尾する被写体の乗り移り
- ボタンでトラッキング
- フォーカスモード
- AFフレームやゾーンAFフレームを任意設定する
- 拡大表示
- AF撮影のヒント
- ピントが合いにくい撮影条件
- AF範囲

AFエリア

⊡：スポット1点AF

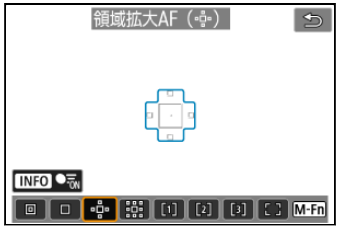
1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。

□：1点AF



1つのAFフレーム［□］でピント合わせを行います。

：領域拡大AF（）



1つのAFフレーム［］を含む、青枠で囲んだAFエリアでピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。
フレキシブルゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。
サーボAFのときは、初めにAFフレーム［］で被写体を捉えます。

：領域拡大AF（周囲）

1つのAFフレーム［］を含む、青枠で囲んだAFエリアでピント合わせを行うため、領域拡大AF（）より、動きのある被写体を捉えやすくなります。
サーボAFのときは、初めにAFフレーム［］で被写体を捉えます。

[1]: フレキシブルゾーンAF1

初期状態では、正方形のゾーンAFフレームが設定されています。

[2]: フレキシブルゾーンAF2

初期状態では、縦長のゾーンAFフレームが設定されています。

[3]: フレキシブルゾーンAF3

初期状態では、横長のゾーンAFフレームが設定されています。

フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、フレキシブルゾーンAF3では、ゾーンAFフレームのサイズを自由に設定できます（）。
領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは［□］で表示されます。

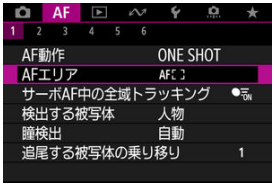
[ ]: 全域AF

フレキシブルゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い「全域AFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AF、領域拡大AF、フレキシブルゾーンAFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは［□］で表示されます。

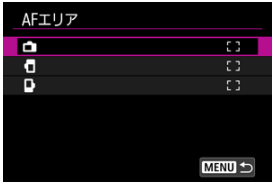
AFエリアの選択

撮影状況や被写体にあわせて、AFエリアを選ぶことができます。
なお、手動でピント合わせを行いたいときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）を参照してください。

1. ［AF：AFエリア］を選ぶ



2. AFエリアを選ぶ



- ［AF：縦位置/横位置のAFフレーム設定］（）が［別々に設定:エリア+フレーム］に設定されているときは、上記の画面が表示されます。縦位置・横位置を選び、それぞれにAFエリアを設定してください。

参考

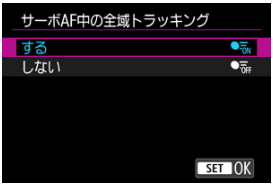
- 〈⊡〉ボタンを押したあとに〈M-Fn〉ボタンを押して、AFエリアを設定することもできます。

サーボAF中の全域トラッキング

サーボAFを行ったとき（[**AF**：**AF動作**]が[**サーボAF**]設定時にシャッターボタンを半押したとき）に、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わるかどうかを設定することができます。

1. [**AF**：サーボAF中の全域トラッキング]を選ぶ

2. 項目を選ぶ



- **する**
  シャッターボタンを半押しすると、AFエリアが全域AFとなり、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わります。

- **しない**
  シャッターボタンを半押し／全押ししたときに、AFフレーム内でのみ被写体を追尾します。

検出する被写体

追尾による主被写体の自動選択条件を設定することができます。
［**なし**］以外に設定すると、検出した被写体の中で、主被写体に追尾フレーム［ ］が表示されます。被写体が動くと追尾フレームも動いて被写体を追尾します。
［**AF**：**瞳検出**］を［**しない**］以外に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます（ ）。

● **自動**
カメラが人物、動物、乗り物から追尾する主被写体を自動で選択します。

● **人物**
人物の顔・頭部を追尾する主被写体として優先します。
人物の顔・頭部を検出できなくなった場合は、人物の胴体を検出し追尾を行います。人物の胴体も検出できない場合は、人物の体の一部で追尾する場合があります。

● **動物優先**
動物（犬、猫、鳥、馬）および人物を検出し、追尾する主被写体として動物の検出結果を優先します。
動物は顔または全身が検出され、顔が検出されれば顔に追尾フレームが表示されます。
動物の顔または全身を検出できない場合は、動物の体の一部で追尾する場合があります。

● **乗り物優先**
乗り物（モータースポーツカー・バイク、飛行機、鉄道）および人物を検出し、追尾する主被写体として乗り物の検出結果を優先します。
乗り物は重要部位または全体（鉄道では先頭）が検出され、重要部位が検出されれば重要部位に追尾フレームが表示されます。
乗り物の重要部位または全体が検出できない場合は、乗り物の車体の一部で追尾する場合があります。
〈INFO〉ボタンを押すと、乗り物の重要部位を検出するかどうかを設定できます（スポット検出）。

● **なし**
被写体検出を行わず、構図からカメラが主被写体を自動選択します。
追尾フレームは表示されません。

注意

- 次のような場合は、被写体を検出できないことがあります。
  - 被写体が極端に小さい／大きい
  - 被写体が明るすぎる／暗すぎる
  - 被写体の一部が隠れている
  - 被写体と背景の見分けがつきにくい
  - 雨や雪、土埃などにより被写体が不鮮明
- 人物の姿勢やウェアの色や形状によっては検出できないことがあります。また、人物に類似する他の被写体に追尾フレームが表示される場合があります。
- 犬、猫、鳥、馬の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した動物や、動物以外に追尾フレームが表示される場合があります。
- 四輪車、二輪車、飛行機、鉄道の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した乗り物や、乗り物以外に追尾フレームが表示される場合があります。

参考

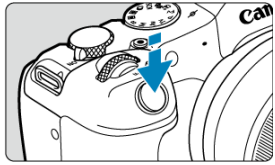
- シャッターボタンを半押しして被写体を選択するときは、下記の被写体を選択できます。該当する被写体がない場合は、［**検出する被写体**］の設定に関わらず、物体を追尾します。
  - **自動**
    人物、動物、乗り物
  - **人物**
    人物、動物、乗り物
    （動物、乗り物が検出されるのはトラッキング中のみです。）
  - **動物優先**
    動物、人物
  - **乗り物優先**
    乗り物、人物
- ［**AF**：**検出する被写体の限定**］で検出項目を使用するものだけに限定することができます。
- ［**自動**］で人物／動物／乗り物を撮影する際に、狙った被写体が検出されにくいと感じた場合には、それぞれに適した設定に変更すると改善する場合があります。
- 設定したAFエリアのみでAFを行いたい場合は、［**AF**：**サーボAF中の全域トラッキング**］を［**しない**］かつ［**AF**：**検出する被写体**］を［**なし**］に設定してください。

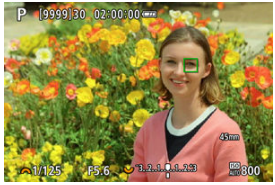
ピントを合わせる被写体を任意で選択する

1. 追尾フレームを確認する

- カメラを被写体に向けます。[AF：**AFエリア**]で[**全域AF**]以外を選んでいるときは画面にAFフレーム（またはゾーンAFフレーム）が表示されます。その場合は、AFフレームを被写体に合わせます。
- 被写体を検知すると、追尾フレーム[ ]が表示されます。
- 追尾フレーム[ ]は、AFフレームと離れているときは、灰色で表示されます（状況によっては、離れていてるときでも灰色表示にならない場合もあります）。
- 現在追尾している被写体がAFフレームに近づくと、AFフレームの外でも追尾フレームが白色（アクティブフレーム）に変わり、被写体として選ぶことができます。
- 動画撮影時は、追尾フレーム[ ]の灰色表示はされません。

2. ピントを合わせて撮影する





- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った追尾フレーム（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）が表示され、「ピピッ」と電子音が鳴ります（ワンショットAF時のみ）。
  ピントが合わないときは、追尾フレームがオレンジ色で表示されます。

参考

- [**AF**：**AFエリア**]を[**全域AF**]に設定時、画面をタッチして被写体を任意選択したときは、追尾フレームが[ ]に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面全域で被写体を追尾します。
- 追尾のロックを解除したいときは、[ ]をタッチします。
- AFフレームが追尾フレーム[ ]に重なっていない状態で、シャッターボタンを半押しすると、AFフレームでピント合わせが行われます。
- ピント合わせを行う[ ]が、被写体の全体ではなく一部分に表示されることがあります。
- 追尾フレームは被写体により大きさが変化します。
- [：**ボタン カスタマイズ**]で[**検出した被写体でAF**]を割り当てたボタンを押すことで、AFエリアが[**全域AF**]となり、自動選択AFを行うことができます。

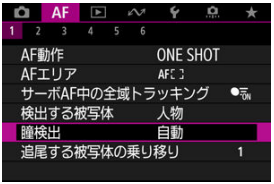
注意

- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、［**ワンショットAF**］でピント合わせが行われます。
- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（）、AFを行ってください。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFできないことがあります。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

瞳検出

人の目、動物の目にピントが合うように撮影することができます。

1. [AF：瞳検出]を選ぶ



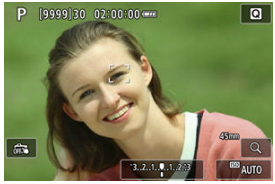
2. 項目を選ぶ

- **しない**
  瞳検出を行いません。

- **自動**
  瞳検出し、カメラが自動的にAFを行う瞳を選択します。

- **右目優先／左目優先**
  瞳検出し、被写体の右目／左目を優先してAFを行います。優先した側の瞳が検出されていない場合、もう一方の瞳にAFを行います。

3. 被写体にカメラを向ける



- 目の周囲に追尾フレームが表示されます。
- [**AF**：**AFエリア**]で[**全域AF**]を設定したとき、またはトラッキング中のとき、画面をタッチして目を選ぶこともできます。
- 選んだ目が検出できなくなった場合は、ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- 〈⊞〉ボタンを押して[ ]が表示されるときは、[**瞳検出**]の設定に応じて〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい目を選ぶことができます。

4. 撮影する

注意

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことや、右目／左目の優先が正しく行われないことがあります。
- [**AF**：**検出する被写体**]を[**なし**]にしたときは、目は検出されません。

参考

- [**AF**：**瞳検出の限定**]で検出項目を使用するものだけに限定することができます。

追尾する被写体の乗り移り

追尾する被写体への測距点の乗り移りやすさを設定することができます。

- **しない**
  最初にAF対象とした被写体を、できる限り追尾し続けます。

- **緩やか**
  最初にAF対象とした被写体を、できる限り追尾し続けます。追尾している被写体が主被写体と判定できなくなった場合、他の被写体に乗り移ります。

- **する**
  状況に応じて、追尾対象が他の被写体に乗り移ります。

注意

[しない] 設定時の注意事項

- 被写体の条件によっては、被写体を追尾し続けられない場合があります。
  - 被写体の動きが激しい場合
  - 被写体の向きや姿勢が変わった場合
  - 追尾フレームが被写体から外れたり、または被写体が障害物に隠れたりして、被写体を見失った場合
- タッチ操作で被写体を選択したときは、[**AF**：**検出する被写体**] の設定にかかわらず、選択した被写体をできる限り追尾し続けます。

参考

- 主被写体が決まっていて、継続して主被写体にピントを合わせ続けたい場合は、[**しない**] または [**緩やか**] がおすすめです。
- 構図に応じてピントを合わせる対象を速やかに切り換えたい場合は、[**する**] がおすすめです。

ボタンでトラッキング

[: **ボタン カスタマイズ**]で[**全域トラッキングの開始/停止**]を割り当てたボタンを押すことで被写体を追尾フレーム[ ]で追尾することができます。ここでは〈 AF ON 〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します（ ）。

1. 追尾フレームを確認する

- カメラを被写体に向けると、追尾フレームが表示されます。
- [**AF** : **AFエリア**]で[**全域AF**]以外を選んでいるときは、AFフレームを被写体に合わせます。
- 領域拡大AF（ ）、領域拡大AF（周囲）のときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- フレキシブルゾーンAFのときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

2. 〈 AF ON 〉ボタンを押す

- 追尾フレームが［ ］に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面内で被写体が動いても追尾します。もう一度〈 AF ON 〉ボタンを押すと、追尾を解除できます。
- 〈 〉ボタンを押すと、検出可能な対象が複数あるときは、追尾フレームが［ ］に変わり、〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい被写体を選ぶことができます。
- トラッキングを開始すると、設定しているAFエリアによらず画面全域で追尾が行われます。

3. 撮影する

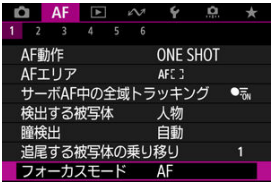
参考

- 撮影待機中にトラッキングを停止すると、AFエリアとAFフレームの位置はトラッキングする前の状態に戻ります。
- シャッターボタンを半押し／全押ししているときにトラッキングを停止すると、AFエリアはトラッキングする前の状態に戻りますが、AFフレームの位置は停止時の追尾フレームの中心になります（［**サーボAF**］時）。

フォーカスモード

ピント合わせの方法を設定することができます。

1. **［AF：フォーカスモード］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

- **AF**
  オートフォーカスで動作します。

- **MF**
  マニュアルフォーカスで動作します。

注意

- 下記の状態のときは、［AF：**フォーカスモード**］は表示されません。
  - フォーカスモードスイッチがあるレンズを装着している
  - マニュアルフォーカス専用レンズを装着している
  - レンズを装着していない
- ［**MF**］に設定した場合は、基本情報表示でAFフレームが非表示になり、MFアイコンが表示されます。

AFフレームやゾーンAFフレームを任意設定する

AFフレームを任意設定することができます。ここでは、フレキシブルゾーンAF1設定時の画面を例に説明します。

1. AFフレームを確認する

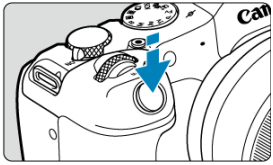
(1)

- AFフレーム（1）が表示されます。

2. AFフレームを移動する

- 〈 〉ボタンを押したあと〈 〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。
- 〈 〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- ピントを合わせたい位置にタッチして、ピントを合わせることもできます。
- フレキシブルゾーンAFの場合は、ゾーンAFフレームのサイズを変更できます（ ）。

3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとAFフレームの色が変わり（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）、「ピピッ」と電子音が鳴ります（ワンショットAF時のみ）。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

注意

- フレキシブルゾーンAFで、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム［□］が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。
- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、［**ワンショットAF**］でピント合わせが行われます。

参考

- ［**AF**：**縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［**別々に設定:エリア＋フレーム**］に設定すると、AFエリアとAFフレームを縦位置と横位置で別々に設定することができます（☞）。

拡大表示

画面の［🔍］をタッチすると、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- 被写体を検出時で追尾フレームが白色（アクティブフレーム）のときは、追尾フレームを中心に拡大表示されます。
  被写体を検出時で追尾フレームが灰色のとき、または被写体を検出できないときは、AFフレーム（画面中央）を中心に拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままAFが行われます。
- サーボAFまたはAIフォーカスAF設定時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

注意

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、プリAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（🔗）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲

使用するレンズやアスペクト比、動画記録サイズ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

プリAF

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。

1. **［AF：プリAF］を選ぶ**

2. **［する］を選ぶ**

注意

- ［**する**］設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

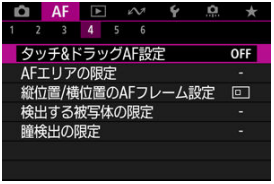
タッチ&ドラッグAF設定

- タッチ&ドラッグAF
- タップで検出被写体を選択
- 位置指定方法
- タッチ領域
- 相対位置の敏感度

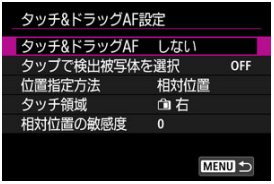
ファインダーを見ながら画面をタッチしたりドラッグしたりして、AFフレーム（またはゾーンAFフレーム）を移動することができます。

タッチ&ドラッグAF

1. **［ : タッチ&ドラッグAF設定］を選ぶ**



2. **［タッチ&ドラッグAF］を選ぶ**

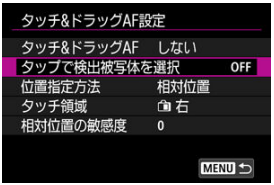


3. **［する］を選ぶ**

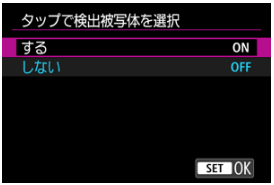
タップで検出被写体を選択

複数の被写体が検出されたとき、[**タッチ領域**]で設定した領域をタップすると、追尾対象を別の被写体に切り換えます。
なお、[**タッチ&ドラッグAF**]が[**する**]のときは設定できません。

1. **[タップで検出被写体を選択]を選ぶ**



2. **[する]を選ぶ**



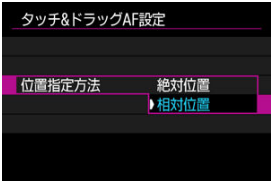
参考

- [**タッチ領域**]で設定した領域内の左側をタップすると左側の被写体に切り換わり、右側をタップすると右側の被写体に切り換わります。
- [**AF**：**瞳検出**]が[**しない**]以外のときは、別の瞳に切り換わります。

位置指定方法

タッチやドラッグしたときの位置の指定方法を設定することができます。

1. ［位置指定方法］を設定する

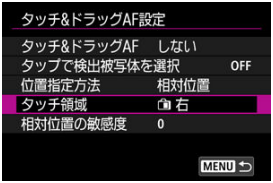


- **絶対位置**
  画面をタッチやドラッグした位置にAFフレームが移動します。
- **相対位置**
  画面の位置に関係なく、ドラッグした方向と移動量に応じてAFフレームが移動します。

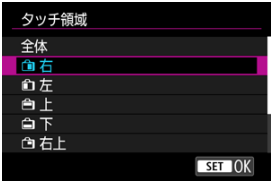
タッチ領域

タッチの反応領域を設定することができます。

1. **［タッチ領域］を選ぶ**



2. **タッチの反応領域を設定する**



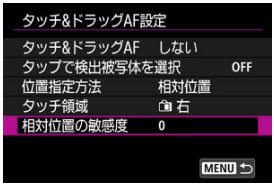
参考

- ［**AF**：**AFエリア**］を［**全域AF**］に設定時は、画面をタッチすると、オレンジ色の丸い枠［〔〕］が表示されます。AFフレームを移動したい位置で指を離すと［ ］が表示され、その被写体を追尾します。画面上の［ OFF］をタッチすると、被写体の指定が解除されます。

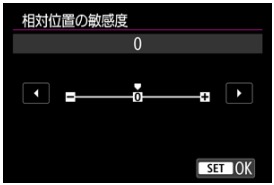
相対位置の敏感度

［**位置指定方法**］を［**相対位置**］にしたときの、タッチやドラッグの移動量を設定することができます。

1. ［相対位置の敏感度］を選ぶ



2. 移動量を設定する



AFフレームの移動量が、＋側に設定すると大きくなり、−側に設定すると小さくなります。

手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

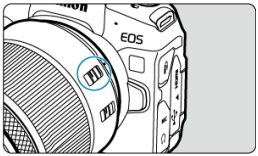
MFピーキング設定（輪郭強調）

フォーカスガイド

AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。

1. フォーカスモードをMFに設定する

- **フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時**
  レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉に設定します。



- **フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時**
  ［AF：**フォーカスモード**］を［**MF**］に設定します。

2. 映像を拡大する

- 画面の［🔍］をタッチするたびに、次のように画面が切り換わります。

→ x5 → x10 → x1 ―

3. 拡大位置を移動する

- 画面をドラッグして、ピントを合わせたい位置に移動します。
- ［⊡］をタッチすると、拡大位置が画面中央に戻ります。

4. 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、［🔍］をタッチして通常表示にします。

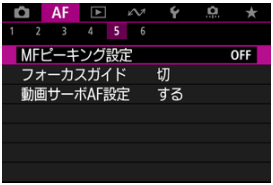
参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

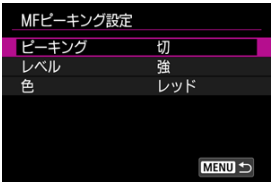
MFピーキング設定（輪郭強調）

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

1. **［AF：MFピーキング設定］を選ぶ**

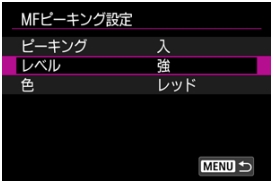


2. **［ピーキング］を選ぶ**



3. **［入］を選ぶ**

4. [レベル]、[色] を設定する



- 必要に応じて設定します。

注意

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。なお、[**: HDMI接続時の表示**] で [+] を設定しているときは、カメラの画面にはピーキングが表示されます。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[**ピーキング**] を [**切**] に設定してください。

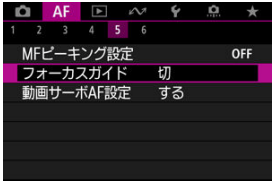
参考

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。
- Canon Log設定時は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じて [**ピーキングアシスト**] を [**入**] に設定してください。

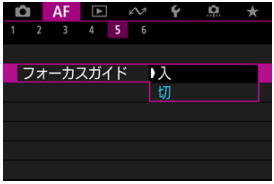
フォーカスガイド

［**AF**：**フォーカスガイド**］を［**入**］にすると、現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量が、ガイド枠で視覚的に表示されます。

1. ［AF：フォーカスガイド］を選ぶ



2. ［入］を選ぶ



- ［**AF**：**検出する被写体**］を［**なし**］以外に設定しているときに、人物の顔を検出したときは、主被写体と判断した人物の顔にガイド枠が表示されます。さらに、［**AF**：**瞳検出**］を［**しない**］以外に設定しているときに、人物の目を検出したときは、主被写体と判断した顔の目の付近にガイド枠が表示されます。
- 〈⊞〉ボタンを押して、〈✥〉を操作すると、押した方向にガイド枠を移動することができます。
- 〈✥〉を操作してガイド枠を移動した場合は、〈㊙〉ボタンを押すと、ガイド枠が設定されます。
- 画面にタッチして、ガイド枠を移動、設定することもできます。
- ［⊡］にタッチすると、ガイド枠が画面中央に戻ります。

ガイド枠の意味（現在のフォーカス位置、調整量）は以下のとおりです。

無限方向調整量大　無限方向調整量小　合焦　至近方向調整量小　至近方向調整量大

調整情報検出不可

注意

- AFでピントが合いにくい撮影条件（）では、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- 絞り数値が大きいほど、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- ガイド枠の表示中は、AFフレームは表示されません。
- 以下のときは、ガイド枠は表示されません。
  - カメラまたはレンズのフォーカスモードがAFに設定されているとき
  - 拡大表示時
  - デジタルズーム設定時
- TS-Eレンズを使用してシフトやティルトを行っているときは、ガイド枠が正しく表示されません。

参考

- 電子式フォーカスリングを備えたレンズで、ピント合わせを行っているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されます。

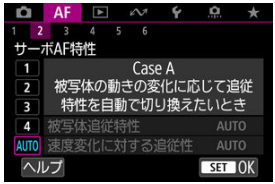
サーボAF特性

応用

- 各ケースの内容
- Case 1：汎用性の高い基本的な設定
- Case 2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき
- Case 3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき
- Case 4：被写体が急加速/急減速するとき
- Case A：被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき
- 各特性
- 各ケースの設定内容を変更する

撮影する被写体や撮影シーンにあわせて「Case *」を選ぶだけで、被写体や撮影シーンに適したサーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。

1. ［AF2］タブを選ぶ



2. ケースを選ぶ

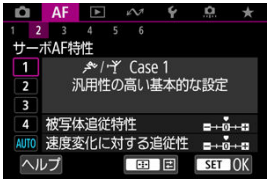
- 〈 〉を回してケース（マーク）を選び、〈 〉ボタンを押します。
- 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。
- ヘルプを確認したいときは、［**ヘルプ**］をタッチしてください。

各ケースの内容

「Case 1」～「Case A」は、「被写体追従特性」「速度変化に対する追従性」の組み合わせを5種類用意したものです。表の内容から、被写体や撮影シーンに適したケースを選びます。

ケース	マーク	内容	撮影シーン例
Case 1		**汎用性の高い基本的な設定**	動きのある被写体全般
Case 2		**障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき**	テニス、フリースタイルスキーなど
Case 3		**急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき**	自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど
Case 4		**被写体が急加速/急減速するとき**	サッカー、新体操、モータースポーツ、バスケットボールなど
Case A		**被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき**	動きのある被写体全般で、特に撮影シーンがさまざまに変化するとき

Case 1：汎用性の高い基本的な設定

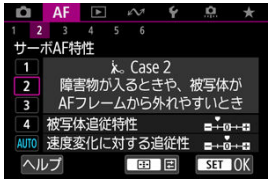


初期設定

- **被写体追従特性**：0
- **速度変化に対する追従性**：0

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。
障害物がAFフレームを横切るときやAFフレームが被写体から外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるときは、[**Case 2**]～[**Case 4**]を選んでください。

Case 2 : 障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき



初期設定

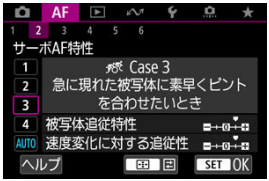
- **被写体追従特性**：**粘る**：−1
- **速度変化に対する追従性**：0

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

参考

- 障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、［**被写体追従特性**］を［**−2**］に設定すると、改善することがあります（）。

Case 3 : 急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき



初期設定

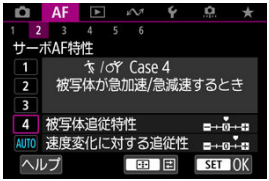
- **被写体追従特性**：**俊敏**：+1
- **速度変化に対する追従性**：+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

参考

- 急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、［**被写体追従特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（🔗）。

Case 4：被写体が急加速/急減速するとき



初期設定

- **被写体追従特性**：**俊敏**：0
- **速度変化に対する追従性**：+1

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。
急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

参考

- 瞬時に速さが大きく変化するときは、[**速度変化に対する追従性**]を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（🔗）。

Case A : 被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき

被写体の変化に応じた特性の設定をカメラまかせで撮影するときに有効です。
被写体追従特性、速度変化に対する追従性が自動設定されます。

各特性

被写体追従特性

サーボAFで測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
  標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

- **粘る：−2／粘る：−1**
  障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。
  その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

- **俊敏：+2／俊敏：+1**
  AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。
  その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

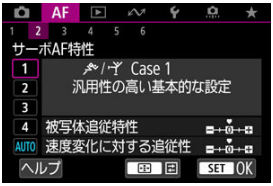
- **−2／−1**
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。

- **+2／+1**
  急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。
  その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

各ケースの設定内容を変更する

「Case 1」～「Case 4」に設定されている、「(1) 被写体追従特性」、「(2) 速度変化に対する追従性」を、任意に調整することができます。

1. ケースを選ぶ

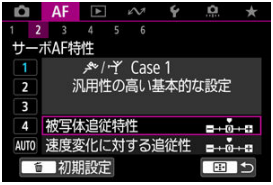


- 〈 〉を回して調整したいケース（番号）を選びます。

2. 〈 〉ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。

3. 調整したい項目を選ぶ



4. 調整する

- 初期設定は［ ］の薄い灰色で表示されます。
- 調整確定後、〈 〉ボタンを押します。
- 〈 〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

参考

- 手順2で〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉ボタンを押すと、ケースごとに (1) (2) の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニューに (1) (2) を登録することもできます（ ）。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

AF機能のカスタマイズ

応用

- ［AF3］
- ［AF4］
- ［AF6］
- ［AF2］（動画撮影時）

撮影スタイルや被写体に応じて、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

ワンショットAF時のレリーズ

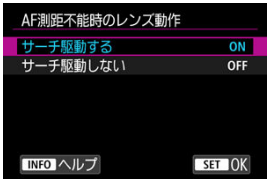
ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます（タッチシャッター撮影時除く）。

- **［◎］ピント優先**
  ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

- **［□］レリーズ優先**
  ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。
  ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。

AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときのレンズの動作を設定することができます。



- **[ON] サーチ駆動する**
  AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

- **[OFF] サーチ駆動しない**
  AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

注意

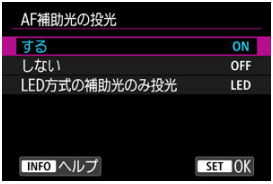
- 超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、[**サーチ駆動しない**] に設定することをおすすめします。ただし、ピントが合わせられないとカメラが判断するとAFが停止しますので、その場合はMFで近づけてから再度ピント合わせを行ってください。

AF補助光の投光

カメラ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

1. **［AF：AF補助光の投光］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



- **［ON］する**
  必要に応じてAF補助光が投光されます。

- **［OFF］しない**
  AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

- **［LED］LED方式の補助光のみ投光**
  LEDライトを搭載した外部ストロボ使用時は、LEDライトによるAF補助光が投光されます。LEDライト非搭載のストロボ使用時は、カメラのAF補助光が投光されます。

注意

- 外部ストロボのカスタム機能の［AF：**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

[AF4]

AFエリアの限定

AFエリアの選択項目を、使用するAFエリアだけに限定することができます。AFエリアを選び、〈(SET)〉ボタンを押して［✓］を付けます。［**OK**］を選ぶと設定されます。なお、AFエリアについては、AFエリアを参照してください。

注意

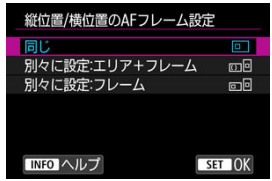
- すべての項目の［✓］を外すことはできません。

参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、［**AF**：**AFエリアの限定**］の右端に「＊」が表示されます。

縦位置／横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、AFエリア＋AFフレーム、またはAFフレームの位置を別々に設定することができます。



- **[□] 同じ**
  縦位置撮影、横位置撮影とも、同じAFエリアで同じ位置のAFフレームまたはゾーンAFフレームが設定されます。

- **[□] 別々に設定:エリア＋フレーム**
  カメラの姿勢（(1) 横位置状態、(2) グリップを上にした縦位置状態、(3) グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFエリアの種類とAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます（🖉）。
  姿勢に応じて自動的にAFエリアの種類とAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。
  (1) (2) (3) のそれぞれの姿勢で設定した、AFエリアおよびAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

- **[□] 別々に設定:フレーム**
  カメラの姿勢（(1) 横位置状態、(2) グリップを上にした縦位置状態、(3) グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。
  (1) (2) (3) のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

注意

- [**：カメラの初期化**] で [**基本設定**] を選ぶと（🖉）、設定が [**同じ**] になります。また、(1) (2) (3) の姿勢で設定した内容が解除され、[**全域AF**] が選択された状態になります。
- 設定後に、レンズを交換すると、設定した内容が解除されることがあります。

検出する被写体の限定

[**AF**：**検出する被写体**]の選択項目を、使用する項目だけに限定することができます。使用しない項目を選び、〈(SET)〉ボタンを押して［✓］を外します。［**OK**］を選ぶと設定されます。

注意

- すべての項目の［✓］を外すことはできません。

参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、［**AF**：**検出する被写体の限定**］の右端に「＊」が表示されます。

瞳検出の限定

[**AF**：**瞳検出**]の選択項目を、使用する項目だけに限定することができます。使用しない項目を選び、〈(SET)〉ボタンを押して［✓］を外します。［**OK**］を選ぶと設定されます。

注意

- すべての項目の［✓］を外すことはできません。

参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、[**AF**：**瞳検出の限定**]の右端に「＊」が表示されます。

[AF6]

電子式フルタイムMF

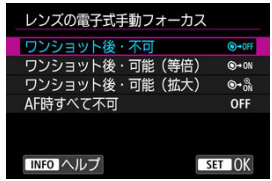
特定のレンズを装着した時の、電子式フォーカスリングによる手動ピント調整の動作を設定できます。動作するレンズはキヤノンのホームページで確認してください（🔗）。

- **無効**
  手動ピント調整は、［**レンズの電子式手動フォーカス**］で設定されている動作になります。

- **有効**
  カメラ操作可能な状態で、常に手動ピント調整が可能です。

レンズの電子式手動フォーカス

電子式の手動フォーカス機能を備えたレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



- **［MF→OFF］ワンショット後・不可**
  AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

- **［MF→ON］ワンショット後・可能（等倍）**
  AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

● **［⊙→ON］ワンショット後・可能（拡大）**
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。レンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大され、手動でピント調整ができます。

● **［OFF］AF時すべて不可**
レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント調整を禁止します。

注意

● ［**ワンショット後・可能（拡大）**］設定時、撮影後、すぐにシャッターボタンを半押ししたときは、レンズのフォーカスリングを回しても拡大表示されないことがあります。そのときは、シャッターボタンから一旦指を離し、画面に［🔍］が表示されてから、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回すと拡大表示されます。

参考

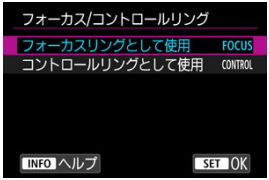
● お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

フォーカス/コントロールリング

レンズのフォーカス/コントロールリングの機能切換えをメニューから行います。

注意

- フォーカス/コントロールリングを搭載していて、フォーカス/コントロール切り換えスイッチがないレンズの装着時に設定できます。



- **フォーカスリングとして使用**
  フォーカスリングとして動作します。

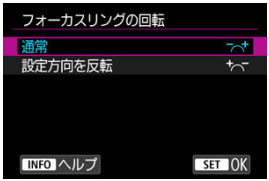
- **コントロールリングとして使用**
  コントロールリングとして動作します。

参考

- [**コントロールリングとして使用**]を選んだ場合、[AF:**フォーカスモード**]を[**AF**]で固定するときは、〈⊞〉ボタンを押して[**コントロールリングとして使用するときは、AF固定**]に[✓]を付けてください。
- [📷:**クイック設定カスタマイズ**]でカスタマイズすると、クイック設定画面からも設定できます(🔗)。

フォーカスリングの回転

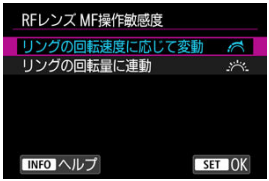
RFレンズのフォーカスリングの設定方向を反転させることができます。



- **［ ］通常**
- **［ ］設定方向を反転**

RFレンズ MF操作敏感度

RFレンズのフォーカスリングを操作するときの感度を設定することができます。



- **［ ］リングの回転速度に応じて変動**
  リングの回転速度により、感度が変わります。

- **［ ］リングの回転量に連動**
  リングの回転速度に関わらず、回転量に応じてピントが移動します。

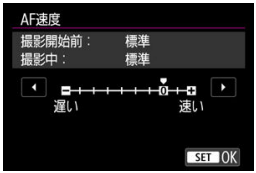
動画サーボAF時のAF速度

動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

● **作動条件**

設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（[**常時**]）、動画撮影中のみ有効にするか（[**撮影中**]）を設定することができます。

● **AF速度**



作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（−1〜−7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

＊「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください（🔗）。

注意

● 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

参考

- 機能しないときは、[**AF速度**]を[**標準（0）**]に設定したときと同じ動作になります。
- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、[**AF：動画サーボAF時のAF速度**]の右端に「＊」が表示されます。

動画サーボAFの被写体追従特性

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。
この機能は[**AF：動画サーボAF**]が[**する**]のときに設定することができます。

- **粘る：−3/−2/−1**
  被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

- **敏感：+1/+2/+3**
  AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

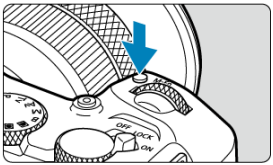
参考

- 機能しないときは、[**0**]に設定したときと同じ動作になります。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2. ドライブモードの項目を選ぶ

- 〈M-Fn〉ボタンを押して、ドライブモードの項目を選びます。

3. ドライブモードを選ぶ

- 〈 〉を回して選びます。

- **［□］1枚撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

- **［高速連続撮影+］**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、［📷：**シャッター方式**］の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。
  - ［**電子先幕**］のとき：最高約6.0コマ／秒
  - ［**電子シャッター**］のとき：最高約40コマ／秒

- **［高速連続撮影］**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、［📷：**シャッター方式**］の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。
  - ［**電子先幕**］のとき：最高約6.0コマ／秒
  - ［**電子シャッター**］のとき：最高約20コマ／秒

- **［低速連続撮影］**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、［📷：**シャッター方式**］の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。
  - ［**電子先幕**］のとき：最高約3.0コマ／秒
  - ［**電子シャッター**］のとき：最高約5.0コマ／秒

- **［セルフタイマー：10秒］**

- **［セルフタイマー：2秒］**

- **［セルフタイマー：連続撮影］**
  セルフタイマー撮影についてはセルフタイマー撮影を参照してください。

注意

- ［**電子先幕**］で［□H］［□H］に設定したときに、連続撮影速度が約6.0コマ／秒となる条件は以下の通りです。
  - 常温（+23°C）
  - フル充電したLP-E17（劣化したバッテリーでは、連続撮影速度が低下することがあります）
  - シャッタースピード：1/500秒以上
  - フリッカー低減処理：なし
  - ストロボ撮影：なし
  - 最高連続撮影速度に対応したレンズの絞り開放時
- ［**電子シャッター**］で［□H］に設定したときに、連続撮影速度が約40コマ／秒となる条件は以下の通りです。
  - シャッタースピード：1/40秒以上

  なお、以下の設定または連続撮影中の操作によっては、連続撮影速度が40コマ／秒以下となることがあります。
  - 撮影モードが〈**Fv**〉〈**P**〉〈**Tv**〉で絞り数値が変化する設定の場合
  - ズーム操作を行った場合
  - 手動でピント合わせを行った場合
  - サーボAFによりフォーカス位置が変化した場合
- サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、連続撮影速度が低下することがあります。
- 最高連続撮影速度に対応するレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください（）。
- ［：**フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定して（）、フリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（6）

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

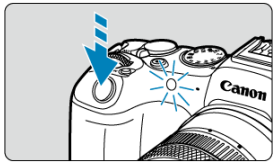
2. ドライブモードの項目を選ぶ

- 〈M-Fn〉ボタンを押して、ドライブモードの項目を選びます。

3. セルフタイマーを選ぶ

- 〈 〉を回して、セルフタイマーを選びます。
  10：10秒後に撮影
  2：2秒後に撮影
  C：10秒後に設定枚数を連続撮影*
  *連続撮影枚数（2～10）は、［ ：**ドライブモード**］またはクイック設定画面で設定します。

4. 撮影する



- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

注意

- ［C］のときは、記録画質や外部ストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。

参考

- ［2］は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（）。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターをタッチするか、〈SET〉ボタンを押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

リモコン撮影

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

リモートスイッチ RS-60E3

「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）、または「リモートスイッチ RS-60E3」（別売／有線）を使用したリモコン撮影を行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラとBR-E1のペアリングを行ってください（）。
操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。

参考

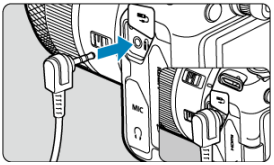
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にBR-E1を使用することもできます。静止画撮影時でも、リモコンのスイッチを動画に設定すれば動画を撮影できます。

リモートスイッチ RS-60E3

カメラに取り付けて、有線でリモコン撮影を行うことができます。
操作方法については、RS-60E3の使用説明書を参照してください。

1. **端子カバーを開ける**

2. **リモコン端子にプラグを取り付ける**



操作をカスタマイズする

AFエリアを〈 〉で切り換える

ゾーンAFフレームのサイズを変更する

AFをカスタマイズする方法を紹介します。

AFエリアを〈 〉で切り換える

〈 〉に、AFエリアの選択を割り当てることができます。

1. **[: ダイヤル カスタマイズ] で [ ] を選ぶ**

2. **[AFエリア選択] を選ぶ**

- 〈 〉でAFエリアを切り換えることができます。

参考

- フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2およびフレキシブルゾーンAF3を切り換えて使用するときは、あらかじめゾーンAFフレームを好みのサイズに変更しておくと便利です（）。

ゾーンAFフレームのサイズを変更する

フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、およびフレキシブルゾーンAF3で表示される、ゾーンAFフレームのサイズを変更します。

1. **撮影画面で〈[⊡]〉ボタンを押す**

2. **〈M-Fn〉ボタンを押す**

3. **〈M-Fn〉ボタンを何度か押して、フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、またはフレキシブルゾーンAF3のいずれかを選び、〈[⊡]〉ボタンを押す**

4. ゾーンAFフレームのサイズを変更する

- 〈 〉 〈 〉でゾーンAFフレームのサイズを変更し、〈 〉ボタンを押します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、初期設定に戻ります。

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「[▶]：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

注意

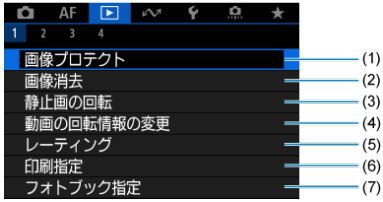
- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

- メニュー目次：再生タブ
- 画像の再生
- 画像の拡大表示
- インデックス表示（複数画像表示）
- 動画の再生
- 動画の前後部分のカット
- 4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し
- ダイジェスト動画の編集
- テレビで見る
- 画像プロテクト
- 画像消去
- 静止画の回転
- 動画の回転情報の変更
- レーティング
- 印刷指定／DPOF
- フォトブック指定
- RAW現像
- クリエイティブアシスト
- クイック設定からのRAW現像
- クラウドRAW現像
- 再生時クリエイティブフィルター
- JPEG/HEIF画像のリサイズ
- JPEG/HEIF画像のトリミング
- HEIF画像をJPEG画像に変換
- スライドショー
- 画像検索の条件設定
- 前回の画像から再生
- メイン電子ダイヤルでの画像送り

- 再生する情報の設定
- ハイライト警告表示
- AFフレーム表示
- 再生時のグリッド
- 動画再生カウント
- HDMI HDR出力
- RAWバースト画像からの静止画の切り出し

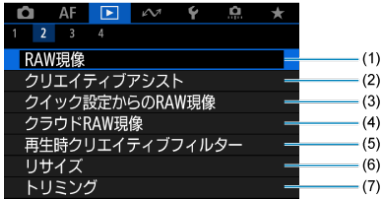
メニュー目次：再生タブ

- **再生1**



(1) 画像プロテクト
(2) 画像消去
(3) 静止画の回転
(4) 動画の回転情報の変更
(5) レーティング
(6) 印刷指定
(7) フォトブック指定

- **再生2**

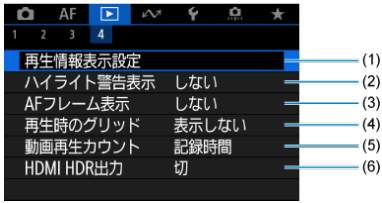


(1) RAW現像
(2) クリエイティブアシスト
(3) クイック設定からのRAW現像
(4) クラウドRAW現像
(5) 再生時クリエイティブフィルター
(6) リサイズ
(7) トリミング

● **再生3**

(1) HEIF→JPEG変換
(2) スライドショー
(3) 画像検索の条件設定
(4) 前回の画像から再生
(5) 拡大設定
(6) での画像送り

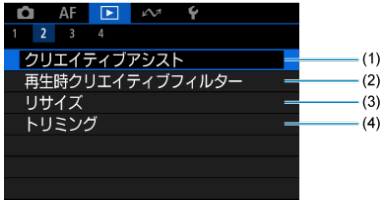
● **再生4**



(1) 再生情報表示設定
(2) ハイライト警告表示
(3) AFフレーム表示
(4) 再生時のグリッド
(5) 動画再生カウント
(6) HDMI HDR出力

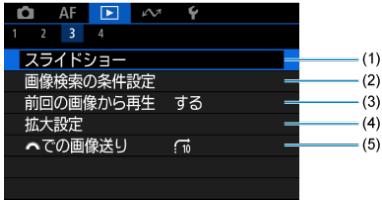
かんたん撮影ゾーンのときは、[▶2]［[▶3]は以下の画面が表示されます。

● **再生2**



(1) クリエイティブアシスト
(2) 再生時クリエイティブフィルター
(3) リサイズ
(4) トリミング

● **再生3**



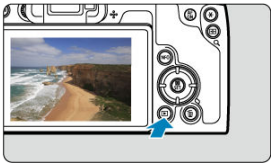
(1) スライドショー
(2) 画像検索の条件設定
(3) 前回の画像から再生
(4) 拡大設定
(5) での画像送り

画像の再生

- 1枚表示
- 撮影情報表示
- タッチ再生

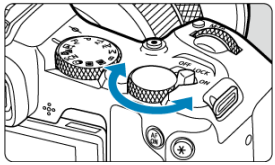
1枚表示

1. **画像を再生する**

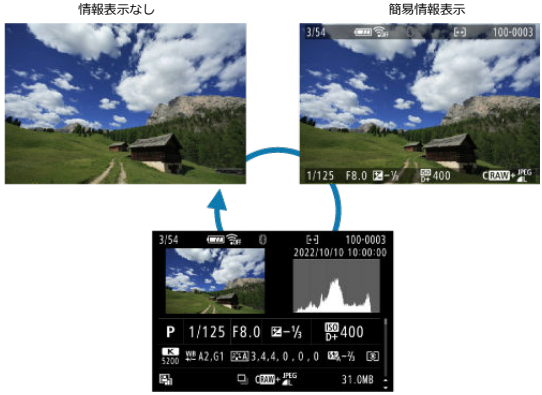


- 〈▶〉ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2. 画像を選ぶ



- 〈 〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



撮影情報表示

3. 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

参考

- [📷：**静止画クロップ/アスペクト**]を[**1:1（アスペクト）**][**4:3（アスペクト）**][**16:9（アスペクト）**]に設定して（🔗）撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- [▶：**画像検索の条件設定**]で検索条件が設定されているときは（🔗）、絞り込まれた画像だけが表示されます。
- [📷：**トリミング情報の付加**]を[**しない**]以外に設定して（🔗）撮影した画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。

撮影情報表示

撮影情報表示の画面（）が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶：**再生情報表示設定**]で任意に設定することができます（）。

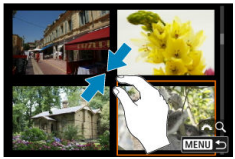
タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

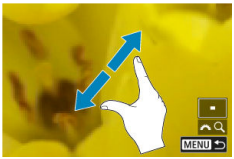
画像送り

ジャンプ表示

インデックス表示



拡大表示



参考

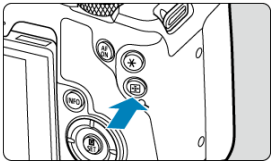
- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

画像の拡大表示

- 拡大開始倍率を設定する
- 拡大開始位置を設定する
- 画像送りしたときの拡大位置の継続

撮影した画像を拡大して表示することができます。

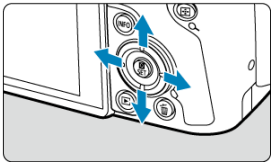
1. 画像を拡大する



- 〈Q〉ボタンを押します。

- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置（1）と［Q］が表示されます。
- 〈 〉を右に回すたびに拡大します。
- 〈 〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（ ）になります。

2. 表示位置を移動する



- 〈✣〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈MENU〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

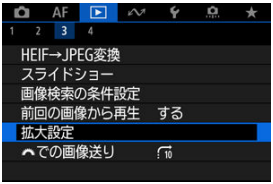
参考

- 〈☜〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 動画は拡大表示できません。

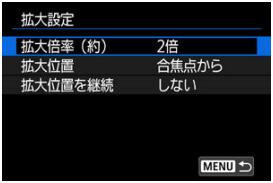
拡大開始倍率を設定する

拡大表示を開始したときの表示倍率を設定することができます。

1. **[▶：拡大設定]を選ぶ**



2. **[拡大倍率（約）]を選ぶ**



3. 項目を選ぶ

- **1倍／2倍／4倍／8倍／10倍**

  選択した倍率で拡大表示が始まります。

- **等倍**

  記録画像の画素を約100%で表示します。

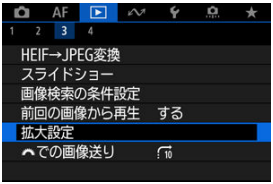
- **前回と同じ倍率**

  前回、〈[▶]〉ボタンまたは〈🔍〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、拡大表示が始まります。

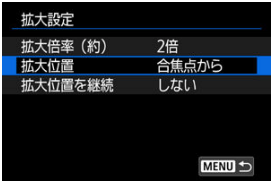
拡大開始位置を設定する

拡大表示を開始したときの表示位置を設定することができます。

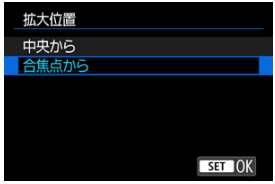
1. **[▶：拡大設定]を選ぶ**



2. **[拡大位置]を選ぶ**



3. 項目を選ぶ



- **中央から**

  画面中央から拡大表示が始まります。

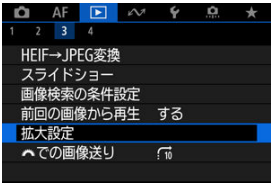
- **合焦点から**

  ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

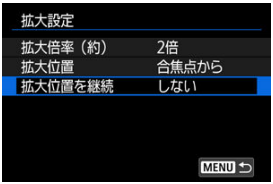
画像送りしたときの拡大位置の継続

拡大表示中に画像送りをしたとき、現在表示中の拡大位置を継続するか、[**拡大位置**]で設定した位置で表示するか、設定することができます。

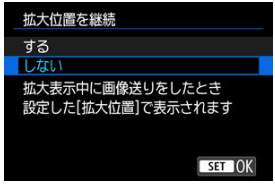
1. **[▶:拡大設定]を選ぶ**



2. **[拡大位置を継続]を選ぶ**



3. 項目を選ぶ



- **する**

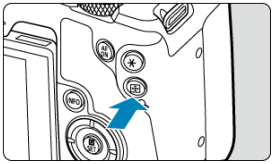
  拡大表示中に画像送りをしたとき、現在表示中の拡大位置を継続します。

- **しない**

  拡大表示中に画像送りをしたとき、［**拡大位置**］で設定した位置で表示されます。

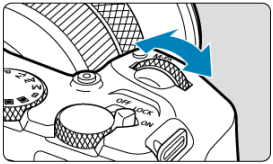
インデックス表示（複数画像表示）

1. 〈Q〉ボタンを押す

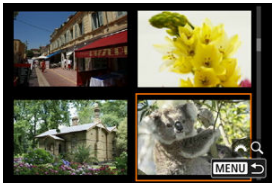


- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- 画面右下に［Q］が表示されます。

2. インデックス表示にする



- 画像を再生した状態で〈 〉を左に回します。



- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈 〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

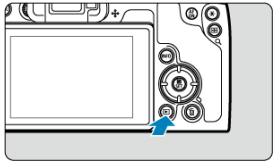
MENU
MENU
MENU
MENU
MENU

3. 画像を選ぶ

- 〈✣〉または〈 〉を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈 〉ボタンを押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

動画の再生

1. 画像を再生する



● 〈[▶]〉ボタンを押します。

2. 動画を選ぶ

● 〈 〉を回して再生する動画を選びます。

● 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像が動画です。

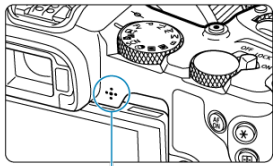
● インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈〉ボタンを押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態で〈(SET)〉ボタンを押す

- 再生のクイック設定画面が表示されます。

4. 動画を再生する

- 〈(SET)〉ボタンを押します。



- 動画再生が始まります。音がスピーカー（1）から再生されます。
- 再生中に〈(SET)〉ボタンを押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 〈▲〉〈▼〉を押すと、再生中でも音量を調整することができます。

動画再生パネル

項目	再生内容
前スキップ	〈◀〉を押すたびに約1秒戻します。〈◀〉を押し続けると早戻しします。
フレーム戻し	〈〉を左（または〈〉を右）に回すたびに1コマ戻します。
再生	〈〉ボタンを押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
フレーム送り	〈〉を右（または〈〉を左）に回すたびに1コマ送ります。
次スキップ	〈▶〉を押すたびに約1秒送ります。〈▶〉を押し続けると早送りします。
	再生位置
hh:mm:ss	再生時間（hh：時、mm：分、ss：秒／［**動画再生カウント**：**記録時間**］設定時）
hh:mm:ss.ff（DF） **hh:mm:ss:ff**（NDF）	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント**：**タイムコード**］設定時）
音量	〈▲〉〈▼〉を押すと、スピーカー（）の音量を調整することができます。
	〈〉ボタンを押すと、次の画面に進みます（）。
MENU	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示に戻ります。

動画再生パネル（ダイジェスト動画）

項目	再生内容
前のチャプター	〈◀〉を押すと、前のチャプターの先頭画面を表示することができます。
フレーム戻し	〈 〉を左（または〈 〉を右）に回すたびに1コマ戻します。
再生	〈SET〉ボタンを押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
フレーム送り	〈 〉を右（または〈 〉を左）に回すたびに1コマ送ります。
次のチャプター	〈▶〉を押すと、次のチャプターの先頭画面を表示することができます。
	再生位置
hh:mm:ss	再生時間（hh：時、mm：分、ss：秒）
音量	〈▲〉〈▼〉を押すと、スピーカー（）の音量を調整することができます。
	〈 〉ボタンを押すと、次の画面に進みます（）。
MENU	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示に戻ります。

前の2画面と異なる項目のみ説明します。

項目	再生内容
編集	編集画面を表示します（）。
スロー再生	〈〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
チャプター消去*	再生中のチャプターを削除します。
フレーム切り出し	4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像／HEIF画像）として保存することができます（）。
MENU	〈MENU〉ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

＊ダイジェスト動画再生時のみ表示

注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈▲〉 〈▼〉を押しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

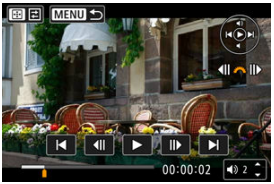
参考

- ダイジェスト動画を再生中に、〈◀〉 〈▶〉を押すと、前後のチャプターの先頭に送ることができます。

動画の前後部分のカット

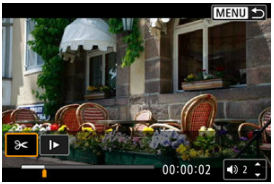
撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1. **動画を再生し、〈(SET)〉ボタンを押して一時停止させる**



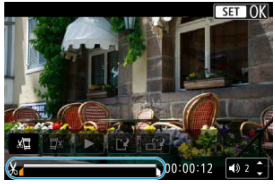
- 動画再生パネルが表示されます。

2. **〈▪▪〉ボタンを押して、[✂]を選ぶ**



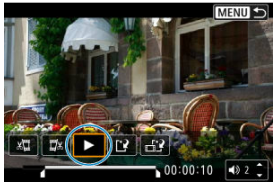
3. 削除する範囲を指定する

- [✂]（前部を削除）か、[✂]（後部を削除）を選びます。



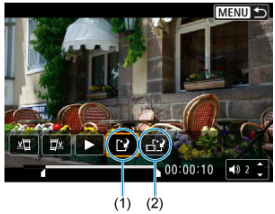
- 〈◀〉〈▶〉を押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。〈◯〉を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈㊗〉ボタンを押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

4. 編集内容を確認する



- [▶]を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

5. 保存する



- [ ]（1）を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選びます。
  ［ ］（2）を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存します。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

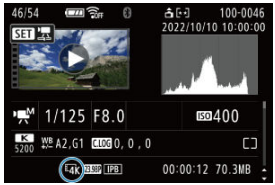
注意

- 約1秒単位（画面下部に［ ］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- 下記の動画は、圧縮して新規保存はできません。
  - ［ ：**HDR撮影 HDR PQ**］を［**する**］に設定して撮影した動画
  - ［ ：**Canon Log設定**］を［**入(C.LOG3)**］に設定して撮影した動画
  - 動画記録サイズが FHD 29.97P IPB（NTSC）／FHD 25.00P IPB（PAL）／FHD 23.98P IPB（NTSC）の動画
  - バッテリーの残量が少ない場合は、動画の圧縮が行われないことがあります。バッテリーを充電するか、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
  - 長時間の動画を編集するときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し

4K動画、4Kタイムラプス動画から任意のフレームを選び、静止画（JPEG画像、HEIF画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し」といいます。

1. 4K動画または4Kタイムラプス動画を選ぶ



- 〈 〉を回して選びます。
- 撮影情報表示の画面（ ）で［ ］と表示されている画像が4K動画／4Kタイムラプス動画です。
- インデックス表示のときは、〈 〉ボタンを押して1枚表示にします。

2. 1枚表示の状態で〈 〉ボタンを押す

- 再生のクイック設定画面が表示されます。

3. 動画を再生する

- 〈 〉ボタンを押します。

4. 〈SET〉ボタンを押して動画を一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

5. 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法は、動画再生パネルを参照してください。

6. 〈⊞〉ボタンを押して、[ ]を選ぶ

7. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。
  ［📷：**HDR撮影HDR PQ**］を［**する**］に設定して撮影した動画からフレームを切り出した場合は、HEIF画像で保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

8. 表示する画像を選ぶ

- ［**元の動画**］または［**切り出した静止画**］を選びます。

注意

- 下記の4K動画からは、フレームを切り出すことはできません。
  - ［📷：**Canon Log設定**］を［**入(C.LOG3)**］に設定して撮影した動画
  - 他のカメラで撮影した動画
- カメラとパソコンを接続しているときはフレーム切り出しできません。

ダイジェスト動画の編集

〈 〉モードで作成されたチャプターを1つずつ選んで消すことができます。消したチャプターは元に戻すことはできないため、十分に確認してから消してください。

1. 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2. ダイジェスト動画付きの静止画を選ぶ

- 〈 〉を回してダイジェスト動画付きの静止画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像がダイジェスト動画付きの静止画です。
- インデックス表示のときは、〈Q〉ボタンを押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態で〈Q〉ボタンを押す

- 再生のクイック設定画面が表示されます。

4. ダイジェスト動画を再生する

- 〈(SET)〉ボタンを押します。

5. 〈(SET)〉ボタンを押してダイジェスト動画を一時停止させる

6. チャプターを選ぶ

- [◀◀] または [▶▶] でチャプターを選びます。

7. チャプターを消去する

- 〈▦〉ボタンを押し、[🗑] を選びます。

8. ［OK］を選ぶ

- チャプターが消去され、上書き保存されます。

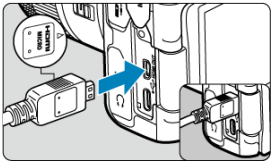
参考

- ダイジェスト動画の動画再生パネルのその他の操作方法については、動画再生パネル（ダイジェスト動画）を参照してください。

テレビで見る

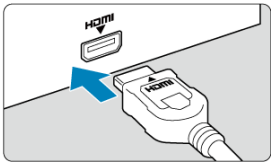
カメラとテレビを市販のHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。
なお、**テレビに映像が表示されないときは、[: ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください**（テレビが対応している方式に合わせてください）。

1. **HDMIケーブルをカメラに接続する**



- HDMIケーブルを、カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2. **テレビにHDMIケーブルを接続する**

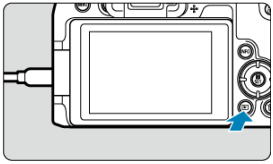


- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3. **テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ**

4. **カメラの電源スイッチを〈ON〉にする**

5. 〈▶〉ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます（カメラのモニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、[🔧：**HDMI出力解像度**]を[**1080p**]に設定してください（🔗）。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

画像プロテクト

- 1枚ずつプロテクト
- 範囲を指定してプロテクト
- フォルダ内／カード内全画像プロテクト

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

注意

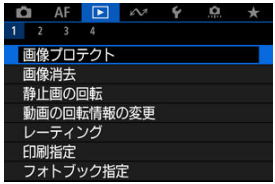
- カードを初期化すると（）、プロテクトされた画像も消去されます。

参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

1枚ずつプロテクト

1. **[▶：画像プロテクト]を選ぶ**



2. ［画像を選択］を選ぶ

3. プロテクトする画像を選ぶ

- 〈 〉を回してプロテクトする画像を選びます。

4. プロテクトする

- 〈 〉ボタンを押すと画像がプロテクトされ、画面の上に［ ］(1)が表示されます。
- もう一度〈 〉ボタンを押すと、プロテクトが解除され［ ］が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ

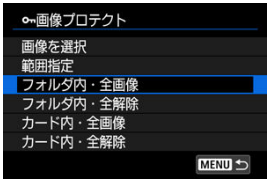
- ［[▶]：**画像プロテクト**］の［**範囲指定**］を選びます。

2. 範囲を指定する

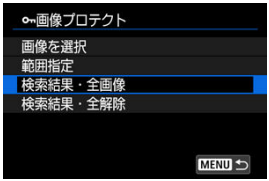
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、［🔑］が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- [▶：**画像プロテクト**]で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。
- [▶：**画像検索の条件設定**]で検索条件が設定されているときは（🔍）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］［**検索結果・全解除**］に変わります。



- ［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- ［**検索結果・全解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

画像消去

- 1枚ずつ消去
- チェック［✓］を付けてまとめて消去
- 範囲を指定して消去
- フォルダ内／カード内全画像消去

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（🔑）をかけた画像は消去されません。

注意

- **消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。**

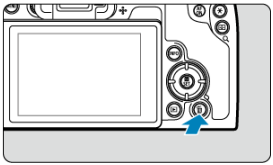
1枚ずつ消去

1. **〈▶〉ボタンを押す**

2. **消去する画像を選ぶ**

   - 〈☜〉を回して消去する画像を選びます。

3. **〈🗑〉ボタンを押す**



4. 消去する

JPEG画像／HEIF画像／RAW画像／動画

- ［**消去**］を選びます。

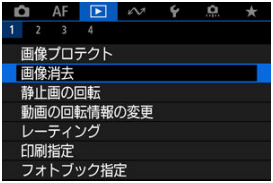
RAW＋JPEG画像／RAW+HEIF画像

- 項目を選びます。
- ドライブモードを［□L］［□H］［□］に設定して撮影した画像を再生しているときは、［**この画像を含む連写画像全てを消去**］を選ぶと連続撮影された画像がまとめて消去されます。

チェック［√］を付けてまとめて消去

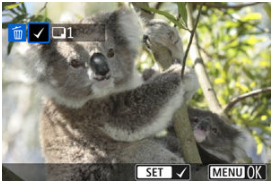
消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1. **［▶：画像消去］を選ぶ**



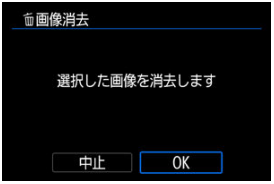
2. **［選択して消去］を選ぶ**

3. **画像を選ぶ**



- 〈 〉を回して消去する画像を選び、〈(SET)〉ボタンを押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

4. 消去する

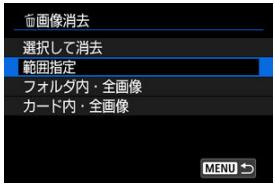


- ［**OK**］を選びます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ



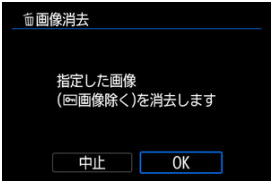
- ［▶：**画像消去**］の［**範囲指定**］を選びます。

2. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉ボタンを押す

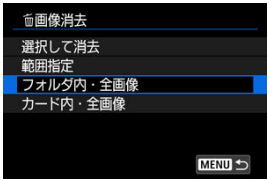
4. 消去する



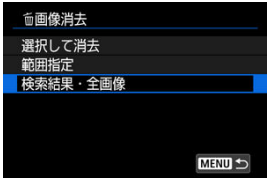
- ［**OK**］を選びます。

フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



- ［▶：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- ［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（🖉）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］に変わります。



- ［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

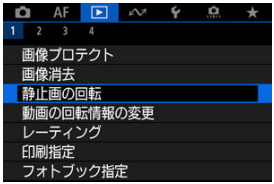
参考

- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います（🖉）。

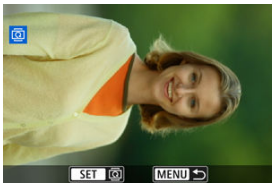
静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

1. **[▶：静止画の回転]を選ぶ**

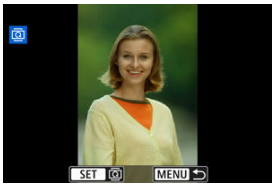


2. **回転させる画像を選ぶ**



- 〈 〉を回して画像を選びます。

3. **回転させる**



- 〈 〉ボタンを押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

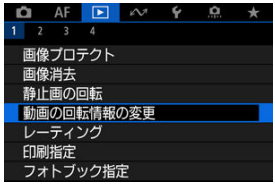
参考

- [：**縦位置画像回転表示**]を[**する**]（）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、[：**縦位置画像回転表示**]を[**する**]に設定します。
- 動画は回転できません。

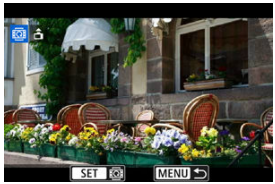
動画の回転情報の変更

動画再生時の回転情報（上の向きの情報）を手動で書き換えることができます。

1. [▶：動画の回転情報の変更]を選ぶ

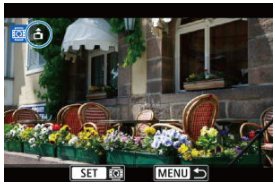


2. 動画を選ぶ



- 〈 〉を回して回転情報を変更する動画を選びます。

3. 回転情報を変更する



- 画面左上に表示されるカメラと▲を見ながら、〈 〉ボタンを押して、上の向きを設定します。〈 〉ボタンを押すたびに［ ］→［ ］→［ ］の順に動画の回転情報が書き換わります。

注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、[**縦位置情報の付加**]（）の設定に関わらず、横位置で再生されます。
- 他のカメラで撮影した動画は、動画の回転情報の書き換えはできません。

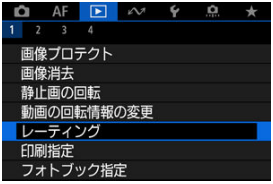
レーティング

- 1枚ずつレーティング
- 範囲を指定してレーティング
- フォルダ内／カード内全画像レーティング

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[★1]/[★2]/[★3]/[★4]/[★5]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。
＊レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

1枚ずつレーティング

1. **[▶ : レーティング] を選ぶ**



2. **[画像を選択] を選ぶ**

3. レーティングする画像を選ぶ

- 〈 〉を回してレーティングする画像を選びます。

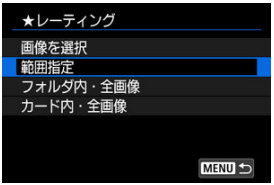
4. レーティングを設定する

- 〈 〉ボタンを押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈 〉を回してお気に入りマークを選び、〈 〉ボタンを押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ



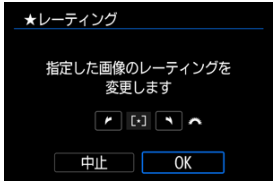
- ［[▶]：**レーティング**］の［**範囲指定**］を選びます。

2. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉ボタンを押す

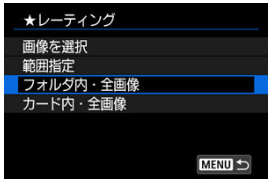
4. レーティングを設定する



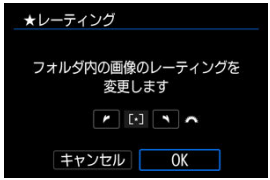
- 〈 〉でお気に入りマークを選び、[**OK**]を選びます。
  指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内／カード内全画像レーティング

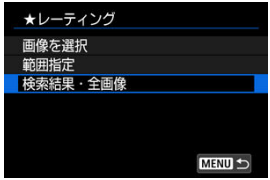
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- [▶：**レーティング**]で[**フォルダ内・全画像**]または[**カード内・全画像**]を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



- 〈 〉でレーティングを選び、[**OK**]を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは[OFF]を選びます。
- [▶：**画像検索の条件設定**]で検索条件が設定されているときは（ ）、表示される内容が[**検索結果・全画像**]に変わります。



- [**検索結果・全画像**]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると［＃＃＃］と表示されます。
- ［▶：**画像検索の条件設定**］［▶：**での画像送り**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

印刷指定／DPOF

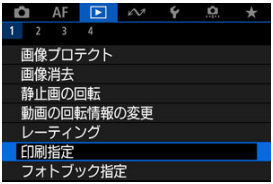
印刷内容の設定

印刷する画像の指定

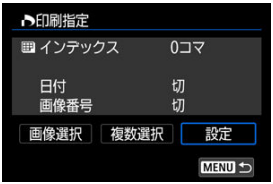
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定

1. **［▶：印刷指定］を選ぶ**



2. **［設定］を選ぶ**

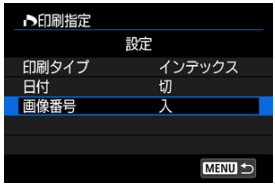


3. 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。

印刷タイプ		**スタンダード**	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	**入**	［**入**］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	**入**	［**入**］にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4. 設定を終了する



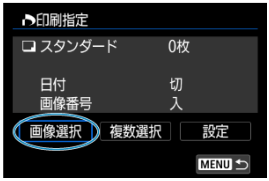
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**複数選択**］で、印刷する画像を指定します。

注意

- 画像サイズが大きい画像を［**インデックス**］［**両方**］の設定で印刷すると（）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（）インデックス印刷を行ってください。
- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像の指定

画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

- **スタンダード／両方**

（1）指定枚数
（2）総指定枚数

〈㊗〉ボタンを押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈 〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

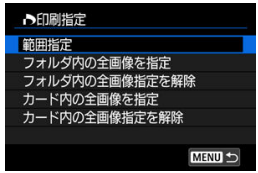
- **インデックス**

（3）チェックマーク
（4）インデックスマーク

〈㊗〉ボタンを押して［✓］を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

複数選択

● 範囲指定



［**複数選択**］の［**範囲指定**］を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

［▶］：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（🔍）、［**複数選択**］を選んだときに、表示される内容が［**検索結果の全画像を指定**］［**検索結果の全画像の指定解除**］に変わります。

● 検索結果の全画像

［**検索結果の全画像を指定**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
［**検索結果の全画像の指定解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

注意

- RAW/HEIF画像と動画は印刷指定できません。また、［**複数選択**］でまとめて印刷指定を行っても、RAW/HEIF画像と動画は指定されません。

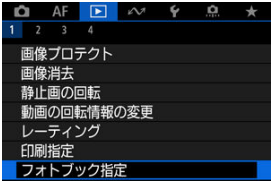
フォトブック指定

- 1枚ずつ指定
- 範囲を指定してフォトブック指定
- フォルダ内／カード内全画像指定

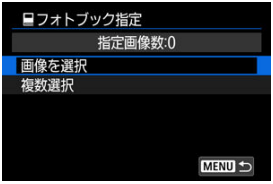
フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

1枚ずつ指定

1. **[▶：フォトブック指定]を選ぶ**



2. **[画像を選択]を選ぶ**



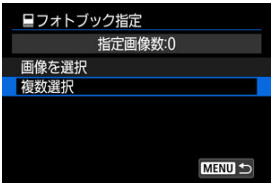
3. 指定する画像を選ぶ

- 〈 〉で指定する画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

範囲を指定してフォトブック指定

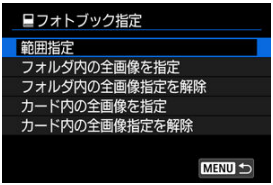
インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。

1. ［複数選択］を選ぶ

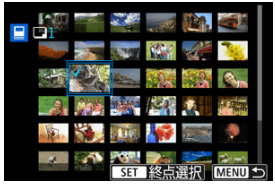


- ［▶：**フォトブック指定**］の［**複数選択**］を選びます。

2. ［範囲指定］を選ぶ



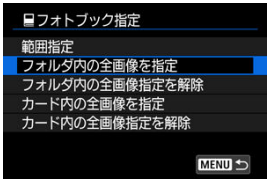
3. 範囲を指定する



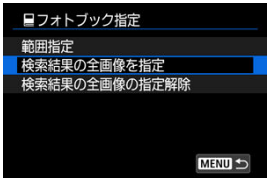
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



[▶：**フォトブック指定**］の［**複数選択**］で［**フォルダ内の全画像を指定**］または［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
解除するときは［**フォルダ内の全画像指定を解除**］または［**カード内の全画像指定を解除**］を選びます。
[▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（🔍）、［**複数選択**］を選んだときに、表示される内容が［**検索結果の全画像を指定**］［**検索結果の全画像の指定解除**］に変わります。



［**検索結果の全画像を指定**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。
［**検索結果の全画像の指定解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

注意

- RAW/HEIF画像と動画はフォトブック指定できません。また、［**複数選択**］でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW/HEIF画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

RAW現像

- 拡大表示
- アスペクト比を設定した画像の現像
- 現像処理の項目

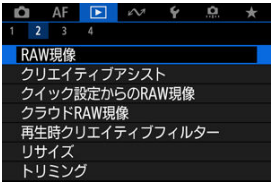
RAWまたはC RAWで撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像やHEIF画像を作ることができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像やHEIF画像を何枚も作ることができます。
RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

注意

- 拡張ISO感度（L、H）で撮影したRAW、C RAWはHEIFに現像できません。

---

1. **[▶：RAW現像]を選ぶ**



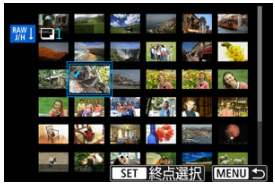
2. 項目を選び、画像を選択する

- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

画像を選択

- 〈 〉を回して現像する画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

範囲指定



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に現像したい画像があるときは、この手順を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

3. 現像条件を設定する

撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。
- [📷：**HDR PQ設定**]を[**する**]に設定して撮影した画像はHEIFに、[**しない**]に設定して撮影した画像はJPEGに現像されます。

細かく設定してJPEGに現像／細かく設定してHEIFに現像

- 〈✣〉で項目を選びます。
- 〈〉〈〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈〉ボタンを押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと、確認画面が表示され、[**OK**]を選ぶと設定内容がリセットされます。

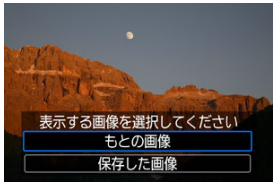
比較画面について

- 〈INFO〉ボタンを押して〈〉を回すと、[**変更後**]と[**撮影時設定**]を切り換えることができます。
- [**変更後**]のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、現像条件の設定画面に戻ります。

4. 保存する

- ［**細かく設定してJPEGに現像**］［**細かく設定してHEIFに現像**］のときは［[↵]（保存）を選びます。
- 内容を確認し、［**OK**］を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは［**はい**］を選び、手順2～4を繰り返します。

5. 表示する画像を選ぶ



- ［**もとの画像**］または［**保存した画像**］を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

拡大表示

［**細かく設定してJPEGに現像**］［**細かく設定してHEIFに現像**］を選んだあと、表示された画面で〈🔍〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、［**記録画質**］の設定により異なります。〈✥〉で拡大表示位置を変えることができます。
もう一度〈🔍〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

注意

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**強め**］に設定して現像を行ったときの効果は、拡大表示時のみ反映されます。通常表示には反映されません。

アスペクト比を設定した画像の現像

［**静止画クロップ/アスペクト**］（）を［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像やHEIF画像が作られます。

現像処理の項目

☀±0 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。

AWB ホワイトバランス（）

ホワイトバランスを選ぶことができます。［AWB］を選んだときは、［**オート(雰囲気優先)**］［**オート(ホワイト優先)**］を選ぶことができます。［K］を選んだときは、色温度を設定することができます。

ピクチャースタイル（）

ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は［A］［1］［2］［3］は選択できません。

±0 明瞭度（）

明瞭度を、-4～+4の範囲で変更することができます。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は選択できません。

オートライティングオプティマイザ（）

オートライティングオプティマイザの内容を設定します。

NR 高感度撮影時のノイズ低減（）

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で確認してください。

L 記録画質（）

JPEG画像、HEIF画像は生成する際の記録画質を設定することができます。

sRGB 色空間（）

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は［HDR PQ］が表示されますが、選択はできません。

レンズ光学補正

周辺光量補正（）

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。[**する**]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（）で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

歪曲収差補正（）

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。[**する**]を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

デジタルレンズオプティマイザ（）

レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。[**強め**]/[**標準**]設定時の効果は拡大表示（）で確認してください。[**強め**]設定時に画像全体を表示しているときは、デジタルレンズオプティマイザの効果は反映されません。なお、[**強め**]/[**標準**]を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに[**する**]で現像されます。

色収差補正（）

レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。[**する**]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で確認してください。

- **OFF 回折補正（）**

  レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で確認してください。

注意

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- ［**明るさ補正**］を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、撮影条件により画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**強め**］に設定しているときは、現像に時間がかかります。

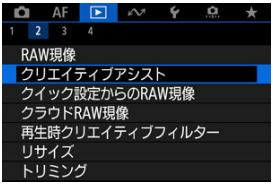
参考

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。

クリエイティブアシスト

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。

1. **[▶ : クリエイティブアシスト] を選ぶ**



2. **画像を選ぶ**

- 〈 〉を回して現像する画像を選び、〈 〉ボタンを押します。

3. 効果を選ぶ

- 〈 〉を回して効果を選びます。

- ［**プリセット**］を選んで〈 〉ボタンを押すと、［**VIVID**］や［**SOFT**］など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、［**AUTO1**］［**AUTO2**］［**AUTO3**］は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。

- ［**明るさ**］［**コントラスト**］などは、〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉を回して効果を選びます。
- 調整が終了したら〈 〉ボタンを押します。

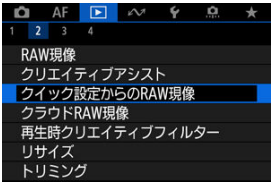
- 〈🗑〉ボタンを押すと、確認画面が表示され、[**OK**]を選ぶと設定内容がリセットされます。
- 〈⊡〉ボタンを押して効果を確定します。

4. [OK]を選んで保存する

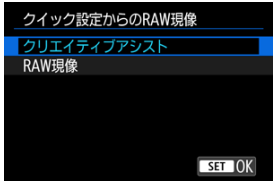
クイック設定からのRAW現像

クイック設定画面から行うRAW現像の種類を選ぶことができます。

1. **[▶ : クイック設定からのRAW現像]を選ぶ**



2. 項目を選ぶ



- **クリエイティブアシスト**

好みの効果を付けたRAW現像ができます（🔗）。

- **RAW現像**

条件を設定したRAW現像ができます（🔗）。

クラウドRAW現像

- 現像可能枚数を確認する
- 現像する画像を追加する
- 選択済みの画像を確認/取り消し
- 画像を送信する

RAWまたはCRAWで撮影した画像をimage.canonへ送信し、JPEG画像やHEIF画像を作ることができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像やHEIF画像を何枚でも作ることができます。

注意

- 事前に、image.canonへの会員登録（無料）が必要です。
  なお、クラウドRAW現像を行うには、有償プランへの加入が必要です。有償プランの加入方法は、image.canon のサイトをご覧ください。
- 現像処理で生成した画像はimage.canon に保存されます。カメラ内には保存されません。

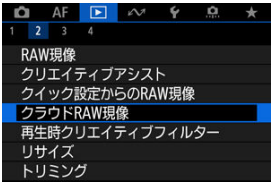
参考

- あらかじめimage.canonへカメラを接続しておいてください（）。

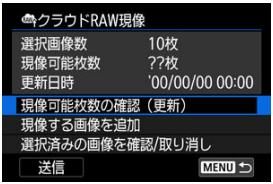
現像可能枚数を確認する

image.canonで現像可能な画像枚数を確認できます。

1. **[▶ : クラウドRAW現像]を選ぶ**

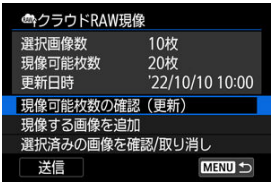


2. **[現像可能枚数の確認（更新）]を選ぶ**



- カメラがimage.canonに接続されます。

3. **[現像可能枚数]を確認する**



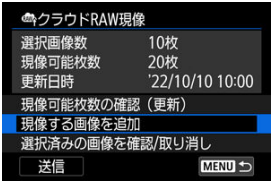
- [**現像可能枚数**]が更新されます。

注意

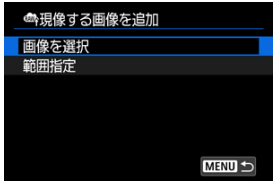
- クラウドRAW現像の有償プランに加入していないと［**現像可能枚数**］は「0」となります。未加入の状態で現像可能枚数の確認の操作を行うと、image.canon に登録のメールアドレスに有償プランの加入案内のメールが送信されます。

現像する画像を追加する

1. **［現像する画像を追加］を選ぶ**

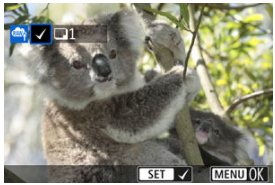


2. 項目を選び、画像を選択する



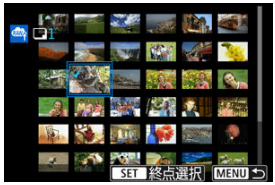
- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

画像を選択



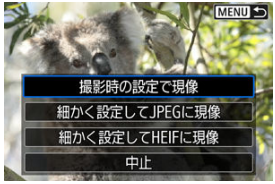
- 〈 〉を回して現像する画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

範囲指定



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に現像したい画像があるときは、この手順を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

3. 現像条件を設定する



撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。
- ［📷：**HDR撮影** HDR PQ］を［**する**］に設定して撮影した画像はHEIFに、［**しない**］に設定して撮影した画像はJPEGに現像されます。

細かく設定してJPEGに現像／細かく設定してHEIFに現像

- 〈✥〉で項目を選びます。
- 〈⚙〉〈⚙〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈SET〉ボタンを押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、［**リセットしますか?**］と表示され、［**OK**］を選ぶと撮影時の設定に戻ります。

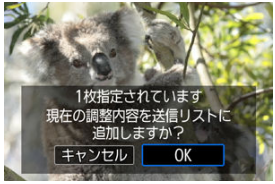
比較画面について

- 〈INFO〉ボタンを押して〈⚙〉を回すと、［**変更後**］と［**撮影時設定**］を切り換えることができます。
- ［**変更後**］のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、現像条件の設定画面に戻ります。

4. ［保存］を選ぶ

- ［**細かく設定してJPEGに現像**］［**細かく設定してHEIFに現像**］のときは［[保存]（保存）を選びます。

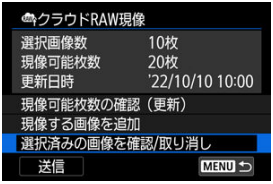
5. 送信リストに追加する



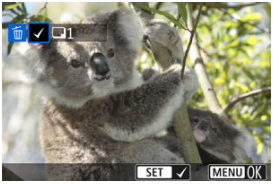
- 内容を確認し、［**OK**］を選びます。

選択済みの画像を確認/取り消し

1. **[選択済みの画像を確認/取り消し]を選ぶ**

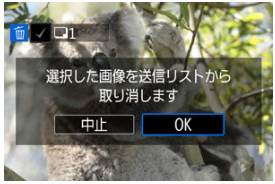


2. **画像を選ぶ**



- 〈 〉を回して画像を確認します。
- 送信を取り消したい画像は、〈 〉ボタンを押します。
  [✓]が表示されます。
- 〈 〉ボタンを押すと、画像の現像条件を確認することができます。
- 画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

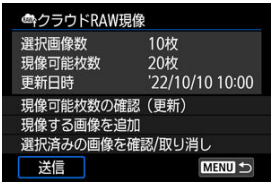
3. 選択した画像の送信を取り消す



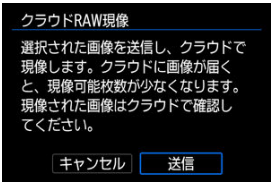
- 送信を取り消した画像があるときは、メッセージが表示されますので、［**OK**］を選びます。

画像を送信する

1. **［送信］を選ぶ**



2. **メッセージを確認する**



- メッセージの内容を確認し、［**送信**］を押します。
- 現像を受け付けたときと現像が完了したときに、Canon IDに登録されているメールアドレス宛に送信されます。

注意

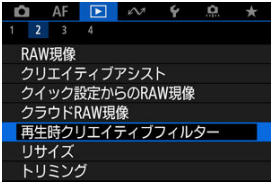
- 画像の送信中に通信エラー［**Err 138**］が発生すると、指定画像数、および現像可能枚数の更新が正しく行われない場合があります。なお、指定画像数、および現像可能枚数が更新されていなくても、サーバーで現像を行っている場合があります。現像完了のメールが届くまでお待ちください。
- ［**画像を送信**］画面で［**送信中止**］を選んでもカメラは画像の送信を続けています。送信をキャンセルするには、アクセスランプが点滅中に［**送信を中止します**］画面で［**OK**］を選んでください。
- ［**送信を中止します**］画面で［**OK**］を選んだタイミングによっては、送信を中止できず、サーバーで現像が行われることがあります。

再生時クリエイティブフィルター

各クリエイティブフィルターの特徴

撮影した静止画に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。

1. **[▶ : クリエイティブフィルター] を選ぶ**



2. **画像を選ぶ**

- 〈 〉を回して画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます（ ）。

3. フィルター効果を選ぶ（🎨）

4. フィルター効果を調整する

- フィルター効果を調整し、〈(SET)〉ボタンを押します。
- [**ジオラマ風**]は、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させることができます。
  - [⊡]をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。また、ジオラマ枠が横向きの場合は〈◀〉〈▶〉、縦向きの場合は〈▲〉〈▼〉を押しても、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
  - 〈☀〉〈☀〉で、ジオラマ枠が移動します。
    〈INFO〉ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
  - 〈(SET)〉ボタンを押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。

5. 保存する

- ［**OK**］を選びます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［**OK**］を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

参考

- RAW画像は選択できません。なお、RAW＋JPEGで撮影した画像は、JPEG画像を使ってフィルター処理を行い、保存します。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ（）は付加されません。
- タイムラプス動画の試し撮りの静止画には、再生時クリエイティブフィルターは適用できません。

各クリエイティブフィルターの特徴

ラフモノクロ

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

ソフトフォーカス

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

魚眼風

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。
また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4（）でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

油彩風

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

水彩風

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

トイカメラ風

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

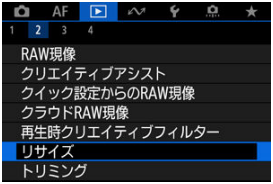
ジオラマ風

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は手順4（）を参照してください。

JPEG/HEIF画像のリサイズ

撮影したJPEG画像、HEIF画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、S2以外のL、M、S1のJPEG/HEIF（RAW＋JPEG/RAW＋HEIFも含む）で撮影した画像で行うことができます。S2、RAWで撮影した画像や4K動画から切り出した画像は、リサイズできません。

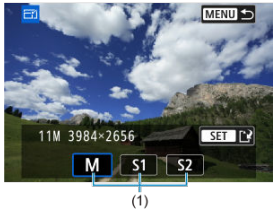
1. [▶：リサイズ] を選ぶ



2. 画像を選ぶ

- 〈☞〉を回してリサイズする画像を選びます。
- 〈㊗〉ボタンを押すと、画像サイズが表示されます。

3. 画像サイズを選ぶ



- リサイズする画像サイズ（1）を選びます。

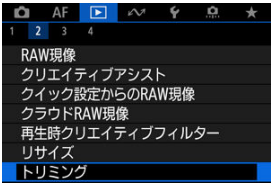
4. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［**OK**］を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

JPEG/HEIF画像のトリミング

撮影したJPEG画像、HEIF画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。RAWで撮影した画像や、4K動画から切り出しした画像は、トリミングできません。

1. **[▶:トリミング]を選ぶ**



2. **画像を選ぶ**

- 〈 〉を回してトリミングする画像を選びます。
- 〈 〉ボタンを押すと、トリミング枠が表示されます。

3. トリミング枠の設定を行う

- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

- **枠の大きさを変える**

  〈 〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

- **傾きを補正する**

  ±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈 〉を回して［ ］を選び、〈 〉ボタンを押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈 〉を回す（0.1°単位）、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈 〉ボタンを押します。

- **枠のアスペクト比と縦横を変える**

  〈 〉を回して［ ］を選びます。〈 〉ボタンを押すたびに、枠のアスペクト比が変わります。

- **枠を移動する**

  〈 〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。

4. トリミング範囲を確認する

- 〈 〉を回して［ ］を選び、〈 〉ボタンを押します。トリミングされる範囲が表示されます。

5. 保存する

- 〈 〉を回して［ ］を選び、〈 〉ボタンを押します。
- ［**OK**］を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［**OK**］を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（ ）、ダストデリートデータ（ ）は付加されません。
- 選択できるアスペクト比は、［ ：**トリミング**］と［ ：**トリミング情報の付加**］で異なります。

HEIF画像をJPEG画像に変換

- 1枚ずつ変換
- 範囲を指定して変換

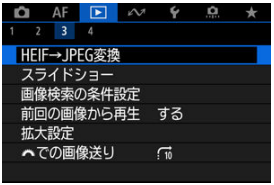
HDR設定で撮影したHEIF画像を、JPEG画像に変換して保存することができます。

参考

- JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、[JPEG↓]が表示されます。

1枚ずつ変換

1. **[▶ : HEIF→JPEG変換]を選ぶ**



2. **[画像を選択]を選ぶ**

3. 画像を選ぶ

- 〈 〉を回してJPEGに変換するHEIF画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- 他に変換したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、JPEGに変換処理されます。

4. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に変換したい画像があるときは［**はい**］を選びます。

5. 表示する画像を選択する

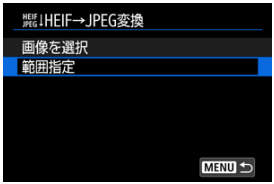
- 変換前のHEIF画像を表示するときは［**もとの画像**］を選びます。
- 変換したJPEG画像を表示するときは［**保存した画像**］を選びます。

参考

- シーンによっては、元画像と変換した画像を比べたときに、印象が異なることがあります。
- トリミング保存した画像、4K動画からフレーム切り出しした画像は変換できません。

範囲を指定して変換

1. **［範囲指定］を選ぶ**



2. **範囲を指定する**

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. **〈MENU〉ボタンを押す**

4. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に変換したい画像があるときは［**はい**］を選びます。

5. 表示する画像を選択する

- 変換前のHEIF画像を表示するときは［**もとの画像**］を選びます。
- 変換したJPEG画像を表示するときは［**保存した画像**］を選びます。

参考

- シーンによっては、元画像と変換した画像を比べたときに、印象が異なることがあります。
- トリミング保存した画像、4K動画からフレーム切り出しした画像は変換できません。

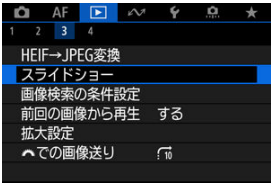
スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶:**画像検索の条件設定**]で絞り込みます(🔍)。

2. [▶:スライドショー]を選ぶ

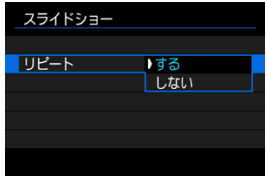


3. 再生内容を設定する

- ［**設定**］を選びます。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

再生間隔

リピート



4. スライドショーを開始する

- [**スタート**] を選びます。
- [**画像読み込み中...**] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5. スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

参考

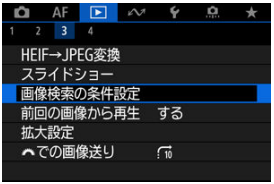
- 一時停止したいときは〈(SET)〉ボタンを押します。一時停止中は画面左上に [▌▌] が表示されます。再度〈(SET)〉ボタンを押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（）。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉を上下に押すと音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

検索条件の解除

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。

1. **[▶]：画像検索の条件設定］を選ぶ**



2. 検索条件を設定する

(1)

- 〈 〉を回して項目を選びます。
- 〈 〉を回して内容を設定します。
- 項目の左端に［✓］(1) が付きます（検索条件として指定されます）。
- 項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、［✓］が消えます（指定が解除されます）。

項目	内容
★ レーティング	選択した（レーティング）条件の画像を表示します。
日付	選択した撮影日の画像を表示します。
フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
プロテクト	選択した（プロテクト）条件の画像を表示します。
ファイルの種類1	選択した種類の画像ファイルを表示します。
ファイルの種類2	

3. 検索条件を確定する

- 〈㊗〉ボタンを押して、表示されるメッセージを確認します。
- [**OK**]を選びます。
  検索条件が設定されます。

4. 検索した画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
  検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
  絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順3で〈㊗〉ボタンを押せません。

参考

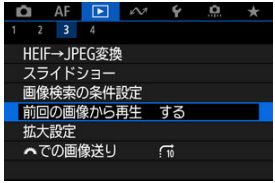
- 電源やカード、画像編集、画像の追加や削除などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- [▶：**画像検索の条件設定**]の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

検索条件の解除

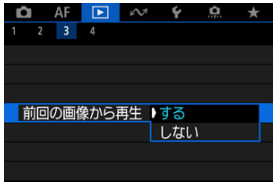
手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

前回の画像から再生

1. **[▶：前回の画像から再生]を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

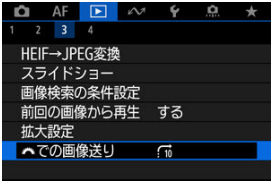


- [**する**]を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- [**しない**]を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

メイン電子ダイヤルでの画像送り

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。

1. **[▶]：での画像送り]を選ぶ**

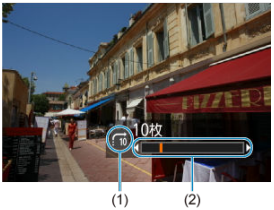


2. **ジャンプ方法を選ぶ**

参考

- ［**指定した枚数ごとに画像を表示**］を選んだときは、〈 〉でジャンプする枚数を設定します。
- ［**指定したレーティングの画像を表示**］を選んだときは、〈 〉でレーティング（ ）を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

3. 画像送りをする



(1) ジャンプ方法
(2) 再生位置

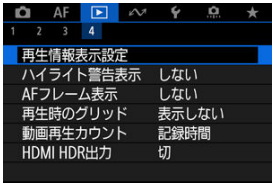
- 〈▶〉ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で〈 〉を回します。
  設定した方法でジャンプ表示が行われます。

再生する情報の設定

ヒストグラム

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。

1. **[▶：再生情報表示設定]を選ぶ**



2. **表示する画面の番号に[√]を付ける**

- 〈☆〉で番号を選びます。
- 〈㊗〉ボタンを押すと[√]が外れます。もう一度押すと、[√]が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に[√]を付け、[**OK**]を選びます。
- 画像を再生して、〈INFO〉ボタンを押したり、撮影情報表示の画面（⎚）で〈▲〉〈▼〉を押したときに、設定した内容が表示されます。

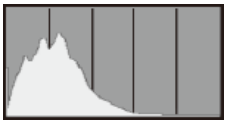
ヒストグラム

ヒストグラムは、各階調の信号量を表示するものです。露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶：**再生情報表示設定**]の画面の左下に［INFO］が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

● ［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

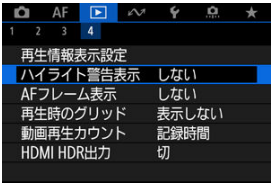
● ［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

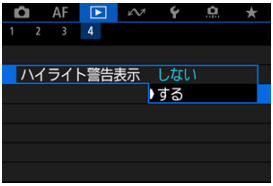
ハイライト警告表示

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

1. **[▶:ハイライト警告表示]を選ぶ**



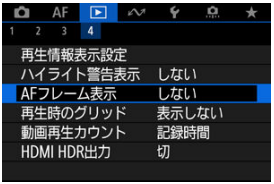
2. **[する]を選ぶ**



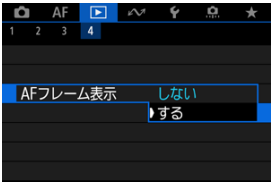
AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。

1. **[▶ : AFフレーム表示]を選ぶ**



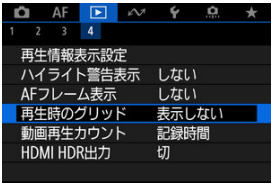
2. **[する]を選ぶ**



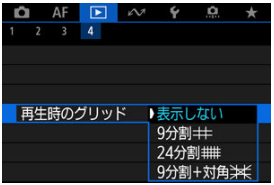
再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

1. **[▶：再生時のグリッド]を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**



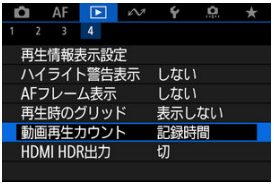
参考

- パノラマ画像を表示するとき、[**再生時のグリッド**]を[**表示しない**]以外に設定している場合は、水平線1本と垂直線1本のグリッドを表示します。

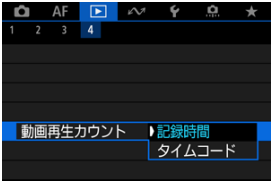
動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

1. **[▶:動画再生カウント]を選ぶ**



2. 項目を選ぶ



- **記録時間**

  動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

- **タイムコード**

  動画再生時にタイムコードが表示されます。

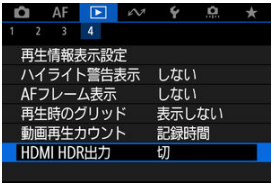
参考

- タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画＋［**フリーラン**］設定時を除く）。
- ［**📷：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**▶：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

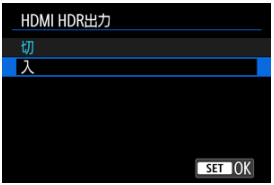
HDMI HDR出力

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像やHEIF画像をHDR表示で見ることができます。

1. **[▶ : HDMI HDR出力] を選ぶ**



2. **[入] を選ぶ**



参考

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります。
- HDMI HDR出力された映像を見ながらRAW現像を行うときは、画像を再生した状態で、クイック設定でRAW現像を行うことをおすすめします。

RAWバースト画像からの静止画の切り出し

RAWバーストモードで撮影した画像（ロール）から（）、任意の画像（JPEG/HEIF/RAW）を切り出すことができます。

1. 画像を再生する

- 〈[▶]〉ボタンを押します。

2. ロールを選ぶ

- 〈〉を回してロールを選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像がロールです。
- インデックス表示のときは、〈〉ボタンを押して1枚表示にします。

参考

- ロールは、切り出したJPEG画像/HEIF画像や、切り出したRAW画像から現像を行ったJPEG画像/HEIF画像とは各種設定の効果が異なる場合があります。

3. 1枚表示の状態で〈〉ボタンを押す

- 再生のクイック設定画面が表示されます。

4. ロールを再生する

- 〈 〉ボタンを押します。

5. 画像を選ぶ

- 〈 〉を回して切り出す画像を選びます。
- 〈 〉ボタンを押すと、ロールの前後を削除することができます（ ）。

6. 〈 〉ボタンを押す

7. 切り出す画像形式を選んで保存する

- ［**JPEGで切り出し**］または［**HEIFで切り出し**］を選んだあと、［**編集して保存**］を選ぶと、RAW現像（）を行ってから保存することができます。

参考

- ［**JPEGで切り出し**］または［**HEIFで切り出し**］を選んだときは、［L］の画質で保存されます。
- RAWバースト画像から切り出したJPEG画像/HEIF画像や、切り出したRAW画像から現像を行ったJPEG画像/HEIF画像のときは、クリエイティブフィルター、トリミング、リサイズ処理はできません。
- RAWバースト画像から切り出したHEIF画像は、JPEG画像に変換できません。

通信機能

この章では、通信機能を使用した画像の送信や、リモート撮影などを行う方法について説明しています。

注意

必ずお読みください

- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
  無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

- メニュー目次：通信機能タブ
- スマートフォン（タブレット）と接続
- ワイヤレスリモコンと接続
- EOS Utilityと接続
- image.canonに画像送信
- 高度な接続
- 通信機能の基本設定
- 2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続
- 接続機器の編集／削除
- 機内モード
- Wi-Fi設定
- Bluetooth設定
- カメラの名前
- GPS機器の設定
- エラー内容の表示
- 通信の設定初期化
- 仮想キーボードの操作方法
- エラー表示の対応
- 無線通信機能での注意事項
- セキュリティーについて
- ネットワークの設定を確認する
- 無線通信機能の接続状態

メニュー目次：通信機能タブ

- **通信機能1**

(1) スマートフォン(タブレット)と接続
(2) ワイヤレスリモコンと接続
(3) EOS Utilityと接続
(4) image.canonに画像送信
(5) 高度な接続

- **通信機能2**

(1) 機内モード
(2) Wi-Fi設定
(3) Bluetooth設定
(4) カメラの名前
(5) GPS機器の設定
(6) エラー内容の表示
(7) 通信の設定初期化

注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、設定できないメニュー項目があります。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カード／バッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

スマートフォン（タブレット）と接続

- スマートフォンの準備
- スマートフォンとWi-Fi接続する
- Camera Connectの主な機能
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続
- ペアリングの解除
- 撮影時にスマートフォンへ自動転送
- カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンを接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続（）
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続（）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（）
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作（）

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存（）
- スマートフォンでのカメラのリモート操作（）
- カメラからスマートフォンへの画像の送信（）

参考

- Bluetoothを使わず、スマートフォンと高度なWi-Fi接続をすることもできます()

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

参考

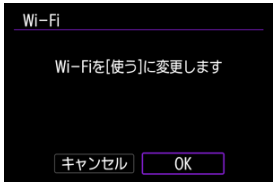
- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

スマートフォンとWi-Fi接続する

1. **[: スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ**

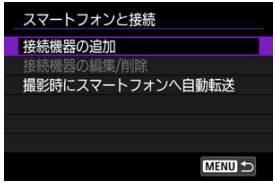
- [: **Wi-Fi設定**] が [**使わない**] になっているときは、メッセージが表示されますので、[**OK**] を選びます。

2. **[OK] を選ぶ**



- すでにWi-Fi設定が [**使う**] になっているときは、この画面は表示されません。

3. ［接続機器の追加］を選ぶ

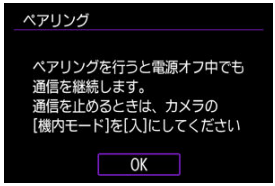


- ［：**Bluetooth設定**］が［**使わない**］になっているときは、メッセージが表示されますので、［**OK**］を選びます。

4. ［OK］を選ぶ

- すでにBluetooth設定が［**使う**］になっているときは、この画面は表示されません。

5. 〈(SET)〉ボタンを押す



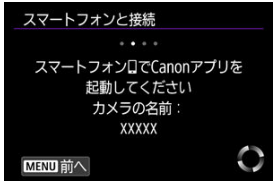
6. ペアリングを開始する

- 〈(SET)〉ボタンを押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスして Camera Connectをインストールしてから、〈(SET)〉ボタンを押してペアリングを開始します。

7. Camera Connectを起動する

- アプリの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。

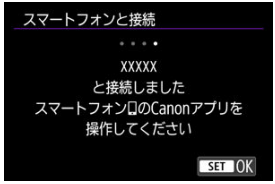
8. Bluetooth接続を確立する



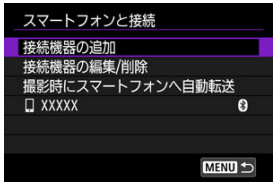
- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。

- 〈(SET)〉ボタンを押します。

9. ペアリングを完了する



- 〈(SET)〉ボタンを押し、ペアリングを完了します。



- 接続した機器の名前が表示されます。

注意

- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

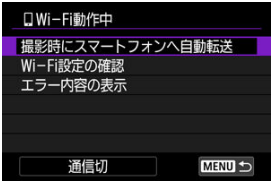
ペアリングできないとき

- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

10. Camera Connectの機能をタッチする

- Camera Connectの機能についてはCamera Connectの主な機能を参照してください。
- Camera Connectの機能をタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。

11. Wi-Fi接続完了を確認する

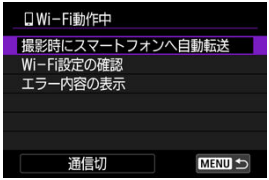


- カメラのモニターに［**Wi-Fi動作中**］画面が表示されます（）。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了するときは、［**Wi-Fi動作中**］画面で［**通信切**］を選びます。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再接続するときは、Camera Connectを起動し、使用したい機能をタッチします。

[Wi-Fi動作中] 画面について



- **撮影時にスマートフォンへ自動転送**
  撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます（）。

- **Wi-Fi設定の確認**
  Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。

- **エラー内容の表示**
  Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます（）。

- **通信切**
  Wi-Fi接続を終了します。

Camera Connectの主な機能

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。
- RAW画像に効果を付けてスマートフォンに保存することができます（クリエイティブアシスト）。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時（）のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

その他の機能については、Camera Connectのメイン画面から確認することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態でも、スマートフォンを操作して、カメラ内の画像の閲覧などができます。
電源オフ中にカメラとのWi-Fi/Bluetooth接続を行いたくないときは、[**機内モード**]を[**入**]に設定するか、[**Bluetooth設定**]を[**使わない**]に設定してください。

注意

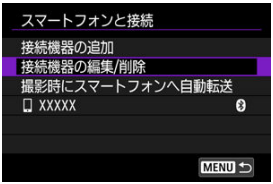
- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

ペアリングの解除

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。

1. **［ : スマートフォン(タブレット)と接続］を選ぶ**

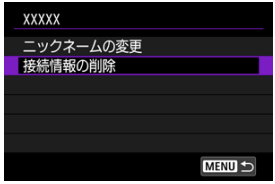
2. **［接続機器の編集/削除］を選ぶ**



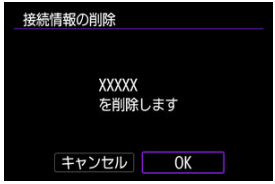
3. **ペアリングを解除するスマートフォンを選ぶ**

- ペアリング中のスマートフォンは［ ］が表示されます。

4. **［接続情報の削除］を選ぶ**



5. **［OK］を選ぶ**



6. **スマートフォン側の登録を解除する**

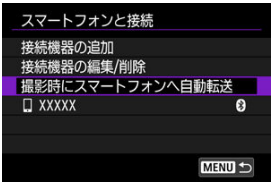
- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

撮影時にスマートフォンへ自動転送

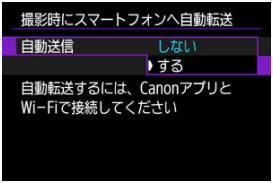
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。

1. **[: スマートフォン(タブレット)と接続]を選ぶ**

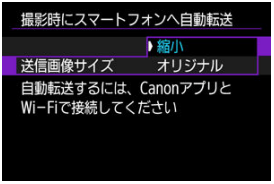
2. **[撮影時にスマートフォンへ自動転送]を選ぶ**



3. **[自動送信]で[する]を選ぶ**



4. **［送信画像サイズ］を設定する**

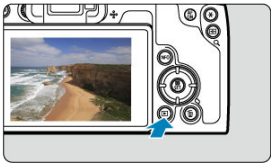


5. **撮影する**

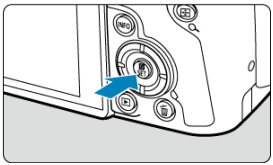
カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

1. **画像を再生する**



2. **〈(Q)〉ボタンを押す**



3. **[スマートフォンへ画像を送信]を選ぶ**

- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、Wi-Fi接続を促すメッセージが表示されます。〈(Q)〉ボタンを押した後、Camera Connectの機能をタッチしてWi-Fi接続された状態にしてから、もう一度手順1からやり直してください。

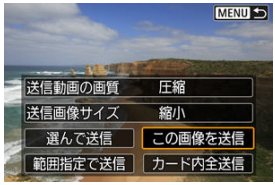
4. 送信方法を選んで送信する

（1）1枚ずつ送信

1. 送信する画像を選ぶ

- 〈 〉を回して送信する画像を選び、〈 〉ボタンを押します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます（ ）。

2. ［この画像を送信］を選ぶ



- ［**送信画像サイズ**］で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

（2）複数の画像を選んで送信

1. **〈(SET)〉ボタンを押す**

2. **［選んで送信］を選ぶ**

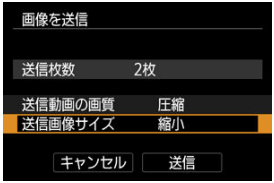
3. **送信する画像を選ぶ**

- 〈(ダイヤル)〉を回して送信する画像を選び、〈(SET)〉ボタンを押します。
- タッチ再生で、3枚表示にして選ぶことができます（(ピンチ)）。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

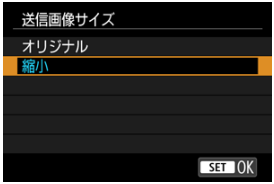
4. 画像指定を完了する

- ［**OK**］を選びます。

5. ［送信画像サイズ］を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



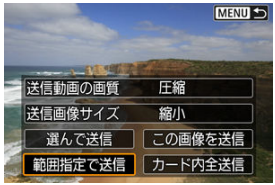
- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

6. **［送信］を選ぶ**

（3）範囲を指定して送信

1. 〈 〉ボタンを押す

2. ［範囲指定で送信］を選ぶ



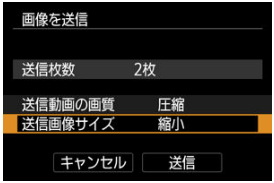
3. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 指定を解除するときは、手順3を繰り返します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます（ ）。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

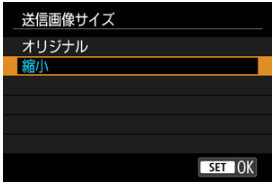
4. 画像指定を完了する

- ［**OK**］を選びます。

5. ［送信画像サイズ］を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

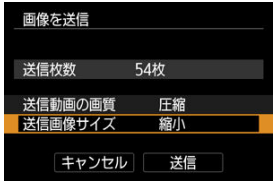
6. **［送信］を選ぶ**

（4）カード内の画像をすべて送信

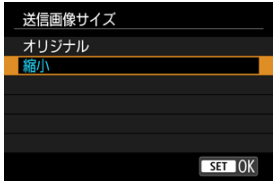
1. 〈 〉ボタンを押す

2. ［カード内全送信］を選ぶ

3. ［送信画像サイズ］を選ぶ

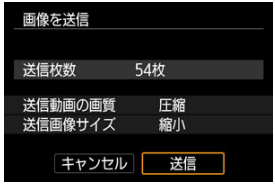


- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

4. ［送信］を選ぶ



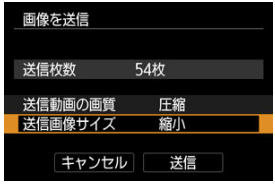
（5）検索条件が設定された画像を送信

［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。［▶：**画像検索の条件設定**］については、画像検索の条件設定を参照してください。

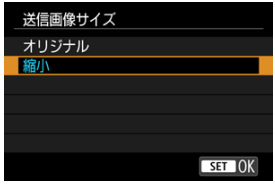
1. **〈SET〉ボタンを押す**

2. **［検索結果全送信］を選ぶ**

3. ［送信画像サイズ］を選ぶ

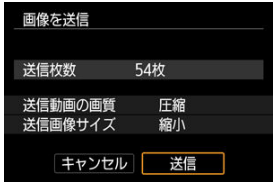


- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

4. ［送信］を選ぶ



画像の送信の終了

- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは、[**Wi-Fi動作中**]画面で[**通信切**]を選びます。

注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

参考

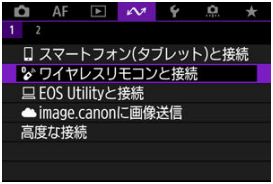
- 画像の送信中に[**キャンセル**]を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、**S2**サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。なお、FHD 29.97P IPB または FHD 25.00P IPB の動画は縮小されません。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

ワイヤレスリモコンと接続

ペアリング解除

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／）とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。

1. **［ : ワイヤレスリモコンと接続］を選ぶ**



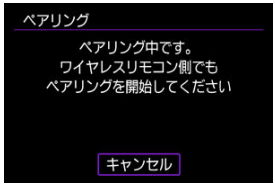
2. **［接続機器の追加］を選ぶ**

- ［ : **Bluetooth設定**］が［**使わない**］になっているときは、メッセージが表示されますので、［**OK**］を選びます。

3. [OK] を選ぶ

- すでにBluetooth設定が［**使う**］になっているときは、この画面は表示されません。

4. ペアリングする



- 上記の画面が表示されたら、BR-E1の〈**W**〉ボタンと〈**T**〉ボタンを同時に3秒以上押します。
- 「****（BR-E1の個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈㊗〉ボタンを押します。

5. リモコン撮影できるように設定する

- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

注意

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

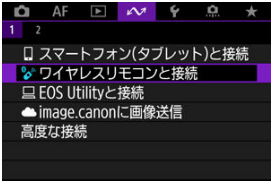
参考

- Bluetooth機能を使わないときは、[: **Bluetooth設定**]を[**使わない**]に設定することをおすすめします（ ）。

ペアリング解除

他のBR-E1とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。

1. **［ : ワイヤレスリモコンと接続］を選ぶ**



2. **［接続情報の削除］を選ぶ**

3. **［OK］を選ぶ**

EOS Utilityと接続

EOS Utilityでカメラを操作

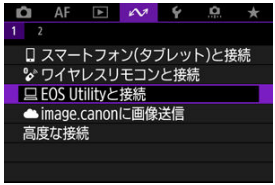
ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

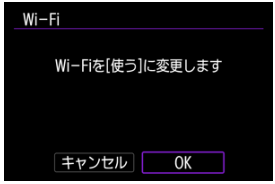
カメラ側の操作-1

1. **[: EOS Utilityと接続]を選ぶ**



- [: **Wi-Fi設定**]が[**使わない**]になっているときは、メッセージが表示されますので、[**OK**]を選びます。

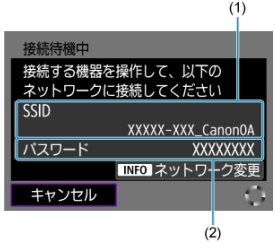
2. ［OK］を選ぶ



- すでにWi-Fi設定が［**使う**］になっているときは、この画面は表示されません。

3. ［接続機器の追加］を選ぶ

4. SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続する場合は、〈INFO〉ボタンを押します。接続方法に応じて、それぞれの手順に進みます。
  - WPS機能で接続（、）
  - 検出されたネットワークに手動で接続（）
  - アクセスポイントの情報を手動設定して接続（）

パソコン側の操作-1

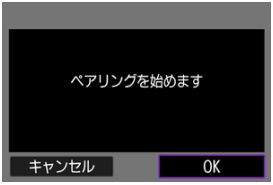
5. SSIDを選んでパスワードを入力する

パソコンの画面例

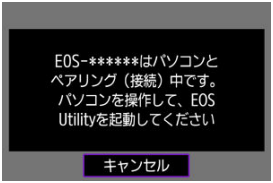
- パソコンのネットワークの設定画面から、カメラ側の操作-1の手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、カメラ側の操作-1の手順4で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作-2

6. **［OK］を選ぶ**



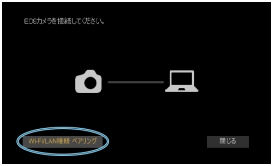
- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



パソコン側の操作-2

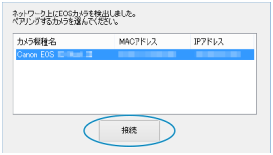
7. EOS Utilityを起動する

8. EOS Utilityの［Wi-Fi/LAN接続ペアリング］をクリックする



- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、［**はい**］を選びます。

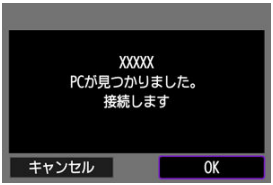
9. ［接続］をクリックする



- 接続するカメラを選んで、［**接続**］をクリックします。

カメラ側の操作-3

10. Wi-Fi接続を確立する



- ［**OK**］を選びます。
- カメラのモニターに［**Wi-Fi動作中**］画面が表示されます（）。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続を参照してください。

[Wi-Fi動作中] 画面について

- **Wi-Fi設定の確認**
  Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。

- **エラー内容の表示**
  Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます（）。

- **通信切**
  Wi-Fi接続を終了します。

注意

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

image.canonに画像送信

カメラをimage.canonに接続する

image.canonへ画像を送信する

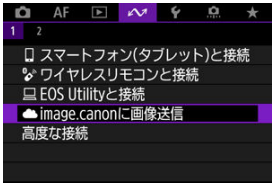
ここでは、image.canonに画像を送信する方法について説明しています。

カメラをimage.canonに接続する

カメラをimage.canonに接続して、カメラから直接画像を送信できるようにします。

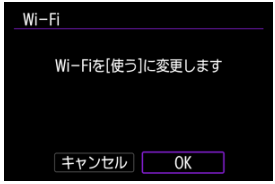
- インターネットに接続できるスマートフォンおよびブラウザーが必要です。
- image.canonのサービスの使い方、対応している国／地域などは image.canon サイト（https://image.canon/）を確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

1. **［：image.canonに画像送信］を選ぶ**



- ［：**Wi-Fi設定**］が［**使わない**］になっているときは、メッセージが表示されますので、［**OK**］を選びます。

2. [OK] を選ぶ

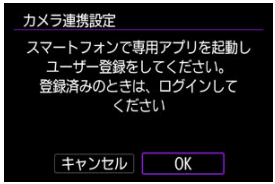


- すでにWi-Fi設定が［**使う**］になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続] を選ぶ

- 専用アプリのインストールが済んでいない場合は、［**インストール**］を選んでください。

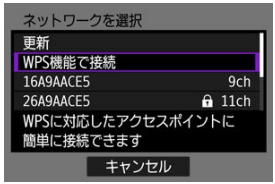
4. [OK] を選ぶ



5. 専用アプリでQRコードを読み取る

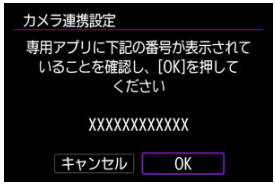
- ［**OK**］を選びます。

6. Wi-Fi接続する



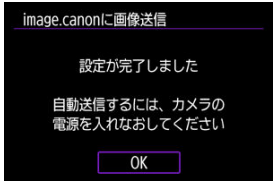
- アクセスポイントとWi-Fi接続します。接続方法に応じて、それぞれの手順に進みます。
  - WPS機能で接続（、）
  - 検出されたネットワークに手動で接続（）
  - アクセスポイントの情報を手動設定して接続（）

7. 専用アプリに番号が表示されていることを確認する

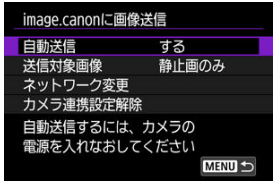


- ［**OK**］を選びます。

8. 設定を完了する



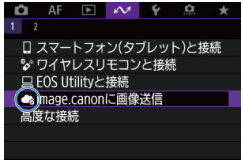
- 〈(SET)〉ボタンを押します。



- カメラのモニターに、設定メニューが表示されます。

参考

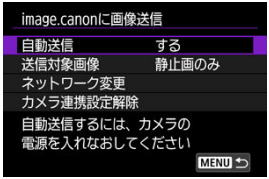
- [☁]が[☁]になります。



9. 専用アプリを確認する

- 専用アプリに機種名が登録されていることを確認します。

［image.canonに画像送信］画面について



- **自動送信**
  自動送信をするかどうかを選ぶことができます。

- **送信対象画像**
  送信する画像の対象を選ぶことができます。

- **ネットワーク変更**
  Wi-Fi接続の設定を変更できます。

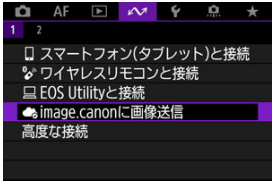
- **カメラ連携設定解除**
  カメラ連携の設定を解除できます。

image.canonへ画像を送信する

カメラの起動時（オートパワーオフからの復帰を含む）にimage.canonへ画像が自動送信されます。image.canonに送信された画像は、PCにダウンロードしたり、他のWebサービスに転送することができます。

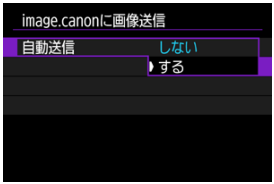
- インターバルタイマー撮影中は、画像を送信できません。

1. [：image.canonに画像送信]を選ぶ



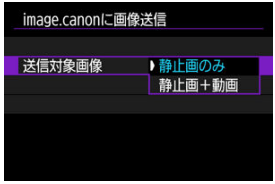
- ［**image.canonに画像送信**］画面が表示されます（）。

2. [自動送信]で[する]を選ぶ



- すでに［**自動送信**］が［**する**］になっているときは、手順3に進んでください。

3. ［送信対象画像］を設定する



- **静止画のみ**
  静止画のみが送信の対象となります。

- **静止画＋動画**
  静止画と動画の両方が送信の対象となります。

4. カメラの電源を入れなおす

参考

- 送信された画像は、オリジナルの画像サイズで30日間、容量無制限でimage.canonに保管されます。

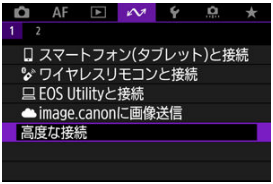
高度な接続

スマートフォン(タブレット)と接続

ここではカメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続し、Camera Connectでカメラを操作する方法について説明します。

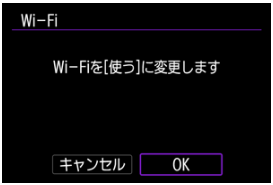
スマートフォン(タブレット)と接続

1. **[: 高度な接続]を選ぶ**



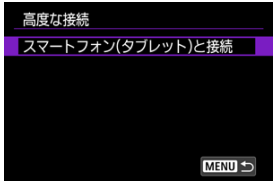
- [: **Wi-Fi設定**]が[**使わない**]になっているときは、メッセージが表示されますので、[**OK**]を選びます。

2. **[OK]を選ぶ**

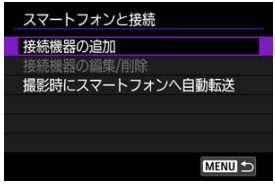


- すでにWi-Fi設定が[**使う**]になっているときは、この画面は表示されません。

3. **［スマートフォン(タブレット)と接続］を選ぶ**



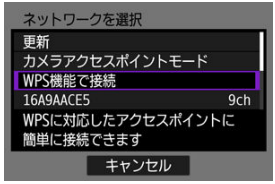
4. **［接続機器の追加］を選ぶ**



5. **アクセスポイントの検索を開始する**

- 〈㊗〉ボタンを押して検索を開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスしてカメラ Connectをインストールしてから、〈㊗〉ボタンを押して検索を開始します。

6. Wi-Fi接続する



- アクセスポイントとWi-Fi接続します。接続方法に応じて、それぞれの手順に進みます。
  - WPS機能で接続（、）
  - 検出されたネットワークに手動で接続（）
  - アクセスポイントの情報を手動設定して接続（）

7. Camera Connectを起動して、カメラ名をタッチする

8. [OK]を選ぶ

- カメラのモニターに［**Wi-Fi動作中**］画面が表示されます（）。

通信機能の基本設定

- 事前準備
- アクセスポイントの種類を確認する
- WPS（PBC方式）で接続する場合
- WPS（PIN方式）で接続する場合
- 検出したネットワークに手動で接続する場合
- ネットワークに手動で接続する場合
- カメラアクセスポイントモードで接続する場合
- IPアドレスを設定する

カメラの通信機能で以下の機能を使用するときは、事前準備以降を参照して、カメラやパソコンなどの設定を行ってください。

- Bluetooth機能を使用せずにスマートフォンとWi-Fi接続
- Webサービスへ画像を送信

通信機能ごとの準備

EOS Utility

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンが必要です。
EOS Utilityのインストール方法などについては、キヤノンのホームページを参照してください。

GPS

GPS機器の設定を参照してください。

アクセスポイントの種類を確認する

アクセスポイントを使用して接続するときは、お使いのアクセスポイントが、Wi-Fi機器同士を簡単に接続することができるWPS*に対応しているか確認してください。
お使いのアクセスポイントがWPSに対応しているか分からないときは、アクセスポイントの使用説明書などを参照して確認してください。
* Wi-Fi Protected Setup（ワイファイ プロテクテッド セットアップ）の略

● WPSに対応している場合

下記の2種類の接続方法が選択できます。WPS（PBC方式）の方が簡単に接続できます。

- WPS（PBC方式）で接続する場合（🔗）
- WPS（PIN方式）で接続する場合（🔗）

● WPSに対応していない場合

- 検出したネットワークに手動で接続する場合（🔗）
- ネットワークに手動で接続する場合（🔗）

アクセスポイントの暗号化について

本機は、下記の［**認証方式**］と［**暗号化の設定**］に対応しています。そのため、検出したネットワークに手動で接続する場合は、アクセスポイントの暗号化は、下記のいずれかの設定になっている必要があります。

- ［**認証方式**］：オープン、共有キー、WPA/WPA2/WPA3-Personal
- ［**暗号化の設定**］：WEP、TKIP、AES

注意

- **アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。**
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。

参考

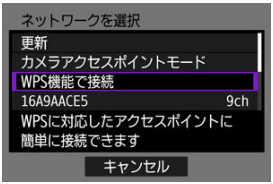
- お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントに本機のMACアドレスを登録してください。MACアドレスは［**MACアドレス**］画面で確認できます（🔗）。

WPS（PBC方式）で接続する場合

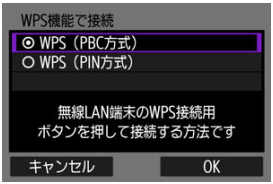
この項では、アクセスポイントの種類を確認するからの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、アクセスポイントのWPS用ボタンを押すことで、カメラとアクセスポイントを簡単に接続することができます。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼動していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、［**WPS（PIN方式）**］で接続してください。
- アクセスポイントに付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. ［ネットワークを選択］画面で［WPS機能で接続］を選ぶ

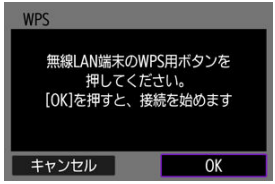


2. ［WPS（PBC方式）］を選ぶ



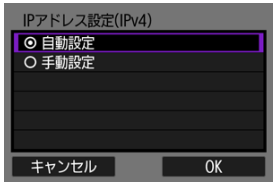
- ［**OK**］を選びます。

3. アクセスポイントに接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- [**OK**] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

4. IPアドレスを設定する



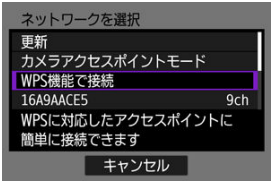
- IPアドレスを設定するに進んでください。

WPS（PIN方式）で接続する場合

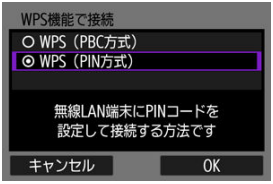
この項では、アクセスポイントの種類を確認するからの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号をアクセスポイントに設定して接続します。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. ［ネットワークを選択］画面で［WPS機能で接続］を選ぶ

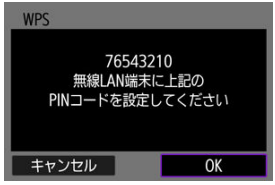


2. ［WPS（PIN方式）］を選ぶ



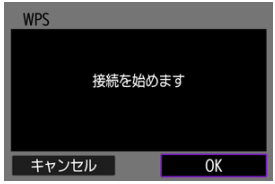
- ［**OK**］を選びます。

3. PINコードを設定する



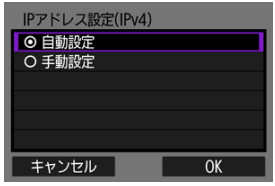
- カメラのモニターに表示される8桁のPINコードをアクセスポイントに設定します。
- アクセスポイントへのPINコードの入力方法は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- PINコードを設定したら［**OK**］を選びます。

4. アクセスポイントに接続する



- ［**OK**］を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

5. IPアドレスを設定する



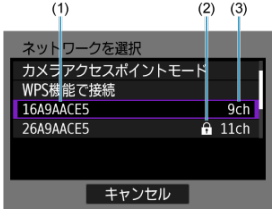
- IPアドレスを設定するに進んでください。

検出したネットワークに手動で接続する場合

この項では、アクセスポイントの種類を確認するからの続きを説明しています。
近くで稼動中のアクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んで接続します。

アクセスポイントを選ぶ

1. ［ネットワークを選択］画面でアクセスポイントを選ぶ



（1）SSIDを表示
（2）アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示
（3）使用しているチャンネルを表示

- 〈 〉で、アクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選びます。

参考

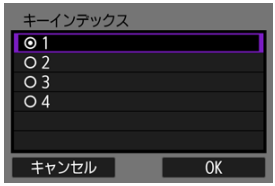
［更新］について

- **［更新］**は、手順1の画面をスクロールすると表示されます。
- **［更新］**を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

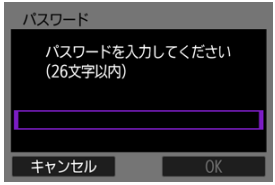
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順2～3で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順2～3が表示されずに、［**IPアドレス設定**］画面が表示されたときは、IPアドレスを設定するに進んでください。

2. キーインデックスを選ぶ



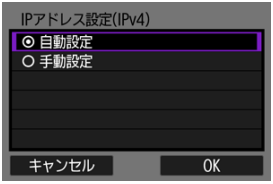
- ［**キーインデックス**］画面は、アクセスポイントの暗号方式がWEPのときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- ［**OK**］を選びます。

3. 暗号キーを入力する



- 〈㊗〉ボタンを押して仮想キーボード（🖊）を表示し、暗号キーを入力します。
- ［**OK**］を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

4. IPアドレスを設定する



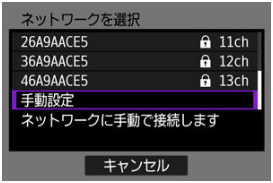
- IPアドレスを設定するに進んでください。

ネットワークに手動で接続する場合

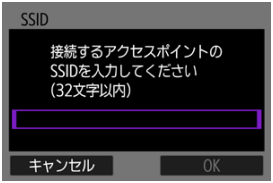
この項では、アクセスポイントの種類を確認するからの続きを説明しています。
接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を入力して接続します。

SSIDを入力する

1. **［ネットワークを選択］画面で［手動設定］を選ぶ**



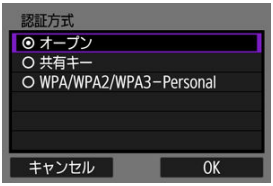
2. **SSID（ネットワーク名）を入力する**



- 〈(Q)〉ボタンを押して仮想キーボード（）を表示し、SSIDを入力します。
- ［**OK**］を選びます。

アクセスポイントの認証方式を設定する

3. 認証方式を選ぶ

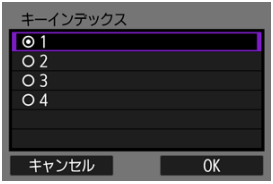


- 項目を選んで［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- ［**オープン**］を選ぶと［**暗号化の設定**］画面が表示されるので、［**しない**］または［**WEP**］を選びます。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

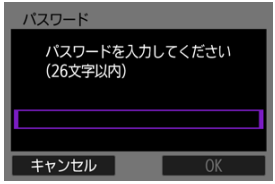
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順4～5で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順4～5が表示されずに、［**IPアドレス設定**］画面が表示されたときは、IPアドレスを設定するに進んでください。

4. キーインデックスを選ぶ



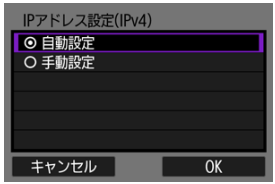
- ［**キーインデックス**］画面は、手順3で［**共有キー**］［**WEP**］を選んだときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- ［**OK**］を選びます。

5. 暗号キーを入力する



- 〈㊗〉ボタンを押して仮想キーボード（🔗）を表示し、暗号キーを入力します。
- ［**OK**］を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

6. IPアドレスを設定する



- IPアドレスを設定するに進んでください。

カメラアクセスポイントモードで接続する場合

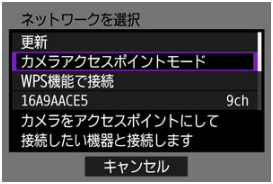
カメラアクセスポイントモードは、アクセスポイントを使用せず、カメラと各機器を直接Wi-Fiで接続する接続方法です。以下の2種類の接続方法が選択できます。

簡単接続で接続

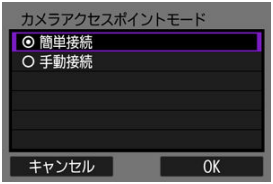
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を自動で行います。

- 接続する機器の操作については、各機器の使用説明書を参照してください。

1. **［ネットワークを選択］画面で［カメラアクセスポイントモード］を選ぶ**

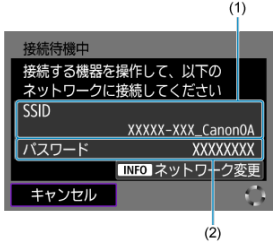


2. **［簡単接続］を選ぶ**



- ［**OK**］を選びます。

3. 接続する機器を操作してカメラに接続する



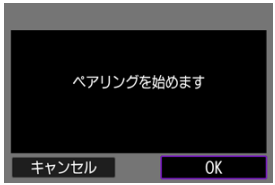
(1) SSID（ネットワーク名）

(2) 暗号キー（パスワード）

- 接続する機器のWi-Fi機能で、カメラのモニターに表示された内容に従って、SSID（ネットワーク名）を選び、パスワードを入力します。

4. 接続する機器に応じて接続設定を行う

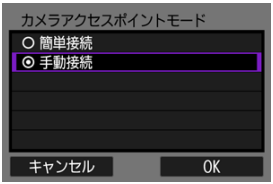
EOS Utilityと接続（）



手動接続で接続

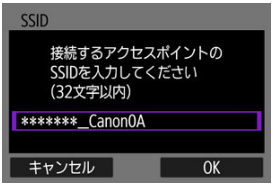
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を手動で行います。表示される画面に従って、カメラの［**SSID**］、［**チャンネル設定**］、［**暗号化の設定**］を設定します。

1. ［手動接続］を選ぶ



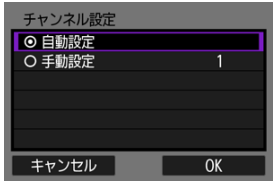
- ［**OK**］を選びます。

2. SSID（ネットワーク名）を入力する



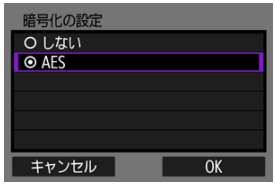
- 〈㊗〉ボタンを押して仮想キーボード（⌨）を表示し、SSIDを入力します。入力したら〈MENU〉ボタンを押します。
- ［**OK**］を選びます。

3. チャンネル設定を選ぶ



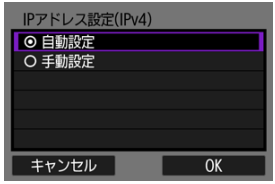
- 手動で設定するときは、[**手動設定**]を選び、〈 〉で設定します。
- [**OK**]を選びます。

4. 暗号化の設定を選ぶ



- 暗号化するときは[**AES**]を選びます。
- [**OK**]を選びます。
- [**AES**]を選んだときは、[**パスワード**]画面が表示されます。〈 〉ボタンを押して仮想キーボード( )を表示し、暗号キーを入力します。入力したら〈MENU〉ボタンを押します。

5. ［自動設定］を選ぶ



- ［**OK**］を選びます。
- ［**自動設定**］でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください（ ）。

6. 接続する機器を操作してカメラに接続する

（1）SSID（ネットワーク名）
（2）暗号キー（パスワード）

7. 通信機能に応じて接続設定を行う

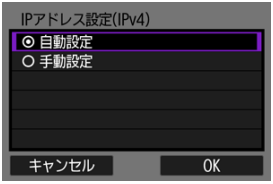
IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定方法を選択し、カメラにIPアドレスを設定します。

IPアドレスを自動で設定する場合

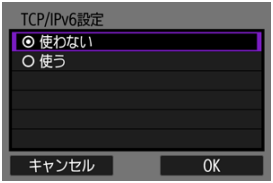
IPアドレス設定を自動で行います。

1. ［自動設定］を選ぶ



- ［**OK**］を選びます。
- ［**自動設定**］でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください（）。

2. IPv6設定を選ぶ



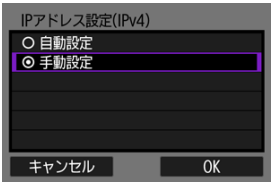
- 項目を選んで［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPv6を使う場合は、［**使う**］を選びます。

3. 接続する機器に応じて接続設定を行う

IPアドレスを手動で設定する場合

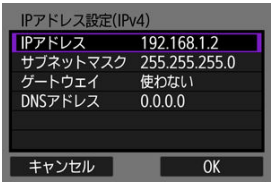
IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目は通信機能によって異なります。

1. ［手動設定］を選ぶ

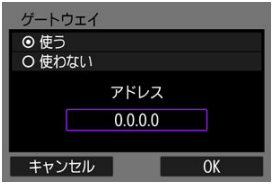


- ［**OK**］を選びます。

2. 設定する項目を選ぶ



- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。

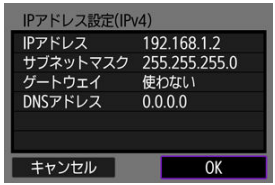


- ゲートウェイを使う場合は、［**使う**］を選んでから［**アドレス**］を選びます。

3. 数値を入力する

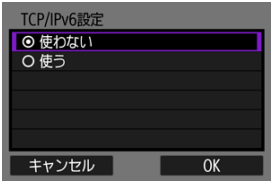
- 〈 〉で上側の入力場所を選び、〈◀〉 〈▶〉または〈 〉で入力する数値を選びます。〈 〉ボタンを押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈 〉ボタンを押すと、直前に入力した数値が削除されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. [OK]を選ぶ



- 必要な項目の設定が完了したら［**OK**］を選びます。次の画面に進みます。
- 設定する内容が分からない場合は、ネットワークの設定を確認するを参照するか、ネットワーク管理者などに問い合わせてください。

5. IPv6設定を選ぶ



- 項目を選んで［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPv6を使う場合は、［**使う**］を選びます。

6. 接続する機器に応じて接続設定を行う

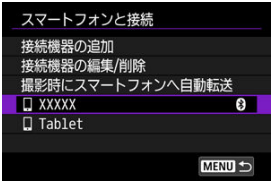
2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続

一度Wi-Fi接続またはBluetooth接続した機器は、接続履歴がカメラに記憶されます。この履歴を利用して、同じ機器に再接続することができます。ここでは、[: **スマートフォン(タブレット)と接続**]を例にして説明します。

1. 接続する機器に対応する項目を選ぶ

- [**Wi-Fi動作中**]画面が表示されたら[**通信切**]を選んでから、もう一度手順1を操作してください。

2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、Wi-Fi接続またはBluetooth接続する項目を選びます。表示されていないときは〈 〉を回して画面を切り換えます。

参考

- 通信機能全体で、接続履歴を10個まで記憶することができます。

3. 接続する機器を操作する

接続機器の編集／削除

- ニックネームの変更
- 接続情報の削除

接続機器の編集や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。ここでは、[: **スマートフォン(タブレット)と接続**]を例にして説明します。

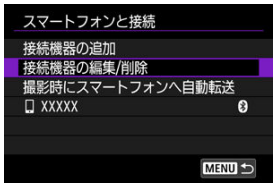
ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

1. 項目を選ぶ

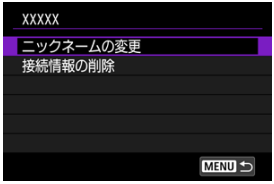
- [**Wi-Fi動作中**]画面が表示されたら[**通信切**]を選んでから、もう一度手順1を操作してください。

2. [接続機器の編集/削除]を選ぶ



3. **接続する機器を選ぶ**

4. **［ニックネームの変更］を選ぶ**



5. **ニックネームを変更する**

- 仮想キーボード（）を操作し、ニックネームを入力します。

6. **〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選ぶ**

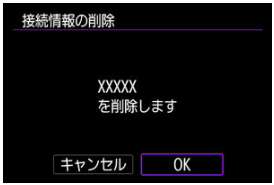
接続情報の削除

1. 接続機器の画面を表示する

- ニックネームの変更の手順1～3の操作を行います。
- [: **ワイヤレスリモコンと接続**] の場合は、ペアリング解除を参照してください。

2. [接続情報の削除] を選ぶ

3. [OK] を選ぶ



機内モード

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。

1. **[✈：機内モード]を選ぶ**

2. **[入]に設定する**

- 画面に［✈］が表示されます。

参考

- 静止画撮影時や動画撮影時、再生時は、表示設定によって［✈］が表示されないこともあります。表示されないときは、〈INFO〉ボタンを何度か押して詳細情報表示の画面にします。

Wi-Fi設定

MACアドレスを確認する

1. **［: Wi-Fi設定］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- **Wi-Fi**
  飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、［**使わない**］に設定してください。

- **MACアドレス**
  カメラのMACアドレスの確認ができます。

MACアドレスを確認する

本機のMACアドレスを確認することができます。

1. **［ : Wi-Fi設定］を選ぶ**

2. **［MACアドレス］を選ぶ**

3. **MACアドレスを確認する**

Bluetooth設定

1. **［: Bluetooth設定］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- **Bluetooth**
  Bluetooth機能を使わないときは［**使わない**］を選びます。

- **Bluetoothアドレス**
  カメラのBluetoothアドレスを確認できます。

- **接続先の名称**
  ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。

カメラの名前

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラの名前を変更することができます。

1. **［：カメラの名前］を選ぶ**

2. **カメラの名前を変更する**

- 仮想キーボード（）を操作し、カメラの名前を入力します。

3. **〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選ぶ**

GPS機器の設定

GP-E2

スマートフォン

GPS接続表示

GPSレシーバー GP-E2（別売）やスマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

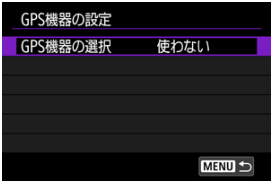
GP-E2

1. GP-E2をカメラに取り付ける

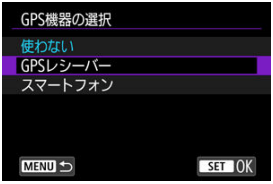
- GP-E2*をカメラのアクセサリーシューに取り付けて電源を入れます。
  詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。
  *別売のマルチアクセサリーシューアダプター AD-E1が必要

2. [: GPS機器の設定] を選ぶ

3. **［GPS機器の選択］を選ぶ**



4. **［GPSレシーバー］を選ぶ**



5. **撮影する**

- ［**設定**］について、詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

注意

GP-E2を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2のファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。
  ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。
  アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラとGP-E2を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは撮影方位は記録されません。

スマートフォン

スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール（）してから設定を行ってください。

1. スマートフォンの位置情報機能をオンにする

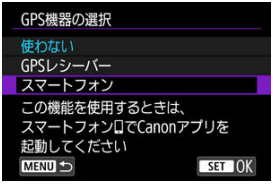
2. Bluetooth接続する

- Camera Connectを起動して、カメラとスマートフォンをBluetooth接続してください。

3. [：GPS機器の設定]を選ぶ

4. [GPS機器の選択]を選ぶ

5. ［スマートフォン］を選ぶ



6. 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示

静止画撮影画面（）または動画撮影画面（）のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

なお、GP-E2使用時のGPS接続表示については、GP-E2の使用説明書を参照してください。

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。

（1）緯度

（2）経度

（3）標高

（4）協定世界時

注意

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connectを終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

参考

- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

エラー内容の表示

カメラに発生している無線通信機能のエラー内容を表示することができます。

1. **［〜：エラー内容の表示］を選ぶ**

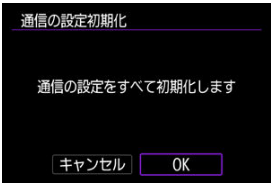
- 発生しているエラーの内容が表示されます。
- エラーの詳細については、エラー表示の対応を参照してください。

通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. **［：通信の設定初期化］を選ぶ**

2. **［OK］を選ぶ**



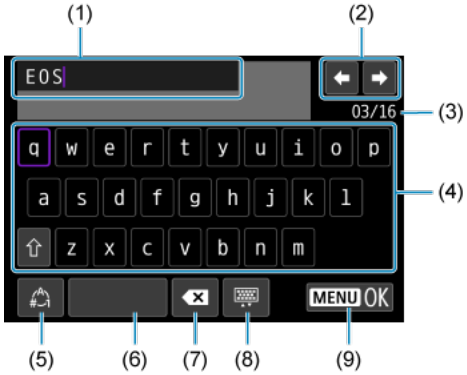
注意

- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

参考

- ［：**カメラの初期化**］の［**基本以外の設定**］［**通信の設定**］で無線通信の設定を全て削除できます。

仮想キーボードの操作方法



(1)	文字を入力するエリア（入力エリア）
(2)	入力エリアでのカーソルの移動
(3)	入力した文字数／入力できる文字数
(4)	キーボード
(5)	入力モードの切り換え
(6)	スペース
(7)	入力エリアでの文字の削除
(8)	キーボードの種類の変更
(9)	入力の終了

- (1) は〈 〉で移動します。
- (2)、(4) ～ (8) は〈 〉 〈 〉で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈 〉ボタンを押します。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- ［**：エラー内容の表示**］を選ぶ。
- ［**Wi-Fi動作中**］画面の［**エラー内容の表示**］を選ぶ。

下記のエラー番号をクリックすると該当の項目にジャンプします。

11	12							
21	22	23						
61	64	65						
91								
121	125	127						
130	131	132	133	134	135	136	137	138

参考

- エラーが発生したときは、［**：エラー内容の表示**］の右側に［**Err****］と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- **［スマートフォン(タブレット)と接続］の場合、Camera Connectは起動していますか？**
  - Camera Connectから接続操作を行ってください（）。
- **［EOS Utilityと接続］の場合、EOS Utilityは起動していますか？**
  - EOS Utilityを起動して、再度接続操作を行ってください（）。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。
    大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください（）。

12：接続先が見つかりません

- **接続する機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？**
  - 接続する機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がIPアドレス［自動設定］になっています。この設定で間違いありませんか？**
  - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス［**手動設定**］にして設定を行ってください（）。

DHCPサーバーの確認内容

- **DHCPサーバーの電源は入っていますか？**
  - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- **DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？**
  - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
  - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- **DHCPサーバーは正常に機能していますか？**
  - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がDNSアドレス［手動設定］になっています。この設定で間違いありませんか？**
  - DNSサーバーを使用していない場合は、カメラをDNSアドレス［**使わない**］の設定にしてください（）。
- **カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？**
  - 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（、）。

DNSサーバーの確認内容

- **DNSサーバーの電源は入っていますか？**
  - DNSサーバーの電源を入れてください。
- **DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？**
  - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- **DNSサーバーは正常に機能していますか？**
  - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（、）。
  - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- **カメラと同じネットワークに接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？**
  - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
  - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス［**手動設定**］の設定になっているときは、IPアドレス［**自動設定**］の設定にしてください（）。

参考

エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。
  カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  - 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（）。

61：同じSSIDの無線LANネットワークがみつかりません

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
  - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

カメラの確認内容

- **カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？**
  - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください（）。

アクセスポイントの確認内容

- **アクセスポイントの電源は入っていますか？**
  - アクセスポイントの電源を入れてください。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
    MACアドレスは［**MACアドレス**］画面で確認できます（）。

64：無線LAN端末に接続できません

- **カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？**
  - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです（）。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
    MACアドレスは［**MACアドレス**］画面で確認できます（）。

65：無線LANの接続が切れました

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
  - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

- **何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。**
  - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます。

91：その他のエラー

- **エラー11～83以外の異常が発生しました。**
  - カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- **送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。**
  - Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- **ネットワークが接続されていますか？**
  - ネットワークの接続状態を確認してください。

127：エラーが発生しました

- **Webサービスの接続中に、エラー121～126以外の異常が発生しました。**
  - image.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

130：サーバーが混みあっています
しばらくたってからもう一度実行してください

- **image.canonに一時的に負荷が集中しています。**
  - しばらくしてからimage.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

131：もう一度実行してください

- **image.canonのWi-Fi接続でエラーが発生しました。**
  - image.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

132：サーバーでエラーが発生しました
しばらくしてから実行してください

- **image.canonがメンテナンス中です。**
  - しばらくしてからimage.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

133：Webサービスにログインできません

- **image.canonのログインでエラーが発生しました。**
  - image.canonの設定を確認してください。
  - しばらくしてからimage.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

134：日付/時刻を正しく設定してください

- **日付／時刻／エリアが正しく設定されていません。**
  - [：**日付/時刻/エリア**]の設定を確認してください。

135：Webサービスの設定が変更されています

- **image.canonの設定が変更されています。**
  - image.canonの設定を確認してください。

136:カメラに表示されたQRコードを専用アプリで正しく読み取れませんでした。カメラ連携設定をやり直してください

- **スマートフォンでQRコードが正しく読み取れていません。**
  - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

137:カメラに表示されたQRコードの有効期限が切れました。カメラ連携設定をやり直してください

- **表示されたQRコードの有効期限が切れています。**
  - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

138：サーバーとの通信エラーが発生しました。再送信してください

- **何らかの理由でサーバーと通信ができませんでした。**
  - image.canonでクラウドRAW現像の状況を確認し、画像の送信をやり直してください。

無線通信機能での注意事項

- カメラとスマートフォンとの距離について
- アクセスポイントのアンテナの設置場所について
- 近くにある電子機器について
- カメラを複数使うときの注意

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯）のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受
  悪意ある第三者によって無線LANの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- ネットワークへの不正アクセス
  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

Windowsの場合
Windowsの［**コマンドプロンプト**］を開き、ipconfig /all と入力して〈Enter〉キーを押します。
パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

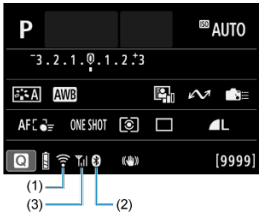
macOSの場合
macOSの［**ターミナル**］を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。［**enX**］（Xは数字）項目［**inet**］の***.***.***.***がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。
［**ターミナル**］については、macOSのヘルプを参照してください。

なお、IPアドレスを手動で設定する場合でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。
例）192.168.1.**10**

無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

クイック設定画面



再生時の情報表示画面

(1)Wi-Fi機能
(2)Bluetooth機能
(3)電波強度

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない	OFF	消灯
	Wi-Fi：使う	OFF	
接続開始		（点滅）	
接続中			
送信中			
接続エラー		（点滅）	

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
［使わない］以外	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
［使わない］	Bluetooth未接続	非表示

機能設定

この章では、メニュー機能の「：機能設定タブ」の項目について説明しています。
タイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

- メニュー目次：機能設定タブ
- フォルダ選択
- 画像番号
- カード初期化
- 縦位置画像回転表示
- 動画縦位置情報の付加
- 日付／時刻／エリア
- 言語
- ビデオ方式
- ヘルプ機能
- 撮影モードガイド
- 機能ガイド
- 電子音
- 音量
- ヘッドフォン
- 節電
- 画面の表示先設定
- モニターの明るさ
- ファインダーの明るさ
- ファインダーの色調微調整
- メニュー画面の拡大
- HDMI出力解像度
- タッチ操作
- マルチ電子ロック
- センサークリーニング
- USB接続アプリの選択
- カメラの初期化 応用
- カスタム撮影モード（C1, C2） 応用
- バッテリー情報
- 著作権情報 応用
- その他の情報

メニュー目次：機能設定タブ

- **機能設定1**

(1) フォルダ選択
(2) 画像番号
(3) カード初期化
(4) 縦位置画像回転表示
(5) 縦位置情報の付加
(6) 日付/時刻/エリア
(7) 言語

- **機能設定2**

(1) ビデオ方式
(2) ヘルプの文字サイズ
(3) 撮影モードガイド
(4) 機能ガイド
(5) 電子音
(6) 音量
(7) ヘッドフォン

● **機能設定3**

(1) 節電
(2) 画面の表示先設定
(3) モニターの明るさ
(4) ファインダーの明るさ
(5) ファインダーの色調微調整
(6) メニュー画面の拡大
(7) HDMI出力解像度

● **機能設定4**

(1) タッチ操作
(2) マルチ電子ロック
(3) センサークリーニング
(4) USB接続アプリの選択

● **機能設定5**

(1) カメラの初期化 応用
(2) カスタム撮影モード（C1, C2） 応用
(3) バッテリー情報
(4) 著作権情報 応用
(5) 使用説明書・ソフトウェア URL
(6) 認証マーク表示 応用
(7) ファームウェア

フォルダ選択

- フォルダの作成
- フォルダの選択

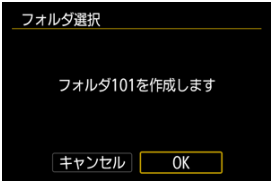
画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

フォルダの作成

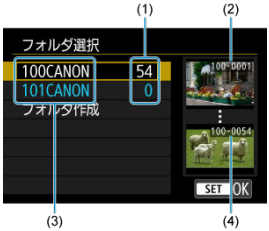
1. **［ : フォルダ選択］を選ぶ**

2. **［フォルダ作成］を選ぶ**

3. **［OK］を選ぶ**



フォルダの選択



(1) フォルダ内画像数

(2) 最小番号画像

(3) フォルダ名

(4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

参考

フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「 _ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

画像番号

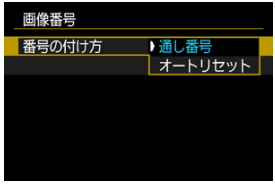
- 通し番号
- オートリセット
- 強制リセット

撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。
画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

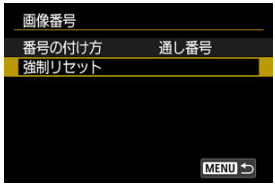
（例）
IMG_0001.JPG
（1）
（1）画像番号

1. **［ : 画像番号］を選ぶ**

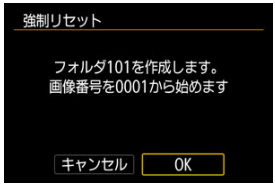
2. 項目を設定する



- ［**番号の付け方**］を選びます。
- ［**通し番号**］［**オートリセット**］のいずれかを選びます。



- 画像番号をリセットしたいときは、［**強制リセット**］を選びます（🖉）。



- ［**OK**］を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

注意

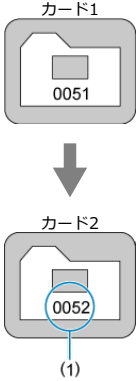
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

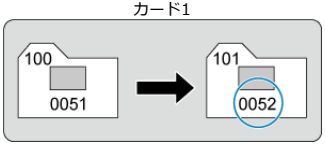
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。
ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合



(1) 続きの画像番号

フォルダを作成した場合

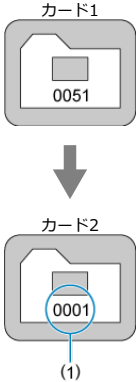


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

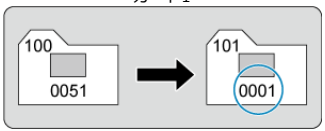
カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。
ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合



(1) 画像番号リセット

フォルダを作成した場合



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

カード初期化

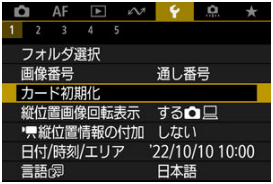
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

注意

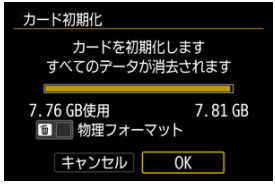
- **カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。**

---

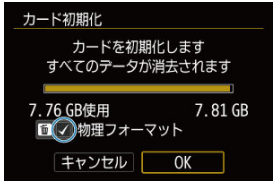
1. **［：カード初期化］を選ぶ**



2. 初期化する



- ［**OK**］を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に［✓］が付いた状態で［**OK**］を選びます。

カードの初期化が必要な場合

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき**
- **画像やデータでカードがいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき（）**

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

- SDカードはFAT12形式またはFAT16形式、SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

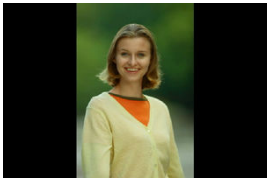
注意

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

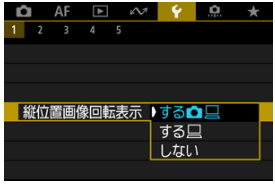
縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. **[: 縦位置画像回転表示]を選ぶ**

2. 項目を選ぶ



- **する**
  カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。

- **する**
  パソコンでの表示で自動回転表示を行います。

- **しない**
  自動回転しません。

注意

- [**しない**]で撮影した画像は、[**する**]に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

参考

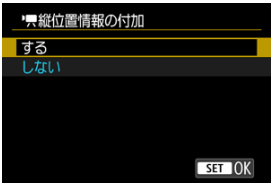
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

動画縦位置情報の付加

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。

1. **［ : 縦位置情報の付加］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



- **する**
  スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。

- **しない**
  スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。

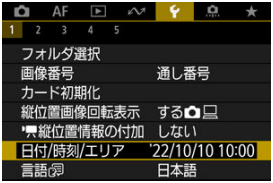
注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、設定に関わらず、横位置で再生されます。

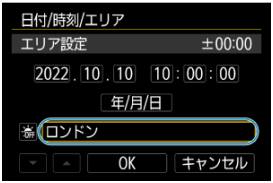
日付／時刻／エリア

初めて電源を入れたときや、日付／時刻／エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。
エリアから設定しておくと、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付／時刻に変更されます。
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

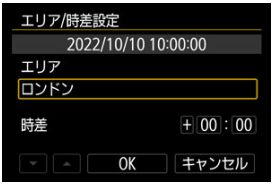
1. **［：日付/時刻/エリア］を選ぶ**



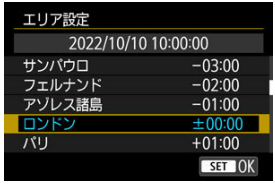
2. **エリアを設定する**



- 〈〉を回して［**エリア設定**］を選びます。



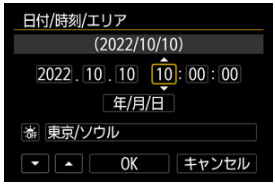
- 〈〉ボタンを押します。



- エリアを選びます。
- 該当するエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押して［**時差**］（協定世界時との時差）で設定します。

- ［**時差**］の項目（+/-時/分）を選び、〈SET〉ボタンを押します。
- 項目を設定し、〈SET〉ボタンを押します。
- エリア／時差の設定が終わったら、［**OK**］を選びます。

3. 日付／時刻を設定する

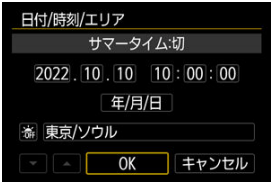


- 項目を選び、〈SET〉ボタンを押します。
- 項目を設定し、〈SET〉ボタンを押します。

4. サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- ［☀ OFF］または［☀］を選び、〈SET〉ボタンを押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。［☀ OFF］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5. 設定を終了する



- ［**OK**］を選びます。

注意

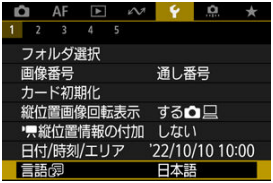
- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付／時刻／エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- ［**エリア/時差設定**］の内容を変更したときは、日付／時刻が正しく設定されているか確認してください。

参考

- ［**🔧：日付/時刻/エリア**］の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

言語

1. **[: 言語] を選ぶ**



2. **言語を設定する**

ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1. **［ : ビデオ方式］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- **NTSC**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

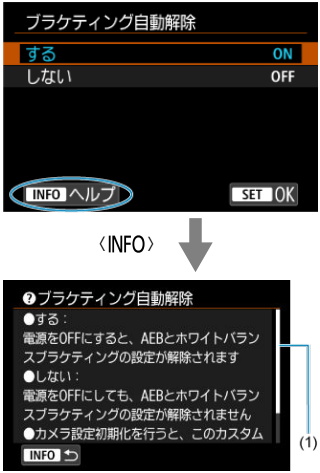
- **PAL**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

ヘルプ機能

ヘルプの文字サイズの変更

[INFO ヘルプ]が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈☞〉を回します。

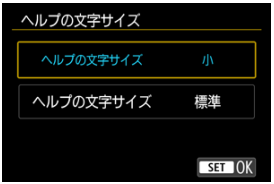
● **[📷：ブラケティング自動解除]の例**



ヘルプの文字サイズの変更

1. **［ : ヘルプの文字サイズ］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

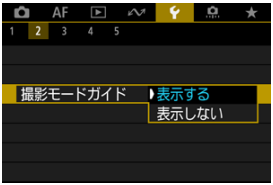


撮影モードガイド

撮影モードを変更したときに、撮影モードの説明（撮影モードガイド）を表示することができます。初期状態では、［**表示する**］に設定されています。

1. **［ : 撮影モードガイド］を選ぶ**

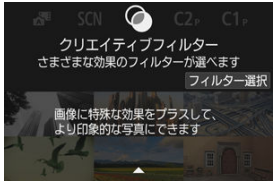
2. **［表示する］を選ぶ**



3. **モードダイヤルを回す**

- 設定した撮影モードの説明が表示されます。

4. [▼] をタッチする



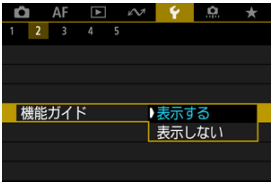
- さらに、説明が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押すと、撮影モードガイドは消えます。
- 〈 **SCN** 〉 〈◕〉モードのときは、撮影モードの選択画面を表示できます。

機能ガイド

クイック設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。

1. **［ : 機能ガイド］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



画面例

(1) 機能ガイド

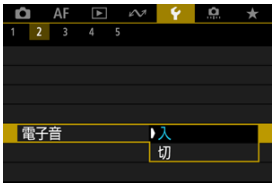
参考

- 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

電子音

1. **[: 電子音] を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



- **入**
  ピントが合ったときや、タッチ操作時に電子音が鳴ります。

- **切**
  ピントが合った音、セルフタイマー音、シャッター音およびタッチ操作時の電子音などを消します。

参考

- タッチ音の初期設定は音量［**0**］に設定されています（🔗）。

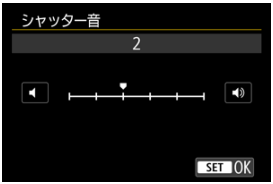
音量

カメラの各種動作音の音量を変えられます。

1. **[: 音量] を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

3. **音量を調節する**



- 〈 〉を回して音量を調節し、〈 〉ボタンを押します。

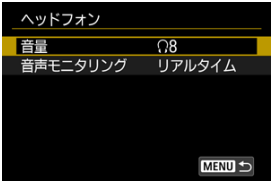
ヘッドフォン

- 音量
- 音声モニタリング

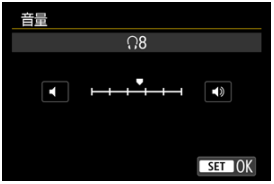
音量

1. **[: ヘッドフォン] を選ぶ**

2. **[音量] を選ぶ**



3. 音量を調節する



- 〈 〉を回して音量を調節し、〈 〉ボタンを押します。

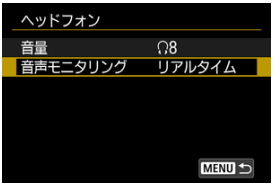
参考

- [: **録音**] が [**しない**] 以外、[**ハイフレームレート**] が [**切**] のときは、内蔵マイクまたは外部マイクからの音をヘッドフォンで確認することができます。

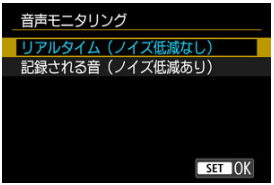
音声モニタリング

動画記録時に、ヘッドフォンから出力される音声を選択できます。記録される音声のノイズを低減するには、[**音声ノイズ低減**]（）を設定してください。

1. [音声モニタリング]を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **リアルタイム（ノイズ低減なし）**
  ノイズ低減処理をせず音声が出力されます。

- **記録される音（ノイズ低減あり）**
  ノイズ低減処理をして音声が出力されます。

注意

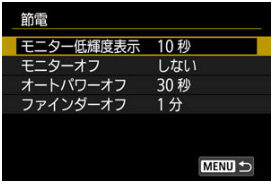
- [**記録される音（ノイズ低減あり）**]を選択したときは、映像に対して音声が若干遅延して出力されます。ただし、記録される動画に音声の遅延はありません。

節電

カメラを操作しない状態でモニターが暗くなるまでの時間（モニター低輝度表示）、モニターが暗くなってから画面が消えるまでの時間（モニターオフ）、カメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）やファインダーの表示が消えるまでの時間（ファインダーオフ）を変えることができます。

1. **［ : 節電］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



参考

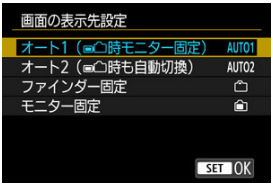
- [**モニター低輝度表示**]と[**モニターオフ**]は撮影画面の表示時に機能します。メニューや再生画面の表示時は機能しません。
- メニューや再生画面の表示時は、[**モニター低輝度表示**][**モニターオフ**][**オートパワーオフ**]の設定時間後にカメラの電源が切れます。
- [**モニターオフ**]と[**オートパワーオフ**]を[**しない**]に設定していても、液晶を保護するため、モニターが暗くなってから30分後に画面の表示が消えます(カメラの電源は切れません)。
- モニター表示時も、[**ファインダーオフ**]の設定は有効です。設定時間後、ファインダーオンセンサーが無効になります。
- ファインダー表示時は、[**ファインダーオフ**]の設定のみ有効です。設定時間後、ファインダーオンセンサーが無効になり、さらにファインダーの表示が消えます。
- 静止画撮影待機時、低輝度表示になると、モニターに表示される映像のフレームレートは低下します。

画面の表示先設定

モニターを開いているときに、意図せずファインダー内のファインダーオンセンサーが反応してしまうことを防ぐために、画面の表示先を設定することができます。

1. **［：画面の表示先設定］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



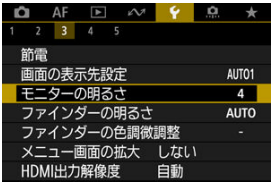
- **AUTO1：オート1（時モニター固定）**
  モニターが開いているときは、常にモニター表示になります。
  モニターを閉じて、画面を表向きにしているときは、通常はモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。
- **AUTO2：オート2（時も自動切換）**
  画面を表向きにしているときは、通常はモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。
- **：ファインダー固定**
  常にファインダー表示になります。
- **：モニター固定**
  モニターを開いているときは常にモニター表示になります。

参考

- ボタンカスタマイズで登録した切換ボタンを押してファインダー表示、モニター表示を切り換えることもできます。［**AUTO1**］、［**AUTO2**］設定時はファインダーオンセンサーの反応があった場合はその状態に従って動作します。
- ［**AUTO1**］設定時、モニターを開いているときは、ファインダーオンセンサーは反応しません。

モニターの明るさ

1. **［ : モニターの明るさ］を選ぶ**



2. **調整する**

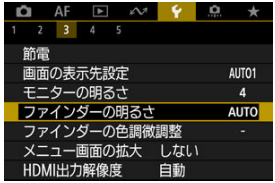
- グレーチャートを参考にして〈 〉を回し、〈 〉ボタンを押します。効果はモニターで確認してください。

参考

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（ ）で確認することをおすすめします。

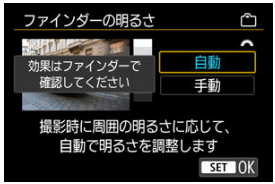
ファインダーの明るさ

1. **[: ファインダーの明るさ] を選ぶ**



2. **〈 〉を回し、[自動] または [手動] を選ぶ**

自動



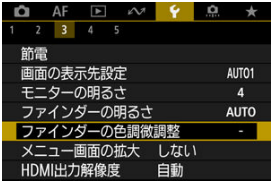
- 〈 〉ボタンを押します。効果は撮影時にファインダーで確認してください。

手動

- 〈 〉を回してファインダーの明るさを調整し、〈 〉ボタンを押します。効果はファインダーで確認してください。

ファインダーの色調微調整

1. **[: ファインダーの色調微調整] を選ぶ**



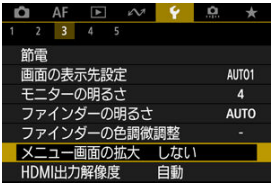
2. **調整する**

- グレーチャートを参考にして〈✣〉を動かし、〈(SET)〉ボタンを押します。効果はファインダーで確認してください。

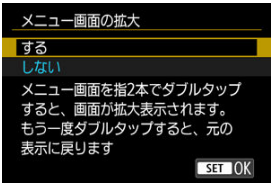
メニュー画面の拡大

指2本で、メニュー画面をダブルタップすると、メニュー画面を拡大して表示することができます。再度、ダブルタップすると元の表示サイズに戻ります。

1. **［ : メニュー画面の拡大］を選ぶ**



2. **［する］を選ぶ**



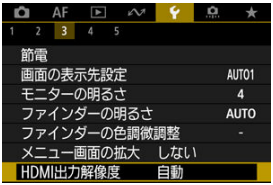
注意

- 拡大表示した状態で、メニュー機能の設定を行うときは操作部材で操作してください。タッチして操作することはできません。

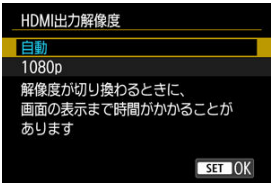
HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1. **［ : HDMI出力解像度］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

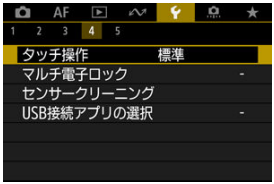


- **自動**
  接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- **1080p**
  1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

タッチ操作

1. **［ : タッチ操作］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

- ［**敏感**］に設定すると、［**標準**］に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、［**しない**］を選びます。

注意

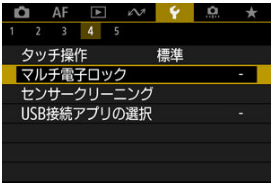
タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- ［**敏感**］設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

マルチ電子ロック

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。

1. **[: マルチ電子ロック] を選ぶ**



2. **操作を禁止する操作部材を選ぶ**

- 〈(SET)〉ボタンを押すと、[√] が表示されます。
- [**OK**] を選びます。
- 電源／マルチ電子ロックスイッチを〈LOCK〉位置にすると、[√] をつけた操作部材がロックされます。

参考

- 初期状態から設定が変更されているときは、[**: マルチ電子ロック**] の右端に「＊」が表示されます。

センサークリーニング

今すぐクリーニング

自動クリーニング

このカメラは、撮像素子前面を清掃する、センサークリーニング機能を備えています。

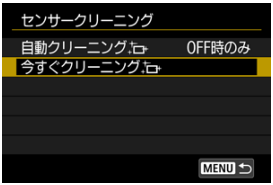
参考

- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。

今すぐクリーニング

1. **[: センサークリーニング] を選ぶ**

2. **[今すぐクリーニング] を選ぶ**



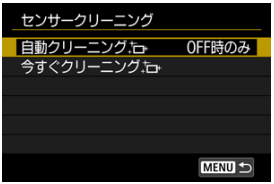
- 確認画面で［**OK**］を選びます。

参考

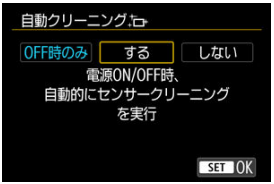
- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、[**今すぐクリーニング**]が選べないことがあります。

自動クリーニング

1. **[自動クリーニング:]を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**



- 〈 〉を回して項目を選び、〈 〉ボタンを押します。

参考

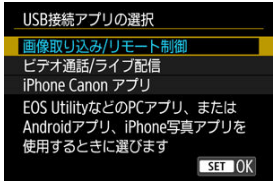
- [**OFF時のみ**]または[**する**]のときは、モニターの表示が消えるとき（モニターオフ時）も、センサークリーニングが実行されます。

USB接続アプリの選択

カメラとスマートフォンやパソコンをインターフェースケーブルで接続し、画像を転送したり、スマートフォンやパソコンに取り込むことなどができます。

1. **［ : USB接続アプリの選択］を選ぶ**

2. 項目を選ぶ



- **画像取り込み/リモート制御**
  パソコンと接続してEOS Utilityを使用するとき、Android版専用アプリケーションやiOSの写真アプリケーションを使用するときに選びます。

- **ビデオ通話/ライブ配信**
  パソコンと接続して、UVC/UAC対応のアプリケーションを使用するときに選びます。
  [**ビデオ通話/ライブ配信**] を選んだあと、インターフェースケーブルでパソコンと接続し、アプリケーションを起動します。
  出力する映像の解像度とフレームレートは、2K (1920×1080)、30fpsとなります。

- **iPhone Canon アプリ**
  iPhoneのアプリケーションを使用するときに選びます。
  カメラとスマートフォンの接続には専用のケーブルが必要です。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください。

注意

- [**ビデオ通話/ライブ配信**] でカメラを使用するときは、給電は行われません。長時間カメラを使用するときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

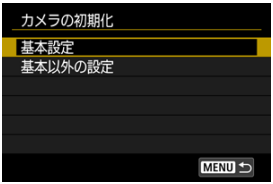
カメラの初期化

応用

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1. [: カメラの初期化] を選ぶ

2. 項目を選ぶ



- **基本設定**
  カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定内容を初期状態に戻します。

- **基本以外の設定**
  選択した項目の設定内容を初期化することができます。

3. 初期化する

- 確認画面で［**OK**］を選びます。

参考

- ［**基本以外の設定**］の［**カスタム撮影モード（C1, C2）**］を選択したとき、静止画撮影状態のときは静止画のカスタム撮影モード、動画撮影状態のときは動画のカスタム撮影モードが、初期化されます。

カスタム撮影モード（C1, C2）

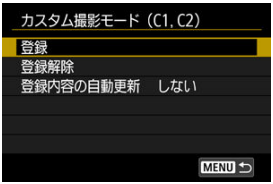
応用

- 登録内容の自動更新
- カスタム撮影モードの登録解除

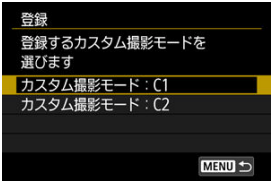
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、撮影モードの〈C1〉～〈C2〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに登録することができます。

1. **[: カスタム撮影モード（C1, C2)] を選ぶ**

2. **[登録] を選ぶ**



3. 登録する



- 登録するカスタム撮影モードを選び、［**登録**］の画面で［**OK**］を選びます。
- カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC＊に登録されます。
- 静止画撮影時は、登録された撮影モードがカスタム撮影モードのアイコンに反映されます（例［C1Tv］［C2Av］）。
- 動画撮影時は、カスタム撮影モードのアイコンが［C1P］［C2P］に変わります。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で［**登録内容の自動更新**］を［**する**］に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で［**登録解除**］を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

参考

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

バッテリー情報

使用しているバッテリーの状態を確認することができます。

1. **[: バッテリー情報] を選ぶ**

(1) バッテリー位置

(2) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。

(3) バッテリー残量（）が表示されます。

(4) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

■■■（緑）：劣化していません

■■□（緑）：少し劣化しています

■□□（赤）：バッテリーの買い換えをおすすめします

注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E17の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

参考

- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

著作権情報

応用

- 著作権情報の確認
- 著作権情報の消去

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

注意

- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、[**著作権情報の表示**]を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

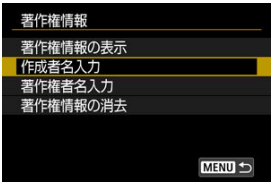
参考

- EOS用ソフトウェアのEOS Utility（）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

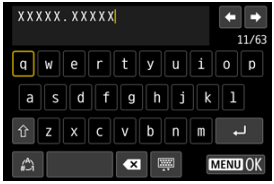
---

1. **[：著作権情報]を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



3. 文字を入力する

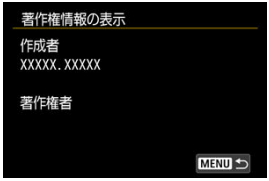


- 〈 〉 〈 〉を操作して文字を選び、〈 〉ボタンを押すと入力されます。
- [ ]を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [ ]を選ぶか、〈 〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

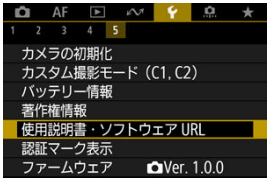
著作権情報の確認



手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。



● 使用説明書・ソフトウェア URL

[: **使用説明書・ソフトウェア URL**] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

● 認証マーク表示 応用

[: **認証マーク表示**] を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ファームウェア

[: **ファームウェア**] を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズなどの対応アクセサリーのファームウェアをアップデートすることができます。

カスタム機能／マイメニュー

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

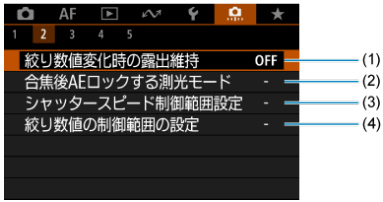
- メニュー目次：カスタム機能タブ
- カスタム機能で変更できる内容
- メニュー目次：マイメニュータブ
- マイメニューの登録

メニュー目次：カスタム機能タブ

● カスタム機能1

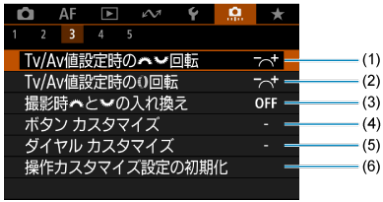
(1) 露出設定ステップ
(2) ISO感度設定ステップ
(3) ISOオートで測光中にISO感度変更
(4) ブラケティング自動解除
(5) ブラケティング順序
(6) ブラケティング時の撮影枚数
(7) セイフティシフト

● カスタム機能2



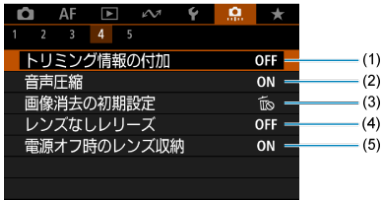
(1) 絞り数値変化時の露出維持
(2) 合焦後AEロックする測光モード
(3) シャッタースピード制御範囲設定
(4) 絞り数値の制御範囲の設定

● カスタム機能3



(1) Tv/Av値設定時の回転
(2) Tv/Av値設定時の回転
(3) 撮影時とのの入れ換え
(4) ボタン カスタマイズ
(5) ダイヤル カスタマイズ
(6) 操作カスタマイズ設定の初期化

● カスタム機能4



(1) トリミング情報の付加
(2) 音声圧縮
(3) 画像消去の初期設定
(4) レンズなしレリーズ
(5) 電源オフ時のレンズ収納

● カスタム機能5

(1) カスタム機能(C.Fn)一括解除
[: **カスタム機能(C.Fn)一括解除**] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能で変更できる内容

- C.Fn1
- C.Fn2
- C.Fn3
- C.Fn4
- C.Fn5

撮影スタイルに応じて、[📷] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

C.Fn1

露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

- **1/3 : 1/3段**
- **1/2 : 1/2段**

参考

- ［**1/2段**］設定時は、図のように表示されます。

ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- **1/3 : 1/3段**
- **1/1 : 1段**

参考

- ［**1段**］に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

ISOオートで測光中にISO感度変更

〈**P**〉 〈**Tv**〉 〈**Av**〉 〈**M**〉 〈**B**〉モードで、ISO感度がオートのときに、測光中または測光タイマー中に、ISO感度を変更した場合に、測光タイマー完了後のISO感度の状態を設定することができます。

- **AUTO↩：測光タイマー後オートに戻す**
- **AUTO↩：測光タイマー後オートに戻さない**

ブラケティング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときの、AEBとWBブラケティングの解除を設定することができます。

- **ON：する**
- **OFF：しない**

ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

- **0−+：0→−→+**
- **−0+：−→0→+**
- **+0−：+→0→−**

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	− ：ブルー寄りに補正	− ：マゼンタ寄りに補正
+ ：プラス補正	+ ：アンバー寄りに補正	+ ：グリーン寄りに補正

ブラケティング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を変更することができます。
なお、[**ブラケティング順序**]を[**0→−→+**]に設定したときは、下表のように撮影されます。

- **3：3枚**
- **2：2枚**
- **5：5枚**
- **7：7枚**

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	−1	+1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	−2	−1	+1	+2		
7：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	+1	+2	+3

参考

- [**2枚**]設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または−）を選ぶことができます。WBブラケティング設定時は、B/A方向、またはM/G方向のマイナス補正になります。

セイフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。[**Tv値/Av値**]は〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで機能します。[**ISO感度**]は〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで機能します。

- **OFF : しない**
- **Tv/Av : Tv値/Av値**
- **ISO : ISO感度**

参考

- [📷 : 📷**ISO感度に関する設定**]で、[**ISO感度の範囲**][**オートの低速限界**]が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、[**オートの範囲**]の設定によります（🖉）。ただし、手動設定されているISO感度が[**オートの範囲**]を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

絞り数値変化時の露出維持

〈**M**〉モード（マニュアル露出撮影）＋ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、(1) レンズを交換したとき、(2) エクステンダーを装着したとき、(3) 開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッタースピード（Tv値）を自動的に変更して、(1) (2) (3) を行う前と同じ露出で撮影することができます。
［**ISO感度/Tv値**］は、ISO感度設定範囲内でISO感度を自動的に変更します。ISO感度を変更しても露出が維持できないときは、シャッタースピード（Tv値）を自動的に変更します。

- **OFF：しない**
- **ISO：ISO感度**
- **ISO/Tv：ISO感度/Tv値**
- **Tv：Tv値**

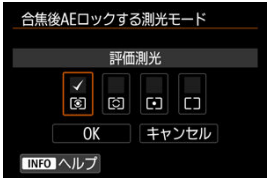
注意

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- ［**ISO感度**］設定時に、［**ISO感度の範囲**］で設定した範囲内で露出が維持できないときは、(1) (2) (3) を行う前と同じ露出になりません。
- ［**Tv値**］設定時に、［ ：**シャッタースピード制御範囲設定**］で設定した範囲内で露出が維持できないときは、(1) (2) (3) を行う前と同じ露出になりません。
- ［ ：**シャッター方式**］が［**電子シャッター**］のとき、［**絞り数値変化時の露出維持**］を［**Tv値**］または［**ISO感度/Tv値**］に設定すると、Tv値が1/8000に制限されます。

参考

- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- ［**ISO感度**］［**ISO感度/Tv値**］［**Tv値**］の設定で (1) (2) (3) を行ったあと、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値を任意に変更せずに (1) (2) (3) を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- ［**ISO感度**］設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッタースピードが変化することがあります。

合焦後AEロックする測光モード



ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。AEロックする測光モードを選び、[✓]を付けます。[**OK**]を選ぶと設定されます。

シャッタースピード制御範囲設定

シャッタースピードの制御範囲を、[📷：**シャッター方式**]ごとに設定することができます。〈**Fv**〉〈**Tv**〉〈**M**〉モードのときは、設定した範囲でシャッタースピードを手動設定することができます。〈**P**〉〈**Av**〉モードのときや、〈**Fv**〉モードでシャッタースピードを[**AUTO**]にしたときは、設定した範囲でシャッタースピードが自動設定されます（動画撮影時を除く）。[**OK**]を選ぶと設定されます。

- **電子先幕**
  - **低速側**：30秒～1/2000秒の範囲で設定することができます。
  - **高速側**：1/4000～15秒の範囲で設定することができます。
- **電子シャッター**
  - **低速側**：30秒～1/8000秒の範囲で設定することができます。
  - **高速側**：1/16000～15秒の範囲で設定することができます。

注意

- 高周波フリッカーレス撮影時は、本設定は適用されません。

絞り数値の制御範囲の設定

絞り数値の制御範囲を設定することができます。〈**Fv**〉 〈**Av**〉 〈**M**〉 〈**B**〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。〈**P**〉 〈**Tv**〉モードのときや、〈**Fv**〉モードで絞り数値を［**AUTO**］にしたときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます。［**OK**］を選ぶと設定されます。

- **開放側**
  F1.0～F64の範囲で設定することができます。
- **小絞り側**
  F91～F1.4の範囲で設定することができます。

参考

- 絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

C.Fn3

Tv/Av値設定時の回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。
撮影モードが〈**M**〉のときは〈 〉〈 〉、それ以外の撮影モードでは〈 〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈 〉を操作したときの設定方向と、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モード時に〈 〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

- **: 通常**
- **: 設定方向を反転**

Tv/Av値設定時の回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のRFレンズやマウントアダプターのコントロールリングによる設定方向を反転させることができます。

- **: 通常**
- **: 設定方向を反転**

撮影時との入れ換え

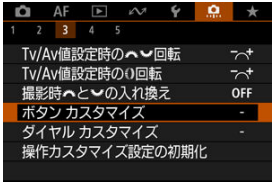
メイン電子ダイヤルとサブ電子ダイヤルに割り当てた機能を入れ換えることができます。

- **OFF : しない**
- **ON : する**

ボタン カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。また、静止画撮影時と動画撮影時で、同じボタンに別の機能を割り当てることができます。

1. **[: ボタン カスタマイズ] を選ぶ**



2. **操作部材を選ぶ**

3. **割り当てる機能を選ぶ**

- 〈(SET)〉ボタンを押すと設定されます。
- 画面左下に［**INFO 詳細設定**］が表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- [: **ボタン カスタマイズ**] の設定は、[: **カスタム機能(C.Fn)一括解除**] を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、[: **操作カスタマイズ設定の初期化**] を選んでください。

割り当て可能な機能一覧

AF

●：初期値 ○：機能割り当て可能

		M-Fn	AF-ON							SET	L-Fn	
AF-OFF：AF停止												
-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	●	-
AF：測光・AF開始												
●	-	-	●	○	-	-	-	-	-	-	○	-
：AFフレーム選択												
-	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	-
：AFフレームダイレクト選択												
-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-
：AFフレーム中央戻し												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：全域トラッキングの開始/停止												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AF：登録AF機能に切り換え[*1]												
-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-
：AFエリアダイレクト選択[*1]												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：検出する被写体ダイレクト選択[*1]												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
ONE SHOT SERVO：ワンショットAF ⇄ サーボAF[*1]												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AF：検出した被写体でAF[*1]												
-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-
AF：瞳AF[*1]												
-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-

: 瞳検出												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
: スポット検出												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AF/MF : フォーカスモード												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
PEAK : ピーキング												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
: フォーカスガイド												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
: 被写体検出AF*2												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
: ドライブモード*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

＊1：動画撮影の設定では割り当てできません。
＊2：静止画撮影の設定では割り当てできません。

露出

●：初期値 ○：機能割り当て可能

		M-Fn	AF-ON							SET	L-Fn	
：測光開始												
○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
：AEロック												
-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-
H：AEロック（ホールド）												
-	○	○	○	●*4	-	-	-	-	-	-	○	-
AF-OFF：AEロック・AF停止												
-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-
：AEロック(押している間)*1												
○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AEL FEL：AEロック/FEロック*1												
-	○	○	○	●*3	-	-	-	-	-	-	○	-
OFF：AEロック解除												
-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-
：露出補正（押しながら）												
-	-	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-
ISO：ISO感度												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
ISO：ISO感度設定（押しながら）												
-	-	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-
：ストロボの発光*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
FEL：FEロック*1												
-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-

*1：動画撮影の設定では割り当てできません。
*3：静止画撮影時の初期値
*4：動画撮影時の初期値

画像

●：初期値 ○：機能割り当て可能

		M-Fn	AF-ON							SET	L-Fn	
：記録画質選択*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
RAW JPEG：ワンタッチ記録画質切換*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
RAW JPEG H：ワンタッチ記録画質切換（ホールド）*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：静止画クロップ/アスペクト*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
T：デジタルテレコン*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：オートライティングオプティマイザ												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
WB：ホワイトバランス												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：ピクチャースタイル選択												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
RAW：RAWバーストモード*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：プロテクト												
-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
★：レーティング												
-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
：フォルダ選択												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

＊1：動画撮影の設定では割り当てできません。

動画

●：初期値 ○：機能割り当て可能

		M-Fn	AF-ON							SET	L-Fn	
：フォルスカラー*2												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：ゼブラ*2												
-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：動画撮影												
-	●	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
：動画サーボAF一時停止*2												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：デジタルズーム*2												
-	-	○	○	○	○	●*4	●*4	○	○	○	○	-
PRE● ：プレ記録*2												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：動画セルフタイマー*2												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：温度上昇緩和*2												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

*2：静止画撮影の設定では割り当てできません。
*4：動画撮影時の初期値

●：初期値 ○：機能割り当て可能

：ストロボ機能設定*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
Gr：クイックストロボグループ制御*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DIAL FUNC：ダイヤルファンクション設定												
-	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：絞り込み*1												
-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-
TV STEP：高周波フリッカーレス手動設定(Tv値)												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AUTO：Fvモード時、選択項目をリセット*1												
-	○	○	○	○	○	● *3	○	● *3	○	○	○	-
AUTO：Fvモード時、Tv,Av,,ISOをリセット*1												
-	○	○	○	○	○	○	● *3	○	● *3	○	○	-
Q：クイック設定画面												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	-
：拡大/縮小												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：画像の再生												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：再生画像の拡大												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：撮影機能の登録と呼出*1												
-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-

MENU：メニュー表示												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：タッチシャッター*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：フォルダ作成*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
OVF V.A：OVFビューアシスト*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：撮影画面表示設定*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：モニターを一時的に明るくする												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：パワーオフ												
-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
：モニターオフ												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：サイレントシャッター機能*1												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
：フォーカス/コントロールリング切換												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
UNLOCK：押している間、ロック解除												
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
：画面の表示先切り換え												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続												
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
OFF : 無効												
-	○	○	○	○	○	○	○	●*4	●*4	○	○	○

*1：動画撮影の設定では割り当てできません。
*3：静止画撮影時の初期値
*4：動画撮影時の初期値

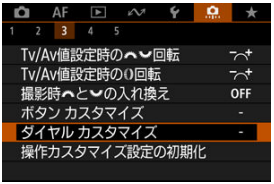
参考

- [Lfn]は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」または「レンズファンクションボタン」を表しています。
- [MENU]は、外部ストロボに装備されている「メニューダイレクト」を表しています。

ダイヤル カスタマイズ

〈 〉〈 〉〈 〉に、よく使う機能を割り当てることができます。

1. **[: ダイヤル カスタマイズ] を選ぶ**



2. **操作部材を選ぶ**

3. **割り当てる機能を選ぶ**

- 〈 〉ボタンを押すと設定されます。

参考

- [: **ダイヤル カスタマイズ**] の設定は、[: **カスタム機能(C.Fn)一括解除**] を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、[: **操作カスタマイズ設定の初期化**] を選んでください。
- [: **撮影時 と の入れ換え**] が [**する**] のときは、割り当て可能な機能も入れ換わります。

各ダイヤルに割り当てできる機能の一覧

●：初期値 ○：機能割り当て可能

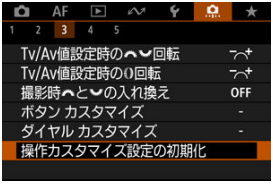
	機能名			
AF□	AFエリア選択		○	○
AF□	AFエリア選択(測光するボタン押しながら)			○
Tv	Tv値変更			○
Av	Av値変更			○
±0	露出補正		○	○
ISO	ISO感度設定		○	○
Tv	Tv値変更(測光するボタン押しながら)			○
Av	Av値変更(測光するボタン押しながら)			○
±0	露出補正(測光するボタン押しながら)			●
ISO	ISO感度(測光するボタン押しながら)			○
±0	調光補正/発光量(測光するボタン押しながら)			○
Tv	Mモード時、シャッタースピード変更	●	○	
Av	Mモード時、絞り数値変更	○	●	
WB	ホワイトバランス選択		○	○
K	色温度選択		○	○
	ピクチャースタイル選択		○	○
WB	ホワイトバランス選択(測光するボタン押しながら)			○
K	色温度選択(測光するボタン押しながら)			○
	ピクチャースタイル選択(測光するボタン押しながら)			○
OFF	無効	○	○	○

参考

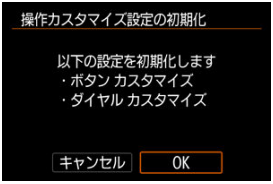
- 〈 〉は、RFレンズとマウントアダプターに装備されている「コントロールリング」を表しています。

操作カスタマイズ設定の初期化

1. **［ : 操作カスタマイズ設定の初期化］を選ぶ**



2. **［OK］を選ぶ**



- ［**ボタン カスタマイズ**］と［**ダイヤル カスタマイズ**］の設定を初期化します。

C.Fn4

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。
撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。
パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

- **OFF : しない**
- **6:6 : 比率6:6**
- **3:4 : 比率3:4**
- **4:5 : 比率4:5(六切)**
- **6:7 : 比率6:7**
- **5:6 : 比率5:6(四切)**
- **5:7 : 比率5:7**

注意

- ［：**静止画クロップ/アスペクト**］が［**フルサイズ**］以外に設定されているときは、トリミング情報は設定できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても（）、JPEG/HEIF画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG/HEIF画像が保存されます。

参考

- 設定した比率に応じた縦線が画面に表示されます。

音声圧縮

動画撮影時の音声データの圧縮に関する設定です。[**しない**] を選ぶと、音声データを圧縮時よりも高音質で記録することができますが、ファイルサイズは大きくなります。

- **ON : する**
- **OFF : しない**

注意

- [**しない**] で撮影した動画ファイルを編集して圧縮保存すると、音声データも圧縮されます。
- [**動画記録サイズ**] が FHD 29.97P IPB (NTSC)、FHD 25.00P IPB (PAL) のときは [**しない**] を選んでも音声データは圧縮されます。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（🖉）、そのときにどの項目が選択されているかを設定することができます。
[**キャンセル**] 以外に設定したときは、〈㊗〉ボタンを押すだけで画像を素早く消去することができます。

- **: [キャンセル]を選択**
- **: [消去]を選択**
- **RAW : [RAWのみ消去]を選択**
- **J/H : [RAW以外を消去]を選択**

注意

- [**キャンセル**] 以外に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

レンズなしレリーズ

レンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

- **OFF : しない**
- **ON : する**

電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：RF35mm F1.8 Macro IS STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- **ON：する**
- **OFF：しない**

注意

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

参考

- ［**する**］設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

カスタム機能(C.Fn)一括解除

[: **カスタム機能(C.Fn)一括解除**]を選ぶと、[**ボタン カスタマイズ**]と[**ダイヤル カスタマイズ**]以外のカスタム機能の設定を一括で解除することができます。

参考

- [: **ボタン カスタマイズ**][: **ダイヤル カスタマイズ**]で設定した内容を解除するときは、[: **操作カスタマイズ設定の初期化**]を選んでください。

メニュー目次：マイメニュータブ

(1) マイメニュータブの追加
(2) マイメニュータブの全削除
(3) 全項目削除
(4) メニュー表示

マイメニューの登録

- マイメニュータブの追加（作成）
- マイメニュータブに項目を登録
- マイメニュータブの設定
- マイメニュータブの全削除／全項目削除
- メニュー表示の設定

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

マイメニュータブの追加（作成）

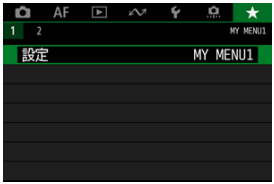
1. **［マイメニュータブの追加］を選ぶ**

2. **［OK］を選ぶ**

- 手順1、2を繰り返すと、［**MY MENU5**］まで作成することができます。

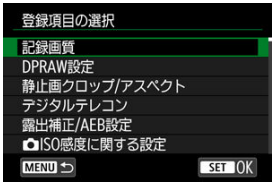
マイメニュータブに項目を登録

1. **［MY MENU＊：設定］を選ぶ**



2. **［登録項目の選択］を選ぶ**

3. **項目を登録する**



- 項目を選び〈㊗〉ボタンを押します。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定

タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**
  登録した項目の並び順を変えることができます。[**登録項目の並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉ボタンを押します。[⬍] が表示された状態で〈⌂〉を回して並び順を変え、〈SET〉ボタンを押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**
  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**タブ内の全項目削除**] を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

- **タブの削除**
  現在設定しているタブを削除することができます。[**タブの削除**] を選ぶと、[**MY MENU ＊**] のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**
タブの名称を［**MY MENU＊**］から任意の名称に変更することができます。

1. ［タブ名の変更］を選ぶ

2. 文字を入力する

- 〈 〉〈 〉を操作して文字を選び、〈 〉ボタンを押すと入力されます。
- ［ ］を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- ［ ］を選ぶか、〈 〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

3. 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除

作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

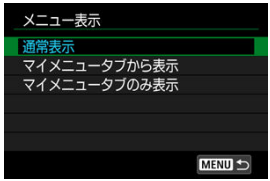
- **マイメニュータブの全削除**
  作成したタブをすべて削除することができます。［**マイメニュータブの全削除**］を選ぶと、［**MY MENU1**］～［**MY MENU5**］のタブがすべて削除され、［★］タブが初期状態に戻ります。

- **全項目削除**
  ［**MY MENU1**］～［**MY MENU5**］タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。

注意

- ［**タブの削除**］［**マイメニュータブの全削除**］を行うと、［**タブ名の変更**］で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



［**メニュー表示**］を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
- **マイメニュータブから表示**
  ［★］タブの画面から表示されます。
- **マイメニュータブのみ表示**
  ［★］タブの画面だけが表示されます（［📷］［AF］［▶］［〜］［🔧］［⚙］タブは表示されません。）

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- パソコンへの画像の取り込み
- スマートフォンへの画像の取り込み
- USB電源アダプターを使って充電／給電する
- エクステンショングリップを使う
- 故障かな？と思ったら
- エラー表示
- 動画撮影時のISO感度
- 情報表示
- 主な仕様

パソコンへの画像の取り込み

- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する
- カードリーダーを使う
- カメラとパソコンをWi-Fi接続する

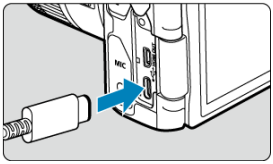
EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。

カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

1. **EOS Utilityをインストールする（）**

2. **［ : USB接続アプリの選択］で［画像取り込み/リモート制御］を選ぶ（）**

3. **カメラとパソコンを接続する**



- インターフェースケーブルを使用します。
- パソコンのUSB端子（Type-C）にプラグを差し込みます。

4. **EOS Utilityを使って画像を取り込む**

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダーを使う

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. **Digital Photo Professionalをインストールする（）**

2. **カードリーダーにカードを差し込む**

3. **Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む**

   - Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

参考

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

カメラとパソコンをWi-Fi接続する

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます（🔗）。

スマートフォンへの画像の取り込み

準備

Camera Connectを使用する場合

スマートフォンの機能を使用する場合

マルチアクセサリーシュースマートフォンリンクアダプター AD-P1（別売／Androidスマートフォンのみ）またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続して、カメラで撮影した画像をスマートフォンに取り込むことができます。

準備

1. ［ : USB接続アプリの選択］で項目を選ぶ（ ）

- Androidスマートフォンと接続するとき、またはiOSスマートフォンと接続して写真アプリを使用するときは、［**画像取り込み/リモート制御**］を選びます。
- iOSスマートフォンと接続して、Camera Connectを使用するときは［**iPhone Canon アプリ**］を選びます。
- 設定が終了したら、カメラの電源を切ります。

2. AD-P1またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続する

- AD-P1を使用する場合は、AD-P1に同梱の使用説明書を参照してください。
- Androidスマートフォンと接続するUSBケーブルは、キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-100UまたはIFC-400U）の使用をおすすめします。
- iOSスマートフォンと接続するUSBケーブルについては、キヤノンのホームページを参照してください。

Camera Connectを使用する場合

1. **スマートフォンにインストールしたCamera Connectを起動する**

   - Camera Connectのインストールについては、「スマートフォンにCamera Connectをインストールする」を参照してください。

2. **カメラの電源を入れる**

3. **［カメラ内の画像一覧］をタップする**

   - 表示された画像を選んで、スマートフォンに取り込みます。

スマートフォンの機能を使用する場合

1. カメラの電源を入れる

2. スマートフォンを操作して画像を取り込む

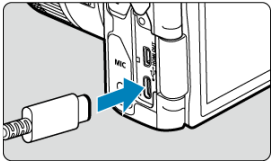
- Androidスマートフォンの場合は、[**ファイル**] のメニューから [**Canon Digital Camera** ***] を選び、DCIMフォルダ内の画像を取り込みます。
- iOSスマートフォンの場合は、写真アプリを起動して、カード内の画像を取り込みます。

USB電源アダプターを使って充電／給電する

USB電源アダプター PD-E1（別売）を使用して、カメラ内のバッテリーパック LP-E17を充電することができます。また、カメラへの給電を行うことができます。

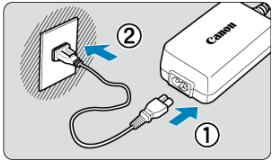
充電

1. **USB電源アダプターを接続する**

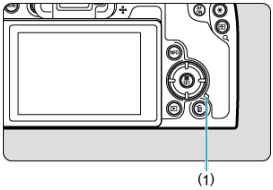


- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、デジタル端子にしっかりと差し込みます。

2. **電源コードを接続する**



- 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 充電が始まり、アクセスランプ（1）が緑色に点灯します。



- 充電が完了すると、アクセスランプが消灯します。

給電

カメラの電源スイッチを〈ON〉にすると給電のみを行い、充電はされません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
給電中は、バッテリー残量表示がグレーになります。
カメラの電源スイッチを〈OFF〉にすると給電から充電に切り換わります。

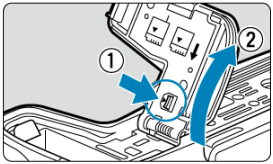
注意

- カメラ内にバッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（アクセスランプが緑色に点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下では、充電時間が長くなります。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。インターバル撮影のときは、撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- USB電源アダプターの取り外しは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから行ってください。

エクステンショングリップを使う

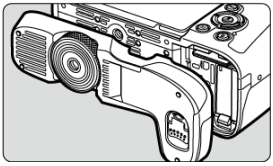
エクステンショングリップ EG-E1（別売）は、EOS R8をさらに持ちやすくするための専用アクセサリーです。カメラに取り付けた状態で、バッテリーやカードを入れたり取り出したりすることができます。

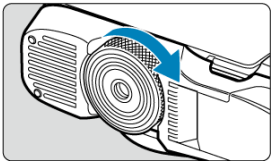
1. カード／バッテリー収納部ふたを外す



- カメラの電源を切ってからふたを外します。取り外したふたは、なくさないように保管します。

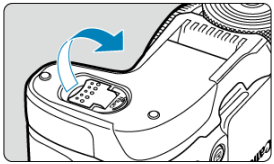
2. エクステンショングリップを固定する

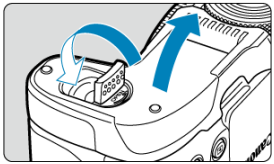


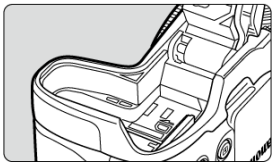


- 図のように取り付け、着脱ダイヤルを回して固定します。

3. **エクステンショングリップのふたを開く**







- バッテリーおよびカードの入れ方と取り出し方はバッテリーとカードを入れる／取り出すを参照してください。

注意

- カード／バッテリー収納部ふたをカメラに取り付け直すときは、ふたを90°以上開いた状態で取り付けてください。

故障かな？と思ったら

- 電源関連
- 撮影関連
- 通信機能関連
- 操作関連
- 表示関連
- 再生関連
- センサークリーニング関連
- パソコン接続関連
- マルチアクセサリーシュー関連

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器でバッテリーが充電できない

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- 充電、または充電器に関する不具合は、バッテリーを充電するを参照してください。

充電器のランプが点滅する

- （1）充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、（2）バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが点滅します。（1）の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

USB電源アダプター（別売）で充電できない

- カメラの電源スイッチが〈ON〉のときは充電は行われません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。

USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- バッテリーの内部温度が高い、または低い場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。このときは、バッテリーを周囲の温度になじませてから、再度充電してください。

USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

USB電源アダプターで給電できない

- カード／バッテリー収納部を確認してください。バッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください（）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（）。
- バッテリーを充電してください（）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

[バッテリー通信エラー ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？] と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください（）。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください（）。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[：**バッテリー情報**] でバッテリーの劣化状態を確認してください（）。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - 手ブレ補正機能を使う
  - 無線通信機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[：**節電**] の [**オートパワーオフ**] を [**しない**] にしてください（）。
- [**オートパワーオフ**] を [**しない**] に設定していても、[**モニターオフ**] や [**ファインダーオフ**] で設定した時間放置すると、モニターやファインダーの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

撮影関連

レンズが装着できない

- EFレンズ、EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、EF-Mレンズは使用できません（）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（、）。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（、）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、バッテリーとカードを入れる／取り出す、エラー表示を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている／ブレている

- フォーカスモードをAFにしてください（）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする（）、ISO感度を上げる（）、ストロボを使用する（）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- ブレの少ない画像を撮影するにはを参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください（）。サーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります。詳しくはドライブモードの選択または、静止画のファイルサイズ／撮影可能枚数、連続撮影可能枚数を参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、静止画のファイルサイズ／撮影可能枚数、連続撮影可能枚数に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、静止画のファイルサイズ／撮影可能枚数、連続撮影可能枚数の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

クロップ撮影時に一部の記録画質が選択できない

- ［**1.6倍（クロップ）**］設定時、およびRF-S/EF-Sレンズ使用時は、記録画質◢M／◢M／◢S1／◢S1は選択できません。

高速連続撮影時に高速表示が行われない

- 高速表示を参照して、高速表示が行われる条件を確認してください。

アスペクト比が設定できない

- RF-S/EF-Sレンズ使用時は、アスペクト比の設定はできません（［**1.6倍（クロップ）**］に自動設定されます）。
- ［：**トリミング情報の付加**］が［**しない**］以外に設定されているときは、アスペクト比の設定はできません。

静止画撮影時にISO100に設定できない

- ［：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [📷：**ISO感度に関する設定**]で[**ISO感度の範囲**]の設定を確認してください。
- [📷：**高輝度側・階調優先**]が[**する**][**強**]に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。
- [📷：**HDR撮影 HDR PQ**]が[**する**]に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- [📷：**オートライティングオプティマイザ**]を[**しない**]に設定してください（🔗）。[**弱め**][**標準**][**強め**]に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- M：マニュアル露出を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- [**デジタルレンズオプティマイザ**]が[**標準**]または[**強め**]に設定されているときは、[**色収差補正**][**回折補正**]は表示されませんが、ともに[**する**]の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に[**デジタルレンズオプティマイザ**][**回折補正**]の項目は表示されません。

〈P〉 〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- [📷：**外部ストロボ制御**]の[**スローシンクロ**]を、[**1/200-1/60秒自動**]または[**1/200秒固定**]に設定してください（🔗）。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ストロボが取り付けられない

- 以下のストロボなどを取り付けるには、マルチアクセサリーシューアダプター AD-E1が必要です。
  - スピードライト EL-1／スピードライト 600EX II-RT／スピードライト 600EX-RT／スピードライト 580EX II
  - スピードトランスミッター ST-E3-RT（Ver.2含む）
  - オフカメラシューコード OC-E3

ストロボがいつもフル発光する

- EL／EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します（🔗）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**1:TTL**］（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（🔗）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Fv〉 〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［📷：**外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を、［**1/200秒固定**］以外に設定してください（🔗）。

リモコン撮影ができない

- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、リモコン撮影またはワイヤレスリモコンと接続を参照してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、タイムラプス動画を参照してください。

動画撮影時に白い［🌡▮▮▮▮▮▮▮▮］または赤い［🌡▮▮▮▮▮▮▮▮］が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。詳細は、動画撮影中のインジケーター表示を参照してください。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、要求カード性能（動画撮影）を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったときは、物理フォーマットでカードを初期化してください（🔗）。
- 動画撮影を開始してから2時間を経過すると、動画撮影が自動的に終了します。
- ハイフレームレート動画撮影時は、動画撮影を開始してから以下の時間を経過すると、動画撮影が自動的に終了します。
  - 119.88/100.00fps設定時：30分
  - 179.82/150.00fps設定時：20分

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが［🎥ᴬᵁᵀᴼ］または［🎥］のときはISO感度が自動設定されます。［🎥ᴹ］モードのときはISO感度を任意に設定することができます（📷）。
- ［📷：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- ［📷：🎥**ISO感度に関する設定**］で［**ISO感度の範囲**］の設定を確認してください。
- ［📷：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。［🎥ᴹ］モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画に音声が記録されない

- ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。

タイムコードが付加されない

- ハイフレームレート動画撮影時に、[📷：**タイムコード**]の[**カウントアップ**]が[**フリーラン**]に設定されているときは(🎞)、タイムコードは付加されません。また、HDMI出力を行ったときも、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません(🎞)。

タイムコードのカウントが早い

- ハイフレームレート動画撮影時は、実時間1秒で以下のようにカウントアップします(🎞)。
  - 119.88/100.00fps設定時：4秒分
  - 179.82/150.00fps設定時：6秒分

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

静止画撮影時に動画撮影ができない

- ライブビュー状態を長時間続けるなどして、カメラ内部の温度が上昇しているときは、静止画撮影時からの動画撮影ができないことがあります。カメラの電源を切るなどして、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。
- 動画記録サイズを下げると、撮影可能になることがあります。

通信機能関連

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールしてください（🔗）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（🔗）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（🔗）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

操作関連

静止画撮影から動画撮影、または動画撮影から静止画撮影に変更すると、設定した内容が変更される

- 設定内容は、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに記憶されます。

〈〉 〈〉 〈〉 〈〉で設定を変更できない

- 電源／マルチ電子ロックスイッチを〈ON〉の位置にして、マルチ電子ロックを解除してください（）。
- [：**マルチ電子ロック**]の設定内容を確認してください（）。

タッチ操作ができない

- [：**タッチ操作**]が[**標準**]または[**敏感**]に設定されているか確認してください（）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は[：**動画撮影時シャッターボタンの機能**]の設定を確認してください（）。
- [：**ボタン カスタマイズ**]、[：**ダイヤル カスタマイズ**]または[：**撮影時と**の入れ換え**]の設定内容を確認してください（、、）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

[★] マイメニュータブから表示される／[★] タブしか表示されない

- [★] タブの [**メニュー表示**] が [**マイメニュータブから表示**] または [**マイメニュータブのみ表示**] に設定されています。[**通常表示**] に設定してください（）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- [: **色空間**] を [**sRGB**] に設定してください。[**Adobe RGB**] に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付／時刻が正しく設定されているか確認してください（）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付／時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付／時刻を入れることができます（）。

[＃＃＃] が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると [＃＃＃] と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- [▶：**ハイライト警告表示**]が[**する**]に設定されています（🔗）。

画像に赤い枠が表示される

- [▶：**AFフレーム表示**]が[**する**]に設定されています（🔗）。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
  - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
  - トリミングを行った画像
  - HDR撮影で[**画像位置自動調整**：**する**]に設定して撮影した画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（🔗）。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶：**画像検索の条件設定**]で再生する画像の絞り込みが行われています（🔗）。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。

動画再生が勝手に終了する

- 動画再生を長時間行ったり、高温下で動画再生を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、動画再生が自動的に終了することがあります。
  そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、再生ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[M] モードで撮影してください（）。

動画がスローモーションで再生される

- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画として記録されるため、再生時は以下のように再生されます。
  - 119.88/100.00fps設定時：1/4倍速のスローモーション
  - 179.82/150.00fps設定時：1/6倍速のスローモーション

テレビに映像が表示されない

- [：**ビデオ方式**] の [**NTSC**] [**PAL**] の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（）。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（）を使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズ／トリミングできない

- JPEGの**S2**、RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません（）。
- RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません（）。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。[: **センサークリーニング**]の[**今すぐクリーニング**]を行うと（）、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- [**今すぐクリーニング**] を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉 〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、[] が表示されないことがあります（）。

パソコン接続関連

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください（🔗）。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。
- アプリケーションのバージョンを確認してください。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

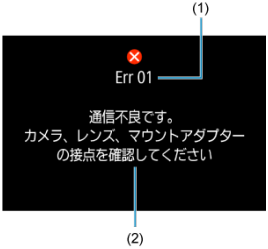
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、［📷：**タイムラプス動画**］を［**しない**］に設定してください（🔗）。

マルチアクセサリーシュー関連

アクセサリーを取り付けると、モニターにメッセージが表示される

- ［**通信エラーが発生しました アクセサリーを付けなおしてください**］と表示されたときは、アクセサリーを取り付け直してください。再度取り付けて同じメッセージが表示される場合は、マルチアクセサリーシューまたはアクセサリーの端子にごみや水滴などが付着していないかを確認してください。なお、ごみや水滴などが除去できないときは、修理受付窓口にお申し付けください。
- ［**アクセサリーが使用できない状態です**］と表示されたときは、マルチアクセサリーシューまたはアクセサリーの端子を確認するか、アクセサリーが故障していないかを確認してください。

エラー表示



(1) エラー番号
(2) 原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。
問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理をご依頼ください。

動画撮影時のISO感度

[ ] モード時

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。

[ ] [ ] [ ] モード時

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- [: **ISO感度に関する設定**] の [**オートの上限**] を [**H(102400)**] に設定すると（ ）、自動設定範囲の上限がH（102400相当）まで拡張されます。
- [: **高輝度側・階調優先**] を [**する**] [**強**] に設定したときは（ ）、ISO感度の自動設定範囲の下限がISO200になります。また [**オートの上限**] を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。
- [: **Canon Log設定**] を [**入(C.Log3)**] に設定したときは（ ）、ISO感度の自動設定範囲の下限がISO800になります。また、ISO800未満は拡張ISO感度（L）になります。
- [: **HDR動画撮影**] を [**する**] に設定したときは（ ）、[ ] モードではISO感度の自動設定範囲の下限が、ISO400になります。

[ ] モード時

- ISO感度を [**AUTO**] に設定したときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- ISOオート設定時に、[: **ISO感度に関する設定**] の [**オートの上限**] を [**H(102400)**] に設定すると（ ）、自動設定範囲の上限がH（102400相当）まで拡張されます。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で設定することができます。なお、[: **ISO感度に関する設定**] の [**ISO感度の範囲**] を [**H(102400)**] に設定すると（ ）、手動設定範囲の上限がH（102400相当）まで拡張されます。
- [: **高輝度側・階調優先**] を [**する**] [**強**] に設定したときは（ ）、ISO感度の自動／手動設定範囲の下限がISO200になります。また、ISO感度を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。
- [: **Canon Log設定**] を [**入(C.Log3)**] に設定したときは（ ）、ISO感度の自動設定範囲の下限がISO800になります。また、ISO800未満は拡張ISO感度（L）になります。

注意

- 4K 59.94P/50.00P設定時、拡張ISO感度の上限値はH（51200相当）となります。

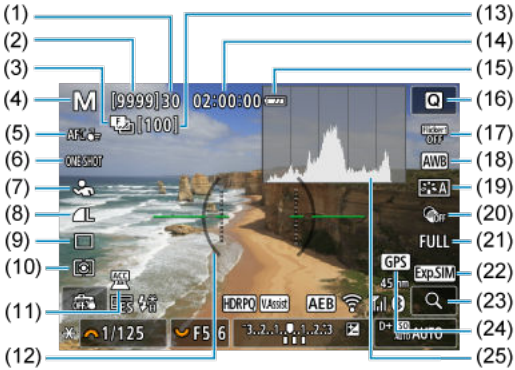
情報表示

- 静止画撮影画面
- 動画撮影画面
- シーン判別アイコン
- 再生画面

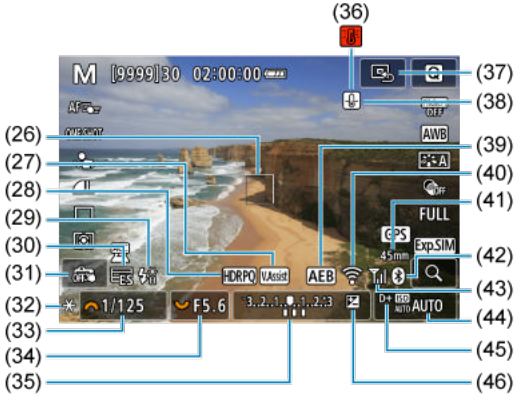
静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1) 連続撮影可能枚数
(2) 撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数
(3) フォーカスブラケット撮影／HDR撮影／多重露出撮影／マルチショットノイズ低減／バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影
(4) 撮影モード
(5) AFエリア
(6) AF動作
(7) 検出する被写体
(8) 記録画質
(9) ドライブモード
(10) 測光モード
(11) アクセサリー取り付け表示
(12) 水準器
(13) フォーカスブラケット撮影残り枚数／多重露出残り枚数／インターバルタイマー残り枚数
(14) 動画撮影可能時間
(15) バッテリー残量
(16) クイック設定ボタン
(17) フリッカーレス撮影
(18) ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(19) ピクチャースタイル
(20) クリエイティブフィルター
(21) 静止画クロップ/アスペクト比
(22) 表示Simulation
(23) 拡大ボタン
(24) GPS
(25) ヒストグラム（輝度／RGB）



(26)	AFフレーム（1点AF）
(27)	ビューアシスト
(28)	HDR PQ
(29)	ストロボ充電完了／FEロック／ハイスピードシンクロ
(30)	電子シャッター
(31)	タッチシャッター／フォルダ作成
(32)	AEロック
(33)	シャッタースピード
(34)	絞り数値
(35)	露出レベル表示
(36)	温度上昇警告
(37)	AFフレーム中央戻し
(38)	静止画画質劣化警告
(39)	AEB撮影／FEB撮影
(40)	Wi-Fi機能
(41)	焦点距離表示
(42)	Bluetooth機能
(43)	Wi-Fi電波強度／機内モード
(44)	ISO感度
(45)	高輝度側・階調優先
(46)	露出補正

参考

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（）。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。

(1)　バッテリー残量
(2)　動画撮影可能時間／撮影経過時間
(3)　撮影モード
(4)　AFエリア
(5)　検出する被写体
(6)　録音レベル（マニュアル入力）
(7)　ヘッドフォン音量
(8)　動画記録サイズ
(9)　動画電子IS
(10)　動画サーボAF
(11)　動画セルフタイマー
(12)　温度上昇緩和
(13)　HDR PQ
(14)　水準器
(15)　ヒストグラム（輝度／RGB）
(16)　クイック設定ボタン
(17)　［●］動画撮影ボタン
(18)　ホワイトバランス／WB補正
(19)　ピクチャースタイル
(20)　クリエイティブフィルター
(21)　デジタルズーム
(22)　GPS
(23)　拡大ボタン
(24)　ピューアシスト

(25)	AFフレーム（1点AF）
(26)	録音レベルメーター
(27)	アクセサリー取り付け表示
(28)	HDR動画撮影／Canon Log
(29)	AEロック
(30)	シャッタースピード
(31)	絞り数値
(32)	露出レベル表示（測光値）
(33)	AFフレーム中央戻し
(34)	Wi-Fi機能
(35)	焦点距離表示
(36)	Bluetooth機能
(37)	Wi-Fi電波強度
(38)	ISO感度
(39)	高輝度側・階調優先
(40)	露出補正

注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（）。
- 以下の場合、水準器は表示されません。
  - カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したとき
  - [：**プレ記録設定**]を[**入**]に設定したとき
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

被写体 / 背景	人物		人物以外の被写体			背景色
		動いているとき*1	自然や屋外シーン	動いているとき*1	近いとき*2	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時*1	*4*5	*3		*3		

＊1：動画撮影中は表示されません。
＊2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
＊3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
＊4：下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」
＊5：下記のレンズを使用したときに表示されます。

- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

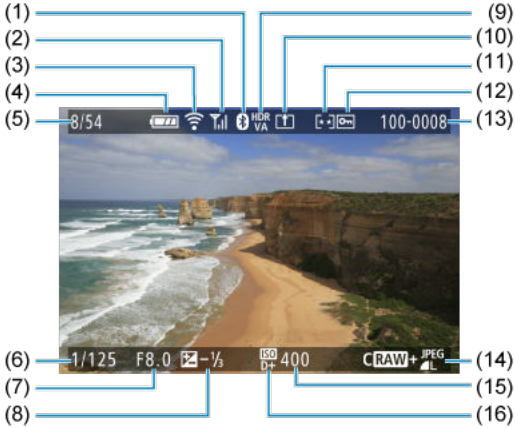
＊*4 と*5 の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

参考

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

再生画面

静止画の簡易情報表示



(1)	Bluetooth機能
(2)	Wi-Fi電波強度
(3)	Wi-Fi機能
(4)	バッテリー残量
(5)	再生番号／総記録画像数／検索結果画像数
(6)	シャッタースピード
(7)	絞り数値
(8)	露出補正量
(9)	HDR出力状態
(10)	パソコン／スマートフォンに送付済み
(11)	レーティング
(12)	画像プロテクト
(13)	フォルダ番号－画像番号
(14)	記録画質／画像加工済み／トリミング／フレーム切り出し
(15)	ISO感度
(16)	高輝度側・階調優先

注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

静止画の詳細情報表示

(1)	絞り数値
(2)	ピクチャースタイル／設定内容
(3)	シャッタースピード
(4)	WB補正／BKT設定
(5)	撮影モード／多重露出／フレーム切り出し
(6)	ホワイトバランス
(7)	オートライティングオプティマイザ
(8)	連写したシーンの先頭画像
(9)	記録画質／画像加工済み／トリミング
(10)	露出補正量
(11)	撮影日時
(12)	ヒストグラム（輝度／RGB）
(13)	スクロールバー
(14)	ISO感度
(15)	高輝度側・階調優先
(16)	測光モード
(17)	ファイルサイズ
(18)	ストロボ調光補正量／バウンス／HDR撮影／マルチショットノイズ低減

* 記載のない項目は静止画の簡易情報表示と共通のため、説明を省いています。
* RAW+JPEG/HEIFで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は（🔗）、撮影範囲が線で表示されます。
* トリミング情報が付加された画像は、撮影範囲を示す線が表示されます。

* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、[ ] が表示されます。

* バウンス撮影を行った画像は、[ ] が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、ダイナミックレンジの調整幅が表示されます。

* 多重露出撮影を行った画像は、[ ] が表示されます。

* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、[ ] が表示されます。

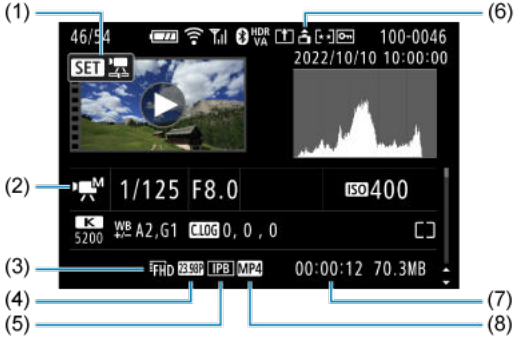
＊タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、[ ]が表示されます。

＊RAW現像、リサイズ処理、トリミング、HEIF画像をJPEG画像に変換、フレーム切り出しを行って保存した画像は、[ ]が表示されます。

＊トリミングを行って保存した画像は、[ ]が表示されます。

＊JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、[JPEG]が表示されます。

動画の詳細情報表示



(1)	動画再生
(2)	動画撮影モード／ハイフレームモード
(3)	動画記録サイズ
(4)	フレームレート
(5)	圧縮方式
(6)	動画の縦横情報
(7)	記録時間／タイムコード
(8)	動画記録形式

＊記載のない項目は静止画の簡易情報表示、静止画の詳細情報表示と共通のため、説明を省いています。

＊ハイフレームレートで撮影を行った動画は、[H Av] が表示されます。

参考

- 動画再生時、[**ピクチャースタイル**] の [**シャープネス**] の [**細かさ**] [**しきい値**] は、「*, *」と表示されます。

主な仕様

形式

型式：デジタル一眼ノンレフレックスAF・AEカメラ
レンズマウント：キヤノンRFマウント
使用レンズ：キヤノンRFレンズ群（RF-Sレンズを含む）
＊マウントアダプター EF-EOS R使用時：キヤノンEF/EF-Sレンズ使用可能（EF-Mレンズを除く）
レンズ焦点距離：
RF/EFレンズ使用時：レンズ表記焦点距離と同じ
RF-S/EF-Sレンズ使用時：表記焦点距離の約1.6倍に相当

撮像素子

型式：フルサイズCMOSセンサー

カメラ部有効画素数[*1*2]	最大約2420万画素
総画素数[*1]	約2560万画素
画面サイズ	約36.0×24.0mm
デュアルピクセルCMOS AF	対応

＊1：1万の位を四捨五入
＊2：RF / EFレンズ使用時
　　使用するレンズまたは画像処理により有効画素が減少することがある

記録方式

記録画像形式：DCF2.0、Exif2.31[*1]に準拠
＊1：時差情報に対応

記録画像タイプと拡張子

記録画像タイプ		拡張子
静止画	JPEG	.JPG
	HEIF	.HIF
	RAW	.CR3
	C-RAW	
	DPRAW	
	RAWバースト	
動画	ALL-I[*1]、IPB（標準）、IPB（軽量）	.MP4

＊1：タイムラプス動画のみ

記録メディア

記録媒体：SD / SDHC / SDXCメモリーカード

UHS-II	対応
UHS-I	対応
UHSスピードクラス	対応
SDスピードクラス	対応

カードスロット：シングルスロット搭載

静止画記録

静止画・記録画素数

画像サイズ		記録画素数（画素）				
		アスペクト比				
		3:2	1.6倍（クロップ）*1	1:1	4:3	16:9
JPEG / HEIF	L	2400万（6000×4000）	約930万（3744×2496）	1600万（4000×4000）	約2130万*2（5328×4000）	約2020万*2（6000×3368）
	M	約1060万（3984×2656）		約710万（2656×2656）	約950万（3552×2664）	約890万*2（3984×2240）
	S1	約590万（2976×1984）		約390万（1984×1984）	約530万（2656×1992）	約500万*2（2976×1680）
	S2	約380万（2400×1600）	約380万（2400×1600）	約260万（1600×1600）	約340万*2（2112×1600）	約320万*2（2400×1344）
RAW	RAW / C RAW	2400万（6000×4000）	約930万（3744×2496）	2400万*2（6000×4000）		

＊記録画素数は、1万の位を四捨五入した値
＊RAW / C-RAWは「3：2」の画像を生成し、設定したアスペクト比情報を画像に付加
＊JPEG / HEIFは設定したアスペクト比の画像を生成
＊リサイズ処理時も、上記アスペクト比（M / S1 / S2）と画素数が適用される
＊1：表記焦点距離の約1.6倍相当の画角となる
＊2：この画像サイズは、正確な比率にならない

ファイルサイズ／撮影可能枚数

記録画質		ファイルサイズ［約・MB］	撮影可能枚数［約・枚］*1
JPEG*2	L	8.2	3700
	L	4.4	6820
	M	4.6	6630
	M	2.6	11450
	S1	3.1	9820
	S1	1.9	12840
	S2	1.8	16290
HEIF*3	L	8.3	3600
	L	6.3	4690
	M	5.0	5830
	M	3.9	7400
	S1	3.5	8390
	S1	2.8	10270
	S2	1.8	14250
RAW*2	RAW	26.1	1170
	CRAW	13.2	2350
RAW+JPEG*2	RAW + L	26.1 + 8.2	890
	CRAW + L	13.2 + 8.2	1430
RAW+HEIF*3	RAW + L	28.6 + 8.3	820
	CRAW + L	15.8 + 8.3	1260

＊1：キヤノン試験基準32GBカード使用時の枚数

＊2：［**HDR撮影**HDR PQ：**しない**］時

＊3：［**HDR撮影**HDR PQ：**する**］時

＊ファイルサイズは、キヤノン試験基準で測定

＊ファイルサイズは、撮影条件（クロップ/アスペクト、被写体、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

連続撮影可能枚数［約・枚］

［□］設定時に、連続撮影速度が低下せずに撮影可能な枚数

記録画質		電子先幕（約6.0コマ/秒）		電子シャッター（約40コマ/秒）	
		標準カード*1	高速カード*2	標準カード*1	高速カード*2
JPEG*3	L	1000以上	1000以上	120	120
	M	1000以上	1000以上	110	120
	S1	1000以上	1000以上	110	120
	S2	1000以上	1000以上	110	120
HEIF*4	L	1000以上	1000以上	120	120
	M	1000以上	1000以上	120	120
	S1	1000以上	1000以上	120	120
	S2	1000以上	1000以上	120	120
RAW*3	RAW	85	1000以上	51	56
	CRAW	1000以上	1000以上	98	100
RAW+JPEG*3	RAW + L	70	570	50	54
	CRAW + L	180	1000以上	89	100
RAW+HEIF*4	RAW + L	69	87	35	42
	CRAW + L	140	170	89	100

＊1：キヤノン試験基準UHS-I対応32GBカード使用時の枚数
＊2：キヤノン試験基準UHS-II対応32GBカード使用時の枚数

＊3：［**HDR撮影**：**しない**］設定時

＊4：［**HDR撮影**：**する**］設定時

＊連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準による（ワンショットAF、高速連続撮影+、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定

＊連続撮影可能枚数は、撮影条件（クロップ/アスペクト、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

動画記録

動画・記録形式：MP4

記録時間と映像ビットレート、ファイルサイズの目安

Canon Log：OFF、HDR PQ：OFF

動画記録サイズ			カードごとの総記録時間（約）			映像ビットレート（約・Mbps）	ファイルサイズ（約・MB／分）
			32GB	128GB	512GB		
4K UHD 4K UHDクロップ	59.94 fps 50.00 fps	IPB（標準）	18分	1時間14分	4時間56分	230	1647
		IPB（軽量）	35分	2時間21分	9時間27分	120	860
	29.97 fps 25.00 fps 23.98 fps	IPB（標準）	35分	2時間21分	9時間27分	120	860
		IPB（軽量）	1時間10分	4時間43分	18時間52分	60	431
4K UHD タイムラプス動画	29.97 fps 25.00 fps	ALL-I	9分	36分	2時間25分	470	3362
フルHD ハイフレームレート動画	179.82 fps 150.00 fps	IPB（標準）	23分	1時間34分	6時間19分	180	1287
		IPB（軽量）	40分	2時間42分	10時間50分	105	751
	119.88 fps 100.00 fps	IPB（標準）	35分	2時間22分	9時間28分	120	858
		IPB（軽量）	1時間0分	4時間3分	16時間15分	70	501
フルHD フルHDクロップ	59.94 fps 50.00 fps	IPB（標準）	1時間10分	4時間43分	18時間52分	60	431
		IPB（軽量）	2時間0分	8時間3分	32時間15分	35	252
	29.97 fps 25.00 fps 23.98 fps	IPB（標準）	2時間20分	9時間23分	37時間35分	30	216
		IPB（軽量）	5時間47分	23時間11分	92時間47分	12	88
フルHD タイムラプス動画	29.97 fps 25.00 fps	ALL-I	47分	3時間9分	12時間38分	90	644

＊ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない
＊音声データは、［**C.Fn4 音声圧縮：する**］（音声：AAC）設定時
＊1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する
＊動画記録画質の圧縮方式がIPB（標準）、IPB（軽量）で、［**C.Fn4 音声圧縮：する**］のときは、最後の約2フレームには音声は記録されない。また、Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがある

Canon Log：ON、またはHDR PQ：ON

動画記録サイズ			カードごとの総記録時間（約）			映像ビットレート（約・Mbps）	ファイルサイズ（約・MB／分）
			32GB	128GB	512GB		
4K UHD 4K UHDクロップ	59.94 fps 50.00 fps	IPB（標準）	12分	50分	3時間20分	340	2434
		IPB（軽量）	25分	1時間40分	6時間40分	170	1218
	29.97 fps 25.00 fps 23.98 fps	IPB（標準）	25分	1時間40分	6時間40分	170	1218
		IPB（軽量）	50分	3時間20分	13時間20分	85	610
4K UHD タイムラプス動画	29.97 fps 25.00 fps	ALL-I	9分	36分	2時間25分	470	3362
フルHD ハイフレームレート動画	179.82 fps 150.00 fps	IPB（標準）	15分	1時間3分	4時間12分	270	1931
		IPB（軽量）	28分	1時間53分	7時間35分	150	1073
	119.88 fps 100.00 fps	IPB（標準）	23分	1時間34分	6時間19分	180	1287
		IPB（軽量）	42分	2時間50分	11時間22分	100	715
フルHD フルHDクロップ	59.94 fps 50.00 fps	IPB（標準）	47分	3時間9分	12時間36分	90	646
		IPB（軽量）	1時間24分	5時間39分	22時間38分	50	360
	29.97 fps 25.00 fps 23.98 fps	IPB（標準）	1時間34分	6時間17分	25時間8分	45	324
		IPB（軽量）	2時間30分	10時間3分	40時間15分	28	202
フルHD タイムラプス動画	29.97 fps 25.00 fps	ALL-I	31分	2時間6分	8時間25分	135	966

＊ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない
＊音声データは、［**C.Fn4 音声圧縮：する**］（音声：AAC）設定時
＊1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する
＊動画記録画質の圧縮方式がIPB（標準）、IPB（軽量）で、［**C.Fn4 音声圧縮：する**］のときは、最後の約2フレームには音声は記録されない。また、Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがある

要求カード性能（動画撮影）［書き込み/読み出し速度］

<table>
<tr><th colspan="3">動画記録サイズ</th><th>8 bit</th><th>10 bit
(Canon Log3 / HDR PQ)</th></tr>
<tr><td rowspan="5">4K UHD
4K UHDクロップ</td><td rowspan="2">59.94 fps
50.00 fps</td><td>IPB（標準）</td><td>UHSスピードクラス3以上</td><td>ビデオスピードクラスV60以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td colspan="2">UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">29.97 fps
25.00 fps
23.98 fps</td><td>IPB（標準）</td><td colspan="2">UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td>SDスピードクラス10以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td>4K UHD
タイムラプス動画</td><td>29.97 fps
25.00 fps</td><td>ALL-I</td><td colspan="2">読み出し速度が60MB/秒以上のカード</td></tr>
<tr><td rowspan="4">フルHD
ハイフレームレート動画</td><td rowspan="2">179.82 fps
150.00 fps</td><td>IPB（標準）</td><td>UHSスピードクラス3以上</td><td>ビデオスピードクラスV60以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td colspan="2">UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">119.88 fps
100.00 fps</td><td>IPB（標準）</td><td colspan="2">UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td>SDスピードクラス10以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">フルHD
フルHDクロップ</td><td rowspan="2">59.94 fps
50.00 fps</td><td>IPB（標準）</td><td>SDスピードクラス10以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td>SDスピードクラス6以上</td><td>SDスピードクラス10以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">29.97 fps
25.00 fps
23.98 fps</td><td>IPB（標準）</td><td colspan="2">SDスピードクラス6以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td colspan="2">SDスピードクラス4以上</td></tr>
<tr><td>フルHD
タイムラプス動画</td><td>29.97 fps
25.00 fps</td><td>ALL-I</td><td colspan="2">読み出し速度が30MB/秒以上のカード</td></tr>
</table>

内蔵・外部マイク

内蔵マイク：ステレオマイク
外部マイク（外部マイク入力端子）：Φ3.5 mmステレオミニジャック
外部マイク（マルチアクセサリーシュー）：指向性ステレオマイクロホン DM-E1D対応

オートフォーカス

フォーカス方式：デュアルピクセルCMOS AF

測距輝度範囲

静止画撮影時
EV -6.5 ～21（F1.2 レンズ*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100 時）
＊DS（Defocus Smoothing）コーティングを採用したRF レンズを除く

動画撮影時

4K	EV –4.0～21	F1.2レンズ*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100・29.97 / 25.00 fps時 ＊DS（Defocus Smoothing）コーティングを採用したRFレンズを除く
フルHD	EV –4.5～21	

フォーカス動作

	静止画撮影	動画撮影
AF動作*1	• ワンショットAF • AIフォーカスAF • サーボAF	• ワンショットAF • 動画サーボAF
手動ピント合わせ（MF）	対応	対応

＊1：応用撮影ゾーン時に選択可能。かんたん撮影ゾーン時は、撮影モードに応じて自動設定
＊AIフォーカスAF設定時は、被写体の動きに応じて、ワンショットAFからサーボAFに自動的に切り替わる（連写中を含む）
＊〈 A+ 〉モードは［**AIフォーカスAF**］に自動設定

フォーカスモード：AF / MF
＊フォーカスモードスイッチ非搭載のRF / RF-Sレンズ使用時に有効
＊フォーカスモードスイッチ搭載レンズ使用時は、レンズ側の設定が優先される

測距エリアごとのレンズ対応：キヤノンのホームページを参照

自動選択時AFエリア分割数

測距エリア		横：約100%、縦：約100%
分割数	静止画	最大1053分割（39×27）
	動画	最大1053分割（39×27）

＊設定により異なることがある

AFフレーム選択可能ポジション

測距エリア		横：約90%、縦：約100%
ポジション数	静止画	最大4897ポジション（83×59）
	動画	最大4067ポジション（83×49）

＊1点AF、十字キーによる選択時
＊AFフレーム選択可能ポジションは、AF性能を示す値ではない

ファインダー

型式：OLEDカラー電子ビューファインダー
画面サイズ：0.39型
ドット数：約236万ドット
倍率/視野角：約0.70倍/約33.0°（アスペクト3: 2、50mmレンズ・∞、−1 m^{-1}）
視野率：約100%（JPEG Large、アスペクト3:2、アイポイント約22 mm時）
アイポイント：約22 mm（−1m^{-1}時/接眼レンズ最後尾から）
視度調整：約−4.0〜+1.0m^{-1}（dpt）

モニター

型式：TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ：3.0型（画面比率3：2）
ドット数：約162万ドット
視野角：上下／左右ともに約170°
視野率：上下／左右とも約100%（画像サイズ Large、アスペクト比3:2）
モニターの明るさ：7段階で手動調整可能
タッチパネル：静電容量方式

HDMI出力

HDMI映像/音声出力：HDMIマイクロ出力端子（タイプD）
＊HDMI CEC非対応
HDMI出力解像度：自動/ 1080p

露出制御

各撮影状態の測光機能

項目		静止画撮影	動画撮影
測光センサー		撮像素子の出力信号による384分割（24×16）測光*1	
測光モード	評価測光	○	○ ＊顔検出時
	部分測光	○ ＊画面中央の約5.9%*3	
	スポット測光*2	○ ＊画面中央の約3.0%*3	
	中央部重点平均測光	○	○ ＊顔非検出時 ＊Canon Log 3設定時
測光輝度範囲（常温・ISO 100）		EV –3～20	EV –1～20

＊1：[**1.6倍（クロップ）**]設定時も同様
＊2：マルチスポット測光不可（非対応）
＊3：フルサイズ時。1.6倍（クロップ）、デジタルテレコン2.0x / 4.0x設定時は数値が異なる

静止画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

（静止画）ISO感度の手動設定

	ISO感度
常用ISO感度	ISO 100～102400（1/3、1段ステップ）
拡張ISO感度	L（ISO 50相当）、H（ISO 204800相当）

＊［**高輝度側・階調優先**］設定時の手動設定範囲は、ISO 200～102400
＊HDRモードおよびHDR撮影（HDR PQ）時は拡張ISO感度の設定不可

（静止画）ISO感度の手動設定範囲

ISO感度の範囲	ISO感度
下限値	L（ISO 50相当）～ISO 102400（1段ステップ）
上限値	ISO 100～H（ISO 204800相当）（1段ステップ）

（静止画）ISOオートの設定範囲

オートの範囲	ISO感度
下限値	ISO 100～51200（1段ステップ）
上限値	ISO 200～102400（1段ステップ）

（静止画）ISOオート詳細

撮影モード		ストロボなし	ストロボ使用時	
E-TTL ISOオート上限可変制御			対応レンズ	非対応レンズ
応用撮影ゾーン	**Fv** / **P** / **Tv** / **Av** / **M**	ISO 100[*1*2]～102400[*2]	ISO 100[*1*2]～6400[*2]	ISO 100[*1*2]～1600[*2]
	B	ISO 400[*3]	ISO 400[*3]	
かんたん撮影ゾーン	/	ISO100～25600	ISO100～6400	ISO100～1600
	SCN	それぞれの撮影モードで異なる		
		それぞれの撮影モードで異なる		

＊1：［**高輝度側・階調優先**：**する/強**］設定時はISO 200
＊2：［**オートの範囲**］の［**上限値**］［**下限値**］の設定による
＊3：設定範囲外の場合はISO 400に最も近い値に変更

E-TTL ISOオート上限可変制御：対応

動画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

（動画）ISO感度の手動設定（Mモード時）

	Canon Log 3	ISO感度
常用ISO感度	切	ISO 100～25600（1/3、1段ステップ）
	入	ISO 800～25600（1/3、1段ステップ）
拡張ISO感度[*1]	切	H（ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当）
	入	L（ISO 100 / 125 / 160 / 200 / 250 / 320 / 400 / 500 / 640相当） H（ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当）

＊1：4K 59.94p / 50.00p設定時は、拡張感度が最高ISO51200相当となる
＊ISO感度手動設定時の最高ISO感度は、［**ISO感度の範囲**］の設定による
＊［**高輝度側・階調優先**］設定時は、低感度側がISO 200～となる
＊HDR PQ動画、HDR動画撮影時、および動画撮影時の撮影時クリエイティブフィルター、デジタルズーム設定時は、拡張ISO感度不可
＊Canon Log 3設定時の初期設定範囲は、L, ISO 800～25600

（動画）ISO感度自動設定（P / Tv / Avモード時、Mモード+ ISOオート時）

	Canon Log 3	ISO感度
常用ISO感度	切	ISO 100～25600（1/3、1段ステップ）
	入	ISO 800～25600（1/3、1段ステップ）
拡張ISO感度*1	切	H（ISO 32000 / 40000 / 51200 / 64000 / 80000 / 102400相当）
	入	

＊1：4K 59.94p / 50.00p設定時は、拡張感度が最高ISO51200相当となる
＊ISO感度自動設定時の最高ISO感度は、［**オートの上限**］の設定による
＊［**高輝度側・階調優先**］設定時は、低感度側がISO 200～となる
＊HDR PQ動画、HDR動画撮影時、および動画撮影時の撮影時クリエイティブフィルター、デジタルズーム設定時は、拡張ISO感度不可

（動画）ISO感度の手動設定範囲

ISO感度の範囲	ISO感度
下限値	ISO 100～25600、H（ISO 51200相当）（1段ステップ）
上限値	ISO 200～25600、H（ISO 51200 / 102400相当）（1段ステップ）

＊［**上限値**］が［**H(102400)**］の設定でも、4K 59.94p / 50.00p設定時は、拡張感度が最高ISO51200相当となる

（動画）ISOオートの上限設定

	ISO感度
オートの上限	ISO 6400～25600、H（ISO 51200 / 102400相当）（1段ステップ）

＊［**オートの上限**］が［**H(102400)**］の設定でも、4K 59.94p / 50.00p設定時は、拡張感度が最高ISO51200相当となる

（動画）タイムラプス動画のISOオートの上限設定

	ISO感度
オートの上限	ISO 400/800/1600/3200/6400/12800/25600（1段ステップ）

シャッター

静止画撮影

型式：
電子制御式フォーカルプレーンシャッター
撮像素子によるローリングシャッター

シャッター方式

シャッター方式	ストロボ撮影
電子先幕	可能
電子シャッター	不可

シャッタースピード/ X同調速度

シャッター方式		設定範囲	設定ステップ	X同調
電子先幕		1/4000～30秒、バルブ	1/3段、1/2段	1/200秒
電子シャッター[*1*2]	高速連続撮影+	1/8000～30秒、バルブ		
	上記以外	1/16000[*3], 1/8000～30秒、バルブ		

＊1：1/16000秒が設定できるのは、Tv / Mモードのみ（Fv / P / Avモード時は1/8000秒まで）
＊2：1/16000秒に設定したときは、1/3段、1/2段ステップの露出制御ができないため、撮影条件により、絞り数値、ISO感度による調整が行われる場合がある
＊3： RAWバーストモード、HDRモード、フォーカスブラケット撮影、絞り数値変化時の露出維持 （ISO感度/ Tv値、Tv値）設定時は、1/8000秒まで

動画撮影

型式：撮像素子によるローリングシャッター

シャッタースピード：
1/8000[*1]～1/25[*2*3]秒
動画Tv / Mモード時：1/8000[*1]～1/8[*2*3]秒
＊1：タイムラプス動画撮影時は、上限が1/4000秒となる
＊2：通常動画撮影時は、撮影モードやフレームレートにより下限値が変化する
＊3：ハイフレームレート動画：179.82 / 150.00 fps設定時は下限が1/200秒（NTSC）、1/160秒（PAL）、119.88 / 100.00 fps設定時は下限が1/125秒（NTSC）、1/100秒（PAL）となる

ドライブ

連続撮影速度

［最高・約］

ドライブモード	AF動作	電子先幕	電子シャッター
1枚撮影		○	○
高速連続撮影+	ワンショットAF サーボAF	6.0コマ/秒	40コマ/秒
高速連続撮影	ワンショットAF サーボAF	6.0コマ/秒	20コマ/秒
低速連続撮影	ワンショットAF サーボAF	3.0コマ/秒	5.0コマ/秒
セルフタイマー：10秒		○	○
セルフタイマー：2秒		○	○
セルフタイマー：連続撮影		○	○

外部ストロボ

アクセサリー用接点：21ピン（マルチアクセサリーシュー対応製品用）、5ピン（X接点、通信用接点）
調光補正：±3段（1/3、1/2段ステップ）

再生機能

項目	静止画	動画
AFフレーム表示	○	
再生時のグリッド	表示しない/ 9分割/ 24分割/ 9分割+対角	
拡大表示	1.5～10倍（15段階）	
画像検索の条件設定	検索条件 レーティング/日付/フォルダ/プロテクト/ファイルの種類1 /ファイルの種類2	
レーティング	OFF /★～★★★★★ 画像を選択/範囲指定/フォルダ内・全画像/カード内・全画像/検索結果・全画像	
画像プロテクト	画像を選択/範囲指定/フォルダ内・全画像/フォルダ内・全解除/カード内・全画像/カード内・全解除/検索結果・全画像/検索結果・全解除	
カメラ内RAW現像	○	
リサイズ	○	
トリミング	○	

クラウドRAW現像

image.canonに画像を送信してクラウドRAW現像する機能
事前にペアリングや課金手続きなどの準備が必要

4K動画のフレーム切り出し

本機で撮影した4K動画の1フレームを、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG / HEIF）として保存
＊通常動画はJPEG、HDR PQ動画はHEIFとして保存される
＊切り出し可能な動画は4K / 4Kクロップ
＊Canon Log 3動画は切り出し不可
＊切り出した静止画は、カメラ内でのリサイズ/トリミング、クリエイティブフィルター/ クリエイティブアシストの編集不可

印刷指定（DPOF）

DPOF Version 1.1準拠

外部インターフェース

デジタル端子

端子形状	USB Type-C
通信	SuperSpeed Plus USB（USB 3.2 Gen 2）相当
用途	• パソコン/スマートフォン通信用 • USB充電/給電用

HDMI出力端子：HDMIマイクロ端子（タイプD）
外部マイク入力端子：Φ3.5 mmステレオミニジャック
ヘッドフォン端子：Φ3.5 mmステレオミニジャック
リモコン端子：リモートスイッチRS-60E3対応端子

電源関連

使用電池

対応バッテリーパック	LP-E17
使用個数	1個

USB充電・給電：USB電源アダプター PD-E1使用

AC電源

ACアダプター	AC-E6N
DCカプラー	DR-E18

撮影可能枚数

撮影方法	温度	撮影可能枚数（約・枚）	
		省電力優先*1	なめらかさ優先*2
ファインダー	+23°C	220	150
モニター		370	290

＊1：CIPA規格準拠
＊2：CIPA規格を基準にした当社測定条件による
＊新品・フル充電のLP-E17使用時
＊撮影環境により、撮影可能枚数が大きく変動することがある
＊マルチアクセサリーシュー対応のアクセサリー装着時は、カメラからアクセサリーに給電が行われるため、撮影可能枚数が少なくなることがある

動作可能時間

使用条件			温度	動作可能時間
バルブ撮影可能時間			+23°C	約3時間10分
ライブビュー撮影可能時間 ＊モニター使用時			+23°C	約2時間40分
動画撮影可能時間 ＊動画サーボAF：しない ＊動画クロップ：しない	4K	• IPB（標準） • 59.94 / 50.00 fps	+23°C	約40分
			0°C	約35分
	フルHD	• IPB（標準） • 29.97 / 25.00 fps	+23°C	約2時間00分
			0°C	約1時間40分
動画再生可能時間（通常再生）	4K	• IPB（標準） • 59.94 / 50.00 fps	+23°C	約3時間20分

＊新品・フル充電のLP-E17使用時

大きさ・質量

大きさ

（幅）×（高さ）×（奥行）	約132.5×86.1×70.0 mm

＊CIPAガイドラインによる

質量

本体（バッテリー、カードを含む） ＊CIPAガイドラインによる	約461 g
本体のみ	約414 g

＊ボディキャップ、シューカバーを含まず

動作環境

動作温度：0～+40°C
動作湿度：85%以下

Wi-Fi（無線LAN）

対応規格（IEEE 802.11b/g/n規格相当）

Wi-Fi規格	伝送方式	リンク速度（最高）
IEEE 802.11b	DSSS変調方式	11Mbps
IEEE 802.11g	OFDM変調方式	54Mbps
IEEE 802.11n		72.2Mbps

＊MIMO（multiple-input and multiple-output）には非対応

送信周波数（中心周波数）
2.4GHz帯

周波数	2412～2462 MHz
チャンネル	1～11 ch

認証方式とデータ暗号化方式

接続方式	認証方式	暗号方式
カメラアクセスポイント	WPA2 / WPA3-Personal	AES
	オープン	しない
インフラストラクチャー	オープン	WEP
		しない
	共有キー	WEP
	WPA / WPA2 / WPA3-Personal	TKIP AES

Bluetooth

準拠規格：Bluetooth Specification Version 4.2準拠（Bluetooth low energy技術）
伝送方式：GFSK変調方式

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準／ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標・ライセンスについて

- 商標について
- MPEG-4使用許諾について
- アクセサリーについて
- 修理対応について

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- USB Type-C™およびUSB-C™はUSB Implementers Forumの商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD (''AVC VIDEO'') AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

＊規定により英語で表記しています。

アクセサリーについて

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします
本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

注意

- バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

最新の対応アクセサリーについては、下記のサイトでご確認ください。

- **https://cam.start.canon/H002/**

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。